論文執筆支援シリーズⅣ

外大生のための
日本語研究ガイドブック

—増補改訂版 2010—

グローバルCOEプログラム「コーパスに基づく言語学教育研究拠点」
東京外国語大学大学院総合国際学研究院
2010

CbLLE
Corpus-based Linguistics and Language Education

早津恵美子(監修)　中山健一(編)

論文執筆支援シリーズⅣ

外大生のための
日本語研究ガイドブック

—増補改訂版 2010—

グローバルCOEプログラム「コーパスに基づく言語学教育研究拠点」
東京外国語大学大学院総合国際学研究院
2010

早津恵美子(監修)　中山健一(編)

「増補改訂版 2010」の序

本書は、2009 年に刊行された『論文執筆支援シリーズ II 外大生のための日本語研究ガイドブック』の一部に加筆修正をほどこし、新たに「増補改訂版 2010」として刊行するものです。

おもに、第 1 章と第 2 章の「先行研究の収集方法」に加筆修正を加えました。具体的には、この 1 年半ほどの間に起こった、各機関の情報提供サービスの変更に対応しました。また、先行研究を調べる上で必要でありながら初版では触れられていなかった、いくつかのことがらを追加しました(第 1 章の「1.1.3. 事典の類」と「1.5. 学会・出版社など」)。

第 3 章から第 8 章は、基本的に微細な修正にとどめました。ただし、第 7 章の「7.2.2. 日本語研究用データベース」に、国立国語研究所の開発する書き言葉コーパスについての情報を付け加えました。また、第 4 章「なぜ「用例を分析する」のか」は、編者の立場が濃く反映された記述ですが、「なぜ「用例を分析する」のか」について各自が考えるきっかけを提供するという役目は十分に果たせると判断し、そのままにしています。

第 9 章と第 10 章は、修正の必要はないと判断し、修正を行なっていません。

＜「増補改訂版 2010」作成担当者・協力者＞

初版と同じく、以下が監修・編集を行ないました。

監修：　早津恵美子（大学院総合国際学研究院 教授）
編集：　中山　健一（グローバル COE リサーチフェロー）

各部分の修正は各執筆者が行ないました(執筆分担は「初版の序」を参照)。具体的には、第 3 章の 3.3.2.と第 8 章(8.1.を除く)を以下が担当し、それ以外を中山が担当しました。

佐藤　佑（大学院博士後期課程）

また、第 1 章と第 2 章の修正にあたり、金 俸呈氏(大学院博士後期課程)・李 丹氏(同)の 2 名の協力を得ました。

初版同様、本書が多くの学生の方々に利用されることを願っています。

2010 年 9 月
中山　健一

「初版」の序（「はじめに」）

＜本書の目的＞

本書は、本学の学生に、授業のレポート・卒業論文・修士論文などで、日本語に関する研究を行なう際に必要な技能を身につけてもらうために作成されました。主に、以下の２点について書かれています。

① 「先行研究の検索収集および整理の方法」

② 「用例採集・分析の方法」

＜内容＞

「①先行研究の検索収集および整理の方法」:

自分の行なう研究の分野・内容に関して、過去にどのような研究がなされているか（「先行研究」）を調べることは、分野・内容を問わず必ず行ないます。また、その作業によって、漠然としていた問題設定を、より具体的に、明確にすることができます。ここで扱うのは、効率的に、かつ、見落としがないように先行研究を検索収集するための方法です。最近では、インターネットで公開されているいろいろなデータベースを使って資料検索ができるようになりました。そういったデータベースのそれぞれの特徴と使い方についても説明します。また、資料（文献）の入手の仕方、論文中での先行研究の引用の仕方、参考文献一覧の書き方もまとめました。

「②用例採集・分析の方法」:

はじめに、そもそもなぜ用例を集めて分析しなくてはいけないのか考えます。その上で、具体的な作業手順について概説します。特に、コンピュータによる用例採集・分析は、研究に必須のスキルでないものの、このスキルを身につけることは、効率的に自分の研究を進めるのに役立ちます。後半は、この点について詳しく説明します。

最後に、研究の実際の例として、卒業論文を書いた卒業生による、自身の卒業論文執筆についての「ルポ」を掲載します。

＜想定する研究方法＞

本書では、主に現代日本語（共通語）の研究で、書き言葉からデータを集めて分析するような研究を念頭に置いています。よって、実際の会話データの採集・分析、アンケートによる調査・分析などについては詳しく説明していません。

＜想定する利用者＞

本書の利用者として、本学の学生で、自分の問題設定に基づき主体的にまとまった研究論文を書くのに慣れていない人を想定しています。さらに詳しく知りたい方は、「さらに詳しく知りたい人へ」や「参考文献」に挙げる文献に直接あたってください。

＜本書作成の経緯＞

本書の前身は、「東京外国語大学 2006 年度 大学院競争的経費」によるプロジェクト「日本語研究のための資料検索方法およびデータ分析ツールのマニュアル化」（外国語学部教授：早津恵美子担当）の成果として作成した冊子です。今回、東京外国語大学グローバル COE プログラム「コーパスに基づく言語学教育研究拠点」のプロジェクトの一部として新たに刊行すべく、全面的に加筆・修正を行ないました。

＜作成チーム＞

作成に関わったメンバーは、以下の通りです（所属は 2008 年度現在）。

監修：　早津恵美子（外国語学部言語情報講座日本課程 教授）
編集：　中山健一　（大学院地域文化研究科博士後期課程）
執筆者（執筆順）：　中山健一
佐藤　佑（大学院地域文化研究科博士後期課程）
尾田健多（外国語学部日本課程 4 年）
岡　直樹（外国語学部日本課程 2007 年度卒業）
アドバイザー（順不同）：花園　悟（留学生日本語教育センター 准教授）
金　英南（大学院地域文化研究科博士後期課程）
高　京美（大学院地域文化研究科博士後期課程）
張　賢善（大学院地域文化研究科博士後期課程）

分担は、以下の通りです。

中山：「はじめに」／「序章」／第 1 章～第 7 章（第 3 章の 3.3.2.を除く）／第 8 章の 8.1.
佐藤：第 3 章の 3.3.2.／第 8 章（8.1.を除く）／挿絵
尾田：第 9 章
岡　：第 10 章／全体の表記の調整・レイアウト

ただし、すべての章について、監修者（早津）をはじめ、アドバイザー、他の章の執筆者による意見を聞いた上での改稿作業を何度か行なっています。

本書が多くの学生の方に利用されることを願っています。

2009 年 3 月
中山　健一

目次

「増補改訂版 2010」の序 i
「初版」の序（「はじめに」） ii
目次 iv
本書を読んで、できるようになること ix
序章　日本語研究の進め方・流れ 1

第 1 章　先行研究の収集方法①：どんな先行研究があるか調べる 2
1.1. 参考図書 3
1.1.1. 年鑑 3
1.1.2. その他の文献目録 5
1.1.3. 事典の類 5
1.2. インターネットサービス 8
1.2.1. 利用にあたっての注意事項 8
1.2.2. データベースの紹介 8
1.3. CiNii の使い方 13
1.4. 「芋づる式」 18
1.5. 学会・出版社など 19
1.5.1. 学会 19
1.5.2. 出版社など 20

第 2 章　先行研究の収集方法②：見たい先行研究を入手する 22
2.1. 本学図書館の利用 22
2.1.1. 図書の場合 22
2.1.2. 雑誌論文の場合 30
2.2. 日本課程教育準備室の利用 31
2.3. 他大学・機関の利用 32
2.3.1. Webcat で他大学・機関の所蔵状況を調べる 32
2.3.2. 他大学・機関の具体的な利用方法 36
2.4. 専門機関などの利用 37
2.5. 公立図書館の利用 38

第 3 章　先行研究の引用および文献一覧の作成 40
3.1. 本文中での引用の方法 40
3.2. 「参考文献」一覧の書き方 42
3.2.1. 必要な情報 42
3.2.2. 配列の順序 47
3.3. 例文などの挙げ方 50
3.3.1. 実例の挙げ方 50
3.3.2. グロスの必要性 51

第 4 章　なぜ「用例を分析する」のか 54
4.0. はじめに 54
4.1. 言語学の対象としての「言語」とは何か 55
4.2. 具体的には、何を記述するのか 59
4.3. なぜ、内省だけでは不適切なのか 60
4.4. 内省、あるいは、言語運用能力があることの重要性 64
4.5. 最後に：「何から」用例をとるかについて 65

第 5 章　用例採集の基本的な考え方 68
5.0. はじめに 68
5.1. 「サンプル」としての用例 68
5.2. 具体的な注意点 69
5.2.1. 書かれた資料の属性 70
5.2.2. 書いた人の属性 71
5.2.3. 表記、言語的な文脈・環境 71
5.2.4. 用例数、バランスなど 72

第 6 章　用例採集の方法―「手作業」と「コンピュータ検索（GREP）」― 74
6.0. はじめに 74
6.1. 「手作業」と「コンピュータ検索（GREP）」 74
6.2. 両者の長所と短所 75
6.3. 作業ミスを防ぐためには 75

第 7 章　形式からみた言語資料の類型と電子化データベースの実際.....77
7.0. はじめに.....77
7.1. 形式からみた言語資料の類型.....77
7.2. 具体的なテキストデータ資料の利用①：市販のデータベース.....79
7.2.1. 一般向けのデータベース.....80
7.2.2. 日本語研究用データベース.....84
7.3. 具体的なテキストデータ資料の利用②：WWW 検索.....87
7.4. 自分でテキストデータを作る.....89

第 8 章　データの分析①：テキストエディタでの検索.....91
8.1. GREP ができるコンピュータ・ツール.....91
8.2. GREP の手順.....92
8.2.1. GREP に用いるデータの下準備.....92
8.2.2. GREP の実行.....94
8.2.3. GREP と正規表現―入門編―.....96
8.2.4. GREP と正規表現―実践編―.....97
8.2.5. GREP 結果の活用.....107
8.2.5.1. サクラエディタ上での活用.....107
8.2.5.2. Excel への展開.....109
8.2.5.3. Excel での応用・サクラエディタとの連携.....110
8.2.6. GREP の限界.....111

第 9 章　データの分析②：表計算ソフトでの集計.....113
9.1. Excel とは？.....113
9.2. Excel の使い方.....114
9.2.1. Excel の見方.....114
9.2.2. 作業の流れ.....115
9.2.3. データを作成する.....115
9.2.4. データ分析.....133
9.3. まとめ.....145

第 10 章　論文作成の一例（Excel の活用） 146
10.0. はじめに 146
10.1. 論文の概要 146
10.1.1. 背景の説明 146
10.1.2. 論文要旨 146
10.1.3. 作業の流れ 147
10.2. 用例の収集 148
10.3. データの作成 149
10.3.1. Word 文書の作成 149
10.3.2. Excel 文書の作成 150
10.4. 分析 154
10.4.1. 全体数からみた分析 154
10.4.2. 表現形式別にみた分析 157
10.4.3. まとめ 171
10.4.4. 今後の課題 172
10.5. おわりに 172

さらに詳しく知りたい人へ 174
参考文献 176
用語索引 178
資料 185

＜囲み記事＞

●「参考」

＜「cat」って？＞ 10
＜「PDF ファイル」って？＞ 17
＜「国際標準番号」って？＞ 18
＜AA 研蔵書の参考図書＞ 28
＜『日本語学論説資料』について＞ 31
＜役に立つ個人ページ＞ 39
＜「会話文」「地の文」って？＞ 66
＜基本的な「拡張子」一覧＞ 93
＜基本的な「ショートカットコマンド」一覧＞ 106
＜ファイルを開くプログラムを変更するには？＞ 108

●「注意！」

＜『国語年鑑』と『日本語教育年鑑』＞ 5
＜紛らわしいタイトルの雑誌＞ 14
＜CiNii から OPAC へのリンク＞ 18
＜日本課程教育準備室の利用＞ 32
＜他大学図書館の利用＞ 37
＜GREP 結果の保存＞ 95
＜表記のゆれ＞ 99
＜仮名遣いと漢字＞ 101
＜忘れないで！！データの保存＞ 128
＜上部にある「並べ替え」ボタン＞ 135
＜必ず「オートフィルタ」解除を！＞ 137

本書を読んで、できるようになること

第１章

① 自分の行なおうとする研究に関して、これまでなされた研究にどんなものがあるか、見つけだせるようになる。

② その他、自分の調べたい内容の研究を見つけだせるようになる。

第２章

○ 自分の欲しい図書・論文が、どこで手に入るか調べ、図書・論文を入手できるようになる。

第３章

○ ルールにのっとって、自分の論文に他人の研究などを引用できるようになる。

第４章

○ 用例の採集・分析について具体的に説明する前に、そもそも「用例を分析する」とはどういうことなのか、なぜ「用例を分析する」のか、考える。本章の見解は執筆者個人によるものだが、本章の内容を読むことで、各人がこの問題について考え、最終的に自分なりの答えを出せるようにする。

第５章

○ 実際に用例採集をするための「準備」として、用例を採集する際の基本的な考え方、および、採集の際の注意点を習得する。

第６章

○ 実際に用例採集をするための「準備」として、用例を採集する２つの方法、つまり「手作業」と「コンピュータ検索」（その中でも、特に GREP）の特徴（長所・短所）を理解し、より適切な用例採集ができるようになる。

第７章

○ 用例採集の対象となる言語資料の形式的なタイプについて理解する。さらに、言語研究で使われるいくつかの電子化データベースの特徴と、利用する際の注意点を理解する。

第 8 章

○ コンピュータ・ツールを使って、言語（日本語）データベースから、言語サンプル（用例）を採集できるようになる。

第 9 章

①「Excel」を使って、大量の用例を 1 つのファイルにまとめることができるようになる。

② ①で作成したファイルを使って、用例を分類したり、ある特徴を持つものを取り出したり、用例の数を調べたりできるようになる。

序章　日本語研究の進め方・流れ

そもそも「研究をする」、「論文を書く」とはどういうことでしょうか。

研究は、自分が抱いた素朴な疑問、わからないと思う気持ちが出発点になります。しかし、そのままでは研究になりません。一般的に、研究は以下のようなプロセスをたどります。

①問題設定　　：「疑問」「わからないこと」「調べたいこと」が生じる！
②先行研究調査　：そのことについて、これまでどんなことが言われているのか調べる。
③問題の明確化　：②で調べても、まだ解決していない点があるはず！その疑問を明確にし、研究の具体的なテーマとする。
④用例採集　　：③で設定した問題について、日本語の実態を調べるため、言語のサンプル（用例）を集める。
⑤用例分析　　：④で集めた用例を調べて、③での疑問に対する答えを探す。
⑥論文の再読　　：先行研究を、もう一度読み直す。実際に用例と向き合った上で再読すると、最初に読んでいたときには気づいていなかったことがあったり、分析のヒントが得られたりする。
⇒⑤に戻る。場合によっては、新たに読むべき先行研究の発見、②に戻る。
⑦論文執筆　　：以上で行なったことを、論文にまとめる。

このうち、本書では②、および④・⑤を行なう技術の基本的知識・情報を提供します。

「知識・情報」といっても、単なる「お役立ち情報」ではなく、「妥当性」（ちゃんと自分の調べたいことを調べられているかどうか）、「信頼性」（独善的、過度に主観的なものでないか。他の人にも同様の検証が可能かどうか）に直結することです。無論、本書で、正しく研究を行なう方法すべてを網羅しているわけではありませんが、本書の内容は基本的なことがらですので、まず身につけるようにしてください。

⑦の段階の、「どうやって論文を書いたらいいのか」というのも、それはそれで大問題ですが、それはここでは扱いませんし、1つの答えがあるわけでもありません。各自、授業・ゼミなどで学んでいってください。

以下、第1章～第3章では上記「②先行研究調査」について、第4章～第9章では上記「④用例採集」・「⑤用例分析」について説明します。詳細は巻頭の「目次」・「本書を読んで、できるようになること」を参照してください。

第１章　先行研究の収集方法①：どんな先行研究があるか調べる

～～本章でできるようになること～～
① 自分の行なおうとする研究に関して、これまでなされた研究にどんなものがあるか、見つけだせるようになる
② その他、自分の調べたい内容の研究を見つけだせるようになる

「はじめに」(「初版」の序)でも書いたように、これから扱おうとする問題について、これまで何が言われてきたのかを調べることは、分野・内容を問わず必ず行ないます。以下、これを「先行研究の調査」と呼びます。

「先行研究の調査」で重要な点は、「漏れなく調べること」です。いつ、どんな人が、どんな本や雑誌に書いたかを問わず、学術論文・図書として公表されたものはすべて調べます。もちろん、一人で限られた時間で行なうことですので、見落としてしまうことがあるのは仕方ありません。しかし、「漏れ」は最小限にしたいものです。

「先行研究」は、主に「①図書」（本屋で売られているような普通の単行本、あるいは、大学などが出す、特定の研究の報告書）と「②雑誌論文」（学会誌、出版社の出す学術雑誌や、大学などが出す雑誌[1] に載る論文）の 2 つの形で発表されます。先行研究を探すときには、図書や雑誌論文の正確な情報（「書誌情報[2]」）が必要ですが、「①図書」か「②雑誌論文」かによって、少し探し方が違います。具体的には、

①図書の場合
・タイトル、著者名、出版者名など、図書の正確な情報を特定する
　⇒その図書が、図書館などにあるか調べる
②雑誌論文の場合
・論文のタイトル、著者名など、論文の正確な情報を特定する
　⇒さらに、その論文が載っている雑誌のタイトル、発行者、巻号、出版年を特定する
　⇒その雑誌のその号が、図書館などにあるか調べる

つまり、雑誌論文のほうが、ちょっと面倒なのです。

以下、本章で、図書・雑誌論文の情報の調べ方について述べます。次の第 2 章では、自分の見たい図書、見たい論文の掲載された雑誌が図書館にあるかどうかの調べ方、入手の

[1] 大学・学術機関の出す雑誌は「紀要（きよう）」と呼ばれる。
[2] 文献を特定するのに必要な情報。bibliographical information。

仕方について述べます。

そもそも、一体どんな先行研究があるのか調べたいという場合は、どうすればいいでしょうか。また、論文タイトルはわかるが、どの雑誌に載っているかわからない、本の著者はわかるが、タイトルがわからないなどの場合、どうすればいいでしょうか。

主に、「年鑑」などの参考図書と、インターネット上で利用できるデータベースという 2 つの手段が用意されています。

1.1. 参考図書

ここで取りあげるのは、出版物のうち、何かを調べる際に見るためのもので、「参考図書(reference book)」と呼ばれます。具体的には、年鑑や辞典／事典の類です。

1.1.1. 年鑑

「年鑑」とは、ある分野でその年に行なわれたことの情報をまとめたものです。

日本語研究の分野では、かつて、国立国語研究所（以下、「国語研」と略記）[3] が編集する『国語年鑑』と『日本語教育年鑑』がありましたが、現在では刊行されていません[4]。そのため、最新の情報を得ることはできませんが、過去の情報を得る手段としては、今も価値を失っていません。『国語年鑑』は 1954 年版から 2008 年版まで、『日本語教育年鑑』は 2000 年版から 2008 年版まで刊行されています。

『国語年鑑』は日本語研究全般について、『日本語教育年鑑』は日本語教育についてまとめられています。年鑑の特長は、極めて漏れの少ない、網羅的なデータであり、データの信頼性が高いことです。

以下詳しく述べますが、年鑑は、どんな先行研究があるのか調べるのに大変有効です。反面、見たい先行研究の情報の一部はわかっているが、その正確な詳しい情報が知りたい、という時には使いにくいです。

日本語研究の場合、まずは前者の『国語年鑑』を見てみましょう。その中の「第 2 部 文献」の中の、「刊行図書一覧」では図書の、「雑誌文献一覧」では雑誌論文のデータが網羅されています[5]。これを見れば、その年 1 年間に新たにどんな研究が発表されたか、一目でわかるのです。

---

[3] 2009 年 10 月に「独立行政法人」から「大学共同利用機関法人 人間文化研究機構」を構成する研究機関の 1 つになった。日本語関係者の間では「国研（コッケン）」と呼ばれることが多い。

[4] ただし、『日本語教育年鑑』は、2009 年以降刊行されていないものの、正式に「休刊／廃刊」という旨を国語研が出しているわけではない。

[5] 『国語年鑑』の「刊行図書一覧」「雑誌文献一覧」は、それぞれ、項目（分野）ごとに図書や論文が列挙されている。その構成の詳細については、早津・福原(2010)にまとめられている。

第２部　文　献　雑誌文献一覧（R*1*～*18*）

国 語 （学）

題 名（筆者）　雑誌名　巻号　年月　ページ

◇国語（学）一般

1　イリュージョンとしての「日本語」（福島直恭）
学習院女子大学紀要　8　2006-3　pp.63-80

2　雑居への恐怖　近代日本の他者認識（イ，ヨンスク）
言語文化(明治学院大学)　23　2006-3　pp.178-199

3　〈講演〉日本語と日本語らしさ　外からの視点・内からの視点（池上嘉彦）
昭和女子大学大学院言語教育・コミュニケーション研究　1　2006　pp.1-15

4　私は日本語がわからない(6)（中村平治）
福岡大学人文論叢　37-4　2006-3　pp.1133-1143

5　私は日本語がわからない(7)（中村平治）
福岡大学人文論叢　38-1　2006-6　pp.69-80

6　私は日本語がわからない(8)（中村平治）
福岡大学人文論叢　38-2　2006-9　pp.509-517

7　私は日本語がわからない(9)（中村平治）
福岡大学人文論叢　38-3　2006-12　pp.779-788

画像(1-1)国語年鑑「雑誌文献一覧」　2007 年版　p. 198（一部）

さらに、巻末に著者名索引があるので、ある研究者が、どんな研究をしているのか調べる場合や、ある研究者のある図書・論文を読んだあと、その研究者が他にどんな研究を出しているのか調べる、あるいは、その図書・論文を出したあとに、さらに発展させて別の研究を出しているかなども、調べることができます。

マイナス面は、『国語年鑑』の場合、著者名の索引で引くことはできますが、タイトルの索引がないという不便さがあることです。しかし、1994 年以降のものは、内容を収めた CD-ROM がついているので、それを使って検索ができるようになりました。

もう 1 つのマイナス面は、その 1 年間の情報だけなので、過去何年分にもわたっていちいち見なくてはいけないことです。しかし、やはり少なくとも過去 5～10 年間分くらいはチェックする必要があるでしょう。

『日本語教育年鑑』は、2000 年版から 2008 年版まで刊行されました。紙媒体のほかに、国語研のホームページで、2000 年版から 2008 年版までのデータを公開[6]しているので、それを使って検索もできます。

『国語年鑑』『日本語教育年鑑』とも、本学図書館、および日本課程教育準備室（2 章の 2.2 参照）に所蔵しています。

6　アドレスは、http://dbms.ninjal.ac.jp/nknet/nrsinfo/nronbun/ 。

＜注意！『国語年鑑』と『日本語教育年鑑』＞
　両者は国語研の別の部署がそれぞれ作成しているため、掲載内容の重複を防ぐなどの調整がされていません。『国語年鑑』にも「日本語教育」の下位項目がありますし、『日本語教育年鑑』にも「文法」などの下位項目があります。

1.1.2. その他の文献目録

この他にも、本になっている日本語学関連の論文目録がいくつかあります。いずれも古いため、省略しますが、1 つ挙げます。

『講座日本語の語彙』（佐藤喜代治 編、明治書院）のシリーズの中に、「別巻：語彙研究文献語別目録」（1983 年発行）というものがあります。これは、明治から 1982 年までの語彙関係の研究文献目録です。対象となる「語」ごとにまとめられています。

1.1.3. 事典の類

「1.1.参考図書」の最後として、「文献を探す」ということから少し離れますが、辞典／事典の類について述べます。

先行研究を調べたり読んだりしていて、よく分からない専門用語が出てくる、あるいは、知っている専門用語でも正確に理解しているか自信がない、といったことは、頻繁にあると思います。

そういった際に便利なのが、特定の分野に特化した辞典／事典(以下「事典」の表記で代表させる)です。日本語研究では、一般言語学、日本語学／国語学、日本語教育学などの分野の事典を参照することになります。

『広辞苑』などの一般の国語辞典(電子辞書を含む)や百科事典、「Wikipedia」に代表されるインターネット百科事典にも、調べたい用語が載っているかもしれません。しかし、専門用語に関する正確で詳細な情報を得る手段としては、決してお勧めできません。必ず、その分野の専門の事典を参照してください。

とくに、インターネット百科事典は、一見、詳細で専門的な情報があるようにも見えますが、書き手が不特定であり、その情報の正確さは保証されていません。研究に関する情報・知識を得る手段としては使用しないことが賢明です。また、言うまでもないですが、google などの検索エンジンを使ってある特定の専門用語を検索して、出てきた記事の説明をそのまま鵜呑みにすることは危険です。

本節で取りあげるような言語研究の分野に特化した事典であっても、その記述は事典によってさまざまです。また、その事典 1 つだけを見ればよいというような、完璧な事典はありません。専門用語を調べる際には、必ず複数の事典を参照するようにしてください。

以下に、日本語で書かれたものの範囲で、代表的な事典を、それぞれの分野ごとに挙げます。

＜一般言語学＞

○ 亀井 孝・河野 六郎・千野栄一 編『言語学大辞典 第6巻 術語編』三省堂，1996年

とにかくはじめに参照するべき文献の1つです。きわめて広範にわたる言語学関連の専門用語について概説がなされています。

本章執筆者の主観・好みがかなり入りますが、本学図書館所蔵の範囲で、信頼できる小型の事典を挙げるとすれば、以下の2点です。

○ Dubois, Jean [他]著／伊藤晃[他]編訳『ラルース言語学用語辞典』大修館書店，1980年

○ Peter Hugoe Matthews 著／中島平三・瀬田幸人 監訳『オックスフォード言語学辞典』朝倉書店，2009年

＜日本語学／国語学＞

○ 国語学会 編『国語学辞典』東京堂，1955年

○ 国語学会 編『国語学大辞典』東京堂出版，1980年

○ 佐藤喜代治 編『国語学研究事典』明治書院，1977年

○ 飛田良文［他］編『日本語学研究事典』明治書院，2007年

＜日本語教育学＞

○ 日本語教育学会 編『日本語教育事典』大修館書店，1982年

○ 日本語教育学会 編『新版 日本語教育事典』大修館書店，2005年

参考までに、本学所蔵の言語学・日本語学・日本語教育学の事典のリストを掲載します。(日本語か英語で書かれたもののみ。早津・中山 2010: 68-69 より転載)

書名	編著者　など	出版者	出版年
国語学辞典	国語学会 編	東京 ： 東京堂	1955
言語学事典　現代言語学 ： 基本概念 51 章 [原題 : La linguistique : guide alphabétique]	Martinet, André 編著／三宅徳嘉　監訳	東京 ： 大修館書店	1972 ［原著 1969］
日本文法大辞典	松村明 編	東京 ： 明治書院	1971
新言語学辞典，改訂増補版	安井稔 編	東京 ： 研究社出版	1975 ［初版 1971］
ラルース言語学用語辞典　[原題 : Dictionnaire de linguistique]	Dubois, Jean [ほか] 著／伊藤晃 [ほか] 編訳	東京 ： 大修館書店	1980 ［原著 1973］
国語学研究事典	佐藤喜代治 編	東京 ： 明治書院	1977
国語学大辞典	国語学会 編	東京 ： 東京堂出版	1980

日本文法事典	北原保雄 [ほか] 編	東京 : 有精堂出版	1981
日本語教育事典	日本語教育学会 編／小川芳男 ; 林大 [ほか] 編集	東京 : 大修館書店	1982
言語学百科事典 [原題：The Cambridge encyclopedia of language]	Crystal, David 著／風間喜代三 ; 長谷川欣佑 監訳	東京 : 大修館書店	1992 ［原著 1987］
現代言語学辞典	田中春美 [ほか] 編	東京 : 成美堂	1988
An Encyclopaedia of language	Collinge, Neville Edgar 編	London ; New York : Routledge	1990
Routledge dictionary of language and linguistics [原題：Lexikon der Sprachwissenschaft, 2nd completely revised edition.]	Bussmann, Hadumod 編／Trauth, Gregory ; Kazzazi, Kerstin 訳	London : Routledge	1996 ［原著 1990］
The linguistics encyclopedia	Malmkjæ r , Kirsten 編	London ; New York : Routledge	1991
An encyclopedic dictionary of language and languages	Crystal, David 著	Oxford : Blackwell	1992
International encyclopedia of linguistics	Bright, William 編集主幹	New York ; Oxford : Oxford University Press	1992
The Encyclopedia of language and linguistics	Asher, Ron E. 編集主幹	Oxford : Pergamon Press	1994
言語学大辞典 第 6 巻 術語編	亀井孝 ; 河野六郎 ; 千野栄一 編著	東京 : 三省堂	1996
日本語学キーワード事典	小池清治 [ほか] 編	東京 : 朝倉書店	1997
A student's dictionary of language and linguistics	Trask, Robert Lawrence 著	London : Arnold	1997
オックスフォード言語学辞典 [原題：The concise Oxford dictionary of linguistics]	Matthews, Peter Hugoe 著／中島平三 ; 瀬田幸人 監訳	東京 : 朝倉書店	2009 ［原著 1997］
日本語文法大辞典	山口明穂 ; 秋本守英 編	東京 : 明治書院	2001
認知言語学キーワード事典	辻幸夫 編	東京 : 研究社	2002
言語の事典	中島平三 編	東京 : 朝倉書店	2005
日本語教育事典，新版	日本語教育学会 編／水谷修 [ほか] 編集委員	東京 : 大修館書店	2005
Encyclopedia of linguistics	Strazny, Philipp 編	New York : Fitzroy Dearborn	2005
言語科学の百科事典	鈴木良次 [ほか] 編	東京 : 丸善	2006
The Encyclopedia of language and linguistics, 2nd ed.	Brown, Edward Keith 編集主幹	Amsterdam : Elsevier	2006
日本語学研究事典	飛田良文 [ほか] 編	東京 : 明治書院	2007

これら以外にもさまざまな事典があります。また、ここでは具体的に取りあげませんが、音声学・認知言語学など、さらに狭い範囲に特化した事典もあります。これらの事典は、本学では図書館の 2 階や日本課程教育準備室（2 章の 2.2 参照）に配置されていますので、実際に本棚を見て探してみることをお勧めします。

また、事典の専門用語の説明の最後に、その専門用語に関する参考文献が記載されている場合が多いです。その参考文献を参照すると、より詳しい知識を得ることができます。

1.2. インターネットサービス

前節で『年鑑』が今は刊行されていないと言いましたが、良い悪いは別として、情報媒体が、「紙」から「(特にインターネットで入手可能な)電子データベース」へ移行しているという現実があります。本節では、インターネット上で公開されていて、そこから検索可能な電子データベースについてまとめます。具体的には、国の機関や学会などによって運営されているものを取りあげます。

1.2.1. 利用にあたっての注意事項

はじめに、インターネットのデータベースを用いた検索を行なう際の、全般的な注意事項を挙げます。

① 網羅的でない

かなり広範にデータを収集しているものもありますが、完全に漏れのない、網羅的なデータを持つデータベースは存在しません。ある１つのインターネットのデータベースを調べても、それですべての先行研究を調べたことにはなりません。

② 表記のゆれに対応していない

論文・図書の情報は、著者が書いたまま、一字一句変えずに載せるのが大原則です。よって、同じような言葉でも、著者によっていろいろな表記で書かれています。具体的には、漢字、カタカナ、ひらがな、さらに、送りがなの有無（「受け身」「受身」）、外来語の表記のゆれ（「ボイス」「ヴォイス」）などです。

もし、ある程度自分の探している論文・図書のタイトルや著者名などがわかっていて、その正確な情報を調べる場合は、一字一句正確に入力して検索しましょう。漠然と、あるキーワードで検索する場合は、仮名・漢字など、複数の表記を試す必要があります。また、著者名での検索の場合、姓と名の間にスペースを入れて検索すると、該当しやすくなります。

③ 間違いがゼロでない

CiNii などの雑誌論文データベースは、国の機関や学会などが提供するサービスとはいえ、絶対に間違いがないとは言えません。

とはいえ、インターネットは非常に便利な手段です。広範な範囲のデータを一度に検索できるので、特に、見たい先行研究の情報の一部はわかっているが、その正確な詳しい情報が知りたい、という時には最適です。それぞれのサービスの性格を理解し、上手に使いましょう。

1.2.2. データベースの紹介

以下に、データベースをいくつか挙げます。若干煩雑ですが、そのデータベースが、何

を調べるものか、つまり、「図書・雑誌」か、「雑誌論文」か、その違いに注意してください。以下で、□で囲って示してあります。ときどき、「Webcat を使い論文タイトルで検索したが、何も出なかった」という人がいますが、Webcat は図書・雑誌のデータベースであり、掲載されている論文では検索できないのです。

なお、データベースの中でよく利用される、日本語による雑誌論文データベース「CiNii（サイニイ）」の使い方については、あとで詳しく説明します。

■国立情報学研究所（NII、国情研：http://www.nii.ac.jp/）が提供するサービス

①「CiNii（NII 論文情報ナビゲータ）」：雑誌論文　http://ci.nii.ac.jp/

日本語の雑誌・紀要の論文データベース。一部、無料で本文が見られるものもある。また、「Webcat Plus」とも連動し、その論文の掲載雑誌がどこの大学に所蔵されているかも調べられる。詳しい使い方は 1.3.で説明します。

②「NACSIS-CAT」―「Webcat（元祖）」＆「Webcat Plus」―：図書・雑誌

http://webcat.nii.ac.jp/　／　http://webcatplus.nii.ac.jp/

「NACIS-CAT[7]」(ナクシスキャット)は、日本全国(一部、海外もあり)の大学（一部、大学以外の研究機関もあり）が所蔵する図書・雑誌のデータベースです。

つまり、全国の「NACSIS-CAT」に参加する大学などのうち、少なくとも 1 つが所蔵する図書・雑誌が検索できます。よって、厳密には、すべての図書・雑誌が検索できるとは言えませんが、学術書はかなり網羅されていると言っていいでしょう。

このデータベースは、「Webcat」(ウェブキャット。以下 Webcat(元祖)と表記)と「Webcat Plus」(ウェブキャットプラス)の 2 つのサイトで検索可能です。

「Webcat(元祖)」で検索すると、その図書・雑誌の詳細な情報（「書誌情報」)、さらに、それを所蔵している機関の一覧が出ます。Webcat（元祖）の利用方法については、次章で、他大学図書館の所蔵を調べる手段として、くわしく説明します。

「Webcat Plus」は、「NACSIS-CAT」以外のデータベースを使っての検索も可能です[8]。また、特定の語句(文字列)を検索するだけではなく、ある語句や文章を入力するとそれに関連する内容の図書を選びだしたり、その語句や文章に関連する語句などを提示してくれる「連想検索」機能があります。しかし、近年開発された技術であり、かつ、（本章執筆者にとって）実際どれだけ役に立つかは未知数なので、ここでは触れません(詳細は、http://webcatplus.nii.ac.jp を参照)。

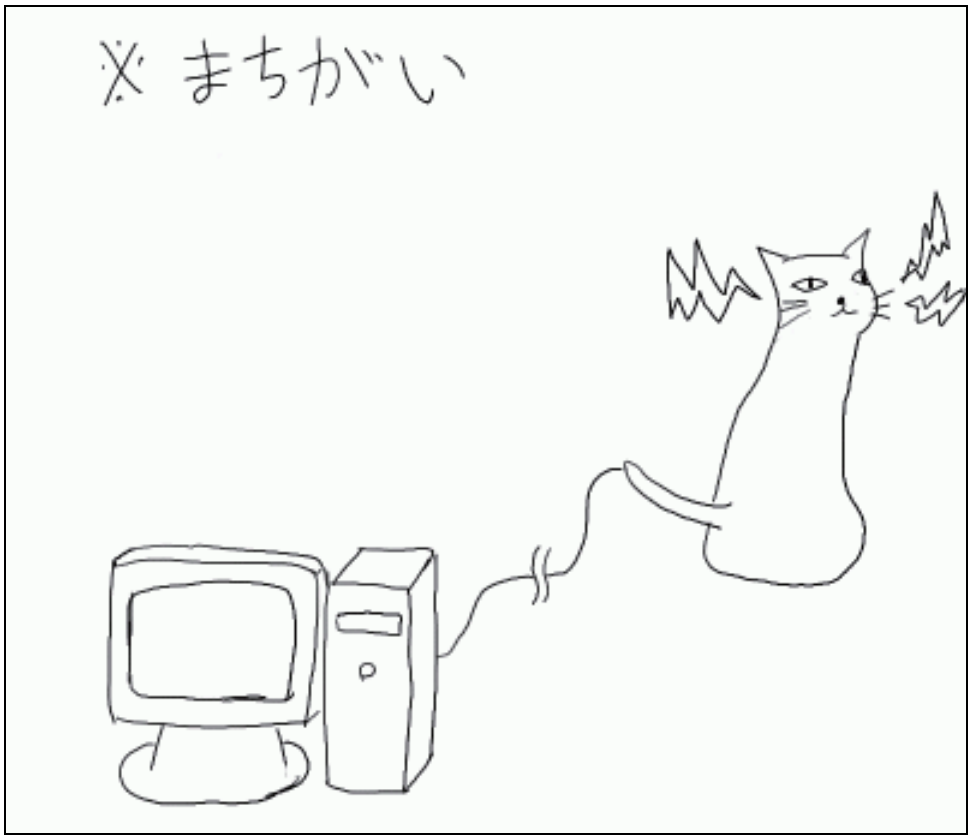
---

7 国立情報学研究所の前身、学術情報センター（National Center for Science Information Systems）の略称から。また、「CAT」については、次ページの「参考「cat」って？」を参照。

8 具体的には、国立国会図書館の提供するサービス「NDL-OPAC」(p.38 参照)・「ゆにかねっと」(p.38 参照)、および「日本の古本屋」データベース(p.39 参照)など。

＜参考：「cat」って？＞

この研究所のホームページのどこかにも猫のイラストが書いてありましたが、「cat」は猫の意味ではありません。なんということはない、「catalogue」（目録）の頭 3 文字を取っただけです、念のため。



【 ネコが動かしているわけじゃないですよ 】

③「KAKEN（科学研究費成果公開サービス）」：研究課題　http://seika.nii.ac.jp/

その名の通り、文部科学省の「科学研究費補助金（科研費）」による研究の情報が調べられる。

④「NII-DBR（学術研究データベース・リポジトリ[9]）」：多種多様　http://dbr.nii.ac.jp/

いろいろな、ある特定の分野のデータベースが検索できる。日本語研究に直接関わるものはないが、その中で我々が使う可能性のあるものとしては、全国の大学の博士論文のデータが調べられる「博士論文書誌データベース」がある。

9 「リポジトリ」は、英語で「貯蔵庫・倉庫」を意味する「repository」に由来する外来語。あいまいな言葉で何をさすかは文脈によるが、この場合はデータベースとほぼ同義。

⑤「JAIRO（学術機関リポジトリポータル）」: 多種多様　http://jairo.nii.ac.jp/

本学を含め、各大学は、紀要論文や博士論文、その他の学術成果の本文を、1 つのデータベースに集約し、インターネット上で公開しています(「機関リポジトリ」と呼ばれる)。「JAIRO」は、各大学の機関リポジトリに掲載されている学術成果を横断検索できるものです。

なお、この「JAIRO」以外にも、前述の「CiNii」の検索結果から、各機関リポジトリに掲載されている論文の本文を見ることもできます。むしろ、こちらの方法がよく使われるでしょう。詳細は次節(1.3)で説明します。

本学の機関リポジトリである「東京外国語大学学術成果コレクション」については、後述の「⑪」でも触れます。

以上①～⑤の 5 つは、「GeNii（ジーニー）」と呼ばれるポータルサイト[10]で一括して検索できます。アドレスは、http://ge.nii.ac.jp/genii/jsp/index.jsp。

⑥「NII-REO（海外電子ジャーナル）」: 雑誌論文　http://reo.nii.ac.jp/

海外の雑誌論文（英語）のデータベース。購読契約、つまり、契約してお金を払っていれば、論文本文も見られる。本学図書館は購読契約をしているので、学内のコンピュータからなら本文が閲覧可能。

なお、これら国立情報学研究所の提供するサービスのページへは、本学図書館ホームページ(トップページ、あるいは「オンラインジャーナル・DB」のページ)からも入ることができます。

■国立国語研究所（国語研：http://www.ninjal.ac.jp）が提供するサービス

⑦「国語学研究文献検索」: 雑誌論文

http://www6.ninjal.ac.jp/kokugogaku_bunken/

国語学会（現・日本語学会）と国語研との共同事業として作成された文献目録のデータ。その後、国語研が受け継ぎ、データの追加更新を行なっている。1954 年から 2004 年までの雑誌論文を中心に、約 15 万 6 千件の文献データを検索できる。

⑧「日本語教育関係論文検索」: 雑誌論文

http://dbms.ninjal.ac.jp/nknet/nrsinfo/nronbun/

前述の『日本語教育年鑑』を含む、日本語教育関係の雑誌論文データベース。

---

10 「ポータル」は「玄関」の意とされる。利用者が最初に見るような、入り口となるべきインターネットのホームページをさす。

⑨「日本語教育年鑑検索（科研費）」：研究課題

http://dbms.ninjal.ac.jp/nknet/nrsinfo/nkakenhi/

前述の『日本語教育年鑑』の、「科学研究費補助金」研究課題データベース。

■国立国会図書館（http://www.ndl.go.jp/）が提供するサービス

⑩「雑誌記事索引検索」：雑誌論文　http://opac.ndl.go.jp/

総計約 2 万誌の雑誌記事の検索が可能。ただし、この検索画面をはじめ、国会図書館 OPAC には、CiNii のような本学図書館 OPAC や Webcat への横断検索機能（p.18）はありません。

■　東京外国語大学が提供するサービス

⑪ 東京外国語大学学術成果コレクション：雑誌論文 他　http://repository.tufs.ac.jp/

本学の機関リポジトリ。本学の紀要に掲載された論文、および、本学に提出された博士論文を、インターネット上で無料で見ることが可能（ただし、すべてではない）。

検索ページへは、本学図書館ホームページから行くことができます。

画像(1-2) 東京外国語大学学術成果コレクションの検索画面

⑫ オンラインデータベース、オンラインジャーナル（附属図書館）

先ほどの「NIIREO」のほかにも、本学図書館がサービス提供者と購読契約を結び、学内のコンピュータから利用できるサービスがあります。

具体的には、「聞蔵」（きくぞう。朝日新聞、および朝日新聞社の発行する雑誌の記事が検索・本文閲覧できるサービス）、「官報 WEB 版」、教育学・言語学・イスラム研究など、ある特定の分野の記事・論文（英語）を検索・本文閲覧できるサービスなどです。これらは、学内からの利用のみで、学外からは利用できません。

詳しくは、本学図書館のホームページをご覧ください。また、これらのサービスは、期限付きの購読契約によるものなので、新規に新しいサービスが開始される場合や、逆に、これまで提供していたサービスが打ち切られる場合もあります。

■各学会、出版社などのホームページ

上述の「データベース」とは異なりますが、もし、探している雑誌論文の掲載されている雑誌名が特定されているなら、発行元の学会、出版社のホームページを見ると、過去に出た雑誌の目次を掲載していることがあります。日本語学関連の学会・出版社についての情報は、本章の 1.5 で、改めて詳しく述べます。

1.3. CiNii の使い方

以上挙げたデータベースのうち、比較的よく使われる「CiNii」の使い方について説明します。作業の流れは、以下です。

① ある語句や、論文タイトル・著者名（の一部）で検索する。
② 見たい論文を特定する、正確な情報を得る。
③-1) その論文の本文が画面上で見られる場合、それを見る。めでたしめでたし。
③-2) 本文が見られない場合、本学の図書館 OPAC や Webcat Plus の画面へ行き、その論文の載っている雑誌が、本学図書館にあるかどうか、ない場合、どこの図書館にあるか調べる。

まず、CiNii のページへ行きます。インターネットブラウザ（閲覧ソフト）のアドレス入力欄に http://ci.nii.ac.jp/と入力するか、「google」などの検索サイトを使い「CiNii」で検索します。または、本学の図書館のホームページからも行けます。

以下、画像（1-3）は、CiNii の画面です。画面の通り、「簡易検索」と「詳細検索」の 2 種類の検索方法があります。

「簡易検索」で、検索語を入力して検索するのがもっとも簡単な方法です。複数の検索語を入れるときは、スペースで区切ります。特定の見たい論文があって、それに関する知

っていることがら（タイトル、著者名、掲載雑誌名など）を使って検索する場合は、下の「詳細検索」を使用します。

検索の際の注意点は、本章の 1.2.1 で述べた通りです。

画像(1-3)CiNii の検索画面

＜注意！紛らわしいタイトルの雑誌＞

雑誌のタイトルには、同じような紛らわしいものもあり、検索する際に注意が必要です。雑誌では、たとえば以下のようなものです。

例 1：『国文学 解釈と鑑賞』至文堂 発行

『国文学 解釈と教材の研究』学燈社 発行 ⇒全く別の雑誌！

例 2：『日本語学』明治書院 発行

『日本語科学』国立国語研究所 発行 ⇒全く別の雑誌！

例 3：『日本語研究』・『日本語教育論集』など

⇒似たようなタイトルの雑誌・紀要が複数あるので、必ず正確なタイトルと発行元（機関・大学など）を確認！

検索をすると、下の画像（1-4）のように、検索に該当した論文の一覧が出ます。以下は、「詳細検索」を使わず、「モダリティ」という語で簡易検索(全検索)した結果の一部です。

画像(1-4)CiNii の検索結果一覧

検索結果の一覧画面では、論文ごとに、以下の情報が表示されます。

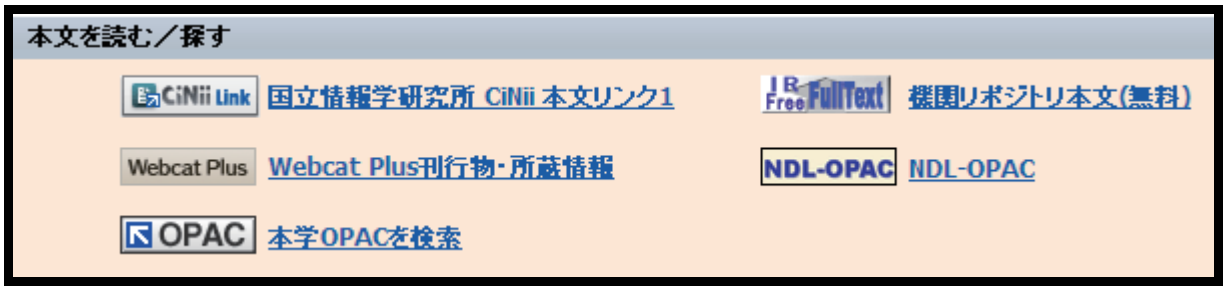
1 行目：論文タイトル
2 行目：著者
3 行目：掲載雑誌、巻号、掲載ページ、発行年月
4 行目：本文リンク[11]の有無、本学の図書館 OPAC へのリンク（大学内の PC の場合のみ）
※要旨も掲載されている 3 番目の論文では、3 行目に要旨が表示されている。

11 「リンク」とは、ホームページ作成者によって予め設定された別のページが自動的に表示される機能、またはその機能がある部分をさす。通常、「リンク」の部分を「左クリック」するとリンク先のページが表示される。

そのうち、見たいものの論文名を選択（左クリック）すると、下の画像（1-5）のような、論文の詳細情報が出ます。

画像(1-5)CiNii の詳細情報画面

左側上部が論文タイトル・著者、下部が論文の収録雑誌の情報です。
画像(1-5)の中央、「本文を読む／探す」では、本文が読めたり、さまざまなデータベースに連動して、検索できるようになっています(拡大したものが画像（1-6）です)。



画像(1-6)CiNii の詳細情報画面「本文を読む／探す」

1 行目の 2 つ：本文リンクの有無
2 行目：左：Webcat Plus での検索／右：国会図書館 OPAC での検索
3 行目：本学の図書館 OPAC での検索（大学内の PC のみ）

画像（1-6）で示した各ボタンについて、以下、詳しく説明します。

■本文リンクの有無

本文リンクの有無は、インターネット上で本文が見られるかどうかの情報です。このボタンの表示のない場合、本文は見られません。本文が見られる場合、CiNii から閲覧できる論文本文は PDF ファイルのため、専用閲覧ソフト「Adobe Reader（アドビ リーダー）」をインストール（無償）しておく必要があります。

＜参考：「PDF ファイル」って？＞
アドビシステムズ社が開発した電子文書ファイルのフォーマット（形式）です。見る側の PC の環境によらず、元の文書とほぼ同じ状態で表示できるのが特長です。PDF の閲覧ソフトは、インターネットから無償でインストールできます。
「Microsoft Word」などのワープロソフトの文書と違い、専用ソフト（有償）がないと、文書の編集・改変はできません。拡張子[12]は「.pdf」となっています。

CiNii 上で論文の本文が見られる場合でも、なんらかの制約がある場合があります。

具体的には、「CiNii Link CiNii 本文リンク」のうち、見るために料金が必要な場合です。本学図書館は、「定期許諾」という契約を結んで、一括して料金を払っています。ですので、本学の PC では、各利用者が無料で本文を見ることができても、自宅の PC では本文が見られない場合があります。なお、各大学が無償で公開する「IR Free FullText 機関リポジトリ本文」は、どれも無償で見ることができます。

■本学の図書館 OPAC での検索

このボタンを押すと、すべてではないものの、本学の図書館 OPAC に基づく所蔵状況の情報が出ます(OPAC での所蔵巻号の表示については、第 2 章の 2.1.2 を参照)。

12　ファイル名の最後につく記号で、そのファイルがどういう種類のファイルなのかを示す。「extension」。p.93 の＜基本的な「拡張子」一覧＞も参照。

＜注意！CiNii から OPAC へのリンク＞
　ただし、このボタンは、国際標準番号を使って自動的に検索する仕組みになっているので、国際標準番号(ISSN)のない雑誌には、このボタンは表示されません。その場合、本学の図書館 OPAC の画面へ行き検索し直す必要があります。

＜参考：「国際標準番号」って？＞
　個々の出版物に割り当てられる国際的な統一番号。図書では ISBN（International Standard Book Number、国際標準図書番号）、雑誌では ISSN（International Standard Serial Number、国際標準逐次刊行物番号）と呼ばれる。ただし、すべての図書・雑誌についているわけではない。需要の増加にともない ISBN は 2007 年に 10 桁から 13 桁になった。ISSN は 8 桁。

■Webcat Plus での検索

Webcat Plus

　このボタンを押すと、Webcat Plus を用いて NACSIS-CAT を検索でき、どの大学・研究機関に、その雑誌の第何号があるかが表示されます(表示の詳細は、第２章の 2.3.1 参照)。

　さて、本学に所蔵があればいいのですが、ない場合は、他の所蔵大学を利用することになります。そのための、大学間の相互利用（ILL[13]）サービスが用意されています。それについては、後述します。
　以上、年鑑やインターネット上のデータベースによって先行研究に関する「情報」を得る方法を説明しました。

1.4. 「芋づる式」

　最後に、非常に古典的でアナログな方法ですが、「芋づる式」も有効です。つまり、自分のテーマに関するある論文を読み、その論文で挙げられている先行研究にどんなものがあるか見るのです。そして、そこに挙げられている論文も読んでみる、何度かその作業を繰り返せば、頻繁に引用されている重要な先行研究を見逃す危険を減らすことができます。むろん、先生やゼミの先輩に、どんな先行研究があるか、聞いてみるのもいいでしょう。要は、いくつかの手段を組み合わせることが大事、ということです。

[13] Inter-Library Loan の略。

【 つまり、こういうことですね 】

1.5. 学会・出版社など

以上、年鑑や電子データベースを用いて、文献を探す方法について述べました。

以下、やや異なる観点ですが、知っておくとスムーズに文献を探すことができる情報をまとめます。具体的には、学会・出版社などの団体・企業の情報です。

1.5.1. 学会

どの学問分野にも、専門の学会があります。日本語研究に関係する学会のうち、主なものとして以下があります。それぞれ、研究大会の開催、機関誌(雑誌)の発行などの活動を行なっています[14]。学会の機関誌は、先行研究が掲載される場としては極めて重要です。また、過去の研究大会の内容も「予稿集」の形で読むことができます。

[14] 通常、研究大会で研究成果を発表したり機関誌に論文を投稿したりするには、その学会への入会が必要。

学会名	ホームページ	研究大会開催頻度	機関誌名(発行頻度)
日本語学会 ※旧称：国語学会	http://jpling.gr.jp/	年 2 回	『日本語の研究』(年 4 回) ※旧称：『国語学』
日本言語学会	http://www3.nacos.com/lsj/	年 2 回	『言語研究』(年 2 回)
社団法人 日本語教育学会	http://wwwsoc.nii.ac.jp/nkg/	年 2 回	『日本語教育』(年 3 回)

これ以外にも、より狭い分野に特化した学会・研究会・協会があります。すべてではありませんが、以下にいくつか挙げます。

学会名	ホームページ	研究大会開催頻度	機関誌名(発行頻度)
日本語文法学会	http://www.nihongo-bunpo.org/	年 1 回	『日本語文法』(年 2 回)
計量国語学会	http://wwwsoc.nii.ac.jp/math-ling/	年 1 回	『計量国語学』(年 4 回)
日本音声学会	http://www.psj.gr.jp/jpn/	年 1 回	『音声研究』(年 3 回)
日本方言研究会	http://wwwsoc.nii.ac.jp/cdj/	年 2 回	※なし
日本エドワード・サピア協会	※確認できず(2010 年 9 月現在)	年 1 回	『日本エドワード・サピア協会研究年報』(年 1 回)

1.5.2. 出版社など

日本語学や言語学関連の出版物を多く出版している、日本の企業として、以下のようなものがあります（「(株)」「(有)」など法人形態は略)。

＜日本語学に特化している出版社＞

・ひつじ書房
・くろしお出版
・おうふう（旧称：桜楓社）
・明治書院　など

＜日本語教育に特化している出版社＞

・凡人社
・スリーエーネットワーク　など

＜人文科学全般を扱う出版社＞

・岩波書店
・大修館書店
・三省堂
・みすず書房
・筑摩書房　など

なお、ある特定の学派のことになりますが、次の出版社は、奥田靖雄氏をリーダーとする学派の出版物を出版しています。

・むぎ書房（旧称：麦書房）

各出版社は、図書を刊行するだけではなく、日本語学や言語学関連の雑誌を刊行しています。そういった雑誌も、先行研究が掲載される場としては重要です。

おもに、以下のものがあります。

○『日本語学』明治書院，月刊
○『言語』大修館書店，月刊（※2009 年をもって休刊）
○『国文学 解釈と鑑賞』至文堂 編／ぎょうせい 発行，月刊
(※国文学専門雑誌だが、毎年 1 月号と 7 月号には日本語研究関連の特集を組む)

また、特定の大学・研究機関が編集するものとして、以下があります。通常の「紀要」とは異なり、広く学外からも論文投稿を受けつけています。また、出版社から刊行され、商品として流通しています。

○京都大学文学部 国語学国文学研究室 編／中央図書出版社 発行『国語国文』月刊
○東京大学国語国文学会 編／ぎょうせい 発行『国語と国文学』月刊
○国立国語研究所 編／国書刊行会 発行『日本語科学』年 2 回（※2009 年をもって休刊）

なお、特定の学派の雑誌ですが、以下は、奥田靖雄氏をリーダーとする学派の雑誌です。この学派の考え方を知る上で重要な論文が多数掲載されています。

○教育科学研究会・国語部会 編／むぎ書房 発行『教育国語』年 4 回
(※現在は不定期刊)

以上、先行研究にどんなものがあるのか調べる方法、および、それに関連する情報をまとめました。

第 2 章　先行研究の収集方法②：見たい先行研究を入手する

～～本章でできるようになること～～
○ 自分の欲しい図書・論文が、どこで手に入るか調べ、図書・論文を入手できるようになる

前節の作業で、自分が欲しい先行研究の正確な情報がわかりました。もし、CiNii で本文が見られればいいのですが、残念ながら、必ずしもそうとは限りません。ですので、紙の現物を手に入れる必要があります。

手順として、まず、本学図書館や研究室にあるかどうか調べます。ある場合には、それを借りたり、欲しい部分をコピーしたりします。

もし、ない場合、他の図書館のサービスを利用します。

2.1. 本学図書館の利用

以下、まず本学図書館の利用法についてまとめます。

2.1.1. 図書の場合

まず、図書の場合について述べます。

＜OPAC の利用＞

本学図書館所蔵の図書は、「OPAC（オーパック[15]）」で検索することができます。図書館 2 階のカウンター横や、1 階の階段前、3 階のエレベーター付近にある PC が、OPAC 専用機です。そのほかにも、インターネットを介して、どの PC からも OPAC に接続することができます。詳しくは、本学図書館のホームページをご覧ください。

ただし、図書館にあるすべての図書が検索できるわけではありません。

コンピュータによるデータシステムが導入されたあとの図書は、受け入れの都度、データに登録されます。しかし、それ以前の図書は、別に 1 つ 1 つデータを作成しなくはなりません（「遡及（そきゅう）入力」と言います）。「遡及入力」の作業が、まだ終わっていないのです。遡及入力の進捗具合は、図書の言語によって違います。日本語・英語の図書については、1995 年以降に図書館が受け入れた図書はすべて検索可能ですが、それ以前に受け入れた図書は調べられないことがあります。2010 年 3 月現在、日本語の図書では 20%、英語の図書では 30%が、まだとなっています。よって、比較的古い資料も網羅的に調べるには、図書館にある「目録カード」（後述）との併用が必要なことがあります。詳細は、OPAC ヘルプ

[15] Online Public Access Catalogue（オンラインで公開された図書目録）の略。本学に限らず、多くの大学図書館、公立図書館などが、インターネットから OPAC の検索ができるようにしている。

画面の「登録状況」を見てください。

蔵書の分類体系の詳細は省略しますが、OPAC で検索できるかどうかにも関わるので、基本的な事項についてのみ少し説明します。図書館の本は、大きく「新分類」図書、「旧分類」図書、「AA 研蔵書」の図書に分けられます。

①「新分類」: 1962 年 4 月以降に受け入れの図書。蔵書の約 80%を占める。
②「旧分類」: 1962 年 4 月以前に受け入れた古い図書。
③「AA 研蔵書」: アジア・アフリカ言語文化研究所所蔵の図書のうち図書館にあるもの。

これら 3 つは、それぞれ全く別の分類体系によって分類されています。このうち、①と③は、すべてでないものの OPAC で検索できます。②は全く OPAC で検索できません。

さらに、個人寄贈コレクション（「○○文庫」といった名前）や特殊コレクションがあります。OPAC で検索できるかどうかは、コレクションによって違います。詳細は、本学図書館「コレクション概要」のページをご覧ください。

http://www.tufs.ac.jp/library/guide/zousho-j.html

以下、本学図書館 OPAC の具体的な操作方法について説明します。

＜検索画面＞

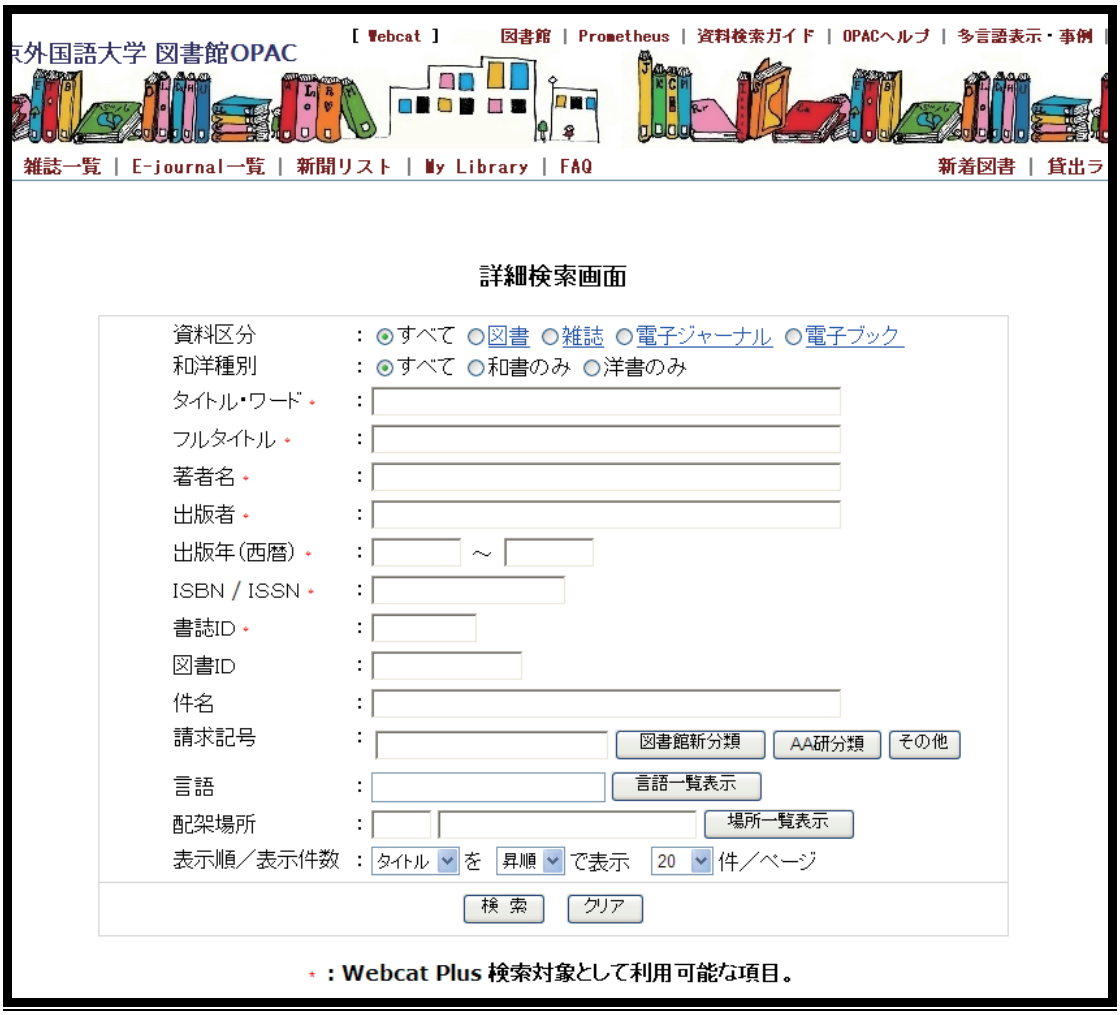
検索画面には、「簡易検索」と「詳細検索」の 2 つがあります。

「簡易検索」で、検索語を入力して検索するのが、もっとも簡単な方法です。

「詳細検索」は、後述のように、より細かい設定を行なって検索ができます。

図書の場合、一番上の「資料区分」を「図書」に合わせると、検索結果に雑誌は出なくなります。

画像(2-1)本学 OPAC の検索画面（簡易検索）



画像(2-2)本学 OPAC の検索画面（詳細検索）

＜検索語句の入力方法＞

以下、ある特定の語句で検索する場合について説明します。以下に示すルールには、本学の図書館 OPAC 独自のものもあり、必ずしも、すべての検索システムに共通するものではありません。なお、以下の記述は本学図書館 OPAC の「ヘルプ」画面によりますので、詳細は、そのページをご覧ください。

・「AND 検索」（複数の語のすべてが入っているものを出す）：

⇒スペース（空白）で区切る

例：「日本語 文法」→　「日本語の文法」「日本語文法入門」などが出る

・「OR 検索」（複数の語のどれかが入っているものを出す）：

⇒「｜」で区切る

例：「アメリカ｜米国」→　「入門アメリカ経済」「米国の歴史」などが出る

・「NOT 検索」（検索結果にある語を含まないようにする）

⇒「!」で区切る

例：「日本語 ! 方言」→「日本語」という語を含むものが出るが、そのうち「方言」という語を含むものは出ない

・「完全一致」（完全に一致する語句を含むものを出す）

⇒そのまま入力

例：「長谷」→　「長谷」は出るが、「長谷川」「長谷部」などは出ない。

・「部分一致」（部分的に一致する語句を含むものを出す）

⇒アスタリスク「*」をつける

前方一致：その文字で始まる語句

例：「長谷*」→　「長谷」に加え、「長谷川」「長谷部」なども出る。

後方一致：その文字で終わる語句

例：「*川」→　「川」に加え、「中川」「長谷川」「谷川」なども出る。

さらに、中間に任意の文字で検索もできる

例：wom*n　→　「woman」、「women」ともに出る。

次に、表記についていくつか述べます。

本学図書館 OPAC は、表記のゆれに対応しており、もとの表記に関わらず、読みをカタカナで検索することができます（例：○「言語学」 ○「ゲンゴガク」）。ただし「出版者」については、もとの表記でしか検索できません（例：○「岩波書店」 ×「イワナミショテン」）。

小さい「っ」「ょ」などは、「つ」「よ」と同じと認識します。よって、「きゃく」と入れると「きやく」であると認識し「客」も「規約」も出ます。長音記号「ー」は検索対象として認識しません。「コンピュータ」も「コンピューター」も同じ検索結果となります。

外国語（アルファベット表記）の図書について、大文字・小文字は区別しません。ドイツ語のウムラウト記号や、フランス語の「c」につくセディーユといった補助記号は省略します（「ö」→「o」、「ç」→「c」）。

言語（文字）について、検索には以下の文字が使用できます。

- ローマンアルファベット
- 日本語の文字（漢字・ひらがな・カタカナ）
- 中国語簡体字・繁体字
- ハングル
- キリル文字
- ギリシャ文字
- アラビア文字

上記以外の文字は、アメリカ合衆国議会図書館（Library of Congress）の定める翻字表（http://www.loc.gov/catdir/cpso/roman.html）に従い、ローマ字への翻字が必要です[16]。日本語研究では必要ないと思いますが、留学生が自分の母語の図書を調べるときには注意してください。

漢字の字体（中国語簡体字、中国語繁体字、日本漢字の新字、日本漢字の旧字[17]）は、いずれの表記でも検索可能です。たとえば、「国語学」で検索すると、「国語学」に加え、「國語學」も出ます。

＜より細かく条件を設定する「詳細検索」＞

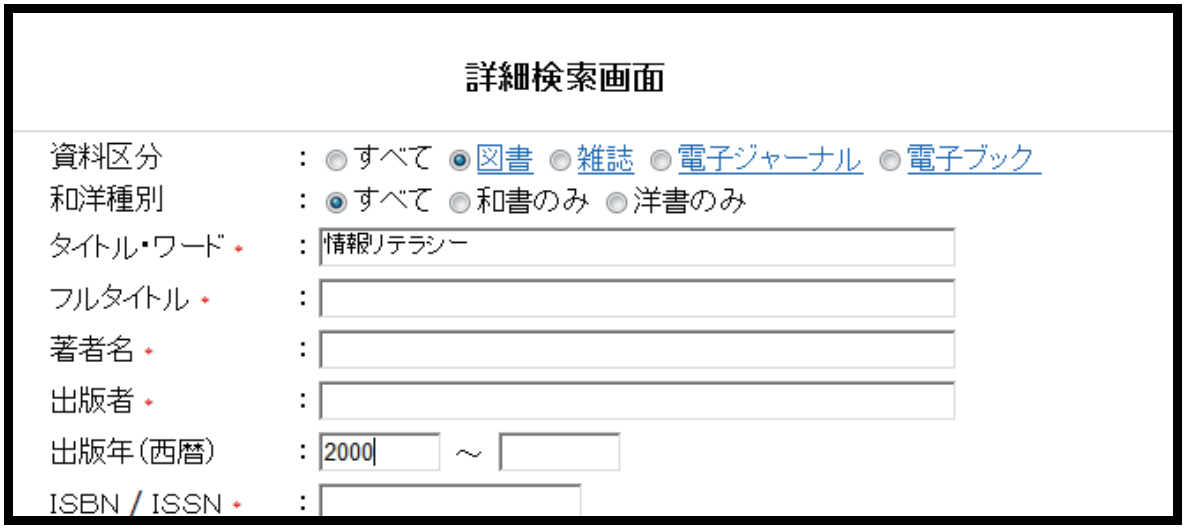
「詳細検索」を使えば、より高度な検索が可能です。

たとえば、書名がありふれた単語 1 語の場合、「簡易検索」では膨大な数の検索結果が出てしまいます。そんな時に便利なのが「フルタイトル」欄です。今、書名が『言語学』という図書を探しているとします。「簡易検索」で「言語学」と検索したのでは、書名などに「言語学」という語が含まれるすべての図書が検索結果として出てしまい、非常に煩雑です。この場合、「フルタイトル」に「言語学」と入れて検索すると、書名が「言語学」という図書のみを検索結果として出してくれます。

また、たとえば、書名に「情報リテラシー」とある本のうち、2000 年以降に出版された本を探す場合、以下の画像（2-3）のように入力します。なお、画面では資料区分で「図書」が選択されているので、図書のみの検索になります。

16　デーヴァナーガリー文字・タイ文字図書のうちの一部も、原綴りによる検索が可能。データの原綴り化は順次進められているので、最新の情報は本学図書館ホームページで確認してください。

17　日本の漢字の「新字」「旧字」については、p.101 の「注意！仮名遣いと漢字」を参照。



画像(2-3)このように入力する

＜所蔵の確認など＞

以上の方法を用いて、OPAC で自分の欲しい図書が特定されました。欲しい図書が図書館にあるようなら、「所蔵情報」の内容を確認します。

検索結果の一覧から、自分の見たい図書のタイトルを選択（左クリック）すると、以下の画像（2-4）のように、その図書に関する詳細な情報（「書誌情報」）が表示され、その下に「所蔵情報」が表示されます。

画像(2-4)大学 OPAC の詳細情報画面

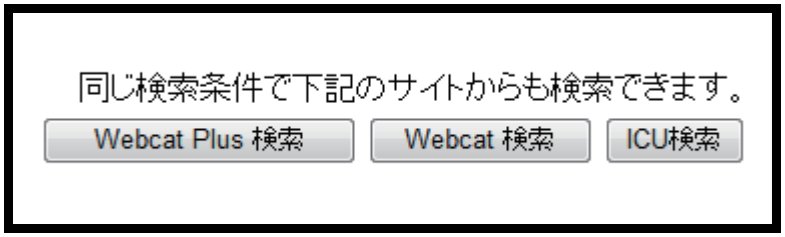
「所蔵情報」には、以下の情報が書いてあります。

・「所在」：図書館のどこにあるか、また、研究室の図書の場合、どこの研究室にあるか。
・「巻号」：シリーズものの場合、第何巻かなどが書いてある。
・「請求記号」：本の背に貼られたシールに書いてある記号・番号。図書館の本は、この順番に従って並べられているので、必ずこれをメモすること。
・「図書 ID」：本に張られたバーコードの 10 桁の数字。
・「貸出状況」：貸し出し中の場合、その旨と返却期限が書いてある。予約が入っている場合、それもここに表示される。空欄の場合、貸し出し中ではない。
・「予約」：貸し出し中の場合、ここに表示される「予約」ボタンをクリックすると、オンライン予約の画面へ移動する。

＜参考：AA 研蔵書の参考図書＞

図書館の蔵書では、辞書・事典などの参考図書は、当日の持ち出しのみ可能で貸し出しができません。借りたい！と思った人もいるのではないでしょうか。その場合は、「AA 研蔵書」を利用しましょう。「AA 研蔵書」の参考図書は、すべてではないですが、貸し出しが可能です。「AA 件蔵書」は前述の通り OPAC 検索ができます。蔵書は、1 階の書庫 2 層にあります。

なお、上記画像の「所蔵情報」のすぐ上に、Webcat など他のデータベースで同じ検索条件で検索できるボタンがあります（以下に拡大して示します）。このボタンは、検索結果の一覧を表示する画面にも表示されますので、本学図書館に探している図書がなさそうな場合、このボタンを押すと、Webcat で他大学・機関にあるかどうか調べることができます[18]。（Webcat の利用法の詳細は、本章の 2.3.1 で説明します。）



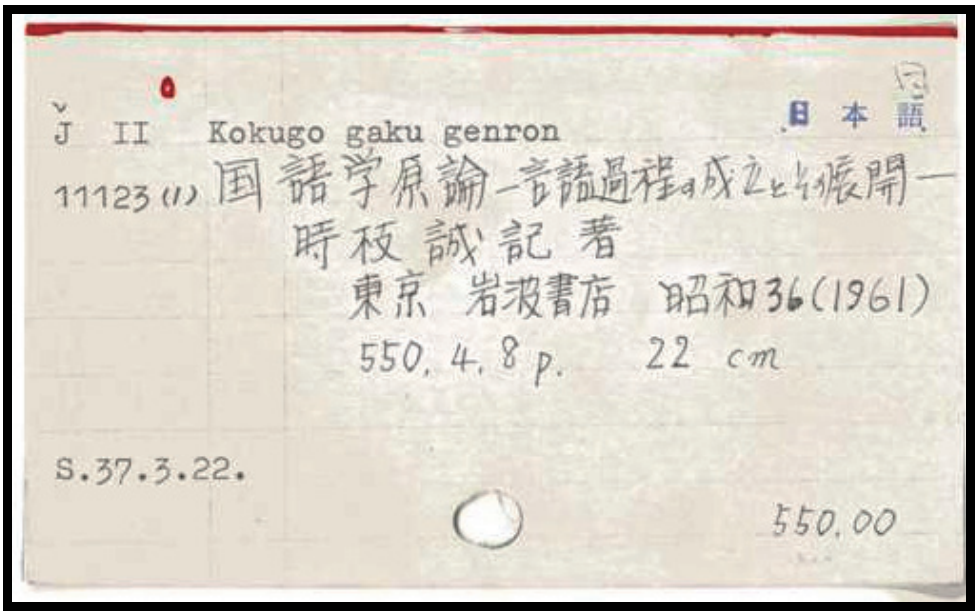
画像(2-5)大学 OPAC　他のデータベース等での検索ボタン

以上、本学図書館 OPAC の利用法についてまとめました。

[18] なお、「ICU 検索」は、本学と図書館の相互利用協定(2009 年度より。2010 年度現在、継続中)を結んでいる国際基督教大学の図書館 OPAC で検索できるもの。

＜目録カード＞

次に、目録カードの使い方について説明します。OPAC で検索できない、比較的古い図書や「旧分類」図書は、「目録カード」で調べます。若い人（！？）にとっては、目録カードは珍しいかもしれないので、例を挙げます（画像（2-6））。



画像(2-6)「旧分類」図書 目録カード（東京外国語大学附属図書館 作成）
ほぼ原寸大

このように図書の書誌情報が記されています。左上に書いてある「J／II／11123(1)」というのが「請求記号」です。

「新分類」図書と「雑誌」の目録カードは、2 階にあります。「旧分類」図書、「AA 研蔵書」の目録カードは、書庫 1 層にあります。目録カードは専用の引き出しに入っていて、自由に見られるようになっています。

「新分類」図書・「AA 研蔵書」は、図書の内容・分野順のカード「分類目録」、著者名順のカード「著者名目録」、書名順のカード「書名目録」の 3 種類のカードがあります。著者名も書名もわからず、ある分野の本を調べる場合は「分類目録」、著者名がわかっている場合は「著者名目録」、書名がわかっている場合は「書名目録」を使います。

「旧分類」図書の目録カードは、「分類目録」のみです。「雑誌」の目録カードは、雑誌のタイトル順のカードのみです。

1 つ、重要な点は、基本的にすべて、アルファベット順であるということです[19]。日本語は、「ヘボン式」のローマ字表記で並べられています。この方式は、日本語の音韻体系に

[19] ハングル、キリル文字は原綴り。

あわせて作られているというより、英語の綴り方に基づいています。たとえば、以下のような具合です。日本語の五十音表では同じ行に来る音節の子音が、別々の文字（の組み合わせ）で表記されることがあるので、慣れないと煩雑に感じるかもしれません。

「富士山」⇒　○「fujisan」　（×「huzisan」）
「筑波大学」⇒　○「tsukuba daigaku」　（×「tukuba daigaku」）
「昭和」⇒　○「showa」　（×「syowa」）

＜図書のコピー＞

図書館の図書は、コピーが可能です。しかし、まるまる 1 冊全部のコピーは違法です。「一部分」(一般に、半分まで)ならコピーができます(著作権法第 31 条)。

2.1.2. 雑誌論文の場合

次に、雑誌・紀要を探す場合です（ただし、一部の雑誌や「ムック[20]」など、書誌学的には雑誌の類でも、図書館が本相当として「図書」として受け入れたものは、図書館では「図書」として扱うため、注意が必要です）。

だいたいの雑誌・紀要は、OPAC で検索可能です。（ただし、OPAC「ヘルプ」画面によると、日・中・朝(韓)・欧米系言語以外の雑誌で、かつ、現在は購読していない雑誌は、検索できないことがあります。詳細は「ヘルプ」画面を参照。）

OPAC での調べ方は、基本的に図書の場合と同じです。検索画面（先ほどの画像（2-1）・（2-2）を参照）の「資料区分」を「雑誌」に設定すると雑誌・紀要のみの検索となります。

雑誌・紀要の場合、必ずしもある雑誌・紀要のすべての号が図書館にあるとは限りません。ほしい号が図書館にあるかどうかを見なければなりません。

雑誌の場合も、図書の場合と表示は同じです。「巻号」のところに、所蔵のある号の情報がでます。たとえば、「所蔵情報」に次のように表示された場合、「巻号」表示から「2 号」が欠落していることがわかります。また「所蔵年次」の「＋」という記号は、現在も継続して受け入れていることを表わします。

一括所蔵情報

所在	巻号	所蔵年次
書庫2層大学紀要コーナー	1, 3-13	1998-2004+

画像(2-7)大学 OPAC 雑誌・紀要の所蔵情報表示

[20]「magazine」と「book」を合わせた語。本と雑誌の中間的な性質のもの。

＜雑誌のコピー・貸し出し＞

雑誌に掲載された個々の論文は、コピーが可能です。ただし、著作権法上の制約[21] から、雑誌については、最新号の複写はできません。

また、図書館の雑誌の最新号は、貸し出しも不可です。

＜参考：『日本語学論説資料』について＞

資料検索とは直接関係ありませんが、『日本語学論説資料』（旧名称『国語学論説資料』）について述べます。これは、その 1 年間の日本語学関連の論文（商業誌、学会誌以外の紀要論文）をまとめた論文集で、毎年出版されています。発行元は「論説資料保存会」という東京の下町にある小さな会社です。掲載する紀要の選定は国語研が行なっているそうです。「語彙」「文法」など、いくつかの分冊に分かれています。一般の書店で購入することはできませんが、本学の図書館には所蔵されています。

むろん、収録されているのは全体からすればごく一部の論文だけですが、本学の図書館に所蔵されていない紀要の論文も含まれます。本学の図書館に、探している紀要がないと思ったら、一度この資料を見てみるといいかもしれません（また、同様の資料として、言語研究の分野では日本語学のほかに『英語学論説資料』があります）。

2.2. 日本課程教育準備室の利用

図書館のほかに「日本課程 教育準備室」（研究講義棟 7 階、748）には、日本研究に関わる分野の図書、雑誌があります。

開室日について、授業のある期間は水曜日以外の平日、授業のない期間は週 1 日程度の開室です（詳細は部屋の前に掲示する。あるいは「日本課程」ホームページ）（http://www.tufs.ac.jp/blog/st/g/nihongo/ または、http://www.tufs.ac.jp/common/fs/jpn/jap/ を参照）。開室時間は、午前 10 時から午後 5 時（昼休みは午後 1 時 10 分～2 時 10 分）です。

教育準備室にある図書の一部は、OPAC で調べられます。「所蔵情報」の「所在」の表示が「日本語共同研究室」の場合、教育準備室にあることを表します。しかし、紛失していて、そのことが図書館に伝わっていない図書もあるので、教育準備室にあると表示されても、ない場合もあります。いずれにせよ、正確な所蔵情報は、実際に部屋を訪問して教務補佐に問い合わせてください。

雑誌について、たとえば『日本語文法』（日本語文法学会）や、大部分の『教育国語』（教科研 国語部会）など、図書館にはなく教育準備室にしかない雑誌もあります。

---

21 著作権法の第 31 条では、「発行後相当期間を経過した定期刊行物」ならコピー可能とされる。通常、この「発行後相当期間」は、次号の発行後とみなされているのである。

＜注意！日本課程教育準備室の利用＞
　日本課程教育準備室では、図書・雑誌の貸し出しは行なっていません。部屋の中での利用が原則です。ただし、一般の図書は、当日のみの持ち出し、あるいは、夕方持ち出しで翌日の朝返却が可能です。雑誌・参考図書は、当日のみの持ち出しのみ可能です。

なお、OPAC で調べてみて、「日本課程共同研究室」以外の研究室が表示された場合、直接、その研究室に問い合わせをしてください。

2.3. 他大学・機関の利用

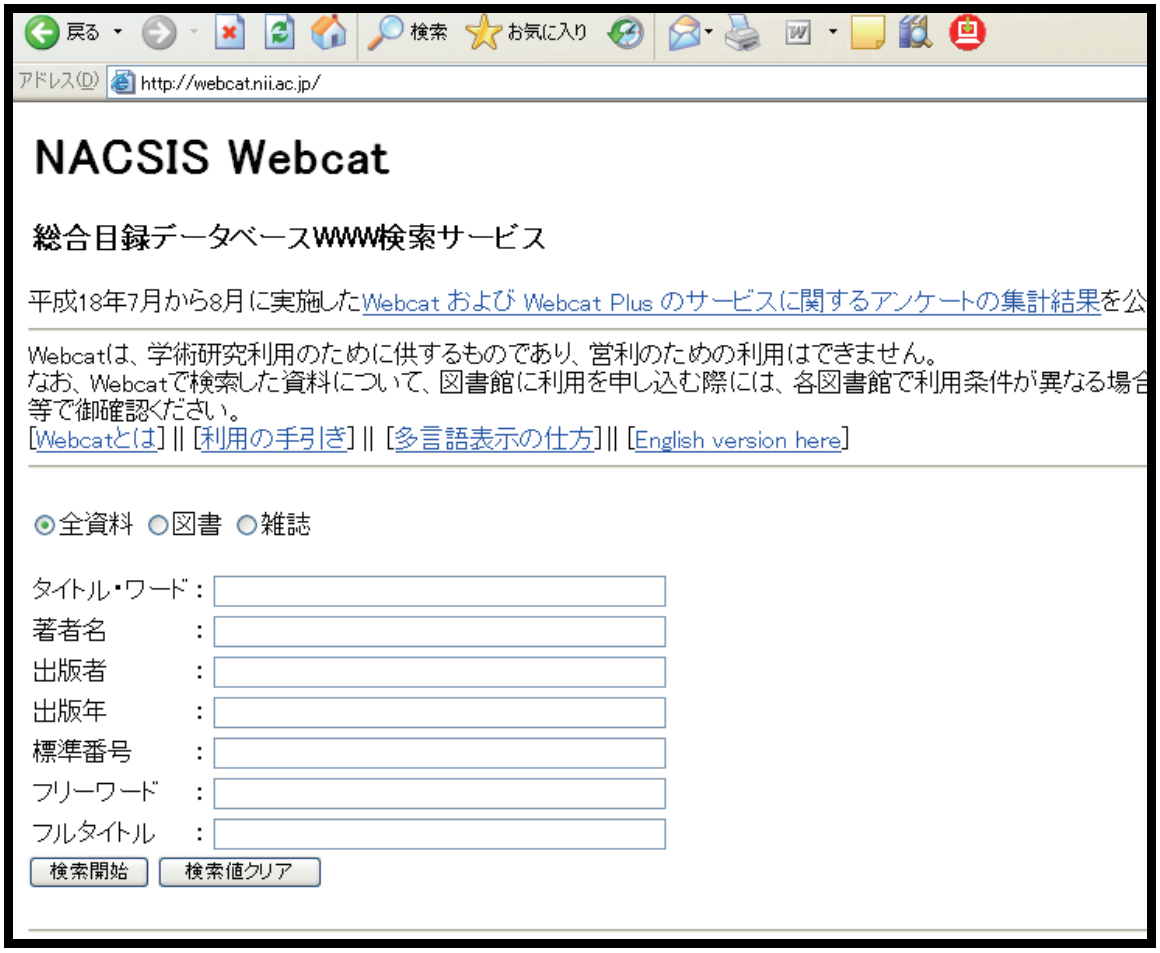
2.3.1. Webcat で他大学・機関の所蔵状況を調べる

前章でも、「どんな文献があるのか」調べるためのデータベースの 1 つとして、Webcat を紹介しました。ここでは、ある特定の文献（図書・雑誌）が、本学に所蔵されていない場合、どの大学・機関にあるのかを調べる手段として、再び取りあげます。

なお、ここで説明するのは、既にほしい文献が特定できている場合ですので、連想検索機能のついた「Webcat Plus」ではなく、Webcat（元祖）で説明します[22]。

以下が、Webcat（元祖）の検索画面です。

[22] 前述の CiNii では、「Webcat Plus」の画面に行くようになっているが、基本的な操作方法は「webcat」と同じ。



画像(2-8)Webcat(元祖)の検索画面

まず、タイトルや著者名・出版者などを入力し、検索します。今、以下の雑誌に、ほしい論文が載っているとします。

『学芸国語国文学』第 10 号 東京学芸大学国語国文学会

検索の結果、該当する雑誌があった場合、書誌情報を確認します。

NACSIS Webcat: 詳細表示

[利用の手引き] || [検索画面に戻る]

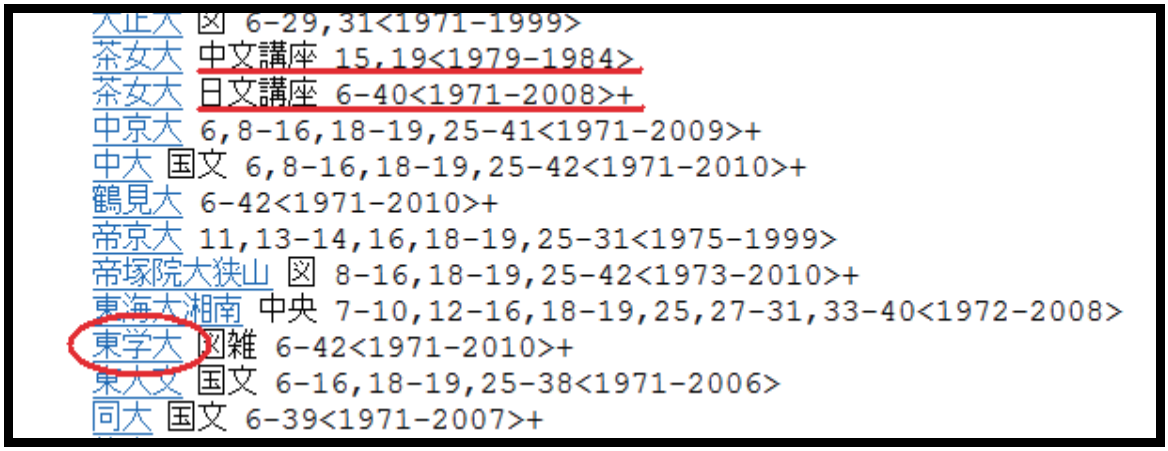
学芸国語国文学 / 東京学芸大学国語国文学会 [編]<ガクゲイ コクゴ コクブンガク>. -- (AN00038667)
6号 (昭46.11)-. -- 小金井 : 東京学芸大学国語国文学会, 1971-
ISSN: 03879135
別タイトル: 国語国文学
継続前誌: 東京学芸大学国語国文学 / 東京学芸大学国語国文学会
著者標目: 東京学芸大学国語国文学会<トウキョウ ガクゲイ ダイガク コクゴ コクブンガッカイ>

所蔵図書館 122

ノ清女 7,9-16,18-19,25-42<1972-2010>+
フェリス 9-12,14-16,18-19,25-42<1974-2010>+
愛教大 図 6-8,10-16,18-19,25-28,30-39<1971-2007>
愛県大 6-12,14-16,18-19,25-32<1971-2000>
安田女 18-19,25-41<1983-2009>+
茨大 研究室 8-16,18-19,25-30<1973-1998>

画像(2-9)Webcat(元祖) の詳細情報画面

「所蔵図書館」には、所蔵する機関の一覧が出ます。以下、一部分の画像です。



大正大 図 6-29,31<1971-1999>
茶女大 中文講座 15,19<1979-1984>
茶女大 日文講座 6-40<1971-2008>+
中京大 6,8-16,18-19,25-41<1971-2009>+
中大 国文 6,8-16,18-19,25-42<1971-2010>+
鶴見大 6-42<1971-2010>+
帝京大 11,13-14,16,18-19,25-31<1975-1999>
帝塚院大狭山 図 8-16,18-19,25-42<1973-2010>+
東海大湘南 中央 7-10,12-16,18-19,25,27-31,33-40<1972-2008>
東学大 図雑 6-42<1971-2010>+
東大文 国文 6-16,18-19,25-38<1971-2006>
同大 国文 6-39<1971-2007>+

画像(2-10)Webcat(元祖) の所蔵図書館表示

上記からわかるように、上から五十音順に機関名の略称で表示されます。たとえば「茶女大」は「お茶の水女子大学」を表わします。

右側の数字は、その雑誌の、どの巻を所蔵しているかを示します(よって、図書の場合はこのように表示されません)。たとえば、お茶の水女子大学の「中文講座」という研究室には、15 巻(1979 年発行)と 19 巻(1984 年発行)が 2 つの号があります。また、その下「日文講座」という研究室には、6 号(1971 年発行)から 40 号(2008 年発行)までの分があります。また、その行の右端に「＋」という記号がありますが、これは現在も新しい号を継続して受け入れているという意味です。このあたりは、前述の本学図書館 OPAC と共通です。

本学は、「東外大」と略記されて表示されますので、一覧から、たしかに、本学図書館には所蔵されていないことがわかります。

しかし、本学の近隣の大学では、「東学大」つまり、東京学芸大学に所蔵があります。ですので、直接訪問して、文献を手に入れることも可能です。

それぞれの機関名をクリックすると、機関の詳細な情報や、学外者が利用する際の注意が表示されます。

NACSIS Webcat: 参加組織表示

[利用の手引き] || [検索画面に戻る]

東京学芸大学 附属図書館
〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1
TEL: 042-329-7224 FAX: 042-329-7226
http://library.u-gakugei.ac.jp/
来館利用・所蔵調査担当: サービスカウンター (TEL: 042-329-7223, 7225 / FAX: 042-329-7226)
連絡先注記: 電話応対は、平日のみ(9〜12,13〜17時)
事前連絡: 利用したい資料があらかじめ特定している場合は、所属する大学等の図書館を通して事前にお問合せください。(貸出中の場合や、貴重書等利用時間・利用条件に制約のある場合があるため)
入館手続: 「学外者利用受付簿」に必要事項を記入
開館時間: 授業期:平日8:30〜22:00 土日休11:00〜17:00、休業期:平日8:30〜17:00 土日休11:00〜17:00
休館日: 本学創立記念日(5月31日)、12月28日〜1月4日。詳細は図書館ホームページの「開館カレンダー」参照
交通機関: JR中央線 武蔵小金井駅北口より京王バス小平団地行き約10分 学芸大正門前下車
備考: 施設・研究室等の所蔵資料は利用不可

画像(2-11)Webcat(元祖) の所蔵図書館詳細表示

これを踏まえ、次節では、他大学・機関の具体的な利用方法について説明します。

2.3.2. 他大学・機関の具体的な利用方法

欲しい本が本学図書館にない場合、他大学・機関を利用します。本学図書館の窓口で利用できるサービスは、以下の 3 つです。

① 紹介状の発行　：本学図書館が、相手機関から訪問許可をとり、紹介状を発行する。それを持ってその大学・機関に行く。多くの場合、見たい図書・雑誌を窓口に取り置いてくれる。
② 文献複写　：他大学・機関から本学図書館に、論文のコピーを送ってもらう。
③ 相互貸借　：他大学・機関から本学図書館に、図書（雑誌は不可）を送ってもらい、一定期間貸し出しを受ける。

すべて、本学図書館の窓口で申し込みをします（他機関ではない）。または、本学図書館ホームページからも申し込みができます(詳細は本学図書館ホームページをご覧ください)。

いずれの場合も、前節で説明した Webcat を使って、論文・図書の正確な書誌情報を調べ、かつ、本学の図書館には所蔵がないことを確認する必要があります。また、①の場合は、どこの図書館にあるかも調べます。その場合、大学名だけでなく、複数キャンパスのある大学の場合どのキャンパスの図書館にあるか、あるいは、図書館にあるのか研究室にあるのか、を確認してください（研究室の場合、利用できないことが多いです)。

その上で、それぞれの申し込み用紙に必要事項を書いて、窓口に出してください。受付時間は、平日の午前 9 時から午後 5 時です。

料金について、①は無料ですが、②と③は実費負担です。②の場合、コピー代（概ね 1 枚 35 円ほど）と郵送料（200 円前後)、③の場合、郵送料（書留、1200 円前後）を払う必要があります。

外国の大学・機関からの文献複写・相互貸借は受けられません。紹介状（英文）は発行可能ですが、上記①の紹介状と異なり、相手機関から予め訪問許可を取るものではありません。

詳しくは、図書館職員に聞くか、図書館ホームページを見てください。

なお、本学と提携を結んでいる近隣の大学などには、紹介状なし（学生証持参）で訪問できる図書館もあります。大学院生は、すべての国立大学法人の図書館（分室ではなく本館）に学生証のみで訪問できます。詳細は、本学図書館ホームページ「特定大学図書館との相互協力」http://www.tufs.ac.jp/library/service/tokutei-j.html を参照してください。

＜注意！他大学図書館の利用＞
　ただし、上記のような場合でも、大学院生のみで学部生不可、試験期間は不可など、身分や時期により異なる場合もあります。詳しくは、図書館職員に聞くか、図書館ホームページを見てください。

2.4. 専門機関などの利用

以下、日本語研究に関わる専門機関として、「国立国語研究所」の図書館と、「独立行政法人 国際交流基金 日本語国際センター」の図書館を紹介します。どちらも専門機関ですので、その分野に特化した資料の収集を行なっています。ある分野の専門の図書館ではありませんが、国際基督教大学図書館、国立国会図書館についてもここで触れます。

また、利用方法は変更される場合があるので、最新の情報は、それぞれの機関のホームページを見るか、直接問い合わせてください。

＜国立国語研究所図書館[23]＞

日本で唯一の、日本語関係図書の専門図書館です。東京都立川市にあります。日本語学関連の文献であれば、たいていのものは見つかります。身分を問わず、紹介状なしで訪問可能です。ただし、事前に直接国語研に、電話やメールなどで連絡が必要です。

新しい号の雑誌、参考図書、国語研の刊行物以外は、閉架（所員以外入れない）ですので、欲しい本が特定されている場合のみ有効です。貸し出しは不可ですがコピーは可です。

また、他大学同様、前節で述べた相互利用サービスを受けること、蔵書を Webcat で調べることができます。

なお、国語研は 2009 年 10 月、「独立行政法人」から「大学共同利用機関法人」に移管されました。現状では、従来どおり研究所外の人も利用可能ですが、今後サービスが変わる可能性がありますので、最新の情報をホームページでチェックしてください。

＜国際交流基金日本語国際センター図書館＞

日本語の教科書など、日本語教育関連資料を広く収集しています。埼玉県さいたま市浦和区（JR 北浦和駅）にあります。身分を問わず、紹介状なしで利用可能です。貸し出しは、ホームページ(http://www.jpf.go.jp/j/urawa/j_library/j_lbrary.html)によれば、「日本語教育関係者で、利用者登録の時点で以降 3 ヶ月以上、日本に在住あるいは滞在予定の方」に対して行なうとのことです。直接、この図書館に問い合わせてください。

こちらも、他大学同様、前節で述べた相互利用サービスを受けること、蔵書を Webcat で調べることができます。

[23] 正式には、2009 年 4 月以降、「研究図書室」という名称となった。これは、国の行政改革の一環で、国語研の「図書館」は「廃止」されたため(『独立行政法人整理合理化計画』(2007 年 12 月 24 日閣議決定）による)。

＜国際基督教大学(ICU)図書館＞

2009 年から、本学と国際基督教大学(三鷹市、本学の近隣！略称 ICU)は、施設の相互利用協定を締結しています。本学の学生は、所定の手続きを行なえば、国際基督教大学図書館の利用・図書の貸し出しが可能です。詳細は、本学図書館職員に問い合わせてください。

特に、この図書館は本学にはない英文雑誌の所蔵が多くありますので、英文雑誌を探す際には、利用してみるとよいかもしれません。以下から所蔵目録を検索できます。

http://www-lib.icu.ac.jp/

＜国立国会図書館＞

本館は東京都千代田区。国の機関として、ありとあらゆる図書・雑誌を収集・保管しています。どうしても他の機関では手に入らないときの、最後の手段です。しかし、通常であれば、国会図書館でなければ手に入らない文献が必要ということはないでしょう。

以下から所蔵目録を検索できます。

http://opac.ndl.go.jp/

2.5. 公立図書館の利用

本学の図書館、専門機関の図書館以外に、まちの図書館も、意外と使えます。

府中市立図書館は、外大生なら居住地を問わず利用可能で、登録をすれば貸し出しが受けられます。蔵書数は市町村の図書館としては比較的多く、言語学の専門書もあります。ホームページ上（http://library.city.fuchu.tokyo.jp/）の OPAC で蔵書検索が可能です。本学図書館で貸し出し中…というときに。

その他、都立図書館、区市町村の図書館は、多くのところでホームページを持ち、そこで OPAC を公開しています。詳細は割愛しますが、それぞれの図書館のホームページをご覧ください。

複数の図書館の横断検索ができるサービスとして、以下の 2 つをあげます。

■ 東京都公立図書館横断検索(東京都立図書館)

東京都立図書館の提供するサービスとして、「東京都公立図書館横断検索」があります。その名の通り、東京都の都立、区・市・町立図書館の所蔵が検索できます。

http://metro.tokyo.opac.jp/

■ 総合目録ネットワーク「ゆにかねっと」(国立国会図書館)

国立国会図書館の提供するサービスとして「総合目録ネットワーク「ゆにかねっと」」があります。全国の都道府県立図書館・政令市立中央図書館の所蔵(和図書)が検索できます。

http://unicanet.ndl.go.jp

これで、先行研究の収集方法の説明を終わりますが、最後に、身近な図書館には所蔵がない、あるいは、じっくり読むために手元に置いておきたいというときは、購入します。一般に専門書は高く、5 千円から 1 万円は普通ですので、節約して買いたいという場合は、次のような古書店の横断検索サイトで調べてみることをお勧めします。ともに、日本全国の加盟古書店で扱っている古書が検索できます。

- 東京都古書籍商業協同組合が運営する「日本の古本屋」: http://www.kosho.or.jp/
- 株式会社 紫式部が運営する「スーパー源氏」: http://sgenji.jp/

＜参考：役に立つ個人ページ＞

以上では、個人で運営しているようなページは一切挙げませんでしたが、情報を得るのに役立つページもあります。以下に、編者が利用している範囲内で、一例を挙げます。

●東北大学：後藤斉先生のホームページ
http://www.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/gothitj.html
国内の学会、研究機関、その他、さまざまな情報があります。

●大阪大学：岡島昭浩先生のホームページ
http://www.let.osaka-u.ac.jp/~okajima/
松下大三郎など、古い日本語研究関係の文献の本文画像データが見られます。

第 3 章　先行研究の引用および文献一覧の作成

～～本章でできるようになること～～ ○ ルールにのっとって、自分の論文に他人の研究などを引用できるようになる

先行研究の図書や論文（以下、両者をまとめて「文献」とする）を探し、それらを読み、自分の研究したいテーマについて、これまでどんなことが言われているのかわかりました。自分の書く論文では、まず、これら先行研究で言われていることをまとめた上で、先行研究では明らかになっていない部分、先行研究で疑問のある部分を明確にし、本論でその点について考察します。

しかし、先行研究の引用の方法は、既に授業などで聞いていると思うので、ここでは簡単に確認をするだけにします。

そもそも引用の仕方について、なぜそんなに厳密に考えなくてはいけないのでしょうか。それは、自分の考えについて書いた部分と、他人の考えについて書いた部分を、明確に分ける必要があるからです。その 2 つを区別しないで論文を書くと、他人の考えをあたかも自分の考えとして論文に書くことになってしまいます。これは、「剽窃（ひょうせつ）」といい、学問的に許されないだけでなく、著作権法という法律にも違反する行為（つまり、違法行為）です。ですので、先行研究の引用の仕方には十分に注意する必要があります。

逆にいうと、きちんとルールにのっとってするのであれば、そのオリジナルの著者に対し許可を取ったり代償を払ったりする必要なく、自由に引用することができます。自由に引用する権利は、著作権法でも保障されています。

3.1. 本文中での引用の方法

先行研究の本文のある一部分を引用する場合には、主に 2 つの方法があります。1 つは、引用した部分をかぎ括弧（「　」）で括る方法です。引用がそれほど長くならない場合に使う方法です。

～～～例～～～

…坂原(1995)は、こういった文脈では自己領域が「話し手の視野全体に拡大された例として解釈すべき」（p.115）としている。

～～～～～～～

もう 1 つは、引用部分の上下を 1 行ずつあけ、さらに、前後を少し狭く寄せる、文字の大きさやフォントを変えるなどして、引用箇所を明確にする方法です。この場合、引用箇

所はかぎ括弧（「　」）で括らなくてもかまいません。引用が長くなる場合にはこちらのほうが見やすくなります。

～～～例～～～

鈴木(1972)は、「アスペクト」を「すがた」と呼び、以下のように定義している（下線は引用者）。

> **動詞の《すがた》とは、おおまかにいって、動詞のあらわす動きの、どの過程的な部分をとりたてて問題にするか、という文法的なカテゴリーである。**　（鈴木, 1972 : 375）

しかし、どこまでを「文法的なカテゴリー」としての「アスペクト」と捉えるかは、議論が分かれるところである。…

～～～～～～～

大原則は、表記法も含め、原文のまま一字一句変えずに引用することです。たとえ、原文に誤植があっても、断りなく直して引用してはいけません。通常、誤植箇所に、ルビや括弧書きで「ママ」[24]と書きます。

引用者が言葉を補う場合は、大括弧（[　]）で括って書きます。「引用者注」など、その旨を明記するとよりわかりやすくなります。

原文にないような強調の下線などを引く場合には、それが引用者によるものであることを明記します（上記の例を参照）。原文そのものに強調の下線などがあるときには、「下線は原文」などと記します。

その他、文言をそのまま引用するのではなく、引用者が先行研究の内容を要約して紹介することもあります。その場合も、先行研究の内容と自分の内容が混ざらないように十分注意します。

本文中では、必ずしも、いちいちその論文のタイトルを挙げる必要はありません。論文自体について言及する場合は、論文著者名と発表年で代表させます。著者名は、姓のみが原則ですが、同一論文中に、同姓の異なる著者の論文が出てくる場合は、姓名ともに出すと混乱が避けられます。

例：　「鈴木(1979)では、…」
　　「佐藤(2006b)によると、…」

発表年のあとにつける「a」「b」といった記号は、同じ著者が同じ年に発表した複数の論文を挙げる場合に、それらを区別するためのものです。

24　「原文のまま」という意味。「母親」の意味ではないですよ…。

ある部分を引用する場合には、そのページ番号も書きます（上記の例を参照）。

3.2. 「参考文献」一覧の書き方

3.2.1. 必要な情報

論文の本文中で引用、あるいは紹介した文献は、「参考文献」として論文の最後に一覧形式で挙げます。ただ文献名や著者を挙げるだけでなく、文献の詳細な情報（「書誌情報」）を、形式にのっとって書く必要があります。

なぜ、そんなことをしなくてはいけないのでしょうか。その理由として、まず 1 つは、論文を読んだ人が、論文の中で挙がっている先行研究を自分で探して読めるようにするためです。よって、文献名や著者だけでなく、何という雑誌の何号に載っているのかなど、詳細な情報が必要です。

もう 1 つは、日本語学の歴史の中で、その研究がいつなされたのかをはっきりさせるためです。研究では、いろいろな研究者が研究を発表し、さらに他の研究者が、それを批判して別の説を打ち出したり、受け継いでさらに発展させたり、修正したりして、研究全体が発展していきます。それぞれの研究は、決してバラバラに存在しているのではありません。また、同じようなことを複数の人が指摘している場合、研究の歴史の中で、先にそれを指摘したのはどちらなのかというのは、重要なことです。こういった研究の流れをはっきりさせるために、その研究がいつなされたのか（正確には、初めて公表されたのはいつか）が大変重要な情報となります。

また、「形式にのっとる」というのは、読む人への配慮です。個々の文献によって書き方がバラバラだと、読む人にとっては大変わかりにくいです。ですので、情報を出す順番や記号の使い方について、一定のルールがあります。

必要な情報は、以下です。

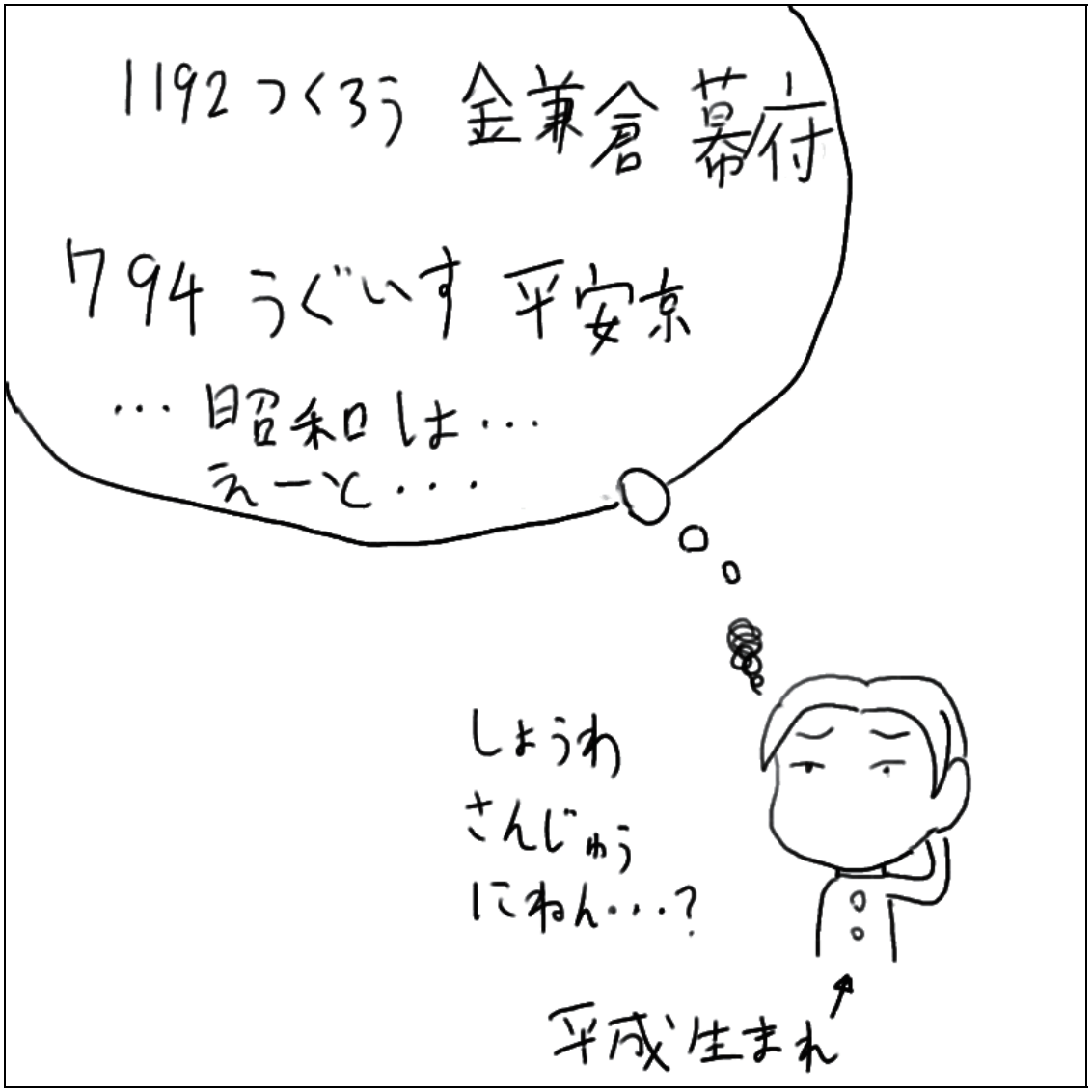
雑誌論文の場合

- **著者（もとの記載に関わらず、姓→名 の順番で）**
- **発表年（もとの記載に関わらず、西暦で）**
- **論文タイトル**
- **掲載雑誌名**
- **掲載巻号（「第〇号」「〇巻〇号」といったもの。「〇年〇月号」は原則不可）**
- **ページ数（近年、学会誌などでは要求されることが多い）**
- **発行者（学会名、大学名など。大学で、「〇〇学部〇〇専攻」「〇〇センター」など、部署名が記載されている場合は、部署名も必須）**

図書の場合

・著者（もとの記載に関わらず、姓→名 の順番で）
・発表年（もとの記載に関わらず、西暦で）
・タイトル
・出版者（出版社、機関など。加えて、出版者の「場所」が要求されることもある）

ただし、個人論文集や、複数の著者が分担して書いている図書で、特定の章を挙げる場合などは、雑誌論文の書き方に準じます。



【 「昭和」はもはや歴史上の一時代！？ 】

図書には必ず、その図書の情報を書いてあるページがあります。和書では最後のページ

に書いてあり（「奥付（おくづけ）」という）、洋書では始めのほう、タイトルページの次ページに書いてあります。

以下、書き方の例を挙げます。

＜図書の場合＞

和書（単著）

宮田幸一(1948)『日本語文法の輪郭』三省堂

和書（共著）

亀井孝・河野六郎・千野栄一 編(1988)『言語学大辞典 第 6 巻術語編』三省堂[25]

洋書（単著）

Sapir, Edward (1921) *Language：an introduction to the study of speech.* Harcourt, Brace and Company.

洋書（共著）

Quirk, Randolph (et al.) 1985. *A Comprehensive grammar of the English language*. Longman.[26]

このほか、図書の場合、出版者の「場所」（所在地）を書くことを求める人もいます（基本的に雑誌は不要）。ただし「場所」の情報は、日本国内の出版者の文献のみを挙げるのであれば、「投稿規定」などで求められていない限り、不要です。

図書（出版者「場所」の表示あり）

亀井孝・河野六郎・千野栄一 編(1988)『言語学大辞典 第 6 巻術語編』東京：三省堂.

＜雑誌論文などの場合＞

雑誌論文

中山健一(2006)「進展過程のアスペクト的意味を表す「してくる」「していく」形式について」『日本研究教育年報』10 号，pp.59-82，東京外国語大学 日本課程・留学生課共編.

Johnson M. 2004. 'Communicative competence versus interactional competence.' *A philosophy of second language acquisition*. pp.85-99, Yale University Press.

個人論文集

三上章(1970)「5. コソアド抄」『文法小論集』pp.145-154，くろしお出版

複数の著者が執筆した本の一部

宮島達夫(1996)「カテゴリー的多義性」鈴木泰・角田太作 編『日本語文法の諸問題』pp.29-52，ひつじ書房

---

25 編者の場合、必ず「編」と書く。

26 「et al.」は、ラテン語の「et alia」の略で、日本語での「他」の意味を表す記号。

よく見ると、日本語と英語で括弧や記号の使い方など、細かい違いがあることがわかります。日本語では論文は一重かぎ括弧（「　」）、図書・雑誌名は二重かぎ括弧（『　』）が原則です。英語は、括弧は使わず、図書・雑誌名を斜体にします。発表年の括弧は、あってもなくてもよいですが、自分で有り無しのどちらかに統一しましょう。ページ番号は、複数ページの場合「pp.〇–〇」、1 ページの場合「p.〇」と書きます（〇には数字が入る。本文中での引用の場合も同様）。

このほか、表記のルールは言語によってさまざまです。たとえば、中国語の文献の場合、図書のタイトルは二重山括弧（《　》）でくくるそうです。特に外国語との対照研究などで、非ヨーロッパ言語の外国語の文献を挙げるときには、その言語の専門の人に聞いて、ルールを確認することをお勧めします。

雑誌に連載された論文など、1 つの論文が何年にもわたって、部分ごとに複数の号に掲載されるときがあります。その場合、発行年は、「（連載開始年）－（連載終了年）」というように書きます。掲載号について、以下の例では、掲載された号が飛び飛びになっているので、掲載されたすべての号の番号を書いていますが、連続していれば「第〇号～第〇号」でかまいません。

雑誌論文（連載）

奥田靖雄(1968-1972)「を格の名詞と動詞とのくみあわせ」『教育国語』12、13、15、20、21、23、25、26、28 号　教育科学研究会国語部会.

＜改訂・復刻・再録について＞

以上のほかに、文献の挙げ方が少し複雑な場合があります。具体的には、以下のようなものです。

・内容が一部修正されて、再び出版された（改訂版）
・一度出版されたが絶版となり、その後同じものが別の出版社から出た（復刻版）
・いくつかの雑誌論文がまとまって、1 冊の図書として出版された（再録）

■　改訂版

図書では、最後のページの「奥付」を見ると、「第〇版　第〇刷」（〇には数字が入る）と書いてあることがあります。「第〇版」は内容の変更・修正をした回数を表し、変更・修正なしの最初の版は「初版」、1 度目の変更・修正の版は「第 2 版」あるいは「改訂版」です。3 度目以降は、「第 3 版」「第 4 版」…となります。「第〇刷」は、同じ内容で、印刷された回数を表します。たとえば、「第 3 版 第 2 刷」とあったら、3 番目の版、つまり 2 回変更・修正したものを、2 回目に印刷したバージョンということになります。

「初版」ではない図書を先行研究として挙げる場合、「版」の情報は必ず出す必要があり

ます。「版」が違えば、内容が少し違うわけですから、どの「版」を自分が見たのかは重要な情報です。しかし「刷」の場合は、「刷」が違っても基本的に内容は同じですので、必ずしもその情報を出す必要はありません。

発行年は、自分の見た版の年に加えて、初版の出た年も書きます。前述のように、先行研究では、誰が、いつの時点でそのことを指摘したのかが重要になります。よって、その図書が最初に出たのはいつなのかが、重要な情報なのです。

以上を踏まえて、書き方を 2 つ挙げます。1 つは、自分の見た版の書誌情報のあとに、初版の情報を大括弧（[　]）でくくって出す方法です。

改訂版（1）

佐久間鼎(1922)『國語の發音とアクセント　訂正増補』同文館　[初版 1919 年]

もう 1 つは、発表年の右肩に小さく第何版かを書き（第 2 版なら「2」）、そのあとに大括弧（[　]）で初版の発行年を示す方法です。英語の図書などでよく見かける方法です。

改訂版（2）

Hopper, Paul J. and Elizabeth C. Traugott (2003[2] [1993]) *Grammaticalization*. Cambridge University Press.

■ 復刻版

一度出版されたが絶版となり、その後同じものが別の出版社から出た「復刻版」の場合、内容自体は、もとの図書と「復刻版」とで同一ですから、情報としては、もとの版の書誌情報が重要です。それに加えて、復刻版の情報も書き加えます。書き方は、以下の通りです。もとの図書の情報を先に書き、そのあとに、復刻版の情報を大括弧（[　]）で書きます。

復刻版

福井久蔵 編(1938-44)『国語学大系　全 10 巻』厚生閣 [復刻版　国書刊行会 1975 年]

山田孝雄(1950)『日本文法学要論』角川書店　[『世界言語学名著選集 第Ⅲ期 東アジア言語編 ② 第 1 巻』として、ゆまに書房より復刻 (2000 年)]

■ 再録

一度雑誌論文に掲載された論文が、その後、論文集として図書にまとめられることがあります。その場合も、最初に出たときの情報を先に書き、そのあとに、再録された図書の情報を大括弧（[　]）で書きます。

例では、上が複数の著者の論文集、下が個人の論文集です。下の場合、当然、もとの論文の著者と再録された図書の著者は同じですから、後者を「同(1984)」などと略してもよいでしょう。

再録

阪田雪子(1971)「指示語「コ・ソ・ア」の機能について」『東京外国語大学論集』21 号　[再録：金水敏・田窪行則 編(1992)『指示詞（日本語研究資料集 第 1 期第 7 巻)』pp.54-68，ひつじ書房]

奥田靖雄(1967)「語彙的な意味のあり方」『教育国語』8 号，教育科学研究会国語部会　[再録：奥田靖雄(1984)『ことばの研究・序説』pp. 3-20，むぎ書房]

＜翻訳＞

外国語の図書の日本語への翻訳を参照した場合は、もとの言語の図書と日本語の図書の、両方の情報が必要です。これも、先ほどの場合と同様に、原典が公表されたのがいつなのかが、重要な情報だからです。また、翻訳のみを読み、原典を読んでいない場合、その旨を明記するとよいでしょう。

翻訳

Sapir, Edward 1921. *Language：an introduction to the study of speech.* Harcourt, Brace and Company　[安藤貞雄（訳）1998『言語―ことばの研究序説―』岩波書店]

以上、少し複雑な場合についてまとめました。

3.2.2. 配列の順序

一覧として挙げるときの配列の順序ですが、日本語の文献のみの場合、著者名の五十音順が最も一般的です。

同一著者の複数の文献を挙げる場合は、古い順に挙げます。同一著者、同一年の論文が複数あるときは、「a」「b」…という記号で区別し、本文中で言及するときも、この記号をつけて出します（本文と「参考文献」一覧で、a と b を逆にしないように！）。同一著者の場合、2 つ目以降は「 _____ 」などを使って省略が可能です。

外大一郎（1978)「…」
_____（1999a)「…」
_____（1999b)「…」
_____（2003)「…」

日本語研究の場合、外国人が日本語で書いている論文もたくさんあります。特に、中国語、朝鮮語での人名の場合、原音に近い読みにするか、日本式の読みにするかで配列の位置が変わってしまい、どちらにするか迷うこともあるかもしれません。たとえば、中国語の人名で、「王」は、「オウ」か「ワン」か、などです。この場合大原則として、もとの論文でその論文の著者が書いているほうに合わせます。もし特に書いていない場合、有名な

研究者であれば、慣例に合わせるのがよいでしょう。

ローマ字表記の外国語の文献では、著者名（姓）のアルファベット順となります。ハングル・キリル文字など、その他の文字でも、その文字での著者名順にします。

また、複数の種類の文字の文献を挙げる場合、研究者によっては、例②のように一緒くたにしてアルファベット順で配列する人もありますが、例①のように、文字（言語）別に分けて配列したほうが見やすいように思います[27]。

例①

秋山一郎（19XX）
李英一[28]（19XX）
斉藤次郎（20XX）
鈴木花子（19XX）
千葉美子（19XX）
山田三郎（19XX）

Brown, Smith（20XX）
Edward, John（19XX）
Johnson, Mary （19XX）
⇒見やすい！

例②

秋山一郎（19XX）
Brown, Smith（20XX）
千葉美子（19XX）
Edward, John（19XX）
李英一（19XX）
Johnson, Mary （19XX）
斉藤次郎（20XX）
鈴木花子（19XX）
山田三郎（19XX）

⇒少し見にくい…

以上、引用の方法について、形式的なことのみまとめました。

実際の「参考文献」一覧の例を挙げます（画像（3-1））。日本語の文献→英語の文献の順に分けて挙げる方法です。オリジナルではたくさんの文献が挙げられていますが、日本語・英語それぞれの文献の一部を抜き出しました。記号の使い方などの非常に細かい点で、本章で説明したことと違う点があるかもしれませんが、基本的には本章の説明どおりになっています。

なお、引用した論文は、以下です。

早津恵美子(2007)「使役文の意味分類の観点について―山田孝雄（1908）の再評価―」『東京外国語大学論集』75 号，pp.49-86.　※うち「参考文献」は pp.82-85.

[27] ただし、同一著者による複数の言語（文字）の論文がある場合、それが別々の所に配列されるのは好ましくないので、その場合は、一緒くたにして配列した方がよい。

[28] 韓国人研究者による日本語の論文で、日本語よみを「イ　ヨンイル」と記載している人だとする。

青木伶子（1977）「使役―自動詞・他動詞との関わりにおいて―」『成蹊国文』10, pp.26-39, 成蹊大学文学部日本文学科研究室（須賀一好・早津恵美子編 1995「動詞の自他」ひつじ書房、に再録）.

青木伶子（1980）「使役表現」『国語学大辞典』pp.455-456, 東京堂出版.

池上嘉彦（1981）『「する」と「なる」の言語学』大修館書店.

池上嘉彦（1982）「表現構造の比較―〈スル〉的な言語と〈ナル〉的な言語―」『日英語比較講座 第4巻 発想と表現』pp.67-110, 大修館書店.

石川守（1994）「使役形の用法について」『語学研究』75, pp.1-41, 拓殖大学語学研究所.

井島正博（1988）「動詞の自他と使役との意味分析」『防衛大学校紀要人文科学分冊』56, pp.105-135.

伊東光浩（1985）「使役表現の意味構造」『中央大学国文』28, pp.100-120.

井上和子（1976）『変形文法と日本語 上・統語構造を中心に』大修館書店.

大鹿薫久（1986-1987）「使役と受動（一）（二）」『山邊道』30: pp.89-98, 31: pp.33-42, 天理大学国語国文学会.

大槻文彦（1889）「語法指南」『言海』私版.

大槻文彦（1897）『広日本文典』『広日本文典別記』大槻家蔵版（[1980]『広日本文典・同別記』として、勉誠社より復刻）.

画像(3-1)実際の「参考文献」一覧の例（日本語）

Chamberlain, Basil Hall (1889) *A Handbook of colloquial Japanese*. Tokyo: The Hakubunsha.

Cole, Peter. (1983) The grammatical role of the causee in universal grammar. *Internationl journal of American Linguistics* 49, pp. 115-133.

Comrie, Bernard. (1981) *Language Universals and Linguistic Typology*. Chicago: The University of Chicago Press.

Comrie, Bernard. (1985) Causative verb formation and other verb-deriving morphology. In Shopen, Timothy (ed.) *Language Typology and Syntactic Description*. Ⅲ, pp.309-348, New York: Cambridge University Press.

Farmer, A.K. (1984) *Modularity in Syntax: A Study of English and Japanese*. Cambridge, Mass: MIT Press.

Falk, Yehuda. (1991) Causativization. *Journal of Linguistics* 27, pp. 55-79.

Kuroda, Shigeyuki. (1965a) Causative forms in Japanese. *Foundations of Language* 1, pp. 30-50.

Kuroda, Shigeyuki. (1965b) *Generative Grammatical Studies in the Japanese Language*. Ph.D. Dissertation. MIT.

Nakau, Minoru. (1973) *Sentential Complementation in Japanese*. Tokyo: Kaitakusha.

Shibatani, Masayoshi. (1973) Semantics of Japanese causativization. *Foundations of Language* 9, pp. 327-373.

Shibatani, Masayoshi. (1990) *The Languages of Japan*. Cambridge, NewYork, Melbourne: Cambridge University Press.

画像(3-2)実際の「参考文献」一覧の例（英語）

なお、日本言語学会『言語研究』、日本語学会『日本語の研究』など、学会誌などに投稿する際には、学会側が「投稿規定」の形で、文献一覧の書き方を指定していますので、それに従ってください（細かい点で、以上の説明に反する場合であっても、「投稿規定」のほうに従う）。

3.3. 例文などの挙げ方

3.3.1. 実例の挙げ方

ルールは、言語作品を用例として挙げる場合も基本的に同じです。当然のことながら、勝手に原文に手を加えたりしてはいけません。

原文を出した上で、比較対照などの為、一部を改変して併記するのは、その旨を明記す

れば可能です。たとえば以下の例は、オリジナルには、当該の述語の前に副詞がないですが、もしあったらどうなるか、というのを示したい場合です。

例）

（14a）ここで三原は重大なことに気づいた。彼はおさえても、目が光ってきた。（点と線）

（14b）ここで三原は重大なことに気づいた。彼はおさえても、目が、だんだん／次第に光ってきた。（例（14a）を改変）

さらに、文献の場合と同様、論文の最後（「参考文献」一覧の次あたり）に、用例採集に使用した言語資料（作品）の一覧を挙げます。書き方は、「参考文献」ほど厳密なルールはありませんが、基本的には「参考文献」に準じた形式で書くとよいでしょう。

インターネットから用例などを取ってきて論文に出す場合、そのページの情報を出すのに決まった方法・形式はありませんが、最低限、

・ページタイトル
・作成者
・ホームページアドレス
（http://www.xxx.com/~yyy/zzz.html といった形のもの。「URL[29]」とも呼ばれる）
・見た日の日付

は書く必要があります。

3.3.2. グロスの必要性

日本語で、日本語を研究対象とした論文を書く限り、用例の挙げ方については 3.3.1.で述べたようなことについて注意していれば通常問題ありません。しかし、日本語と他の言語の対照研究を行なう場合や、日本語以外の言語を主な対象とする場合には、用例をただ挙げるだけでは不十分です。

たとえば、日本語の使役と中国語の「使役兼語式」と呼ばれる形式との対照を行なう論文で、以下のような用例[30]を挙げたとします。

(1A)这个噩梦使他老了许多，好像他忽然的一气增多了好几岁。（骆驼祥子）
(1B)この悪夢は彼をすっかり老いこませてしまった。いちどにいくつも年をとってしまったみたいであった。（駱駝祥子）

---

[29] Uniform Resource Locators の略。

[30] 2008 年に東京外国語大学大学院を修了（修士）した王芳さんの、2007 年 5 月のゼミ発表時に用いられたレジュメの草案で用いられた例。中国語版（A）は老舎著、人民文学出版社刊、1955 年発行。邦訳版は立間祥介訳、岩波書店刊、1980 年発行。

このペアは、網掛けの施された中国語の「使」が、日本語に翻訳される際、「(さ) せる」と訳されているということを示すために挙げられています。しかし、中国語がわからない人にとってはどこがどう対応しているのかさっぱりわからず、論文全体の内容について是非を問うことさえできません（結果として、論文の学術的価値も低下してしまいます)。

外国語の用例を用いて、誰にでも読むことができる、そして内容について学術的な検討のできる論文を書くためには、用例（少なくとも問題となる部分）にグロス（gloss, 逐語訳）をつける必要があります[31]。

这个　噩梦　使　他　老了　许多.
この　悪夢　させる　彼　老いこむ　すっかり

この例の場合、邦訳は原文によく対応しているのであまり問題になりませんが、可能性として翻訳時に意訳が行なわれるということも考えられます。そうではない（あるいはそうである）ことを示す意味で、以下のようにグロスのついている部分について自分なりの直訳を付記すると、正当性を保つことになりますし、何より読み手に親切です。

（直訳：この悪夢は彼をすっかり老いこませる）

さらに言えば、「使」の意味を体系的に考える上で、いったんその訳を保留する（単に「使役形式である」とする通説に頼らず、まずは客観的に観察するプロセスを挟む）という方法もあります。こうした上で、日本語対訳では使役形になっていることから、この「使」が使役の「させる」相当に用いられている、という結論を帰納的に導くことができます。

这个　噩梦　使　他　老了　许多.
この　悪夢　SHI　彼　老いこむ　すっかり

孤立語であれば以上のような逐語訳で問題ありませんが、屈折語では以下のように格標示・時制などの文法的事実も含めて示す必要があります[32]。

(2)　bi　tere　nane-de morim-be-ni　yale-ve-xei
1SG.NOM　その　人-DAT　馬-ACC-POSS　乗る-VE-PFCT
「私はその人に、その人の馬に乗らせた」

---

31 例外として、英語については日本国内で一般的に教育が行なわれていることもあり、グロスはなくても通常問題にならない。ただし、英語を解さない人にも読んでもらいたい場合は、やはり日本語でグロスをつける必要がある。

32 児倉徳和氏の、日本言語学会第 128 回大会（2004 年 6 月 19 日）の発表レジュメ「シベ語の使役・受身を表す動詞接尾辞-ve」より引用（予稿集 p.138)。

この発表では、接尾辞“-ve”の意味を明らかにすることを目指しており、上述の「使」を“SHI”とした場合と同様、当該形式についてグロスにおける判断は保留しています（“VE”と表記）。

1SG は 1 人称単数、NOM は主格（nominative）、DAT は与格（dative）、ACC は対格（accusative）、POSS は所有格（possessive）、PFCT は完了（perfect）をそれぞれ表します。接辞として分析可能なものはハイフン（-）で区切り、分析不可能な事項についてはピリオド（.）で区切っているのがわかります。

グロスのつけ方に絶対的なルールはなく、たとえばそれぞれの格標示を「主」「与」「対」「所有」「完了」のように漢字を用いた略称にするなどしても問題はありませんが、いずれにせよ当該の言語を知らない人が読んでもわかるようにする、というのが何より大切です。学会発表などでは紙幅に制限があり、またこうした専門的な発表を聞きにくる人は知識も豊富なので問題になりませんが、卒論・修論レベルでは丁寧に書いて書きすぎるということはありません。言語により特定のグロスのつけ方が定着しているということもあるかもしれませんが、いずれにせよ（一通りの術語さえ理解していれば）誰でも納得でき、付記された直訳に至る過程が理解できる構成にしなければなりません。具体的には、グロスでは略称を用いるとしても、それぞれが何を表すのかをあらかじめ断っておく、当該言語に特徴的な現象については個別に説明を加える、などの努力が必要になります。

以上、日本語と他言語の対照を行なう、あるいは日本語で他言語を記述する際の用例の挙げ方について注意事項を示しました。日本語以外の言語で論文を執筆する場合は、それぞれの言語に合ったグロスのつけ方がありますが、本書では割愛します。

第 4 章　なぜ「用例を分析する」のか

〜〜本章でできるようになること〜〜 ○ 用例の採集・分析について具体的に説明する前に、そもそも「用例を分析する」とはどういうことなのか、なぜ「用例を分析する」のか、考える。本章の見解は執筆者個人によるものだが、本章の内容を読むことで、各人がこの問題について考え、最終的に自分なりの答えを出せるようにする。

本章では、本章執筆者なりに、「主に書き言葉資料から、ある程度の量以上の用例を採集して分析する手法」について、その理論的妥当性を検証するものです。よって、他の章のような、あることを行なう方法や注意点を説明している章とは異なる書き方となっています。

4.0. はじめに

まず、その前提として、そもそも、言語学の対象となる「言語」とは何かについて、主にソシュールの理論に依拠しつつ、本章の執筆者の考えを述べます。

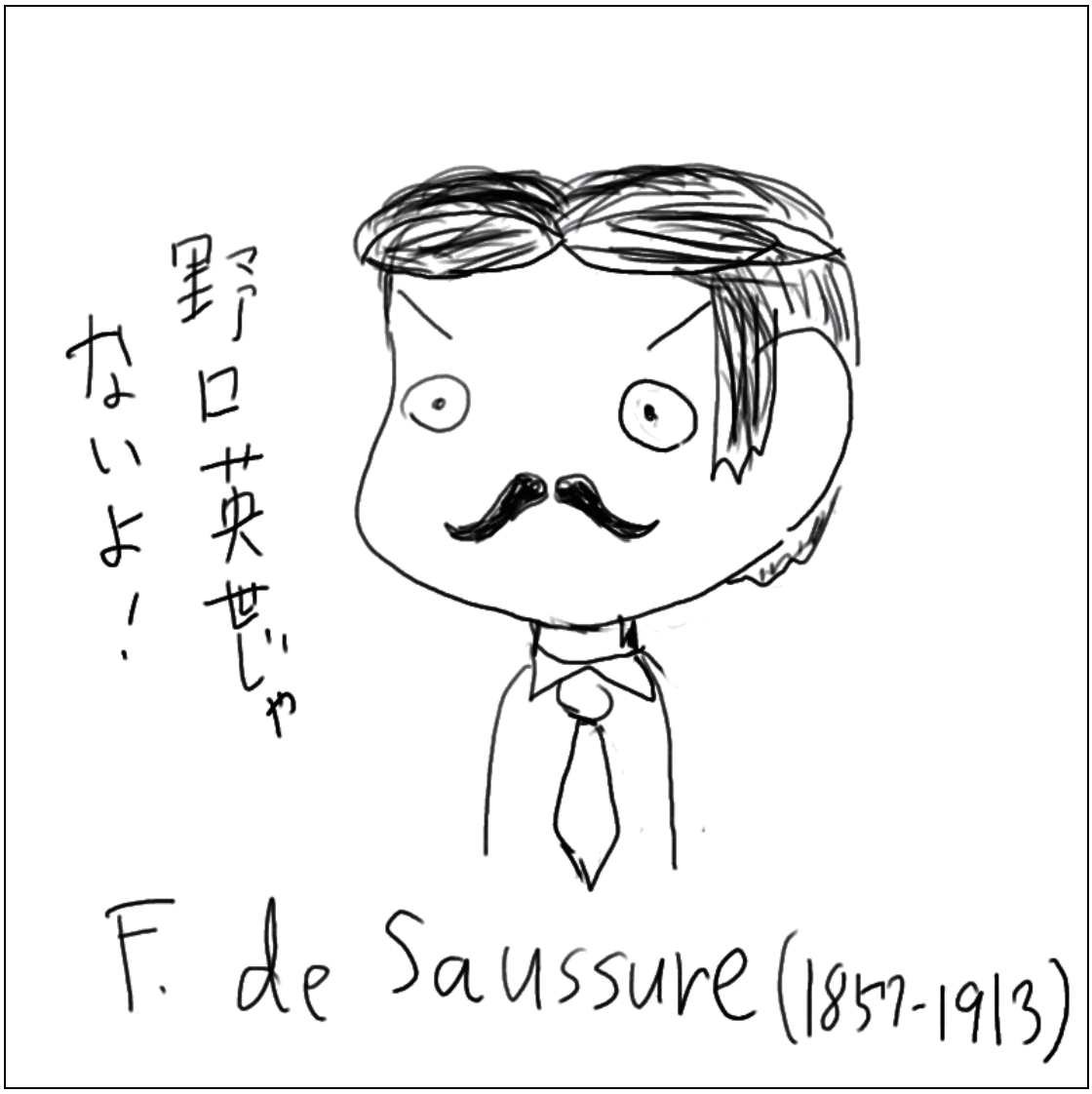
第二に、その「言語」の何を、いかなる側面を記述するのか、述べます。

第三に、具体的な研究方法について述べます。生成文法など、母語話者の内省を使うことこそ、最も妥当な言語研究の方法であるという立場もあります。また、生成文法の立場に立たない研究でも、母語話者としての研究者自身の内省に頼って行なっている研究もあります。なぜ、母語としての内省のみを使って研究を進める事が不適切なのかについて述べ、用例分析の必要性を述べます。

第四に、用例を分析するとはどういう作業なのかについて、私たちは、単に「私たちの外側」にあるものを、機械的に処理するのではなく、そのことばの「受け手」として用例と向き合うのだ、という点について述べます。

最後に、「“何から”用例をとるのか」について、具体的なことは次章以降で説明しますが、本章での議論に関わることについてのみ、若干の補足をします。

以下、話を進める上での大前提としての注意ですが、そもそも、言語研究の対象と方法について、研究者の間で共通認識が得られていないことは、周知の通りです。「言語学という学問は，まだ十分固まっているとは言えない学問である」（亀井 他，1988：i）という状況は、今も変わっていないように思われます。本章では、あくまで、本章の執筆者の考えを述べるにすぎません。つまり、言語研究におけるさまざまな立場、考えのうちの 1 つのみに立って論を進めている、という点は、否定できません。この点について、特に、生成文法に明るい方からの反論を請いたいと思います。



【 似てない… 】

4.1. 言語学の対象としての「言語」とは何か

本題に入る前に、そもそも「言語」とは何なのか、どのような言語観に立って議論を進めるのか、簡単に触れ、議論の出発点とします。ただし、本章の筆者には言語学史の概説をしたり、言語理論の諸説を検討したりするような力はないので、非常に不完全なまとめ方となります。

言語学の最大の難しさは、その学問の対象とするものが、たとえば生物学や解剖学の対象のように、「そこにある」ものではないことです。この点について、ソシュール(1916)は、以下のように述べています。

「他の科学であると、前もって与えられた対象をとり扱い、ついでこれをいろいろの観点から眺めることができる；われわれの領域ではそうはいかぬ。…[中略]…　観点に先立って対象が存在するのではさらさらなくて、いわば観点が対象をつくりだすのだ。」(「第 3 章　言語学の対象」 小林英夫 訳 1972:19)

では、ソシュールは、言語学の対象とするべき「言語」を、どのように捉えたでしょうか。このあたりは、本書の読者であれば当然知っていることでしょうから詳しく述べませんが、ソシュールによって、言語学の主な対象は、「ラング」(「特定の言語社会に属するすべての個人が習得し、慣習として各人の脳裏に記憶されている記号と文法の体系」―言語学大辞典 術語編）とされました。我々も、基本的にそれに従っています。つまり、我々言語学を行なう人は、「日本語の～」、「英語の～」、「○○方言の～」などと言いますが、それは、混沌として抽象的なランガージュでもなく、個々人のパロールでもなく、言語学の対象をラングとしていることに他ならないのです。

しかし、実は、ラングという概念は、相当危ういものです。「危うい」というのは、ありていに言えば、そんなものが本当にあるのか、怪しいということです。

周知の通り、ソシュールは、おおよそ、以下のようなことを主張します。

①ソシュールは、ラングを、言語共同体の共有する社会制度であり、かつ、言語共同体の構成員一人一人の脳裏にある心的機構であるとする。

②さらに、ラングは体系であり、構造である。構成要素は、単独では何ら積極的な価値を持たず、他の要素との差異によって、消極的に価値が付与される。

おそらく、個々人の具体的なパロールの背後に、パロールを産出／理解するために個々人が持つ（脳に記憶されている）体系・構造が存在することは疑いのないことです。(ただし、ソシュールも指摘するように、ラングとパロールは、どちらかがどちらかを一方的に限定・制御するようなものではありません）問題なのは、その体系が、どれだけ他人のそれと同じかということです。

言語習得は、第一言語であれ、外国語や第二言語であれ、親なり教師なり、1 人の話者のもつ体系の完全な複写ということはありえません。つまり、厳密に考えれば、同一の体系を持つ複数の人間は、ありえないのです。

以下、問題の本質を突く例とは言えませんが、わかりやすい例を挙げて説明します。(素朴に考えたときの)「日本人」同士でも、その人の経験などにより、持っている語彙の大きさ、知っている語には違いがあります（平たく言えば、たくさん言葉を知っている人もいれば、あまり知らない人もいます)。これは、“同じ”日本語での、知っている語の数や種類の差であるとは、理論上言えません。先の②の主張に従えば、語彙の大きさが違えば、当然、個々の語の意味の守備範囲は違ってきます。体系全体が、全く違ってくるのです。

無論、体系を単一の平面のように捉えることは誤りでしょうが、それでも、論理的に言ってこの点は否定できません。つまり、誰一人として、同じ体系を持ってはいないのです。②のように、差異による張り合い関係の体系である以上、同じような体系だが、要素の数や種類が違うだけ、ということはありません。

つまり、究極的には、ラングは、成立し得ないことになってしまいます。ただ、個々人のもつ体系が、他者と「どれだけ似ているか／似ていないか」という問題となる、ということです。

しかし、現実としては、たとえば、「日本語話者」であれば、完全に同一ではなくても、かなり多くの部分を共有しています。ラングの同一性・均質性は、100%ではなく、“程度問題”（という言葉がふさわしいかわからないですが）と考えるのが妥当でしょう。

ここで、最も重要なのは、「ラング」とは、人間の言語にとって、日常、言語を使うときに要請される概念ではなく、言語学を可能にするために必要不可欠の、言わば構成概念と考えたほうがよいのではないか、ということです。

この点について、糟谷(1993)は、以下のように述べます。

> 「ソシュールによれば、わたしたちが目のまえにしているのは、混質的でとらえどころのない言語活動の総体であり、言語学はそこから同質的な「ラング」の体系を抽出しなければならない。［中略］けっして、「ラング」がありのままの現実として目のまえによこたわっているわけではないのだ。「ラング」は言語学が発見するべき理念的構成物なのである。」（糟谷，1993：544）

このように言っても、ソシュールをいささかも批判したことにはならないのです。むしろ、強調されるべきなのは、言語学が学問として成立するためには、ラングの概念を導入する以外ないということです。

ただし、以上のように、「ラング」という言語学を行なう研究者にとって、いわば自明の概念も、本当にその存在が自明のものなのかには、疑いの余地がある、ということは、常に念頭に置いておく必要があります。

さらに補足していうと、生成文法理論でいうような、「等質的な言語共同体に属し、その言語を完全に駆使し実際に運用するときに間違わない話者」すなわち、生成文法で研究対象とするような「理想的な言語使用者」の持つ言語、というのは、あまりに非現実的であるのみならず、理論的に誤っていると考えます。この点を、しばしば、物理学にたとえ、ニュートンの法則は、空気抵抗のない理想的な場合にのみ当てはまるものであり、これを空気抵抗のある場合に成り立つような法則でなければ意味がない、というのはおかしい、それと同じく、このような理想化によって初めて言語能力の本質が抽出できるのだ、と言われる（たとえば、稲田，1998 など）。しかし、そもそも、理論的、原理的に言って、「等質的な言語共同体」は存在し得ない（理論上、考えられない）のだから、物理の法則の場

合とはまったく話が異なるわけです。

以上のように、ここで言う言語学の対象は、ある言語共同体の間で共有されるものとして、ラングを仮定し、可能な限り、その構成員がそれぞれ持つ体系から共通項を取り出し、同じく体系として記述することです。（ただし、実際、個別の研究では、一人の研究者が体系全体を明らかにすることは不可能であるので、体系の一部、ということになります）

繰り返しになりますが、「ラング」というのは、絶対的真実というより、方法論的仮説、あるいは構成概念と捉えたほうがいいと考えます。

以上の立場に立てば、言語学の対象は、原理的に言っても帰納的にしか取り出せないことがわかります。もしも、言語が完璧に均質ならば、任意の一人の言語活動の結果を記述すれば十分です。もしも、みな完全にバラバラなら、言語学が成立しないだけでなく、コミュニケーションの道具として言語はまったく機能しません。現実は、ある程度の差異を持ちつつ、多くの部分を共有しています。この共通項を記述することこそ、ここで考える言語学の（一次的）目的です。

ただし、もちろん、ラングの「切り方」はさまざまです。たとえば、「現代英語の」、「アメリカ英語の」、「アメリカの高校生の英語の」、「アメリカの中流家庭の高校生の英語の」…といった具合です。「切り方」については、理論上、正しいも間違っているもありません。結局のところ、以下の引用の言うように、言語研究者が、「〇〇語」「〇〇方言」として区切って言うから、「〇〇語」「〇〇方言」が“存在する”という言い方は、否定できません。

> 「そうした言説群　［*引用者：前段落「ある社会のなかで「〇〇語」について語る一連の言語群」のこと*］のなかでもっとも強力なものは、ほかならぬ言語学であろう。たしかに、言語学者は「一般機能」によって現実化された「〇〇語」を対象にすることで、はじめて安心して言語体系の分析にとりかかることができる。こうして言語学は、それが自明の対象であるかのように「〇〇語」について語りつづけるが、じつは「〇〇語の文法」「〇〇語の歴史」「〇〇語の起源」を語るという言説行為によって「〇〇語」の概念を生産しつづけているのである。」
> （糟谷，1993：554）

> 「この観点からみれば、「言語」にたいするメタ言語的解釈は、けっして「言語」の外部にある付属物ではなく、「言語」内部にそれ相当の位置をしめる。「〇〇語」についてだれがなにを語ろうと、「〇〇語」はかわることなく存在するわけではない。したがって、「〇〇語」は一次的現実にもとづく二次的仮構物ではない。それは言語においてメタレベルと対象レベルがたえず反転することによってあらわれるそれ自体独自の「現実」なのである。［改行］　みずからを説明するメタ言語を下位体系としてふくむという離れ業、言語にたいするメタ言語的解釈が

言語そのもののなかにくみこまれているという倒錯、これはほとんどパラドックスそのものである。」（糟谷，1993：555）

以上の糟谷氏の指摘は、確かに非常に説得的です。しかし、結局、「ラング」とは、研究の出発点でもあり、かつ、到着点でもあるのではないしょうか。研究を始めるときの研究設問の段階で、日常的な、あるいはコミュニティの構成員の言語意識に頼った切り方で、「〇〇語」、「〇〇方言」などと区切ったり、これまでの研究の蓄積に従ったりするが、当然、その切り方が妥当かどうかは、研究が完了してからでないと、わからないのです。やや逃げるようですが、こういうしかないのではないでしょうか。

以上、ややすっきりしないまとめ方ではありますが、言語学の対象としての「言語」とは何かについて述べました。

4.2. 具体的には、何を記述するのか

では、言語（ラング）を記述するというとき、具体的には何を記述すればいいのしょうか。

記述の対象は、意味と形式の両方、ソシュールの言葉で言えば、「シニフィアン」と「シニフィエ」の両方です。意味だけの言語研究は成り立ないし、形式だけの研究は実りが少ないものになります。

たとえば、形（語）を無視して、「意志」とは何か、などと言っても、結局哲学になってしまいます。逆に、たとえば、「日本語動詞の音節数の、語頭音別平均値」などという研究は、可能ですが、それによって言葉のあり様が明らかになるとは言えません。そこまで極端でなくても、意味を考慮せず、単に可能な（文法的な）文の形のルールを作るだけでは、言語の記述が完成したとは言えません。

また、言語“学”という学問である以上、対象を正確に記述する必要があります。「正確に」というのは、難しいのは確かです。言語というとらえどころのないものを観察するのですから、個別の研究では、（さまざまな観点のうちの）ある特定の観点から、かつ、全体のごく一部を記述することしかできないでしょう。それでも、その範囲においての正確性が求められます。具体的には、「妥当性」（本当に自分の調べたい対象を調べられているかどうか）、「信頼性」（その分析手順に従えば、他の人が行なっても、何回行なっても、同様の結果が得られるかどうか）、「客観性」（自分が決めた分析手順に、徹頭徹尾、終始一貫して従っているか、それ以外の要因によって、分析手順が場合によってコロコロ変わってしまっていないか）が求められると言い換えてもいいでしょう。これは、言語研究に限らず、研究一般に言える原則なので、ここでは簡単に触れる程度にします。

以下では、以上の点を踏まえた上で、言語の研究を行なうのに、（自分にとって母語であ

れ、第二言語であれ）その言語を話せるのにも関わらず、用例を集めて分析しなければならないことの理由を説明します。

4.3. なぜ、内省だけでは不適切なのか

4.1.の議論で、言語の、言わば「非モノ性」「非均質性」、言語学の対象としての「ラング」のとらえどころのなさについて述べました。

結局のところ、「ラング」というものを帰納的に抽出することが言語学のすることならば、本章で言うべきことは、以下の点に集約されます。

> 「言語の分析」は、現実の実際の言語活動の結果から十分な数量の用例を採り、「妥当性」「信頼性」「客観性」を満たすような適切な方法で、シニフィアンとシニフィエの、いわばコインの裏表両面のあり様を記述することである。よって、特定の個人が、研究のために、文脈なしに生成した文に基づいて行なうべきでない。

しかし、言語研究の具体的な分析の対象として、個人の内省を使うことの是非について、言語研究の分野で意見の一致があるわけでないことは、周知の通りです。現在でも、研究者自身が研究のために生成した文を用例として挙げている研究がありますし、さらに、生成文法は、真に言語研究で扱うべきは母語話者の内省であるとさえいいます。以下では、実例を分析の対象とすべきである、ということの裏返しとして、個人の内省のみに基づいて分析を進めることの問題点を指摘します。

内省が使えるかどうか、という問いは、つまり、自分自身のもつ「ラング」を「観察する」ことは可能なのか、という問いだといってもいいでしょう。そして、その答えは、やはり、「否」なのです。

＜“内省≠ラング”＞

まず、4.1.で述べたこととの関連でいえば、個人間で差異のある部分と、想定する言語コミュニティで共有される部分の線引きができないことが挙げられます。先の「妥当性」「信頼性」「客観性」との関連で言えば、まず、「妥当性」を欠いています。つまり、研究を行なう上で対象としているものが、本当に「ラング」を反映しているものなのか、怪しいということです。

さらに、「信頼性」「客観性」に関連していえば、内省に頼って、文脈ぬきに文を思い浮かべて、その文法性を判断することは、実生活では行なわない、かなり特殊な作業です。つまり、「そもそも、例文の適格性の判断をするということ自体かなり非日常的な行為であり、我々の言語使用は、もともと直観によって適格性の判断をするようにはできていない。」

（田窪，1997：67）のです。その文が文法的か非文法的かの判断は、もちろん容易にできる場合もありますが、しかし、判断が難しい場合もあります。絶対に言えなくもないが、何か不自然、という文も多いです。また、人によって判断が分かれることもしばしばあります。一人の母語話者に限ったとしても、時と場合によって基準がぶれないような、自身の中で一貫した判断を行なうのは非常に難しいことです。加えて、あれこれ思い浮かべる文は、人によって、どうしても偏りがあります。無意識に自分の都合のいい文だけを使って研究を進めるおそれがあるのです。というより、正確には、「一貫した基準で、文を思い浮かべて文法性を判断した」とか「客観的に、網羅的に、文を頭の中で生成した」と証明するすべがない、と言うべきでしょう。

なお、自身の内省のみに基づいて研究を進めることの問題点については、高橋太郎氏の指摘（高橋，1983・1989）がありますので、こちらも参照してください。

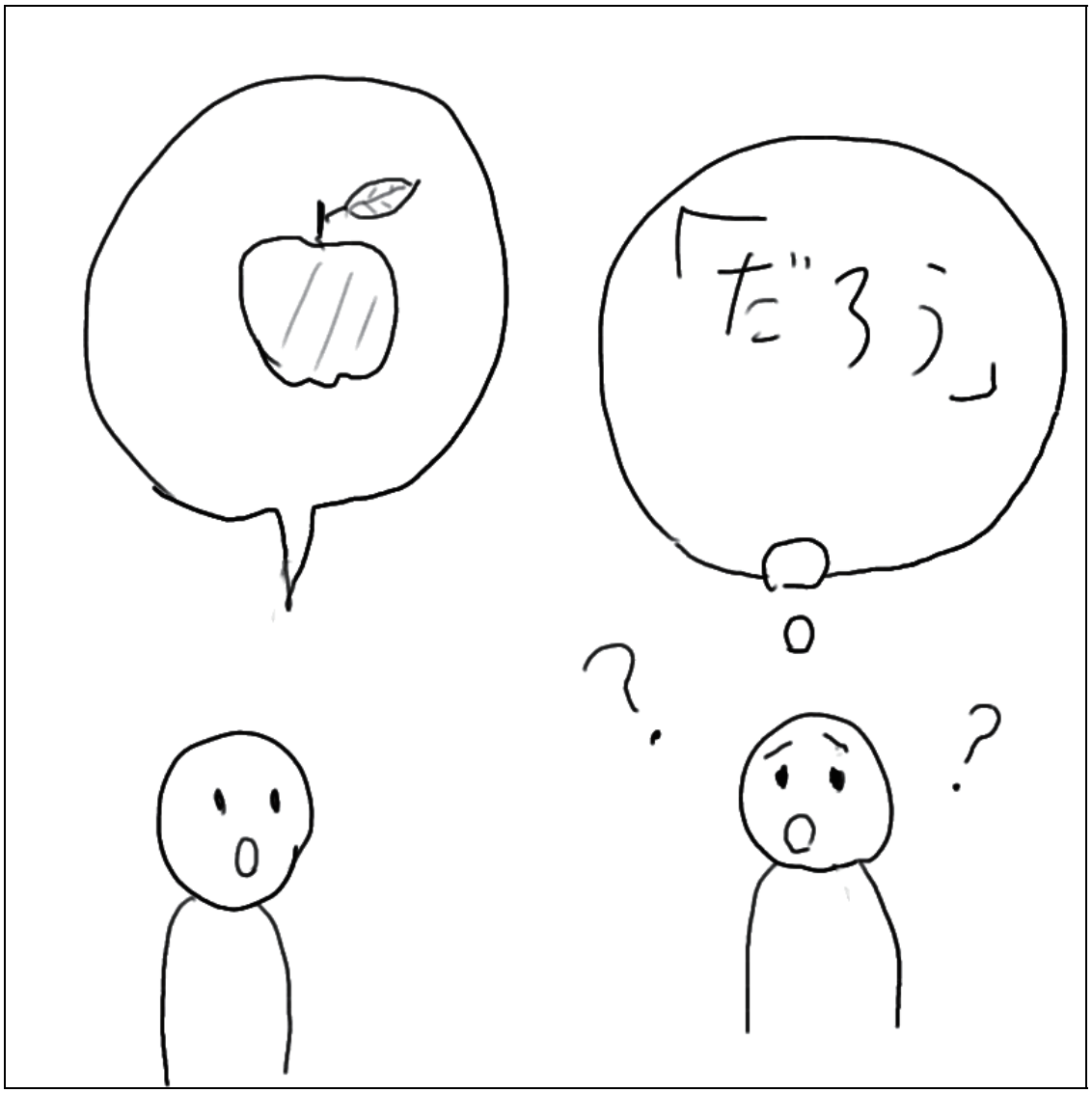
＜「意味」をめぐる問題＞

さらに、内省に頼ったのでは、どうしても踏み込めない側面が、言語にはあります。やっかいな「意味」というものです。

具体的には、類義の語や形式の使い分けの解明や、複数の意味・用法を持つ語や形式の多義性の記述、さらに、その複数の意味・用法のうちどれが典型でどれが周辺かや、頻度の差などの解明です。

たとえば、「りんご」はコレコレのものをさす、というのは、一人の母語話者の頭の中にある、いわば百科事典的な知識だけでも大丈夫かもしれません。しかし、たとえば、「～だろう」の表す文法的な意味、となると、文脈のない頭の中だけの文では、その多様な意味をすべて知るのは不可能です。

というより、そもそも、文を思い浮かべ意味を問うこと、つまり、実際のコミュニケーションから切り離されて存在する、すなわち、文脈なしに頭の中だけに孤立して作られる文は、本当に意味を問うことができるのでしょうか。その文が、「どんな意味を表す」というのは、どうやって判断できるのでしょうか。



【 「だろう」って何？って言われても… 】

話が抽象的になりすぎたので、以下、「意味」に踏み込むことの難しさについて、いくつか、（極端な例ですが）具体例を挙げます。

日本語学を勉強したり日本語を教えたりした経験のない、一般の母語話者に、「「これ、それ、あれ」の違いは？」ときいたら、「これ：近い、それ：中くらい、あれ：遠い」という答えが返ってくるのではないでしょうか。しかし、実際は決してそのように単純なものではないことは、言うまでもないことです。

この例はあまりに極端だとしても、たとえば、以前、実際に言語学で議論になったことの一つに、日本語での、自動詞の「ヲ使役とニ使役」の使い分けがあります。過去には、両者は make と let の違いのような､強制と許容の違いであると言われたことがありますが、実際に用例を分析してみると、少なくともそのような違いはないことが明らかとなり

ました（早津 1999 などを参照)。理由はわかりませんが、make と let のような違いだと言われれば、なんとなく母語話者なら、「ああそうかも」と思ってしまいます。しかし、そのような母語話者の感覚に反して、実際母語話者は、そのような使い分けをしていないのです。

＜非母語話者の研究者＞

最後に、付随的な理由ですが（しかし重要)、内省に基づいて研究を行なうことは、第二言語として学習した研究者には無理か、圧倒的に不利なことが挙げられます。しかし、現実の日本語研究を見ると、非母語話者研究者の貢献が大きく、彼ら無しには成り立たないとさえ言えるかもしれません。

以上、内省のみに頼ることの問題点を挙げました。しかし、用例分析では、基本的に「正しい文」しか分析の対象にできないという欠点を持ちます。何が非文法的なのかを論じるには、母語話者の内省に頼らざるをえません。たとえ何万、何十万の用例を分析して、該当する用例がない場合でも、それが「ほとんど使われない」と言うことはできますが、絶対に言えないとは言えません（つまり「不在証明」はできません)。ひょっとしたら、百万例集めれば、1 つ用例が出てくるかもしれないからです。そのため、それが文法的か非文法的かを判断するための補助的な手段として、母語話者の内省に頼ることも有効であると考えます。(その場合、非母語話者研究者は、母語話者インフォーマントへの聞き取りをすることになります）ただし、それでも、上述のような問題点があることを常に念頭に置いておかねばなりません。

さらに、結局これは、未記述の方言などを記述する場合に、母語話者にアンケート、インタビューをする場合も、基本的に同じです。母語話者インフォーマントに自身の内省に頼って判断してもらうことだけで結論を出すのではなく、できるだけ自然な形で文を産出してもらって、それを分析するようにすべきです。

＜言い換え可能テストフレーム＞

本節の最後に、内省の使用に関連して、やや異なるタイプの方法を挙げます。実例を分析する際に、内省に基づいて、それが別の表現などに言い換えられるかどうかを判断し、その結果を根拠（の 1 つ）とし、その言語形式の意味・用法などの分類をする、という方法です。今これを仮に「言い換え可能テストフレーム」と呼びます。

具体例を挙げます。日本語（東京方言）の「V ている」形は、「犬が公園を走っている」のような「動作継続」と、「公園にカラスが死んでいる」のような「結果継続」の意味があり、動詞「V」が「動作動詞」なら前者、「変化動詞」なら後者になると言われています。金水(2000)では、この「V ている」の意味の違いについて、「動作動詞」と「変化動詞」を見分ける基準の 1 つとして以下のテストを挙げています（金水，2000:18-21)。

「V ている」の「V」を、以下の「A」「B」に当てはめたとき、
・「ついさっき A たので、当然今 A ている」が自然に解釈できるなら、A は「変化動詞」
・「今、B ている最中だ」が自然に解釈できるなら、B は「動作動詞」

確かにこの方法は、漠然と文を思い浮かべて判断するより説得的に説明ができそうです。うまくいけば、有効な方法といえるでしょう。

しかし、「言い換え可能テストフレーム」は、上の例のようにいつもうまくいくとは限りません。これも結局、内省を使って言えるか言えないかを判断することには変わりはないので、場合によっては、判断に迷うことや、人によって判断が分かれることも当然出てきます。よって、「言い換え可能テストフレーム」を過度に信頼するのも危険であると言えます。

4.4. 内省、あるいは、言語運用能力があることの重要性

以上、内省のみに基づく言語研究の問題点について述べました。しかし、実例と向き合うとき、母語であれ、第二言語であれ、その言語の知識や（一般的な意味での）運用能力は持っていなければなりません。もちろん、未知の言語を記述する場合は別ですが、まったく日本語ができない人が日本語研究をすべきではありません。それは、その言語を学習した人のほうが学問的興味が湧くということだけでなく、やはり、日本語運用能力が日本語研究に必要だからです。

言語は、通常、「意味」を持ち、それを伝達するものだと考えます。このあたりの議論に深入りする準備は、今の本章執筆者にはありませんが、少なくとも、そういうふうに考える立場に立ちます。

その言語的文脈において、その接辞なり、語なり、文が、何を表しているのか、何を言おうとしているのかを、メッセージの受信者、テクストの解読者として、受け止めなければ、意味の記述はできません。

少なくとも、未記述の言語の聞き取り・記述ではなく、日本語学において書き言葉資料を扱って研究する場合、実例は分析の対象であるだけでなく、研究者は「読むこと」という言語活動の参加者となり、メッセージの受信者、テクストの解読者とならなければならないのです。研究者自身が、そういう立場に自身を置かなければ、意味の記述は不可能です。

これが、生物学・解剖学などとの決定的な違いの 2 つめです。帰納主義を基本としますが、（狭義の、極端な）アメリカ構造主義言語学とは異なり、単なる機械的な処理をするのではありません。当然のことですが、言語的な文脈の中で、読み手である研究者が、的確にその文意を汲み取らない限り、適切な分析はできないのです。

よって、非母語話者として研究を行なう人は、高度な対象言語の能力をつけなければな

りません。また、実例を分析する過程で、これまで自分が正しいと思っていたことが間違いだったと気づき、自分の言語知識の修正を迫られることもあるでしょう。同時に、母語話者でも、決して、対象となる言語資料をいい加減に読むことがあってはなりません。

4.5. 最後に：「何から」用例をとるかについて

結局、本章で言いたいことは、現実の実際の言語活動の結果から用例を採るべき、ということであり、言語研究のために、個人が生成した文、つまり、個人が内省に基づいて研究のために生成した文は、使うべきでないということでした。

以下、この点についての補足として、頭の中だけで生成した文ではないものの、問題があると思われる言語資料について、若干述べます。

＜ある表現の説明のために作られた文＞

1 つは、ことば、具体的には、ある特定の表現の意味や用法を理解させるために作られた文です。

国語辞典の（実例からとったものではなく）編者が作った例文、あるいは、日本語教科書で例示されるモデル会話や（言語作品などからの引用ではなく）教科書執筆者によって書かれた読解練習用の文章などは、やはり、できれば避けたほうがよいです。もし、使う場合でも、他の実例と同じように扱うことはできません。もちろん、これらは、個人の内省そのものではなく、一応、ある目的を持って産出された文ですが、ことばを理解させるために作られた文と、実際に言語活動で用いられる文とは、同じとは限らないのです。なおこの点に関連して、論旨は異なるものの、高橋太郎氏の、実際の使用例である「サンプルとしての用例」と辞書や教科書で提示する例である「モデルとしての用例」との区別（高橋，1989：11-12）も参照していただきたいと思います。

＜擬似的な「話し言葉」＞

2 つめは、「話し言葉」を、擬似的な会話文（小説の会話文など）から採ることです。書き言葉と話し言葉に違いがあるとすれば、書き言葉の記述には書き言葉のサンプル、話し言葉の記述には話し言葉のサンプルを採るべき、というのは（ネウストプニー，2002：18-19）きわめて正論です。言語研究（特に、文法・語彙記述）で、必ずしも実際の話し言葉からサンプルを採らないのは、話し言葉からサンプルを採るのが「大変」だからであり、理論的に不適切だからではありません。普段、書き言葉から採るくらいの多様性と数量の用例（最低 500 以上、普通、千から数千）を、学生であれ研究者であれ個人で、話し言葉で集めるのは、まず、不可能です。談話分析を行なう学生・研究者は、せいぜい数人から十数人分という少数の、かつ、限られたジャンルのデータを採るのが精一杯であり、それが限界です。多様な、かつ、多数のインフォーマントを集めるのは困難であり、文字化作業も、極めて手間がかかります。

しかし、小説の会話文を、「話し言葉」として扱うことは、理論上、問題があることは確かです。（実際には、小説は截然と「地の文」と「会話文」に分けられるわけではないですが、話を単純化するため、以下、この 2 つに絞って話を進めます。）

＜参考：「会話文」「地の文」って？＞

小説で、かぎ括弧（「　」）で括られたセリフ部分を「会話文」、かぎ括弧のないような、物語を進める描写などの部分を「地の文」という。ただし、小説で、たとえば、登場人物が心の中で考えている言葉をかぎ括弧なしで地の文に織り交ぜて書く場合や、手紙の文など、「会話文」とも「地の文」とも言えない文章も存在する。また、より一般的に、小説以外についてもこのように言われることがある。

「地の文」は、すべてを俯瞰する視点から語るにせよ、ある特定の登場人物の視点から語るにせよ、基本的には、書き手から読み手に語られるメッセージと考えてよいでしょう。もちろん、「会話文」も、その点は、変わりません。小説全体が、書き手と読み手の間のコミュニケーションとするなら、その中に組み込まれた会話（それは、実際になされた会話ではなく、小説世界の中の会話ですが）は、コミュニケーション上、二重の側面を持ちます。いわば“引用”的に、書き手から読み手へと語られる、という側面と、小説世界の中において、登場人物間で語られる、という側面です。しかし、後者は、小説の書き手により作られた、ヴァーチャルな世界でのものです。（前者は、もちろん、現実のコミュニケーションですが）。

つまり、「小説の中の会話文」を用いて、話し言葉の研究をする場合、それは、会話として、実際に使われている言語活動とは言いにくい側面を持ちます。（この点、金水敏氏が中心となって進めている（金水，2003 など）「役割語」の問題とも絡みますが、ここでは詳しく触れません。）

以上の理由から小説の会話文は使えない、ということでは決してありませんが、この点に留意しておく必要はあります。

ただし、この点は、話し言葉、書き言葉双方の、巨大な均衡コーパスがあれば、ある程度までは解決できる問題です。（後述（第 7 章の 7.2.2）の、国立国語研究所のコーパスは、その役割を担いうるものでしょう。）

＜ラングと「規範」＞

最後に、「規範」をめぐる問題です。もちろん、ラングと規範はまったく別です。しかし、現代日本のように、集権的に政府による統治が成され、かつ、中央から発信される一方向的なマスコミュニケーションが発達し、さらに、人の行き来が盛んになった状況では、「日本語」というラングは、実際には限りなく「規範」に近づきます。その意味で、ラングの

均質性・同一性は、昔の時代よりもはるかに高まります。

もちろん、言語学にたずさわる人は、それがある程度広く使われていれば、政策的に言って規範的でないものを「正しくない」として排除したりはしません。しかし、規範を守る人たち（大手出版社、大手新聞社）の作った出版物だけから例を採っていたのでは、規範的でないものは、意図していなくても、排除していることになります。個別の研究対象にもよりますが、これは、やはり問題です。

具体的には、必要に応じて、用例採集の資料の選定を変える必要があります。

ただし、誤解のないようにつけ加えますが、言語の研究に値するのは、「より自然な」言語だ、などという幻想にも本章の筆者は与しません。そもそも、自然主義的な、「ありのままの言語」などというものは存在しないのです。言語は、「人によって使われる」ものであり、人から完全に独立して存在するものではありません。「人為性」とでも言うべきでしょうか、特定の個人や、政策によって作られた部分を持ちます。だからといってそれが、純粋な言語でないというのは、誤りではないでしょうか。言語の成立には、言語の自立性以外の力が働くこともしばしばあります。たとえば、方言でも、地理的のみならず、経済、政治、その他の要因による人の交流の親疎によって、方言間の言語形式的差異は違ってくることはあるでしょう。さらに、よりわかりやすい例が、外来語です。“その言語から”その語を取り入れたということに対しては、言語内的な理由よりも、言語外的な理由のほうがはるかに大きいです。つまり、言語は歴史的な産物である以上、人間の活動の歴史と別個に存在するわけではないので、多かれ少なかれ、（一般的な意味での）言語はすべて、人為性・人工性を持っていると言っても過言ではないでしょう。

以上、本章では、各人が「用例を分析する」とはどういうことなのか、なぜ「用例を分析する」のか、考えるきっかけを提供する手段として、本章の執筆者(編者)の考えを、やや簡略化・単純化し述べました。

第 5 章　用例採集の基本的な考え方

～～本章でできるようになること～～
○ 実際に用例採集をするための「準備」として、用例を採集する際の基本的な考え方、および、採集の際の注意点を習得する。

5.0. はじめに

本章では、具体的な用例採集の作業手順を説明する前段階として、用例を採集する際の基本的な考え方、「サンプル」としての用例の持つ意義、および、実際の作業に際して注意すべき点を説明します。

5.1. 「サンプル」としての用例

言語研究において、「ラング」のあり様を記述するには、言語活動の結果としての言語資料から、サンプルとしての実例を採集・分析するべきであることは、第 4 章で述べました。

無数のパロールを調べて、そこから、ラングを見いだすという、言わば“共通項の掬い取り”作業をするのですが、言語活動のすべてを調べることはできないので、その一部をサンプルとして採って分析をします。こういう手法は、他の分野における調査で用いられている手法と共通する部分があります。

言語研究とは異なりますが、サンプル調査としてわかりやすいものに、世論調査があります。たとえば「日本に住む人のうち、どれだけの人が、現在の内閣を支持しているか」ということを調べる場合、最も理想的なのは、日本に住む人全員に、「今の内閣、支持しますか？」と聞いて、その結果を集計することです。しかし、1 億人以上の人ひとりひとりに聞くのは不可能ですので、通常は、一部の人に聞いて、その結果から、全体を推測します。

日本語というラングの実際のあり様を調べる場合、最も理想的なのは、すべての日本語話者の言語活動を調べて分析することでしょう。もちろんこれは、絶対に不可能です。そのため、その一部を「サンプル」として調べて、分析します。その点においては、共通していると言っていいです。

ただし、これは、「一部をサンプルとして採って分析する」という意味においてのみ、共通することです。前章の内容と重なりますが、世論調査の場合、人の考え方は個々人によって千差万別で、法則性のようなものはありません。それに対し、日本語（言語）は、「語彙」や「文法」の「ルール」（体系・構造）があり、それを記述するのが日本語学（言語学）の仕事です。その「ルール」は、（非常に素朴には）「ラング」として、同じ「日本語」を話す人同士で共有され、日本語を話す人の頭の中に入っていると考えられています。しか

し、その実際の姿は、実際に言われたり書かれたりして、表に出た日本語（言語活動）を調べて、帰納的な方法で探ることでしか明らかにすることができません。「用例を分析する」とは、そういった作業です。以下でも、「世論調査」になぞらえることがありますが、その点に注意してください。

採集する「サンプル」（＝「用例」）は、現実の多様な言語活動のあり方を反映するものでなければなりません。再び、先ほどの「世論調査」を引き合いに出すと、たとえば「サンプル」として「東京に住む 20 代女性 1 万人」にアンケートをして、集計したとします。「1 万人」という、かなりの数のデータを採っていますが、この集計結果が「日本に住む人」全体の姿とは言えません。住むところ（都会か田舎か）、世代、性別によって、政策に期待することは違うはずなのに、ごく限られた属性の人からしかデータを採っていないからです。そのため、この「サンプル」が全体のあり方を反映するとはいえないのです。あくまで「東京に住む 20 代女性」の意見を調べたものにすぎません。逆に、アンケートの対象を広げて、日本以外に住む外国人にもアンケートをしてしまったら、当然これも、適切な調査とは言えません。

こういった例を挙げると、あまりに極端で、こんなことは現実にはありえないと思われるかもしれませんが、しかし、日本語学を専門とする大学院生や研究者によって、同じくらい深刻なミスのある調査・研究がなされ、それが公表されることが、現実にあります。これは、有名な研究者によって書かれた論文、大きな学会の機関誌に掲載された論文も例外ではありません。

“「用例」＝「現実の言語活動のあり方を反映するような言語サンプル」”ということを、常に念頭において用例採集・分析をしなければなりません。次節では具体的な注意点について説明しますが、基本的な考え方は、

「調べたい対象だけから、偏りなく、十分な数のサンプルを採る」

ということに尽きます。以下、特に書かれた言語資料から用例を採集する場合について、具体的な注意点を述べます。

5.2. 具体的な注意点

「調べたい対象だけから、偏りなく、十分な数のサンプルを採る」とは、具体的にはどういうことなのでしょうか。

以下、5.2.1.～5.2.3.では、採集範囲について、いくつかの観点から、「偏りなく」するための注意点と「だけから」にするための注意点を述べます。5.2.4.では、「十分な数の」用例数について説明します。

5.2.1. 書かれた資料の属性

＜「偏りなく」＞

一口に「書かれた言語資料」と言っても、いろいろなタイプ（ジャンル）があります。たとえば、小説、随筆、評論、新聞記事など、さまざまなものがあり、必ずしも、使われる日本語は同じとは限りません。そのため、1 つのジャンルだけにするのではなく、できるだけ多様な言語資料から用例を採る必要があります。

たとえば、時々、新聞の用例のみを使って分析をしている研究がありますが、しかし、新聞の文章は他のタイプの文には見られない特殊性をもつので、新聞からしか用例を採らないのは適切ではありません。もちろん、（日本語全般ではなく）新聞の文章の特徴を調べるという場合は別ですが、それでも、対照として、他の言語資料を見る必要はあります。

さらに言うと、時々、新聞のコラム（たとえば、朝日新聞「天声人語」など）のみを大量に使って行なっている研究がありますが、これだと、1 人、多くても数人の人が書いた文章のみを分析していることになります。先の「東京に住む 20 代女性 1 万人」と同じくらい重大な欠陥を含む研究と言わざるをえません。

この点を含め、新聞記事を使う際の注意点は、7.2.「具体的なテキストデータ資料の利用①：市販のデータベース」で述べます[33]。

＜「だけから」＞

まず重要なのは、書かれた年代です。ただし、「現代日本語の書き言葉」はいつ以降に書かれたものを言うのか、絶対的な答えはありません。

「現代の日本語」を研究対象とするなら、「第二次大戦後」（1945 年以降）に書かれた資料に限るとされる場合が多いです。ただし、現代の書き言葉の成立のうえで大転換期である「言文一致」(p.101 参照)以降であれば、戦前の、つまり明治・大正、および昭和のはじめの資料も、絶対に使用してはいけないということはありません。逆に、「1945 年以降」という範囲に対しても、60 年以上時間が経てば日本語も変わるので広すぎるという研究者もいます。一般に、文法より、語彙のほうが、変化が速いと言えますが、このあたりは、具体的に何を研究するのかによって、具体的な範囲を決定する必要があります。

年代に関連してさらにいうと、戦国時代の物語など、いわゆる「時代物」の小説は、古い時代の出来事を書いているので、あえて古い時代の日本語を織り交ぜて書いている可能性があり、戦後の作品でも注意が必要です。

また、外国の文学作品の翻訳は、原文の外国語の影響を受けている可能性があるので避けるべきです。

---

[33] 第 7 章の 7.2.で、テキストデータ資料の利用法として説明するのは、現在、電子テキストによる新聞データベースが容易に入手できることから、新聞から用例を収集する場合、そういったデータベースが使われることが多いためである。

5.2.2. 書いた人の属性

＜「偏りなく」＞

その作品を書いた著者の属性のうち、その人の使う日本語に影響がありそうな属性に注意します。具体的には、性別、世代（出生年）、出身地に偏りのないようにする必要があります。しかし、たとえば、「男性と女性 50%ずつ」、「20 代、30 代、40 代、50 代から同じ数ずつ」と、すべての条件を厳密にそろえようとすると大変（不可能）ですので、極端な偏りのないように注意する、という程度でよいでしょう。

＜「だけから」＞

非母語話者の書いた作品は、たとえこなれた文章であっても、使わないほうが安全です。

また、用例を採集・分析していると、日本語母語話者による作品であっても、標準的とは言い難い、やや変わった表現に出会うことがあります。そういった場合、上記の著者の属性や、外国語歴（語学が堪能で英語、フランス語、ドイツ語などの原書にかなり接している、など）が、その人の使う日本語に影響を及ぼしている可能性があります。ただし、こういう「変わった表現」に対し、ある一定の基準を設けて用例採集の対象から外すということは難しいです。むしろ、用例として採集しておいて、分析の際に、こういった著者の属性との関係を見るようにするとよいでしょう。

以上の 2 つの節で述べた点は、特に『CD-ROM 版 新潮文庫の 100 冊』（第 7 章の 7.2.1 を参照）などの、多種多様な作品が含まれるデータベースを使う際に注意が必要です。

5.2.3. 表記、言語的な文脈・環境

この点は、紙の文庫本などを読んでいって、研究対象とする語や形式が出てきたら印をつける「手作業」での用例採集よりも、コンピュータの検索機能「GREP」（第 8 章を参照）を使って用例をとる場合に注意しなければならない点です。かつ、学生、さらには研究者が陥りやすいミスが起こる点でもあります。

＜「偏りなく」＞

たとえば、動詞「いう」がどんなふうに使われているかを調べるときに、「言う」という文字列だけを検索して用例を採るのは不適切です。

まず、表記のゆれの問題があります。「いう」であれば、「いう」「言う」「云う」といった具合に、いくつかの書き方があるので、「言う」だけを調べて、「いう」「云う」を無視したのでは、不当にサンプルの採集範囲を限定していることになります。また、「いう」では問題になりませんが、送り仮名にゆれのある語の場合、そのすべてを採集対象とする必要があります（例：「かわる」の場合、「変わる」と「変る」。第 8 章の 8.2.4.を参照）。

また、言うまでもなく、動詞は活用します。

「言わない」「言います」「言う」「言えば」「言え」「言おう」「言った」

といった、活用形の違いは、文のタイプ（「言う。」／「言え！」）、その語の文における機能（文の終わりの位置「言う。」／文の途中「言えば、…。」）、さまざまな文法形式（「言う」／「言おう」／「言われた」）などと密接に関わります。そういった違いが、動詞の意味、使われ方の違いに関与している可能性があります。よって、1 つの活用形のみを調べても、その語の使い方のほんの一部を見たことにしかなりません。

さらに言えば、語幹は基本的に変わらないような「活用」ではなく、そもそも語幹が変わる場合もあります。「言う」の場合、尊敬語では「おっしゃる」、謙譲語では「もうす」となりますが、「おっしゃる」や「もうす」も用例の採集範囲にするか、検討しなければなりません。あくまで同じ動詞「いう」で、尊敬や謙譲の場合には形が特殊になるのだと考えれば、当然、「おっしゃる」「もうす」も用例の採集対象になりますし[34]、「いう」とは別の動詞だと考えれば、採集対象にはなりません。

＜「だけから」＞

「いう」という動詞をとろうとすると、当然「昨日、桑田という歌手に会った。」、「夏といえば、海だ。」という、もはや典型的な動詞としての用法でない例も出てきます。これらも「動詞」として用例の採集範囲とするか、非常に悩ましい問題です。

しかし、こういったことは、調べたいこと（意味、使われ方）に深く関わることであり、また、容易には範囲が設定できないことなので、はじめの段階では採集しておき、分析がある程度進んだ段階で、もし不要だと思えば、そのときに分析対象から除外すればよいでしょう。

5.2.4. 用例数、バランスなど

「十分な数の」用例と言っても、多くの人は、「いったい何例くらいとれば、十分な数といえるのか」と悩むかもしれません。

この点について、「何例以上が十分な数だ」とは一概に言えません。また、具体的に何を調べているのかにもよります。そもそも、理論上、何個のサンプルをとれば妥当かは、言うことができません。母集団の数、つまり、生成されたすべての日本語の文の数、あるいは、言語活動の数を把握することは不可能だからです。母集団の数を把握できなければ、そこから統計学的に必要なサンプル数を割り出すことはできません。

前章の 4.4.で述べたように、日本語を研究対象とする場合、研究者が母語話者であれ、第二言語としての話者であれ、そのテクストの解読者として、用例に向き合うのです。よって、研究を行なっていく過程で、その対象範囲（言語形式）において、網羅的な記述ができたと判断できる数量が、すなわち、適切な数量である、としかいえないのです。

ただし、「用例数」に関連して、1 つ注意点をいうと、「ただ、数を集めればいい」とい

[34] もちろん、「おっしゃる」と「もうす」のすべての表記・活用形が収集対象。

うわけではありません。前節までで述べたような「偏りなく」とも関わりますが、1 つの作品中に大量に表れうる形式（たとえば、格助詞とされる「で」）を研究の対象とする場合、あまり 1 つの作品のみから多くの用例を採り過ぎないようにする必要があります。複数の作品から偏りなく用例を採るための方法として、具体的には、「〇〇例以上の用例が出てきたら、その時点でストップして、それ以上その作品からは採らない」というように採集数を限定したり、「〇〇ページから〇〇ページのみ用例を採る」、「真ん中部分、〇 分の 1 からのみ用例を採る」というようにページ数を限定したりするとよいでしょう。

言うまでもないことですが、ある作品の全体から用例を採るにせよ、一部分から採るにせよ、採ると決めた範囲からは、1 つ残らず用例を採ります。これを「全例採集」と言います[35]。決して、自分の好みや都合で、採ったり採らなかったりしてはいけません。

以上、用例採集の際の、全般的な注意点について述べました。

[35] 用語として、反対は「任意採集」という。

第 6 章　用例採集の方法—「手作業」と「コンピュータ検索（GREP）」—

～～本章でできるようになること～～
○ 実際に用例採集をするための「準備」として、用例の採集をする 2 つの方法、つまり「手作業」と「コンピュータ検索」（その中でも、特に GREP）の特徴（長所・短所）を理解し、より適切な用例採集ができるようになる。

6.0. はじめに

本章では、用例を採集する、正確には、使用する言語資料全体から分析の対象とする特定の語・形式などを抽出する作業の、2 つの方法を挙げ、その長所・短所を説明します。

さらに、研究の妥当性・信頼性を確保するために、できるだけ採集漏れのない作業をする必要がありますが、そのためには、これら 2 つの方法をどう使えばいいのか、述べます。

6.1. 「手作業」と「コンピュータ検索（GREP）」

用例の採集をする 2 つの方法、「手作業」および、「コンピュータ検索」について説明します。後者の「コンピュータ検索」については、特に「GREP」と呼ばれる方法について説明します。

まず、「手作業」および「GREP」とは何か、から始めます。

「手作業」とは、紙媒体のものをの資料を丁寧に読んでいって、採集対象としている接辞なり語なりが現れたら、その都度、線を引くなど印をつけていく方法です。印をつける作業が終わったら、見つかった用例をワープロソフトなどを使って入力し、電子テキストを作成します（もちろん手で書き写してもよいが、電子テキストのほうが「Excel」を使って整理・分析することができる（後述）など、使い勝手がよい）。

「GREP」とは、PC の「テキストエディタ」と呼ばれるソフト（後述）などを使って、電子化されたテキストデータに検索をかけて、用例を取り出す方法です。詳細は後述するので、ここでは述べませんが、通常の検索と違い、「正規表現」（regular expression）という一種の記号体系を用いて検索をすることができます。英語の「expression」は多義的であり、「表現」のほかに、「数式」の意味もあります。日本語の定訳は「正規“表現”」ですが、おそらく「正規“式”」がより適切な訳だろうと思われます。つまり、単なる 1 つの文字列だけでなく、文字のいくつかの組み合わせパターンの集合を、1 つの「式」で表すことができるのです[36]。

当然ながら、「GREP」は、電子テキストでしか行なえません。

なお、「GREP」の用語の由来は、「global」、「regular expression」、「print」の頭文字

[36] もちろん、1 つの文字列を検索すればよい場合、たとえば、副詞で、かつ、表記のゆれのないような場合、「GREP」を使わなくても通常の文字列検索で対応できる。

と言われています。

6.2. 両者の長所と短所

以下に挙げるように、「手作業」「GREP」、どちらも長所・短所があります。

＜「手作業」: 長所＞

・作品を丁寧に読みながら用例を採集するので、調べたい語などが実際にどんな使われ方をしているのか、よりよく理解することができる。

・作業手順が極めて単純なため、作業手順そのものを誤って、適切に用例が抽出されないということがない。

＜「手作業」: 短所＞

・人間が行なうことであり、さらに、多くの場合、1 人の人間が行ない、他の人のチェックを受けないので、単純な見落しで、採るべき用例を採り損ねる可能性が大きい。

・個人の性格にもよるが、単調な作業が続くため、大量の言語資料で行なう場合には苦痛と感じられ、時間もかかる。

＜「GREP」: 長所＞

・「手作業」のような単純な見落としの可能性がない。

・膨大な数量の言語資料（電子テキスト）を、瞬時に検索し、用例を抽出することができる。（ただし、後述するように、手作業で余計なものを取り除く作業は必要）

＜「GREP」: 短所＞

・機械による検索作業なので、どうしても用例の読み込みが浅く、雑になる可能性がある。

・「正規表現」という特殊で、複雑な記号体系を使う場合、慣れないと、間違った検索方法をしてしまい、適切に用例が抽出されないことがある（言い換えると、方法をきちんとマスターするのに時間がかかる）。

このように、両者の長所・短所は、言わば「あっちが立てば、こっちが立たず」というような関係で、根本的に短所を解消する方法は見あたりません。

よって、重要なのは、

・両者の短所をよく理解し、注意して行なうこと

・両者の長所を生かすように、両者を組み合わせること

ということです。この点、次節で詳しく述べます。

6.3. 作業ミスを防ぐためには

先の 5.2.で述べたように、用例の採集対象として決めた範囲の言語資料から、くまなく、

もれなく、用例を取り出さなければなりません。適切に用例を採集することは、研究の手順において、その妥当性・信頼性を確保するという点で、大変重要なことです。

上記の「短所」で述べたように、「手作業」「GREP」両方とも、多かれ少なかれ、妥当性・信頼性を脅かす要因を持っています。

用例を言語資料から適切に取り出す方法として、「手作業」は「低リスク低リターン」、「GREP」は「高リスク高リターン」であると言ってもよいでしょう。

「手作業」では、どんな丁寧に作業を行なっても、どうしても、いくつか採り損ないが出てしまいます。望ましいことではないですが、しかし、その程度のミスで研究結果に大きな影響を与えることは極めて少ないでしょう。ミスをしても、研究の妥当性・信頼性を大きく損なうとまではいえません。

「GREP」では、さまざまな活用形や表記のゆれなどを十分考慮したうえで、正規表現をきちんとマスターし、正確な正規表現を用いて検索をすれば、理論上、100%採り損ねることなく、用例を採ることができます。採り損ないという単純ミスを防ぐ手段として、非常に有効です。しかし、もし、検索方法に問題があり、たとえば、一部の活用形、一部の表記の用例しか採っていなかった場合、研究結果に与える影響は甚大であり、大きく研究の妥当性・信頼性を損ねてしまいます。

では、具体的にどうすればいいのでしょうか。

「手作業」については、丁寧に行なうこと、としか言いようがありません。

問題は、「GREP」の「高リスク」を、どうやったら避けられるか、です。

1 つの有効な方法として、たとえ「GREP」を中心に用例を集めたい場合でも、いきなり「GREP」を行なうのではなく、始めは、実際に作品を丁寧に読みながら、「手作業」で用例を採集してみて、調べたい語などの実際の使われ方を把握するのがよいです。その上で、どのような検索をすればよいか十分検討した上で、検索を行なうのです。戦に例えるのが適当かわかりませんが、まず、敵のことを熟知した上で、攻撃方法を検討し、攻撃をする、ということです。敵のことをよく知らずにいきなり攻撃をしかけるのは、無謀というものです。

以上、本章では、「手作業」と「GREP」という用例の採集方法について、基本的な特徴を述べました。

第 7 章　形式からみた言語資料の類型と電子化データベースの実際

～～本章でできるようになること～～
○ 用例採集の対象となる言語資料の形式的なタイプについて理解する。さらに、言語研究で使われるいくつかの電子化データベースの特徴と、利用する際の注意点を理解する。

7.0. はじめに

前章で、「手作業」と「GREP」について説明しました。前章でも述べたように、「GREP」は、電子化された資料でしか行なえません。7.1.では、特に、紙媒体か電子媒体かという「形式面」から、用例採集に使う言語資料を分類・説明します。

近年、電子テキストの言語資料が言語研究に使われることが多くなっています。それについて、7.2.では、市販の、電子テキスト形式のデータベース CD-ROM、7.3.では、WWW（一般のインターネット記事全体）検索の利用について、その特徴および利用する際の注意点を述べます。

最後に 7.4.では、紙媒体の言語資料を、電子テキスト資料に変換する方法について簡単に説明します。

7.1. 形式からみた言語資料の類型

まず、分類の全体像を俯瞰します。

＜言語資料の形式＞

まず、用例採集の対象になりうる言語資料は、形式上、以下の 6 つに分けられます。

(I) 文字資料

①紙媒体のもの

①ア．手書きで書かれたのもの：以下、「手書き文書」と呼ぶ

①イ．活字で紙に印刷されたもの：以下、「活字文書」と呼ぶ

②電子化されたもの

②ア．画像形式のもの：以下、「画像データ」と呼ぶ

②イ．電子テキスト形式のもの：以下、「テキストデータ」と呼ぶ

(II) 音声資料

①テレビ・ラジオなど、公共媒体からのもの

②個人的な会話　　⇒※後述するように、文字化作業が必要

以下、具体例を挙げつつ、詳しく見ていきます。

（I）文字資料

①ア.「手書き文書」

個人の手紙、メモ、ノートなどがこれにあたります。説明を、人の手⇒機械、かつ、アナログ⇒テジタル、という順序にした都合、一番初めに来ますが、実際、こういったものを分析の対象とすることは、ほとんどありません。それは、個人的なもののため、(1)個人のくせやまちがいを多く含んでいる可能性がある、(2)プライバシーにかかわる内容であることが多い、さらに、(3)必要十分な数を集めるのが困難である、などの理由で、非常に扱いにくいからです。

①イ.「活字文書」

書籍、雑誌、新聞などがこれにあたり、きわめて多様なものが存在します。広く日本語研究の対象として使われるものが含まれます。

②ア.「画像データ」

書籍、雑誌、新聞など紙媒体として流通しているものを、インターネット上などに電子媒体で掲載するとき、ページを画像として掲載することがあります。そういったものが、ここに該当します。ただ、実際には、次の「テキストデータ」として入手できるものが多いので、このタイプのものが分析の対象とされることは少ないです。

インターネット上に紙媒体の文書をそのままの形で掲載する際の、具体的な形式には、画像形式のほかに、厳密には「画像」とは言いにくいですが、「PDF ファイル」（p.17 参照）がよく使われます。PDF ファイルは、そこに含まれる文章をそのまま電子テキストデータとして扱えることもあります。ただし、その PDF ファイルが、以下の条件を両方満たす場合に限ります。

- 電子テキストとして認識できるような文字である（手書きはもちろん、古い本の活字なども不可）
- セキュリティの設定が、コピー&ペースト（文字列をコピーし、他のファイルに貼り付けること）を許可する設定になっている（禁止の設定がかかっている場合は不可）

この点について、詳細は後述します。

②イ.「テキストデータ」

紙媒体として流通したものを電子媒体にするとき、画像形式などではなく、電子テキストの形で電子化することも多くあります。「CD-ROM 版 新潮文庫の 100 冊」や新聞のデータベースのようになど、CD-ROM などの形で販売されるものは、現在日本語研究に広く使われています。また、「青空文庫」「朝日新聞“聞蔵”」など、インターネット上に掲載されるものもあります。

また、国語研などが作成・公開している「コーパス」なども、ここに入ります。

さらに、個人の電子メールも、分類上ここに入りますが、「①ア」で述べた手書きの手紙と同じ理由で、分析の対象にしにくい側面があります。

インターネット上には、さまざまなページがあり、無数の電子テキストによる記事があります。インターネットに掲載されている記事すべてが、ここの「②イ」の資料であると考えることも可能です。よって、WWW 全体を言語資料として扱おうという研究者もいます。

これら、テキストデータのデータベースについては、7.2.と 7.3.で詳しく紹介します。

（II）音声資料

音声資料は、主に、①テレビ・ラジオ放送などの公共媒体の録音を利用する場合と、②協力者を募り、会話などを録音させてもらう場合の 2 つがありますが、いずれの場合も、そのままでは言語資料として使えないので、文字化作業が必要になります。通常、ワープロソフトなどを使って電子テキスト化するので、（手書きで書き起こしてもいいですが、電子テキストのほうが使い勝手がいいので）文字化された資料は、（I）の②イ「テキストデータ」の範疇に入ります。

以下、この「音声資料」も、作業過程で②イに変換されるので、②イの中に含めて考えます。よって、分類は、4 種類ということになります。

以上、形式による分類の上では、上記 4 つのタイプがありますが、すでに述べたように、現実問題として、多くの場合、「①イ．活字文書」か、「②イ．テキストデータ」が使われます。

7.2. 具体的なテキストデータ資料の利用①：市販のデータベース

以上、形式面から言語資料を分類し、説明してきました。

紙媒体の資料については、特に説明の必要はないでしょう。本節からは、電子テキストデータの言語資料について、詳しく見ていくことにします。

日本語の用例を採集する際に用いることのできる、日本語（主に、書かれた言語作品）のデータベースは、大きく 2 つのタイプに分けられます。

① 一般読者の便宜のために作られたものを、日本語研究に転用する

② 日本語研究用に構築されたものを使用する

現在、②に該当するような、日本語研究用に構築された言語データベースはほとんどありません。よって、多くの研究者が、①、つまり、研究向けに構築されたわけでない言語データベースを利用しています（望ましいことではありませんが、それが現状です）。

以下、①の一般向けのデータベースについて説明し、その後に、②の例として国語研が

開発中のデータベース（コーパス）を紹介します。

なお、一般向けのデータベースを使う際の注意点については、伊藤(2002)の第 3 章も参照してください。

7.2.1. 一般向けのデータベース

一般向けデータベースとして、日本語研究でよく使われるのは、新潮社の「新潮文庫」を収めた CD-ROM[37]形式のデータベース、および、各新聞社が提供している新聞記事のデータベースです。

いずれのデータベースを使うにしても、先の 5.2.で述べた「偏りなく」用例を採集するために、自分の研究に応じて、使用する作品・記事の選定、複数のデータベースの組み合わせ、手作業での採集との組み合わせをするなど、個々人で工夫が必須です。言語研究向けではなく、一般向けのデータベースである以上、1 つだけをそのまま使うことはできません。

以下、新潮文庫、新聞記事、それぞれについて詳しく述べます。

＜「新潮文庫」CD-ROM＞

大手出版社の新潮社（東京）は、文学作品を中心に膨大な数の文庫を出しています。その「新潮文庫」の一部を電子化し CD-ROM に収めたものです。シリーズとして、以下の 4 つが発売されています。

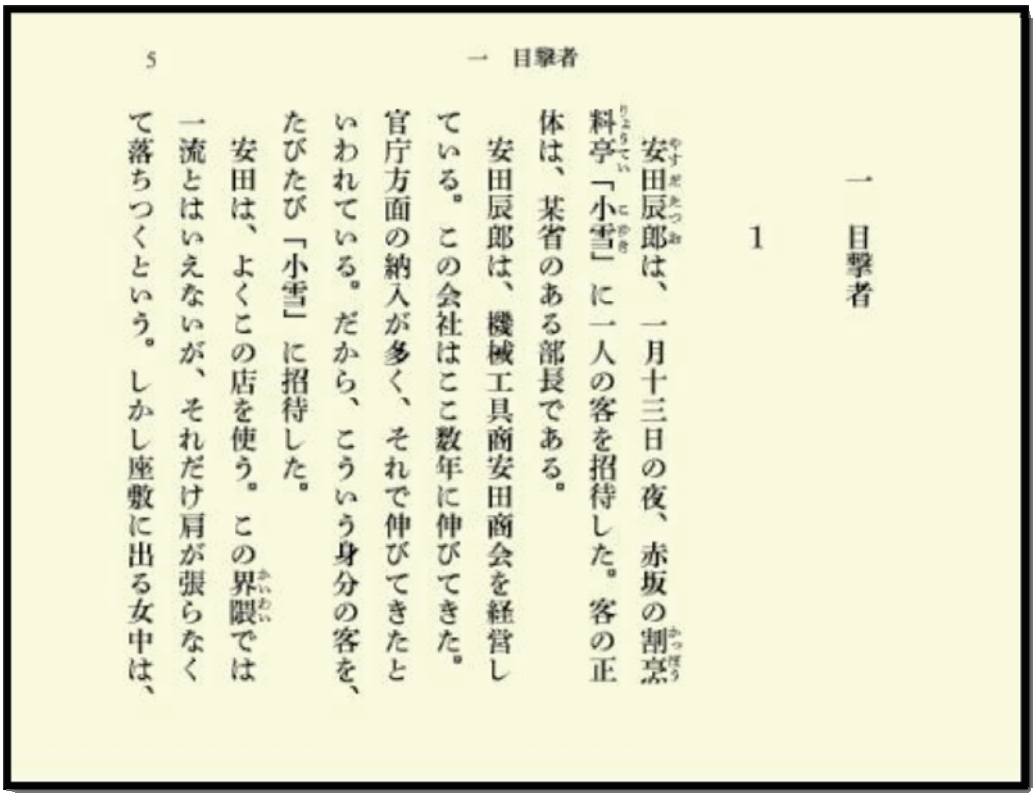
「CD-ROM 版 新潮文庫の 100 冊」
「CD-ROM 版 新潮文庫 明治の文豪」
「CD-ROM 版 新潮文庫 大正の文豪」
「CD-ROM 版 新潮文庫の絶版 100 冊」

現代語の研究を行なう場合、「CD-ROM 版 新潮文庫の 100 冊」（1995 年発売）がよく使われます。以下、特に「CD-ROM 版 新潮文庫の 100 冊」を使う際の注意点をまとめます。

①テキストファイル化が必要

「CD-ROM 版 新潮文庫の 100 冊」のみならず、上記 4 つの商品すべてに当てはまりますが、ファイルはヴォイジャー社のエキスパンドブック（拡張子は.ebk）形式となっています。以下の例のように、PC の画面上で紙媒体の本と同じような感覚で読むことができ、マウス操作でページをめくるように先へ進むことができます。

[37] ROM は、Read Only Memory の略。「読み取り専用の記憶媒体」の意。



5　一　目撃者

一　目撃者

1

安田辰郎は、一月十三日の夜、赤坂の割烹料亭「小雪」に一人の客を招待した。客の正体は、某省のある部長である。

安田辰郎は、機械工具商安田商会を経営している。この会社はここ数年に伸びてきた。官庁方面の納入が多く、それで伸びてきたといわれている。だから、こういう身分の客を、たびたび「小雪」に招待した。

安田は、よくこの店を使う。この界隈では一流とはいえないが、それだけ肩が張らなくて落ちつくという。しかし座敷に出る女中は、

画像(7-1)「CD-ROM 版 新潮文庫の 100 冊」の「点と線」本文画面

これは、無論利用者の利便性を考えてのことですが、しかし、そのため、専用の閲覧ソフトでしか閲覧できず、そのままでは「GREP」(後述) などの処理ができません。よって、用例採集のために使うには、収録されているファイルをテキストファイル[38]にする（テキスト化する）必要があります。テキスト化するためのソフトには、「「新潮文庫の 100 冊」テキスト読み出しツール EXB2T」(「ジャック川崎」氏作成、1997 年）などがあり、インターネットから無料で手に入ります。なお、これは DOS で動かすソフトなので、汎用性はきわめて高いですが、パソコンの知識がないと難しいかもしれません。

②必ず作品の選定を

まず、この種の大規模な CD-ROM データベースを使う際には、その中に、どんな作品が入っているのかをきちんと確認してください（何よりも先に行なうことです)。

「CD-ROM 版 新潮文庫の 100 冊」は、夏目漱石などの明治の作品から、赤川次郎などの最近の作品まで、さまざまな時代の作品を扱っています。つまり、時代の幅が広すぎるのです。前述の通り、一般的には、「現代語」調査の場合、基本的には戦後の作品に限るのが望ましいです。もし、何らかの理由で時代を広く採るのならば、論文中でそのことを説

38 文字サイズやフォント、配置など修飾機能がついていない、文字データだけで構成されているファイル。拡張子は「.txt」。

明する必要があります。また、この CD-ROM には海外文学の翻訳ものも含まれますが、原文の言語の影響を受けている可能性があり、言語資料としては適切ではなく使用すべきではありません（もちろん、「翻訳文の研究」の場合は別）。必ず、自分の研究に合わせ、十分に検討し、使用する作品を選ぶ必要があります。

③誤植・用字の問題

商品として市販されているものですが、電子化の際の誤入力はあります[39]。この点について、もし「変だな」と思う文があったら、紙媒体の文庫本を見てみましょう。文庫本と見比べて誤入力だとわかれば、修正します。（それを論文などに掲載する場合には、一応、誤入力を修正したことを書いておくとよいでしょう。）

また、テキスト化したあとのファイルでは、規格外の文字は表示できません。

④作品の内容を把握すること

この CD-ROM など、大規模な日本語作品データベースを用いれば、いちいち紙の文庫本を読んで用例を採集しなくても、コンピュータを使って用例を採集することができます。しかし、用例として使う以上、必ず作品を読んで、内容を把握する必要があります。そうでないと、用例の文意を読み違えたり、その用例の意味・用法に関係するような文脈の流れを見落としたりする危険があります（第 4 章の 4.4 を参照）。必ず、もとの作品を読んでください。

＜新聞記事データベース＞

全国紙の新聞であれば、その新聞社から、過去の記事のデータベースが CD-ROM として販売されています。また、前述の朝日新聞「聞蔵」のように、インターネットを介して利用できる大規模なデータベースもあります（有料）。多くの新聞社で、ホームページで最近の記事を掲載しているものを見ることもできます（無料）。しかし、後者の無料サービスのほうは、過去の記事を広く集めたものではなく、さらに、数時間ごとにどんどん更新されるので、まとまった言語資料データベースとしては非常に使いにくいです。

新聞記事データベースの CD-ROM は、よく日本語研究に利用されますが、以下のような注意点があります。

①新聞の文章の特殊性

電子媒体のみならず、紙媒体の新聞にも共通して言えることですが、新聞の文章は、特殊な面を持ちます。素人感覚では、新聞の文章は規範的・標準的な日本語の文であると考えがちですが、伊藤(2002)は新聞の文章には以下のような特殊性があると指摘しています。

---

39 参考までに、首都大学東京 長谷川守寿准教授が自身のホームページ上に掲載している「正誤表」のアドレスを記す（ただし、本章の執筆者はそのすべてを確認しているわけではない）。
http://nihongo.human.metro-u.ac.jp/~hasegawa/ayamari.htm

○一文の平均の長さが他の日本語の文章よりもかなり長い。
○臨時一語が多い。例）親子関係不存在認知取り消し要求
○事実だけを伝える傾向が強いので、文の骨格となる名詞と動詞が多い。その一方、形容詞や副詞のような修飾成分は少ない。

このほか、人の話をかぎ括弧（「　」）で引用している場合でも、実際の発言そのままではなく、かなり発言内容を要約してあることが多いので、注意が必要です。そういった用例を「会話文[40]」として扱うことはできません。

よって、(「新聞の文章の特徴」を調べるのではなく）日本語のあり様を調べるのであれば、新聞だけを用例に使うのは避け、他の言語資料を併用しなければなりません。

②紙面ごとに分けて用例採集を

これも紙媒体としての新聞を使う場合と同じですが、新聞記事とはいえ、事件事故を伝える「社会面」なのか、意見や主張を言う「社説」・「論説」なのか、芸能などを紹介する「文化面」なのかによって、使われる文章はそれぞれ異なる特徴を持ちます。それら異なる記事から均等に用例を採るにせよ、一部に制限して用例を採るにせよ、そういった記事の違いに意識的である必要があります。

③誤植・用字の問題

本章の執筆者は、新聞記事データベース上での誤入力を実際に発見してはいませんが、やはり誤入力は、どうしても避けられない問題だと思われます。

規格外の文字については、用例採集の際に問題となることではありませんが、紙媒体とは異なる表示がされます。特に固有名詞で使われる漢字が問題となることが多く、この場合、カタカナで置き換えたり、任意の記号で置き換え、その漢字を分解して説明したりされます。

例）「陳鏞基」[41]　⇒　「陳ヨウ基」
「陳●基（●は金へんに庸）」

＜インターネットサービス「青空文庫」＞

CD-ROM ではないが、大規模データベースとして利用されるインターネットサービス「青空文庫」（http://www.aozora.gr.jp/）について触れます。これは、文学作品に限らず、膨大な数のさまざまな文章をインターネットから無料で見られるサービスです。富田倫生氏などが中心となり 1997 年に設立されました。掲載されているのは、著作権が切れた古

40 「会話文」という用語については、p.66 の「参考：「会話文」「地の文」って？」を参照。
41 台湾出身のプロ野球選手。

い作品[42]と、著作者が自由に見てかまわないとした作品です。

「青空文庫」は、無料で、非常に手軽に使えることが最大のメリットです。その半面、利用できる作品のほとんどが戦前の古い作品であることが最大の問題点です。一部、戦後の作品で、著作権者が掲載許可をしている作品もありますが、多くはありません。さらに、内容、および、「質」とでもいうべきか、どれだけ整った書き言葉となっているか、という点で、さまざまな文書が混在しています。

「青空文庫」を使う場合も、単独での使用は避け、さらに、書かれた時代や文章のジャンルなどに十分注意して、作品を選定する必要があります。

7.2.2. 日本語研究用データベース

大規模な日本語研究用の日本語データベース（狭義における「コーパス」[43]）は、今のところ、広く使われているものはありません。以下、現在プロジェクトが進行中の国語研のコーパスを紹介します。

＜「現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)」＞

国語研が、2006 年度から 2010 年度までの 5 年間をかけて、大規模な日本語研究用の「書き言葉」コーパスを開発しています。正式名称を「現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ[44])」といいます。これが完成すれば、言語サンプルとしての信頼できる言語データベースとなります。

現在(2010 年 9 月)未完成です。最終的な内容の詳細、最終完成版の配布方法は、現時点では不明です。

しかし、現段階のものをモニター公開版 DVD という形で配布(無償)しています。入手方法は、同コーパスのホームページ http://www.ninjal.ac.jp/kotonoha/ を参照してください。「モニター公開版 DVD」の具体的な内容として、書籍、白書、ヤフー知恵袋(インターネット使用者どうしが、知らないことをお互いに質問しあう場を提供するサービス)、国会会議録から構成されています。ホームページによれば、「モニター公開版」DVD には、以下の量の言語資料が収録されています。きわめて膨大な量のコーパスと言えます。

- 書籍：約 3,000 万語（10,423 サンプル）
- 白書：約 480 万語（1,500 サンプル）
- ヤフー知恵袋：約 520 万語（45,725 サンプル）
- 国会会議録：約 490 万語（159 サンプル）

---

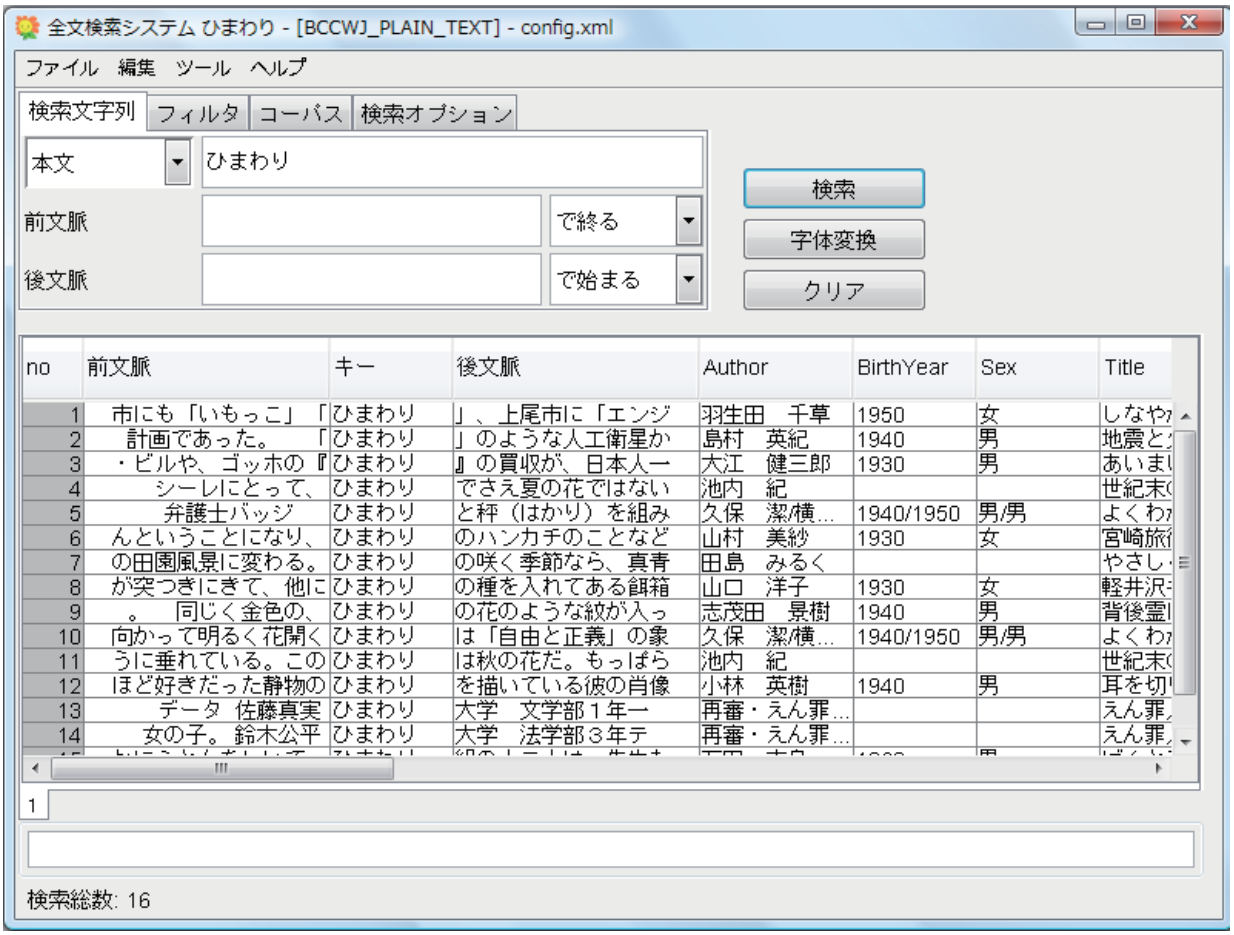
42 現行の著作権法では、著作権が保持されるのは著作者が死亡したあと 50 年間。

43 厳密には、学術・研究用に構築された言語データベースのみを「コーパス」と呼ぶが、それ以外の言語データベースも「コーパス」と呼ばれることがある。英語では単数形「corpus」、複数形「corpora」（ラテン語由来であり、単複が不規則）。

44 「Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese」の略。

選定方法も、日本語研究の専門家によって、実際の言語活動の「サンプル」として偏りのないような工夫がなされています。「書籍」についても、小説・随筆などに限らず、あらゆる分野の作品が収められています。

検索には、専用のソフト「ひまわり」を使用します（モニター公開版 DVD に添付されています)。正規表現を用いた検索も可能です。



画像(7-2)「ひまわり」の検索画面

このような、日本語研究向けに作られた大規模なコーパスの開発は、日本語研究にとって画期的なことだといえます。最終版の完成が待たれます。

以上のようなメリットは、言わば「自明」のこととして、これ以上強調する必要はないでしょう。以下、あえて使用上の問題点について触れておきます(モニター公開版 DVD に基づく)。ただし、いずれも、開発者側の目指すところが達成されていないという性質のものではなく、逆に、開発者側が目指すところが達成されているが故に発生する問題点です。

つまり、その「量」と「質」の問題です。

まず、「量」について述べます。ある特定の語や形式などを検索して抽出した際、たしか

にジャンルなどの偏りはないのですが、しかし、きわめて膨大な数量の実例が出てきます。時にそれは何万例と、学生の個人の研究では分析しきれない数量となります。

単に「○○が何例、△△が何例」という計量的な分析でなく、1つ1つ実例を見てどんな意味・用法かを調べるような、質的な分析を行なう際、場合によっては対象とする言語資料を絞り込む必要があります。方法の詳細は割愛しますが、たとえば、「「書籍」のみ検索する」という検索設定、さらに、「書籍」のうち「文学作品」のみ、あるいは、「西暦○○年以降の作品」のみを取り出す、といった検索設定も容易にできます。

「質」についても、1つ1つ実例をみていくような方法の場合、使いづらさがあります。

まず、「書籍」について、ありとあらゆる分野・出版社の書籍が収録されているため、普通でない(“変な”)表現の文章が出てきます。むろん、p.66 で述べたように、記述の対象は「規範」ではないので、「規範」とされていなくても、それが広く使われていれば、記述の対象となります。ここでいう「普通でない」というのは、「規範」に合わないという意味ではなく、個人的な使用やごく限られた場合での使用の範囲という意味です。また、倫理的な価値観によって言語研究が歪められることはあってはならないですが、それでも、ポルノグラフィなどは学術研究に使いにくい側面があることは否めず、扱いに困ることがあります。

「国会会議録」は、政治の世界に独特の語・表現があります。また、発言した議員の方言が発言時の言語に影響していることもあるようです。その点、使用する際には注意が必要です。

「ヤフー知恵袋」は、とりわけ、普通とは言えない表現が頻繁に出てくる可能性が高いので、まずは検索対象から除外することをお勧めします。

母語話者であれば、内省により、言わば“変な”日本語かどうかはある程度判断できますが、非母語話者にはその判断が困難な場合もあるでしょう。他のコーパスの場合も同じですが、非母語話者の学生の人は、極端に実例数が少ない表現、ふだん見慣れない／聞き慣れない表現があったら、母語話者のゼミ生やチューターに確認をとるとよいでしょう。

＜国語研のその他のコーパス＞

以下、本章でおもに挙げているような、現代日本語の書き言葉のデータベースとは異なりますが、国語研の2つのコーパスを挙げます。

1つは、現代日本語の話し言葉コーパスです。名称を「日本語話し言葉コーパス」と言います。国語研が旧組織（独立行政法人）時代に開発しました。開発当時は、所外にも有償で配布されていました。現在でも配布されているかは不明です。入手希望の場合、直接国語研にお問い合わせください。

内容の詳細は、ここでは触れません。国語研 旧サイトを参照してください。

「日本語話し言葉コーパス」http://www.kokken.go.jp/katsudo/seika/corpus/

もう 1 つは、「太陽コーパス」というものです。現代日本語ではなく、19 世紀末から 20 世紀初めの、言文一致成立期の書き言葉のコーパスです。博文館から刊行された月刊雑誌『太陽』の記事をデータベース化したもので、「国立国語研究所資料集 15」として一般向けに販売されています(博文館新社刊、2005 年)。

詳細は、国語研のホームページ、および、本書の姉妹編である『外大生のための『太陽コーパス』実践ガイドブック』(2010 年度内 刊行予定)を参照してください。

以上、日本語研究に用いることのできる言語データベースをいくつか紹介しました。

繰り返しになりますが、日本語研究用に構築されたものでないものを使用する場合、自分の研究に応じてきちんと作品の選定をしたり、複数のデータベースを組み合わせたりすることが必須です。この点については、特に第 5 章で述べたことを理解したうえで、十分注意してください。

7.3. 具体的なテキストデータ資料の利用②：WWW 検索

最後に、電子媒体での言語資料として、WWW[45] 全体を対象とした言語研究について、簡単に述べます。「yahoo!」や「google」などのインターネット検索サービスを用いて、ある語句（文字列）を含む用例を集める、という方法があり、実際にそういった調査研究を行なっている研究者もいます。無料で手軽に行なえるように見えますが、実際には、乗り越えるべき問題点も多いです。本章の執筆者は、WWW を主な対象とした研究を行なったことがないので、詳しく論じることはできませんが、少なくとも、以下のような問題点があるように思われます。

（1）検索方法の問題

検索方法の詳細は企業秘密の部分も多く、一般利用者にはわかりません。同じ検索語なのに、利用する検索サービスによって検索結果が違うということは、多くの人が経験していることでしょう。いわば“ブラックボックス”であり、利用者は検索がどのように行なわれたのか確認するすべはありません（田野村，2000、田中，2003）。これは、研究として、正確な検索結果を求める場合には、非常に大きな障害となります。もちろん、もともと言語研究用の道具ではないので、検索サービスを提供する会社に文句を言えることではないですが。

（2）データの流動性

インターネット上のホームページは、日々刻々と変化しており、この瞬間にも新しいホームページができたり、既存のものがなくなったりしています。こういった流動性、不安

[45] World Wide Web の略。世界中に張り巡らされたインターネットによる通信網。

定さを抱えたものを、用例採集のサンプルとして使えるのか、理論上、大問題です。

現実的な問題としても、検索サービスで検索した結果として出てきたのに、そのページはすでに存在せず見られないということは、しばしばあります。つまり、検索結果として出てきたもののすべてを実際に見ることはできないのです。また、一度検索して閲覧した記事を、後日見ようとしたらもうなかった、ということは頻繁に起こります。

（3）言語資料としての混淆性

仮に、日本語の文字で書かれたものだけを検索するにしても、実にいろいろなものが混ざり合っています。以下、言語研究として問題となる点を列挙します（枚挙でない）。

●「標準日本語」なのか「方言」なのか

実際には標準語のホームページが圧倒的多数であるためか、あまり問題点として取りあげられませんが、しかし、実際、いろいろな方言が混ざっている可能性があり、それを検索時に選択することはできません。

●書き手の属性：特に「母語話者」か「非母語話者」か

掲示板やブログを含め、インターネット上には、実にさまざまな人が記事を掲載しています。そのため、どんな人がその記事を書いているのか、書き手の属性が問題となります。

すでに述べたように、その言語の母語話者による資料のみを扱うことが望ましいです。さらに言うと、学習の途中にある学習者の書いた文章なども、インターネットに掲載されている可能性がありますが、もちろん、そういったものはやはり除くべきです。しかし、そういった観点で、検索時に選別することはできません。

●「使用」なのか「言及」なのか

言語表現の「使用（use）」と「言及（mention）」の違いについて、田野村(2000)の言うように、インターネット上には「使用」ではなく「言及」の場合も多く含まれており、そういったものを言語使用のサンプルとみなすのは無理があります。（たとえば、「言及」の例として、“「そうゆう」という言い方を見ると私は気分が悪くなる”（田野村，2000 より、下線は引用者）こういったものを排除することも難しいです。

（3）の点は、1 つ 1 つの検索結果をすべてチェックして選別すれば、克服できるかもしれません。（ただし、「書き手の属性」は、必ずしも真実が公表されているとも限らず、難しい）。ただ、実際になされている WWW を利用した研究は、1 つ 1 つの検索結果を見ていく、というより、むしろ、統計的な観点に立ち、数量を問題にする研究が多いです。そうなると、その「数」がどれだけ正確なのか、疑わしいと言わざるをえません。

実のところ、（3）の点は、媒体が何かが問題なのではなく、サンプルとして扱う対象の内容を十分に把握しないで（できないで）用例採集を行なうことの問題です。これは、以下の引用も指摘するように、大変危険なことです。

以下の引用は、大規模コーパスを使って統計処理をするときの注意点を指摘したもので

すが、WWW 全体を使う場合にもあてはまるでしょう。

> コーパスを統計処理するときに、一番避けたいことは、コーパスの内容も知らず、プログラムの処理内容も知らないままで、それらしい統計データを出すことである。いわば、ブラックボックスのコーパスをブラックボックスのプログラムで処理するわけだが、その場合、それを行っている人間はいったい何をしたことになるのだろうか。それを調査や研究と呼べるだろうか。人文科学者が読んだこともないテクストを研究するほど、矛盾に満ちたものはない。この状態が一般化することは、いわば人文科学が危機に陥っていくことを意味する。（伊藤，2003：34-35）

最後に、誤解のないように補いますが、「インターネット」という媒体自体が問題なのではないのです。内容を吟味した上で、特定のホームページ（の一部）を、言語資料の 1 つとして利用する方法は、有効でしょう（その場合、全文をコピーして、テキストファイルに貼り付け、テキストデータとして保存し、GREP などを行なう）。また、前述の「青空文庫」なども、注意して使えば有用でしょう。「インターネット」に、言語資料の 1 つとしての有用性があることは否定しません。

また、検索サービスを使った WWW 全体の検索も、たとえば、あくまで補助的な参考資料として、あるいは、用例採集をする前の「パイロット調査」（研究の方向性を検討するための予備調査）としては、活用できるでしょう。

7.4. 自分でテキストデータを作る

先に述べたように、「手作業」は、4 つの形式いずれでも可能ですが（電子化されているものは紙に印刷すればよいので）、「GREP」は、電子テキストデータ化されたものでしか行なえません。よって、4 つの資料の形式のうち、「②イ．テキストデータ」が最も使い勝手がよいということになります。

「GREP」を「テキストデータ」以外のもので行なう場合、自分でその言語資料を「テキストデータ」に変換しなければなりません。

「手書き文書」の場合、1 文 1 文キーボードを使って打ち込まなければなりませんが、「活字文書」や「画像データ」は、文字を読み取る「OCR[46]」の機能を持つソフトを使ってテキストデータ化することもできます。画像データは、そのまま OCR ソフトにかければよいですが、「活字文書」はスキャナを使って画像データ化したのち、OCR でテキストデータ化するという、2 段階を踏む必要があります。精度は、機種や文書の状態にもよりますが、たいてい、正しく文字を認識していない箇所があるので、チェック・修正が必要です。たとえば、「日木語」（「日本語」の誤認識）や「翌目」（「翌日」の誤認識）など、不

[46] Optical Character Recognition（あるいは、Optical Character Reader）の略。

思議な言葉が出てきてしまうことがあります。

PDF ファイルについて、実際 PDF ファイルを用例採集に使うことはあまりありませんが、前述(p.78)のように、電子テキストとして扱える場合もあります。その場合は、テキストファイルに「コピー&ペースト」をするか、Adobe Reader のツールバーの「ファイル」から「テキストとして保存」を選択します。電子テキストとして扱えない PDF ファイルは、「画像データ」相当としてしか扱えないので、OCR を使っての作業が必要です。

次の章では、以上を踏まえたうえで、いよいよ実際に「GREP」を行なう作業について説明します。

第 8 章　データの分析①：テキストエディタでの検索

～～本章でできるようになること～～
○ 専用のコンピュータ・ツールを使って、言語（日本語）データベースから、言語サンプル（用例）を採集できるようになる

自分の研究で使用する日本語のデータが決まり、入手できました。その後は、用例の採集作業です。

ここでは、テキストエディタといわれるソフトを使います。このソフトでは、ある語句（文字列）を含む「行」（ここでいう「行」とは、改行の直後から次の改行の直前まで。一般的な感覚では「段落」に相当する。）を抽出する作業「GREP」ができます。「文字列」を抽出するといっても、たとえば「うっかり」という副詞の用例を採るというのなら比較的簡単ですが、「はしる」という動詞の用例を採る場合、「はしれ」「はしらない」など、いろいろな形に活用するので面倒です。そういった、活用する語（用言）やいわゆる助動詞などの場合にも、「GREP」はある程度対応することができます。

ただし、GREP の使用には専門知識・技術を必要とします。また、多数の実例に触れ、ある程度実情の理解できた言語形式について用いるべきものです。そのことも踏まえ、本章では GREP の便利さを紹介するとともに、その限界、使用上直面するであろう諸問題についても適宜言及していきます。

8.1. GREP ができるコンピュータ・ツール

テキストエディタには、以下のように、いくつかの製品があります。

① 「秀丸（ヒデマル）」　制作：「有限会社サイトー企画」
② 「サクラエディタ」　制作：「たけ」氏
（③ 「QGREP（キューグレップ）」　制作：「新井健二」氏 ）

これらのいずれを使っても、基本的な作業は同じです。どれがよいというのは、一概には言えません。各自の好みで選択してください。③の「QGREP」は、テキストエディタではありませんが、GREP で検索結果を出すときの前後の行数設定など、付加機能が充実しています。

どれもインターネットからダウンロードできます。「サクラエディタ」「QGREP」は無料で、お金の支払いは全く必要ありません。「秀丸」は有料ソフトです。しかし、インストールして試用すること自体は無料ででき、ダウンロードに際し個人情報の提供も必要ありません。ですので、とりあえず、お金を払わずに試してみることは可能です（正式に利用

するには購入が必要です)。ソフトの配布ページは、以下です。各ページの手順に従い、ダウンロードしてください。

「秀丸」: http://hide.maruo.co.jp/
「サクラエディタ」: http://sakura-editor.sourceforge.net/
「QGREP」: http://www2k.biglobe.ne.jp/~araken/qgrep.htm

8.2. GREP の手順

以下、テキストエディタを用いた「GREP」の具体的な手順を説明します。

テキストエディタを用いることで、検索を実行し、その結果を保存するまでの一連のプロセスが統合され、データを一貫した形で扱うことができるという利点があります。

使用するテキストエディタは、好みによって選択して構わないのですが、無料で使えるほうがお金のない学生にとってはありがたいことです。本書では、無料で使えるテキストエディタ「サクラエディタ」の使用を推奨し、以下これを用いた GREP の方法についてご紹介します。

8.2.1. GREP に用いるデータの下準備

「サクラエディタ」で GREP の対象に指定できるのはテキストファイル(拡張子は.txt[47])です。まずは.txt ファイルを用意します。

テキストファイル以外のデータ、たとえば「Word」ファイル(拡張子は主に.doc)などを検索の対象に加えたい場合、テキスト形式に変換する必要があります。「Word」[48]では、
①「ファイル(F)」→「名前を付けて保存(A)」を選ぶ
②「ファイルの種類(T)」で「書式なし(*.txt)」を選択する

Web ページなどを利用する場合は[49]、
①ブラウザ上で、必要な文章を「ドラッグ」(マウスを左クリックしたまま動かす)する
②右クリックして「コピー(C)」を選択(または Ctrl+C のショートカットコマンド[50])
③Windows「アクセサリ」の「メモ帳」や「サクラエディタ」などのテキストエディタを開く
④右クリックして「貼り付け」(または Ctrl+V のショートカットコマンド)で貼り付ける
⑤「ファイル(F)」から「名前を付けて保存(A)」で適当な名前をつけて保存、「ファイルの種類(T)」は「書式なし(*.txt)」を選ぶ
(「メモ帳」であれば、標準で.txt 形式になっているので特にいじる必要はありません)

---

47 p.93 の「参考:基本的な「拡張子」一覧」も参照のこと。
48 以下「Microsoft Word 2003」に準拠。
49 3.3.1.(p.51)でも述べたように、必ず参照(データ収集)した日をメモしておくこと。
50 p.106 の「参考:基本的な「ショートカットコマンド」一覧」を参照のこと。

いずれの場合も、テキストファイルに変換することで文字装飾（下線・太字・網掛け・文字色・サイズ変更など）などの情報は失われます。元のデータも取っておきたい場合は、別途「Word」などに貼り付けて保存しておきましょう。

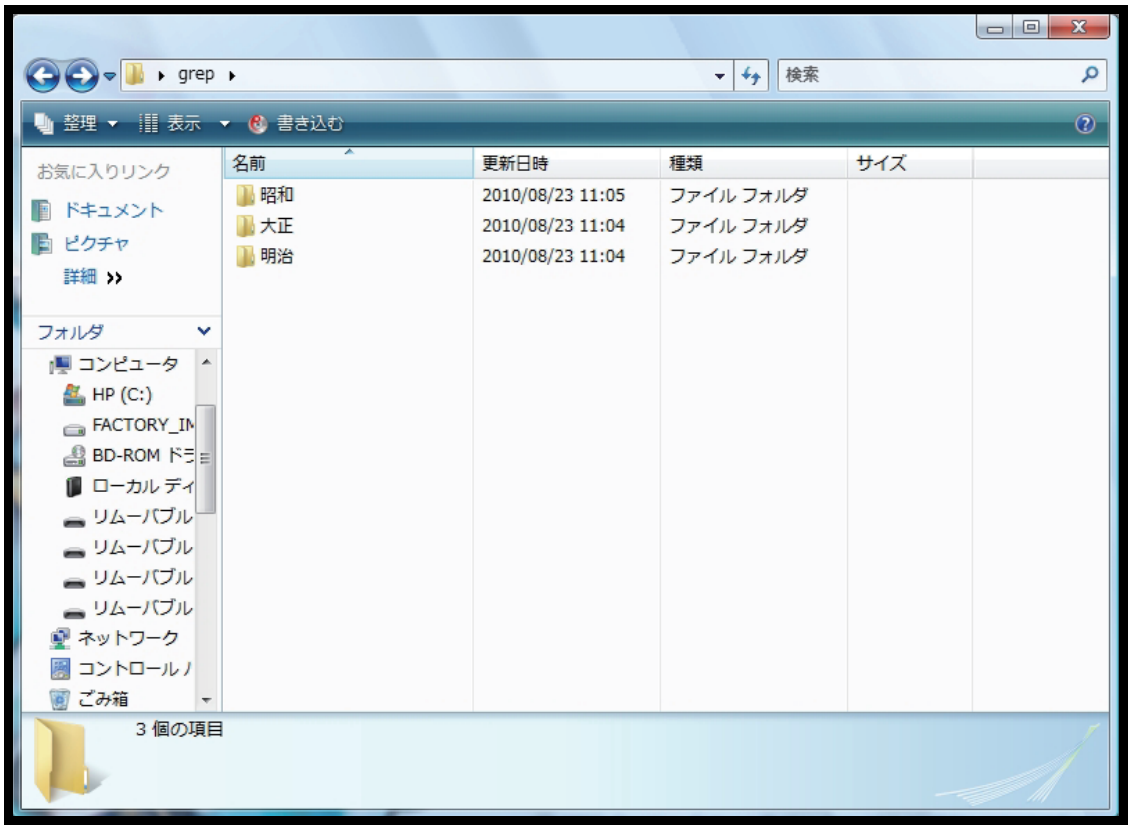
テキストファイルが用意できたら、わかりやすい場所にそれらを移動します。デスクトップに「grep」などの名前で専用のフォルダを作っておき、そこに格納するようにするといいでしょう。また、必要に応じて複数の下位フォルダに分けて保存すると（作者の生まれた時代、作品の書かれた時代などによる小分類）利便性が向上します。

＜参考：基本的な「拡張子」一覧＞

Windows でよく目にする拡張子としては、以下のようなものが挙げられます。

文書	「.txt」（テキスト） 「.doc」（Microsoft Word 文書） 「.rtf」（リッチテキスト：Word/ワードパッド共通）　など
Microsoft Office 関連	「.xls」（Excel ファイル） 「.csv」（Excel 互換のテキスト） 「.ppt」（PowerPoint 用プレゼンテーションファイル）　など
画像	「.jpg」（JPEG：圧縮効率に優れた形式。デジカメ写真などに利用） 「.gif」（GIF：256 色を表現、単一ファイル内でアニメーションも可能） 「.bmp」（ビットマップ：無圧縮で高画質、大容量で配信には不向き） 「.png」（PNG：GIF に代わるフォーマットとして開発、高画質）　など
音声	「.mp3」（MPEG-1 Audio Layer-3：音楽配信などに使用、インターネット上で最も広く用いられている音声ファイルの形式） 「.wma」（Windows Media Audio：Microsoft 開発の音声形式。高圧縮率） 「.wav」（WAVE：大容量、CD レベルの音質も実現）　など
動画	「.mpg」（MPEG） 「.wmv」（Windows Media Video） 「.avi」（AVI）　など
その他	「.pdf」（PDF 文書） 「.exe」（実行ファイル：プログラム本体、インストール用ファイルなど） 「.zip」「.lzh」（圧縮ファイル）　など

※Windows XP であれば、「エクスプローラ」（「マイ コンピュータ」や「マイ ドキュメント」などの画面）を表示している時に、上部の「ツール(T)」→「フォルダ オプション(O)」で「登録されている拡張子は表示しない」のチェック「レ」を外すと、各ファイルの拡張子が確認できるようになります（ショートカットは除く）。



画像(8-1)フォルダ分けの一例

8.2.2. GREP の実行

まず、「サクラエディタ」を起動し、「検索(S)」→「GREP(G)」の順にクリックしていきます（Ctrl+G でも同様です)。すると、以下（画像（8-2)）のようなウィンドウが現れます。

画像(8-2)「サクラエディタ」の GREP 条件入力ウィンドウ

上から 3 番目の「フォルダ(O)」ボックス（画面で、白くなっている四角い部分）の右に小さな四角（画像では「...」のようになっているところ）があります。ここを左クリックするとフォルダを参照することができます。デスクトップなどに作成したテキストデータの上位のフォルダを参照すれば、フォルダ内の全ファイルが、下位のフォルダを参照すれば、選択した下位フォルダ内の全ファイルが、それぞれ GREP の対象として指定できます（たとえば、「新潮文庫 100 冊」フォルダの中に「明治」「大正」などのフォルダを作っている場合、それら下位フォルダの中身も検索対象に含まれます）。さらに、「サブフォルダからも検索する(S)」のチェックをオフにすると、指定したフォルダの直下にあるファイルのみを対象として検索することも可能です（たとえば、「明治」「大正」などの下位フォルダがある場合、それらの中身は検索対象から外すことができます）。

あとは一番上の「条件」のボックス（画面中で　　と表示されているところ）に検索したい文字列を入力し、右下の「検索(F)」ボタンをクリックすれば OK です。これで GREP の結果が得られます。たとえば、「恋人」「全然」「網羅」「スマート」などを入れてやってみましょう。あっというまに、それぞれの語を含む文を選び出すことができます。GREP 実行直後のサクラエディタ上では該当部分の背景が黄色くハイライトされるので、すぐに欲しい用例を見つけられます。

サクラエディタでは、「設定(O)」→「現在のウィンドウ幅で折り返し(W)」の操作で、「メモ帳」の「書式(O)」→「右端で折り返す(W)」と同様の表示ができ、視認性が向上します。一応「Ctrl+Alt+U」というショートカットコマンドも使えますが、後述(p.106）する「ショートカットコマンド一覧」のような他のアプリケーションとの互換性もありませんし、ちょっと覚えるのが面倒かもしれません。

＜注意！GREP 結果の保存＞

GREP の結果は自動的には保存されず、ウィンドウを閉じる際の警告も出ないので、GREP の結果は必ず手作業で保存すること。なお、「サクラエディタ」では新規保存の際、Ctrl+S のショートカットコマンドを実行（または「ファイル(F)」→「名前を付けて保存(A)」を選択）したのち、「ファイルの種類」で「ユーザー指定（*.*)」となっている部分を「テキストファイル（*.txt)」に変更するか、csv 形式に変換（8.2.5 参照）する必要があります。

しかし、動詞・形容詞などの用言（活用する語）はこのように単純にはいきません。たとえば動詞「動く」の用例を採るにはどうしたらいいでしょうか。辞書形（動く）だけでなく、他の活用形（動かない、動きます、動け、動こう etc.）を逐一指定するのは面倒ですし、概してスマートなやり方ではありません。こうしたムダをなくすために、知っていると便利なのが 8.2.3.以下で扱う「正規表現」（regular expression）と呼ばれる文字列指定の方法です（p.74 参照）。

8.2.3. GREP と正規表現―入門編―

まず、「サクラエディタ」で正規表現を用いる方法をご紹介します。

「GREP 条件入力」のウィンドウで「正規表現(E)」のチェックボックスにチェック「レ」が入っていれば、GREP の条件指定に正規表現を用いることが可能です（正規表現を用いない GREP を実行する場合に、チェックがオンになっていても問題はありません。なお、初期設定ではオンになっています）。

日本語学の用例採集に役立つ正規表現としては、以下のようなものが挙げられます。これらを組み合わせることで、さらに高度な文字列指定が可能になります（言うまでもなく、すべてを網羅しているわけではありませんが、汎用性が高く、かつ複雑すぎないものを中心に挙げています）。[51]

[ ]　…中に含まれるいずれかの文字

[abc]d にマッチする文字列：ad,bd,cd

応用として、連続する文字群の始点と終点を-（半角ハイフン）で区切るとそれらのいずれかを選ぶことも可。たとえば[a-g]x とすれば ax,bx,cx,dx,ex,fx,gx がすべて採れる。また、[　]内で個別の文字とハイフンによる文字群は併記可（[ac-e]y とすると ay,cy,dy,ey が採れる）。

[^] …[]内に含まれる文字以外の文字

[^ab]c にマッチする文字列：ac,bc を除き c を（2 文字目以降として）含む文字列すべて

( )　…グループ化

|　…区切られた文字列いずれか

（以上の 2 つは、セットで用いることが多い）

(ab|cd)e にマッチする文字列：abe,cde

*** …直前に指定された文字（列）を 0 回以上繰り返す**

abc*にマッチする文字列：ab,abc,abcc…

以下、「文字（列）」は、“( )”によるグループ化など、正規表現による条件指定であっても問題ない。

(ab)*c にマッチする文字列：c,abc,ababc…

+ …直前に指定された文字（列）を 1 回以上繰り返す

abc+にマッチする文字列：abc,abcc,abccc…

(ab)+c にマッチする文字列：abc,ababc,abababc…

---

[51] 以下、正規表現に用いる記号・数字（n,m のようになっているところ）はすべて半角とする。全角で入力すると無効になるので注意（確定前に F8 キーまたは F10 キーを 1 回押すとより確実）。

? …直前に指定された文字（列）が 0 回または 1 回現れる
ab?c にマッチする文字列：ac,abc
(ab)?c にマッチする文字列：c,abc

. …何らかの一文字（改行は除く）

^ …行頭
^abc にマッチする文字列：abc（ただし、行の最初に現れるもののみ）[52]

$ …行末

r{n} …文字（列）r が n 回繰り返すものにマッチする
a{5}b にマッチする文字列：aaaaab
(ab){3}c にマッチする文字列：abababc

r{n,} …文字（列）r が n 回以上繰り返すものにマッチする
a{5,}b にマッチする文字列：aaaaab,aaaaaab,aaaaaaab…
(ab){3,}c にマッチする文字列：abababc,abababababc,abababababc…

r{n,m} …文字（列）r が n 回以上 m 回以下繰り返すものにマッチする
a{1,3}b にマッチする文字列：ab,aab,aaab
(ab){1,3}b にマッチする文字列：abc,ababc,abababc

色々書きましたが、これだけではよくわかりませんね。
以下では、これらの正規表現を利用した用例採集の方法を、具体例とともに紹介します。

8.2.4. GREP と正規表現—実践編—

以下、ある日本語の表現を検索する際、「サクラエディタ」の GREP 画面で「条件(N)」のボックスにどのような文字列を入れればよいのかについて、具体例を何例か取りあげて解説します。

正規表現を活用することで、高度な GREP を実行することができますが、気をつけないと落とし穴が待っています。そうした正規表現の限界についても、適宜言及することにします。よって、以下の具体例でも、初めから「解答」のみを出すということはしません。

---

[52] たとえば検索条件を「^太郎」とした場合、「太郎は花子を……」のように始まる行はヒットし、「そのとき、太郎は花子を……」のように始まる行はヒットしない。ただし、日本語では行頭において全角スペースが挿入されることが多いので、対象のファイルにそのようになっているものがないか確認する（スペースがあるファイル、ないファイルが混在する場合、”^”と探したい文字列の間に「　?」を入れるなど工夫する）必要がある。

① 副詞 （「うっかり」を例に）

たとえば、副詞「うっかり」が、どのように用いられているかを調べたい場合は、「条件（N)」ボックスには「うっかり」とだけ入力して GREP を実行すればいいでしょう。

「うっかりする」において、「うっかり」は動詞語幹に転成したものと考えられ、副詞「うっかり」を扱う研究では対象から外すか、そうでなくても別に扱ったほうがいいかもしれません。ただ、GREP の段階でこれらを外そうとすると、採るべき用例まで排除してしまうことになりかねません。

「うっかりする」の活用形としては、「うっかりされ」「うっかりし（て)」「うっかりする」「うっかりせず」などが考えられます。これらを一括して排除するべく、以下のような条件を設定したとします。

うっかり[^さしすせ]

”[^]”は「括弧内に含まれる以外の文字を含む」を意味するので、「うっかりさ」「うっかりし」「うっかりす」「うっかりせ」が一括して排除できます。

しかし、この条件で GREP を実行すると、「うっかりしゃべってしまった」「うっかりすばらしい景色を見逃してしまった」のような、「うっかり＋動詞」の例として扱うべきものまで採れなくなってしまうのです。さらに言えば、「そんなことをうっかりするわけにはいかない」のような例は副詞「うっかり」＋本動詞「する」の倒置的な例として、扱う対象に入れる必要があるはずです。これらの有用な例も外してしまう正規表現を、用いる意味はありません。多少面倒でも広めに採り、手作業で取捨選択する努力が必要になります。

結論として、

○副詞「うっかり」の用例を集める際の GREP 条件指定

うっかり

② 形容詞 （「楽しい」を例に）

形容詞「楽しい」の実例を網羅的に採るには、どのような条件を指定すればいいでしょうか。

まず「楽しい」がどのような形をとるかを考えてみましょう。まず、「楽しい」単体で完結する語形変化として「楽しくない」「楽しく遊ぶ」「サッカーは楽しい」「楽しい遊び」「楽しければ」の形が多く用いられますが、他にもバリエーションは考えられます。

まず、「楽しそう」「楽しげ」のような接尾辞を伴った形が考えられます。また、過去形「楽しかった」も忘れてはいけません。

さらに言えば、「楽しき我が家」（連体修飾）「楽しかろう」（推量）のような古風な言い回しや、逆に「楽しけりゃそれでいいんだ」（仮定）のような比較的新しい口語の表現も採

るためには、条件を緩くするほうがいいでしょう（「楽しからず」のような例については、現代語の問題を扱うのであれば必ずしも採る必要はありません）。

「がる」による動詞派生の有無、「さ」によって名詞に派生した際の意味は、形容詞によって異なります。そしてその差は、さまざまな形容詞を考える上で重要になります。ここではそれらの用例も一括して採ることにします。「楽しがる」については、「楽しがら（ない/せる…）」「楽しがり（、/ます…）」「楽しがる（。/こと）」「楽しがれ（。/ば）」「楽しがろ（う/っ[53]…）」のような語形上のバリエーションが考えられます。

以上を踏まえ、形容詞「楽しい」ならびにそれが名詞化・動詞化した実例を採る際には、”( )”と”|”の組み合わせで以下のような条件を指定すればいいことになります。

楽し(い|かろ|かった|き|く|け|げ|そう|さ|がら|がり|がる|がれ|がろ)

この条件では「楽しい」「楽しかろ」「楽しかった」「楽しき」「楽しく」「楽しけ」「楽しげ」「楽しそう」「楽しさ」「楽しがら」「楽しがり」「楽しがる」「楽しがれ」「楽しがろ」のいずれかの文字列が該当します。動詞「楽しむ」「楽（らく）（を）する」およびそれらの活用形は大筋で排除できますが、「あいつは一人で楽（らく）しそうだ」のような例は（あまりないとは思いますが）手作業で排除しなければならないので注意しましょう。また、副詞的な「楽しく（遊ぶ）」も、対象としないのであれば手作業で排除する必要があります（「楽しくない」「楽しくて」など形容詞としか考えられない例でも「楽しく」の形は用いられるので、GREP条件指定の段階で外すわけにはいきません）。

最後に注意しなければいけないのは、語中の漢字にはほぼ常に仮名でも表記される可能性がつきまとうということです。やや子どもっぽい印象を受けますが、「たのしい」のような表記はいつどこに現れるかわかりません。漢字表記と仮名表記を一括して採るには、以下のように指定するのがいいでしょう。

○形容詞「楽（たの）しい」の用例を集める際のGREP条件指定（正規表現）

(たの|楽)し(い|かった|き|く|け|げ|そう|さ|がら|がり|がる|がれ|がろ)

＜注意！表記のゆれ＞

上で説明した「楽しい」の条件指定で採れるのは、あくまで規範的なものに限られます。

人によって、たとえば「愉しい」のように書いて「たのしい」と読ませる場合もありえます。これは一般的な漢和辞典に掲載されている訓とは異なるもので、当て字と呼んで差し支えないような表記法ですが、だからといって採らないわけにはいきません。こうした問題を自覚する上でも、検索対象と

[53] 「楽しがる」に関してはやや考えにくいが、「少し休もっか」のように勧誘的な場合など、話し言葉では動詞が意志・勧誘的な用法においてこのような形を取ることも少なくない。

なる作品には実際に目を通し、作者の癖などをよく理解しておくことが重要になります。
　「たのしい」に関してはそこまで気にする必要はないとしても、語によって表記のゆれが大きな問題になることがあります。以下の五段動詞「言う」などはその一例です。

③　五段動詞１　（「言う」を例に）

動詞「言う」の用例を漏れなく採るには、どのような条件を指定すればいいでしょうか。
まず、②の形容詞の場合と同様、基本的な活用形を考えます。まず、動詞語幹は「言わ（ない/ぬ/れる/せる…)」「言い（たい/ます…)」「言う（。/こと…)」「言え（。/ば…)」「言お（う/っ…)」「言っ（て/た)」の 6 通りがあります。これらを一括して採るには、以下のような条件を指定すればいいでしょう。

言[わいうえおっ]

これだけなら「言わ」「言い」「言う」「言え」「言お」「言っ」だけが該当するため、非常に理路整然と、ほぼ必要な例だけが得られますが、やはり確認は必要です。
動詞「言う」も、ひらがなで表記される場合があります。そのことを踏まえ、以下の条件で検索したとします。

[言い][わいうえおっ]

この場合、「言わ」「言い」「言う」「言え」「言お」「言っ」に加え「いわ」「いい」「いう」「いえ」「いお」「いっ」のようにひらがなだけが連続することを許可しているため、「いい湯だな」「いえ、違います」「そんなことないわよ」など余分な例が色々出てきてしまうという弊害もあります。しかし、このような事態を避けるため正規表現の条件を厳しくしようとすると、思わぬ見落としが生じてしまうことも少なくありません。
たとえば、以下のような条件で GREP を実行するとどうなるでしょうか。

[言い](わせ|わず|わな|わぬ|われ|い|う|え|おう|おっ|った|って)

一見良さそうに見えますが、これでは「言（い）っちゃって」「言（い）わ e しておけば」「言（い）わねえ」「言（い）わん」…などが採れません。こうして試行錯誤を繰り返すよりは、まずは広めに採って一例一例と向き合うほうが早いでしょう。
最後に、「云う」「謂う」の表記も用いられうることを忘れてはいけません（国語辞典などで確認。ここでは『大辞林』を利用)。よって、以下のようになります。

○動詞「言（云/謂/い）う」の用例を集める際の GREP 条件指定（正規表現）

[言云謂い][わいうえおっ]

＜注意！仮名遣いと漢字＞

ここではあくまで現代日本語の用例を採る方法に限って説明していますが、扱う作品によっては仮名遣いや漢字の新旧が問題になる場合もあります。

「現代日本語」としては「戦後の作品に限る」というのが区切りとして一般的ですが（第 5 章の 5.2.1 を参照）、それ以前の作品も対象とする場合、上のような考え方では対応できない部分が多々あります。

1 つは、「旧仮名遣い」で書かれた場合です。たとえば、上の「言う」ですが、文語ではハ行四段活用です。つまり、「言は(ず)」「言ひ(たり)」「言ふ」「言ふ(者)」「言へ(ば)」「言へ」と活用するのです。これらは、平安時代頃にはすでに[イワ(ズ)] [イイ(タリ)]…のように発音されるようになっていたと考えられますが[54] 、表記は歴史的なものが引き続き用いられており(つまり「ワ行」ではなく「ハ行」で表記される)、発音と表記がずれていたのです。これを、「旧仮名遣い」と言います。

19 世紀末から 20 世紀初めの「言文一致」によって、書かれる言葉も、古文に基づく「文語文」ではなく話される言葉に近い「口語文」で書かれるようになり、現代語の書き言葉が成立していきます。しかし、この「言文一致」以降も旧仮名遣いは用いられており、日本語の仮名表記が実際の発音と（大筋で）一致するのは、第二次大戦後 1946 年 11 月の内閣告示によって導入された「現代仮名遣い」まで待たなければなりません。

2 つめとして、漢字の字体も時代によって異なるので注意が必要です。たとえば東京大学の旧名であれば、「東京帝國大學」というように、旧字を用いて表記していたのが、やはり 1946 年 11 月の内閣告示でこれらの複雑な漢字の使用をやめ、簡潔な字を用い、「東京帝国大学」のように表記するよう定められました。

なお、こうして定められた現在通用の表記を「新字新仮名」、それ以前の表記を「旧字旧仮名」と呼ぶことがあります。

以上より、終戦以前（正確には 1946 年以前）の言語作品の場合、「新字新仮名」に改められておらず、元の「旧字旧仮名」のままのテキストデータであれば、現代の表記とは別の正規表現を用いて GREP を実行する必要があります。

54 奥村(1977)など参照。

④　五段動詞 2 送り仮名の問題（「終わる」を例に）

動詞「終わる」も、基本的には「言う」と同じような条件で用例が採れます。

[お終]わ[らりるれろっ]

しかし、「終わる」の場合、送り仮名の問題があります。規範的には「終わる」なのですが、「終る」のように書く人がいるのも事実です。

こうした表記のゆれに対応するには、「?」が有効です。これは、直前の文字（列）を 0 回または 1 回繰り返す、という正規表現でした。つまり、「終わ?[らりるれろ]」とすれば、「終わら」「終ら」…がすべて採れることになります。

注意すべきなのは、上掲の検索条件にそのまま「?」を追加しただけでは「おら」「おり」…のように関係ない例まで数多くヒットしてしまうことです。従って、「終わ」と「おわ」は別々に指定したほうがいいということになります。

結論として、

○動詞「終（お）わる」の用例を集める際の GREP 条件指定（正規表現）

(おわ|終わ?)[らりるれろっ]

⑤　一段動詞　（「助ける」を例に）

動詞「助ける」の用例を一通り採るにはどうすればいいでしょうか。

いわゆる一段動詞なので、③で行なったような複雑なバリエーションを考える必要はありません。「助けを借りる」のように名詞的に用いられている例を排除すれば、消去法的に動詞としての用法を採ることが可能です。

まず、助詞「が」「を」は、動詞連用形の名詞化した「助け」と共起する（助けが必要だ、助けを借りるなど）以外に考えられないため外します。また「手助け（てだす）」はひとかたまりの名詞としてしか用いられないので、「手」が上接する例も除外します。助詞「の」が前接する例も、「人の助け」のような連体修飾の（＝連用形「助け」が名詞化した）用法がほとんどですが、所謂ガーノ交替の問題があり「彼の助けた鳥」のような例も考えられますので、条件指定では外さないほうが賢明です。

以上を踏まえ、「助け」の前に「**[^手]**」、後ろに「**[^がを]**」をつけて、「助け」が名詞として用いられる場合にしか考えられないような連続を検索対象から外します（場合によっては「博士、助手助け（じょしゅ）てあげてください」のような発話がないとは言い切れませんが、そういうことが気になるのであれば「手助け」の連続は許可する、つまり[^手]はつけずに GREP を実行するようにしましょう）。

[^手]助け[^がを]

「助けはいらない」「助けさえ借りずに」「（友達の）助けで何とかなる」など一部の名詞用法は排除できませんが、「（ライバルを）助けはしない」「（友達を）助けさえしない」「（僕が）助けでもしないとあいつは何もできない」などの動詞用法も混在しうるため、これらの連続を GREP の段階で排除するのは不適切です。結局は一例ずつ確認しなければなりません。

一応ひらがなでも書かれうるものとして、以下のように指定します。

○動詞「助（たす）ける」の用例を集める際の GREP 条件指定（正規表現）

[^手](助|たす)け[^がを]

⑥　応用編 1 当該の表現が会話文の中で用いられる場合（助動詞「だろう」を例に）

「だろう」による推量表現の用例を探す際の条件指定です。

学校文法で言うところの助動詞は、文体の差、特に地の文・会話文[55]の別が重要な意味を持つことが少なくありません。ここでは応用編ということで、検索対象を会話文の中で用いられる「だろう」に絞る方法を考えてみましょう。

まず、会話文がどのように現れるかを考えます。小説では多くの場合、かぎ括弧（「　」）で会話文を表します。この前提に立てば、「だろう」がかぎ括弧の間に現れてさえいればいいことになります。ただ、“「”と“だろう”と“」”の間に、それぞれ何文字入るかはまったく予想がつきません。特に末尾については、「～だろう」で発話が終わる場合もありえます。

この場合、”.”（何らかの一文字）と”*”（直前に指定された文字（列）を 0 回以上繰り返す）”+”（ 直前に指定された文字（列）を 1 回以上繰り返す）が使えそうです。このように指定するとどうなるでしょうか。

「.+だろう.*」

かぎ括弧の中に、「だろう」の前に 1 文字以上、後ろに 0 文字以上の何らかの文字（何でもいい）という文字列が現れる例が採れます（「だろうね。～」のように相手の発言を受けた発話の例も拾うのであれば**「.*だろう.*」**としたほうがいいかもしれません。ただ、そうした例はやや特殊なので、仮に採るとしても「～だろう」と一緒に検索するよりは別途**「「だろう」**で GREP を実行したほうが混乱はないと思われます。

さて、上掲の条件ですが、実は「何でもいいから 1 文字」というところに落とし穴があります。たとえば、以下のような地の文の例も、この条件ではマッチしてしまうのです。

---

[55] p.66 の「参考：「会話文」「地の文」って？」を参照。

「彼」以外は誰もそれを知らないだろう。しかし「彼」はそれを知っている。

「何らかの一文字」には、閉じ括弧も含まれてしまうのです。これを回避するためには、”[^]”を利用します。

「[^」]+だろう.*」

こうすることで、先頭のかぎ括弧と「だろう」の間には「閉じ括弧を除く 1 文字以上の文字列」が現れることになります。前でかぎ括弧が閉じられなければ、「だろう」は少なくともかぎ括弧の中に現れることが確約されるので、大筋で会話文の中に現れる「だろう」の例に絞ることができます。ただし、あまり考えられませんが、「「震度 3 以上の地震が来たら全壊するだろう家」とやらの話は聞いたことがある」のような引用的な例は排除できません。

会話文は改行のあとに現れ、終わったら再度改行されることが多いので、”^”と”$”で挟み、行頭・行末指定をしてやったほうがいいように思えるかもしれませんが、それでは以下のような現れ方をする会話文が採れません。

太郎は「明日は雨が降るだろう」と言った。

さらに言えば、会話文をかぎ括弧でなく冒頭に”――”をつけることで表す作品もありますし、通常丸括弧で表されるモノローグ（独白）も会話文に準ずるものとして採るのであれば、条件を変更しなくてはなりません。検索の対象とする作品の書かれ方について、きちんと知っておく必要があります。

かぎ括弧の会話文だけなら上掲の正規表現で大筋問題ありませんが、「であろう」も「だろう」のバリエーションとして（一般的に会話文では用いられないものの）考えられます。また、「きっと感動したろう」「寒かったろう」など、「だ」の脱落とも取れるような過去推量形もあり、これも「だろう」のバリエーションと考えるならば GREP の条件に加える必要があります。結論として、

○会話文で用いられる推量の助動詞「だ（た/であ）ろう」の用例を集める際の GREP 条件指定（正規表現）

「[^]」+(だ|た|であ)ろう.*」

⑦　応用編 2　（動詞のテ形を例に）

続いて、現代語の動詞テ形の用例を採る条件指定を考えてみましょう。

まず、現代日本語に、連用形が「ぢ」「ひ」で終わる動詞は存在しません。「に」も、「死

に」はありえますが、テ形の場合は撥音便（死んで）になるので、この場合条件に含める必要はありません。逆に言うと、「いで」「んで」「って」のような音便形の末尾は採れないと困ります。

その他、イ段・エ段の多くの音は連用形の末尾に現れうるものです。以上を加味して考えると、以下のような検索条件が導き出されます。

([いえきけぎげしせじぜちてでねへびべみめりれっ]て|[いん]で)

「書いて」「超えて」「生きて」「掛けて」「過ぎて」「遂げて」「干して」「伏せて」「信じて」「混ぜて」「朽ちて」「果てて」「愛でて」「跳ねて」「(段階を）へて」「媚びて」「食べて」「(やって）みて」「込めて」「借りて」「惚れて」「取って」「漕いで」「飛んで」のように、さまざまな動詞がヒットするでしょう。「あなたって人は」「自分、不器用なんで」のような例は手作業で排除しなければいけませんが、それでもかなりの程度まで絞られます。

しかし、この検索条件には欠陥があります。勘のいい方はお気づきかもしれませんが、要するにこれだとひらがな表記の例しか採れないのです。「見て」「着て」「出て」など、一段活用で、語幹が漢字で書かれるような動詞の例は、この条件では採れないのです。

その他、「射て」「居て」「鋳て」「得て」「顧(かえりみ)て」「〆(しめ)て」「来て」「煮て」「似て」「寝て」「経て」……と、さまざまな漢字が可能性としては考えられます。加えて「観る」「診る」「看る」「視る」など、動詞によっては表記のバリエーションも出てきます。

これらも検索対象に含めるためには、[　]内の-（半角ハイフン）が役立ちます。日本語のJIS コード[56]のうち、最初の漢字は「亜」(3021)、終点は「熙[57]」(7426) です。従って、[いえきけぎげしせじぜちてでねへびべみめりれっ**亜-熙**]とすれば、上述のように語幹の末尾がひらがなの例に加え、日本語で通常用いられている限りですべての漢字を網羅することができます。

逆に「捨てる」「果てる」などの動詞のテ形以外の形もヒットしてしまうので、それらは手作業で除外していかなければいけませんが、取りこぼしがないことのほうが重要です。

以上でだいたいよさそうに思えますが、注意しなければいけないのは、「問うて」「乞うて」のように例外的に古い形（ウ音便）が残っている語もありえることです。このように、テ形というのは一筋縄ではいかない部分の多い形式なのです（過去形などにも同じことが言えます)。一応「煮て」「似て」がひらがなで書かれる場合も絶対にないとは言い切れないので「にて」も入れたほうがいいでしょう。

結論として、

---

56 日本工業規格（Japanese Industrial Standards）の文字コード。

57 Word の場合、「挿入(I)」→「記号と特殊文字(S)」で、「コード体系(M)」を「日本語シフト JIS（16 進)」、「コード(C)」は「EAA4」とすれば入力可能。

○動詞のテ形の用例を集めるための GREP 条件指定（正規表現）

([いうえきけぎげしせじぜちてでにねへびべみめりれっ亜-熙]て | [いん]で)

＜参考：基本的な「ショートカットコマンド」一覧＞

GREP の結果を保存するにはどうすればいいでしょうか？「サクラエディタ」の場合、「ファイル(F)」→「名前を付けて保存(A)」を選択することで、新規保存の画面に進むことができます。しかし、毎回マウスを細々と動かし、キーボードで打ち込む作業を繰り返すのは億劫ですし、効率的ではありません。こうした負担を軽減するものとして、知っておくと便利なのが「ショートカットコマンド」です。

キーボードでの特定の入力を使うと、マウス操作ではあれこれ面倒な操作が手軽に行なえるようになります。8.2.1.で挙げた「Ctrl+C」でコピー、というのはその 1 例です。

ここで紹介するものは、「メモ帳」に代表されるアクセサリや、「Word」、「Excel」に代表される「Office」など、Microsoft 製品の多くに共通です。また、「サクラエディタ」を含め、Windows 上で使われる Microsoft 以外のメーカーや個人が作成したアプリケーションでも同様に用いられることが少なくありません。

以下、特に用いる機会が多いと考えられるショートカットコマンドについて、いくつかご紹介します。

原則として、組み合わされたキー入力は、左に書かれたキーから先に押し、そのキーを離すことなく、右に書かれたキーを押すものとします。なお、マウス操作の手順は特に断りのない場合「Word」の場合です。

Ctrl+A すべて選択（開いているファイルの最初から最後までを一括して選択。
「編集(E)」→「すべてを選択(L)」に相当）

Ctrl+C 選択している文字列をコピー（「編集(E)」/右クリック→「コピー(C)」に相当）

Ctrl+X 選択している文字列を切り取り（「編集(E)」/右クリック→「切り取り(T)」に相当）

※「コピー」「切り取り」の操作を行なうことで、選択した文字列は「クリップボード」という一時保存領域に保存されます。なお、「切り取り」は編集可能なファイルにおいてしか実行できません（Web ページ上などでは通常動作しません）。

Ctrl+V 貼り付け（クリップボードの内容を貼り付ける。
右クリック→「貼り付け(P)」に相当）

これらを活用することで、文字による情報を手軽に扱えるようになりますが、他にも

役立つ操作は色々あります。以下では特に頻繁に利用されうるものに限ってご紹介します。

Ctrl+F 検索（「編集(E)」→「検索(F)」に相当）
Ctrl+H 置換（「編集(E)」→「置換(E)」に相当）
Ctrl+Z アンドゥ（直前の操作を取り消す。
「編集(E)」→「元に戻す(U) 入力」に相当）
Ctrl+Y リドゥ（直前に取り消した操作をやり直す
「編集(E)」→「繰り返し(R)入力」に相当）
Ctrl+S 上書き保存（「ファイル(F)」→「上書き保存(S)」に相当
編集内容が未保存の場合、「名前を付けて保存(A)」と同等になる）
Ctrl+P 印刷（「ファイル(F)」→「印刷(P)」に相当）
Alt+Tab アプリケーション・ウインドウの切り替え
Alt キーを離すと切り替え（Alt を離さずに Tab を繰り返し押していくと、起動中の全アプリケーション・ウインドウから選択が可能）

さらに極めれば、Windows 上のマウス操作のほとんどがショートカットコマンドで代用できてしまうらしいのですが、とりあえず最低限これだけ知っておけば、論文執筆や GREP などの作業もだいぶ楽になるでしょう。

8.2.5. GREP 結果の活用

8.2.5.1. サクラエディタ上での活用

以上で学んだように、GREP によってさまざまな用例を集めることができます。

さて、用例を集め終わったら、8.2.2.でも述べたように（p.95「＜注意！GREP 結果の保存＞」を参照）、まずその結果を保存しておかなくてはなりません。保存先はどこでもかまいませんが、デスクトップなどわかりやすい場所にしましょう。

保存したファイルのアイコンをダブルクリックすると、標準ではメモ帳（Notepad）で開いてしまいます。サクラエディタで開くためには、当該のファイルをデスクトップ上のサクラエディタへのショートカット（またはすでに起動しているサクラエディタのウィンドウ）にドラッグ＆ドロップするか、毎回そうするのが面倒な場合はテキストファイルを毎回サクラエディタで開くよう設定する必要があります（方法は以下の「参考：ファイルを開くプログラムを変更するには？」を参照）。

＜参考：ファイルを開くプログラムを変更するには？＞
（以下、Windows XP で、テキストファイルをサクラエディタで開くようにする場合について解説します）

①テキストファイル（どこに保存してあるどのファイルでも可。ここでは「○○.txt」として話を進めます）のアイコンを右クリックし、プロパティ(R)を選択する
②「○○.txt のプロパティ」ウィンドウが開くので、「プログラム：Notepad」の右側の「変更(C)」をクリックする
③開いた「ファイルを開くプログラムの選択」ウィンドウの右下の「参照(B)」をクリックし、→Program files→sakura→sakura.exe と選択していく
④「ファイルを開くプログラムの選択」ウィンドウの「プログラム(P)」一覧に追加されたサクラエディタのアイコンを選択し「OK」をクリックする
⑤「○○.txt のプロパティ」ウィンドウの下部にある「適用」→「OK」の順にクリック

テキストファイルのアイコンをダブルクリックしてみましょう。サクラエディタで開けば成功です。

さて、そうして再度サクラエディタで GREP の結果を保存したファイルを開くと、黄色のハイライトが消えており、どこに用例があるのかわからなくなっています。どうするのかというと、ファイル内で検索（Ctrl+F または「検索(S)」→「検索(F)」）を実行すれば、再び該当部分にハイライトがかかります。検索条件はファイルの一番上に残っているはずなので、それをコピーして検索ウィンドウに貼り付ければすぐに検索を実行できます。さらに、検索実行後は F3 キーを押すと次の例、Shift+F3 で前の例というように、前後の例にも簡単に移動できます。

ただ、GREP 結果における引用は改行によって途切れてしまうため、前後の文脈がわからない場合があります。特に会話文では、台詞 1 つだけ読んでも意味がわからないことが多いでしょう。そうした場合は、「タグジャンプ」という機能が役立ちます。

タグジャンプは、検索対象となったファイルの該当部分をすぐ参照するための機能です。GREP 結果のファイルで、気になる用例がある行にカーソルを置いて、F12 キーを押す（または「検索(S)」→「タグジャンプ(T)」を選択する）と、たちどころに別ウィンドウが開き、元ファイルの用例がヒットした部分を見ることができます。ただし、GREP 実行後に元ファイルを移動・削除してしまうとエラーになってしまうので、注意してください。

タグジャンプは、GREP 結果行頭のファイルパス（元ファイルの場所、ファイル名を、階層的に示す文字列）およびカンマで区切られた、行数・文字数を表す数字を利用して行

なわれます。したがって、これらを削除すると使えなくなってしまうので注意してください。

8.2.5.2. Excel への展開

さらに便利な方法として、Excel への展開の仕方をご紹介します。

まず、GREP 結果のテキストファイルをサクラエディタで開いているときに、Ctrl+R（または「検索(S)」→「置換(R)」）を選択し、「置換前(N)」の条件を「,[1234567890]+」、「置換後(P)」は空白のままにして「すべて置換(A)」を選択します。こうすることで後述する「カンマ区切り」の数を最小限に抑えます。用例の所在について、文字数の情報は削除されますが、行数は保存できます。

次に、同じく「置換」で「置換前」を「: 」に、「置換後」を「,」にして「すべて置換」を選択します。置換前の文字列は、半角コロンの後ろに半角スペースを入れたものであることに注意してください（スペースを入れないと、ファイルパスなどの情報までおかしくなってしまうので注意してください）。これによって、ファイルの情報と用例を含む文との間に「カンマ区切り」を施します。

画像(8-2)□で囲んだ部分がこのようになっていれば OK

最後に、Shift+Ctrl+S（Ctrl+S ではないので注意。「ファイル(F)」→「名前を付けて保存(A)」を選択でも可）で、ファイル名の後ろの「.txt」の部分を削り、代わりに「.csv」として保存します。

以上を実行してサクラエディタを終了し、保存したファイルを確認してみましょう。アイコンが このようになっていれば成功です。ダブルクリックしてみると、Excel が立ち上がり、ファイルパスが A 列、本文が B 列に表示されるはずです。

こうして作成した csv という形式は、実質的にテキストファイルと同じ構造で、カンマ

で区切られた部分ごとにセル分けする（たとえば、「a,b,c」→「a|b|c」となる）だけの簡素なものです。必要に応じてサクラエディタでも開くことができ[58]、タグジャンプも利用できます。ただし、上記の方法で作成した csv ファイルには行数しか保存できないため、当該の用例が存在する行に移動したあとは自分で用例を探さなければなりません。

8.2.5.3. Excel での応用・サクラエディタとの連携

csv 形式は書式情報を含むことができず、せっかく色替え、装飾など Excel ならではの視認性が高い編集をしても、そのまま上書きするだけでは意味がなくなってしまいます。したがって、それらを残したいときは Excel のメニューから「ファイル(F)」→「名前をつけて保存(A)」を選び、「.xls」形式で保存する必要があります。

txt や csv といった形式のファイルは、サクラエディタで開くことができ、タグジャンプなど便利な機能が利用できますが、xls 形式にすると互換性はなくなり、基本的に Excel でしか利用できなくなります。よって、ファイルパスは xls ファイル上ではそれほど重要でなくなり、削除してもいいことになります。Excel でパス名（各行頭に共通の、C:¥～フォルダ¥の部分）を空白に（＝「置換後」に何も入れないまま）全置換し、A 列にファイル名だけが表示されるようにしてもいいでしょう。

用例のある箇所については、太字にする、色を変えるなど、わかりやすくする方法は人それぞれ考えられます。ただ、上述の方法で作成した csv ファイルを元にそうした操作を行なう際、Excel 上では正規表現を用いた検索を行なえないため、最初に GREP を行なった段階で正規表現を用いていた場合、Excel 上ではどこに用例があるのかわからなくなることがあります。その場合、必要に応じて当該のセル・行を選択→コピーし、サクラエディタに貼り付けて、サクラエディタ上で正規表現を用いて検索することで解決できます。用途によって 2 つのプログラムを使い分けるようにしましょう。

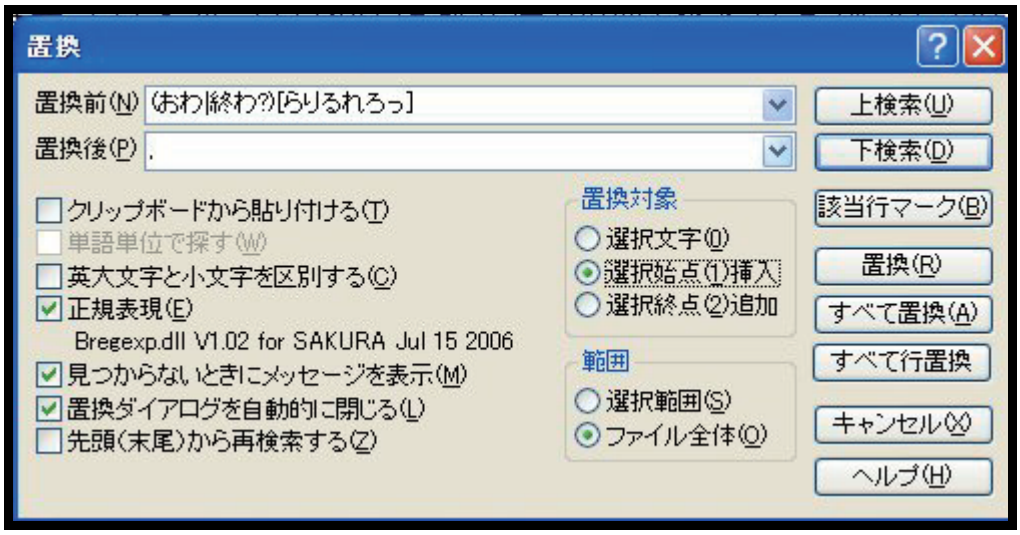
集める用例によっては、数が莫大になり、まとめてデータを整理・編集できたほうがありがたい場合も多々あります。副詞などであれば「□□」→「□□★」（□□は、検索文字列）のように、「★」などの目立つ記号をつけて「全置換」したり、「□□」→「,□□,」として csv のセル分けに反映させたりすることができます。検索条件に正規表現を使った場合、以下の画像（8-3）のように「置換」ウィンドウの「置換対象」を変更し、挿入・追加することで同様の変更が可能になります。該当部分の前後にカンマを入れたい場合は、「挿入」「追加」で各 1 回、置換を実行する必要があります（「置換前」の文字列は、言うまでもなく GREP 実行時の条件と同じです）。

一行に該当する文字列が複数存在する場合など、手作業で調整しなければならないこともありますが、かなり負担は軽減できると思います。

---

[58] csv 形式のファイルをサクラエディタで開く場合は、デスクトップ上のサクラエディタへのショートカット（またはすでに起動しているサクラエディタのウィンドウ）にドラッグ＆ドロップする。上述のテキストファイル（参考：ファイルを開くプログラムを変更するには？）と同じ方法で毎回サクラエディタを使うようにも設定できるが、標準では Excel を使うようにしておいた方が何かと便利。

Excel の利用法について、さらに詳しくは第 9 章を参照してください。



画像(8-3)置換ウィンドウの「置換対象」を変更

8.2.6. GREP の限界

これまで述べてきたように、GREP は場合によって手作業での取捨選択・編集が必要になることはあるものの、少なくとも欲しい用例のある場所を絞り込むのには非常に有用な場合が多々あります。ただ、用例を探すのに GREP を使うこと自体が難しくなる場合もあります。たとえば、現代語の作品から「可能動詞の用例を集める」「ク活用の形容詞を集める」というように、さまざまな例が混在するような用例の採集に、一括して GREP を用いるのは現実的ではありません。

また、用例採集に GREP を用いることが「できる」といっても、それは規範的な話であって、たとえば「う、うっ……かり、見過ごして、いた……」のように演出のため途中に句読点や三点リーダなどの記号を挿入されてしまうと、普通に「うっかり」で検索してもヒットしなくなる、というように、GREP から漏れる場合が出てきます。このような事実からも、GREP だけでデータを集め、研究を行なうことは、正当性を保つという意味で避けなければいけないことがわかります。

以上、日本語学の用例を集める際に役立つ GREP の方法と、データ整理の仕方について概説しました。

正規表現を用いる際に見落としがちな問題についても適宜言及しましたが、それらの多くは大量の実例を観察する中で気づくはずのものです。

GREP の結果だけ見ていても、気づかない問題はたくさんあるはずです。たとえば手作業で実例を 1000 例集めて観察し、「まだ足りない！」というときには GREP が有効になるかもしれませんが、100 例しか見ていない段階で用いるのは非常に危険なことです。十

分な実例に触れないまま GREP を使おうとすると、上述のようにそもそも用いることができないということにさえ気づかない、ということも起こりえます。まずは機械に頼らず、手作業でじっくりと用例を集め、それらと向き合うことから始めるのが正しい用例採集のあり方です。GREP は、そうした作業の中で明確な問題意識を持ってから初めて用いるべきでしょう。

【 論文提出直前に、GREP 正規表現の間違いに気づいても「あとの祭り」 】

第 9 章　データの分析②：表計算ソフトでの集計

～～本章でできるようになること～～
①　「Excel」を使って、大量の用例を 1 つのファイルにまとめることができるようになる
②　①で作成したファイルを使って、用例を分類したり、ある特徴を持つものを取り出したり、用例の数を調べたりできるようになる

本章では、表計算ソフトを使って、用例の分析、集計を行ないます。以下、表計算ソフトのうち、広く使われている Microsoft 社の「Excel」を使って、用例を表にまとめ、分析をする方法の基本を説明します。

9.1. Excel とは？

Microsoft Excel（エクセル。以下単に「Excel」と呼ぶ）は、Microsoft 社が開発した表計算ソフトです[59]。「表計算ソフト」とは、数値データを表形式にまとめ、さまざまな統計処理をするためのソフトです。よって、言語研究において用例分析をするために作られたソフトではありません。しかし、Excel の持つ機能を使って、用例をある観点から分類するため、用例を並べ替えたり、ある特徴を持つ用例のみを取り出したりする作業が、容易に正確にできるようになります。

Excel を使う意義としては次の 2 点が挙げられます。

○作業の効率化（オートフィル、並べ替え、オートフィルタなど）

○データの信頼度向上（入力規則設定、関数の設定など）

Excel の機能はすべて挙げるときりがないため、本章では基本的な Excel の使い方についてのみ説明します。本章を読んで身につけた機能では物足りなくなった場合、自主的に教則本などで学習を進めていけば言語学研究の手助けとなるでしょう。しかしソフトの利便性に頼ってすぐにデータを Excel に入力しようとするのではなく、第 6 章の GREP 検索でも述べたように、まずは本やデータとしっかり向き合いしっかりした問題意識を持ち、その問題解決のためのあくまで「ツール」として Excel を使用してほしいと思います。

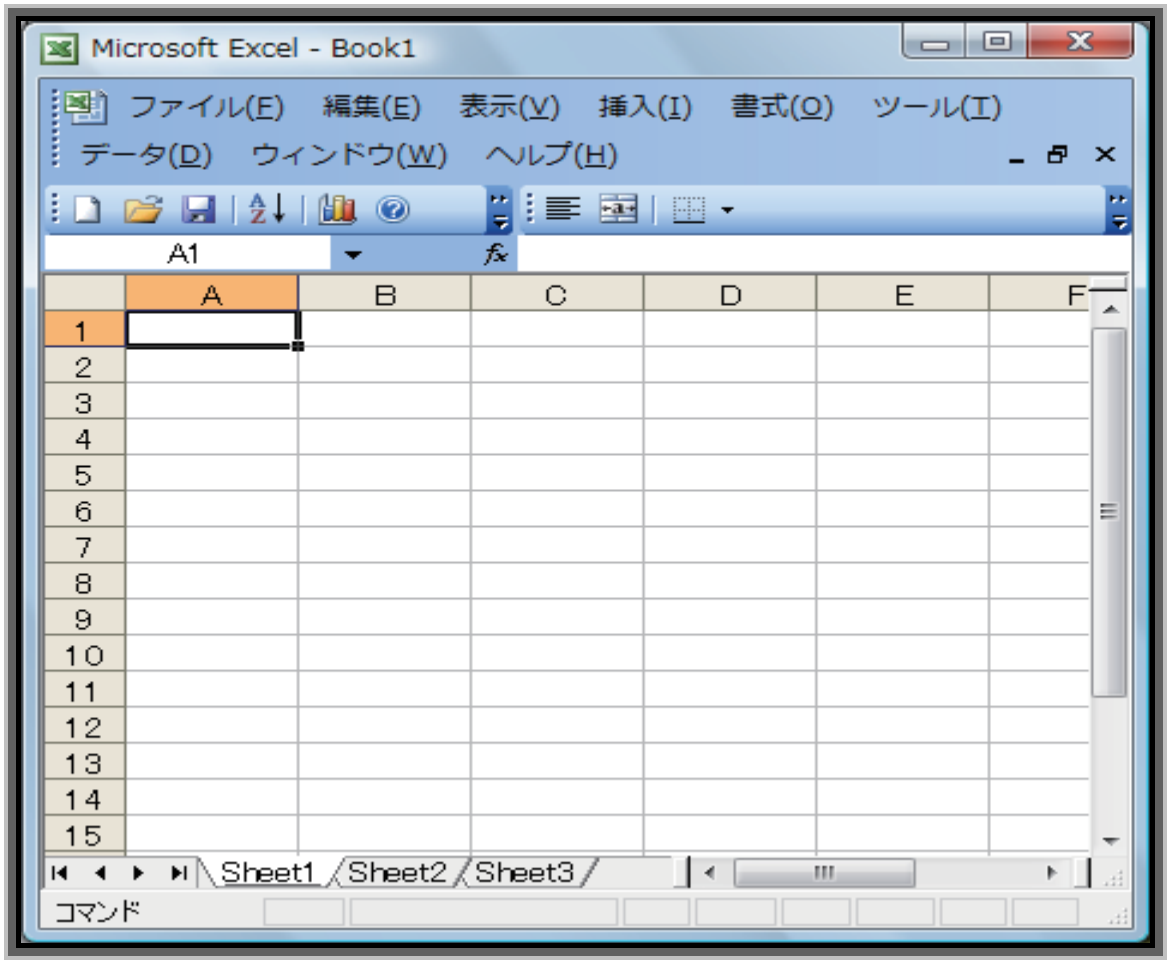
[59] 本章の記述は Microsoft Excel 2003（拡張子「.xls」）で作業することを想定したものである。2007 年に発売された Microsoft Excel 2007（拡張子「.xlsx」）では 2003 に比べデザインや使いやすさの点でグレードアップされているが機能自体に大きな変化はなく、現段階では 2003 の方が大学や学生が持つパソコンでの普及率が高いと考え今回は 2003 についての説明に留める。

9.2. Excel の使い方

9.2.1. Excel の見方

下の画像（9-1）は、Excel の初期画面です。レンガの壁のように、小さな四角形の集まりが大きな四角形を作るように、縦と横にマスが並んでいます。1 つのマスを「セル」と呼び、縦方向に並んでいるセルの集合を「列」（「A. B. C…」と番号が振ってある）、横方向に並んでいるセルの集合を「行」（「1. 2. 3…」と番号が振ってある）と呼びます。セルの名前は、縦の行と横の列のどの位置にあるかによって決まります。たとえば画像（9-1）で、太枠で囲まれているセルは、横が「A」の列、縦が「1」の行なので、「A1」となります。

また下のほうに「sheet」（以下「シート」）というものがあります。これは言わばノートの 1 ページのようなものです。9.2.4.で改めて触れますが、Excel ではこのシートを使うことで 1 つのファイル内で異なるデータを処理したり、作業の過程を残したりすることができます。



画像(9-1)Excel の初期画面

9.2.2. 作業の流れ

基本的な作業の流れは、以下の通りです。

＜データを作成する＞（9.2.3.参照）

《1》 一番上の行に分類項目を入力する

《2》 母データとなる用例や語を入力する（必要に応じてテキストファイルなどから取り込む）

《3》 分類項目に従い、各用例の情報を入力する

＜データを分析する＞（9.2.4.参照）

《4》 「並べ替え」「オートフィルタ」機能を使って、用例を取り出す

《5》 データを集計する

《6》 分析過程を残しておく

9.2.3. データを作成する

まず、用例データを作成します。操作手順の説明には 2007 年度に本章執筆者が実際に論文執筆の際作成したデータを本章執筆用に改編したものを使用します。

※論文内容とデータの紹介

本論文では、石井正彦氏の論文「現代複合動詞の語構造分析における一観点」(1983)で述べられた、前項動詞・後項動詞それぞれのアスペクト的性質に注目した複合動詞の語構成の分析方法の有用性を実際の用例によって検証しようとしたものである。まず小説から「叩き壊す」「走りまわる」など「動詞＋動詞」によって構成されている動詞を 100 例収集し、前項動詞と後項動詞のアスペクト的性質を石井論文で定義された①～⑥までのタイプ[60]に分類している。また局面動詞[61]を持つもの、派生動詞[62]、熟語動詞[63]と考えられるものは別に考えるためそれぞれに項目を立てておいた。

《1》一番上の行に分類項目を入力する

データを入力する前にどのような分類項目を立てるかを考えて、先に一番上の行にその

---

60 それぞれのタイプの内容は①:「-ている」という形をとらず《状態》を表す、もしくは「-ている」という形はとるが、《状態》しか表わせない ②:「-ている」という形で「動作の継続」を表し、主体の《動作》を表す自動詞 ③: 「-ている」という形で「動作の継続」を表し、主体の《動作》を表す他動詞 ④:「-ている」という形で「動作の継続」を表し、主体の《動作》と同時に客体の《変化》をも表す他動詞 ⑤:「-ている」という形で「変化の結果の継続」を表し、主体の《変化》を表す自動詞 ⑥: 「-ている」という形で「変化の結果の継続」を表し、主体の《変化》が伴う主体の《動作》を表す他（再帰）動詞

61 開始や完了など、動作の局面を表すもの。～し始める、～し終える等

62 複合動詞を前項動詞・後項動詞の 2 つの構成要素に分けた場合、一方の要素を省くと文が成り立たなくなるもの、たとえば「名前をノートに書き込む」は「名前をノートに書く」といは言えるが、「名前をノートに込む」とは言えない。他に「信じきる」等

63 前項動詞・後項動詞のどちらも単独では使えないようなもの、「繰り返す」等

分類項目を入力しておきましょう。セルに文字を入力するには、入力したいセルをクリックしたあとにキーボードで文字を入力します。一度入力し終わったあとに入力内容の一部を修正したい場合は、セルをダブルクリックして修正したい位置にカーソルを移動させてから修正してください。セルを一度クリックしただけでは先に入力した内容は消されて新たにデータ入力することになるので注意して下さい。

データの種類にもよりますが、たとえば動詞についての分析の場合、次のような分類項目（分類の観点）の列を設定することが考えられます。

「番号」…通し番号を振る列
「用例」…母データの入力先となる列
「読み仮名」…名詞、動詞など語レベルのデータを分析する際、読み仮名を入力する列
「動詞の自他」…自動詞・他動詞などを入力する列
「テンス・アスペクト的性質」…未来・過去・動作・変化などを入力する列
「活用形」…連用形・終止形などを入力する列
「モダリティ」…命令・意志・疑問形式などを入力する列
「出典」…データの出典を入力する列
「メモ」…分析過程で疑問点などを入力する列（意外に重要）

この他にも研究分野によってはそれぞれに必要な項目を立てる必要があります。あらかじめ検討してから項目を立てないと、結局何を分析したいのかわからなくなってしまうので気をつけましょう。

下に示す例では、「局面（局面動詞を含むもの）」「熟語（熟語動詞と考えられるもの）」「派生（派生動詞と考えられるもの）」という項目を立て、普通の複合動詞とは別に考えなければならない用例にチェックをいれておけるようにしています。（画像（9-2））

画像(9-2)

ここでは C1 の「複合動詞」という項目が隠れてしまっていますが、**列 C の枠の右端をダブルクリック**することで文字数に応じて列幅を調整できます。また他の列についても同様の操作で列の幅を整えておきましょう（画像（9-3））。この機能はどの列、行でも使える

ので、ある程度データ入力が進む度に同様の作業をすることで表全体を見やすくしておくとよいでしょう。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
1	番号	ページ	複合動詞	読み	前項	後項	前アス	後アス	前自他	後自他	局面	熟語	派生	例文	
2															
3															
4															
5															
6															
7															
8															

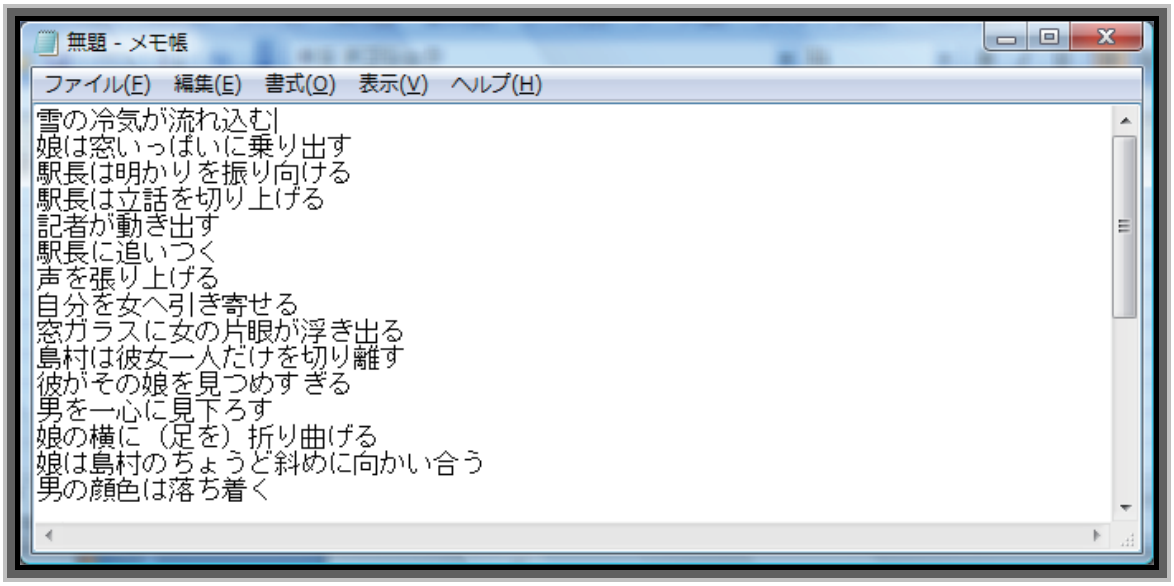
画像(9-3)

《2》母データとなる用例や語を入力する（必要に応じてテキストファイルなどから取り込む）

表の分類項目を立てたあとはいよいよデータを入力します。データを入力する方法としては各セルそれぞれに直接キーボード入力する方法と、「Word」や「メモ帳」などで作成したテキストファイルから貼り付ける方法があります。前者は単純で確実な方法ですが、既にデータがある場合や大量のデータを入力する場合は後者のほうが早く正確に入力できる場合があります。後者の手順は以下の通りです。

Excel に貼り付けられるように、テキストファイルを整える

既に、「GREP 検索」の作業などを行なって得られたテキストファイルがあり、そのデータを Excel に貼り付ける場合は、データを貼り付け用に加工する必要があります。加工といっても複雑なものではなく、データの区切りを改行しておくだけです。（画像（9-4））

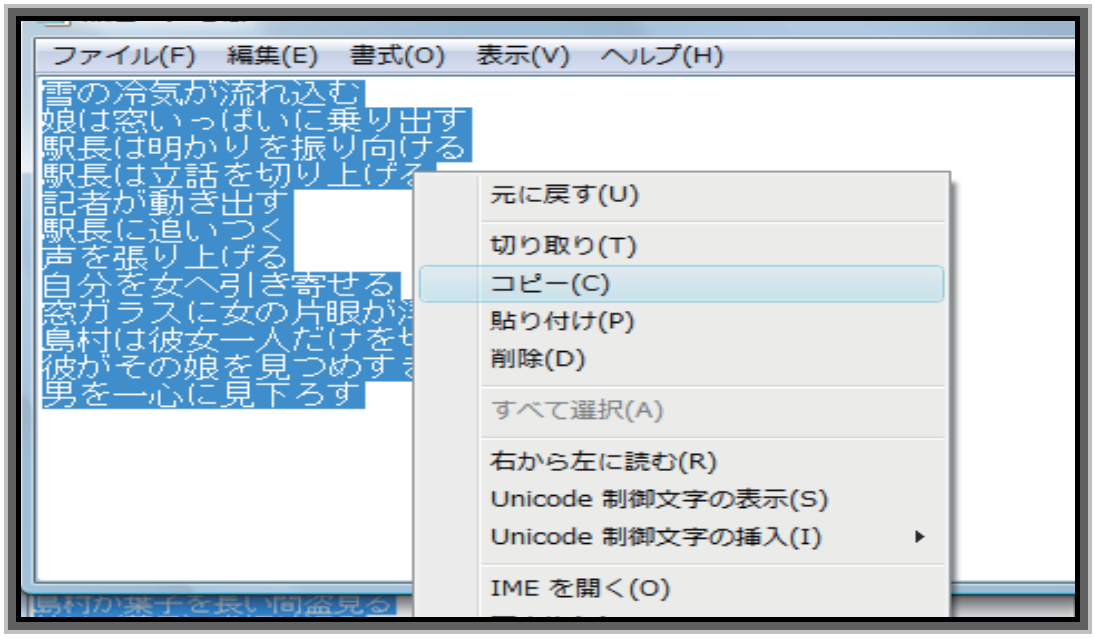


画像(9-4)

テキストファイルから Excel ファイルに用例を貼り付ける

1.の作業を施した用例を、Excel に移します。移し方は簡単で、まず用例をすべて「コピー」します。（画像（9-5））

続いて Excel の「用例」のすぐ下のセル N2 を選択して「貼り付け（ペースト）」しましょう。この「コピー」→「貼り付け（ペースト）」という一連の操作を「コピー&ペースト」と呼びます。この操作をしたら列幅も調整しておきましょう。（画像（9-6））



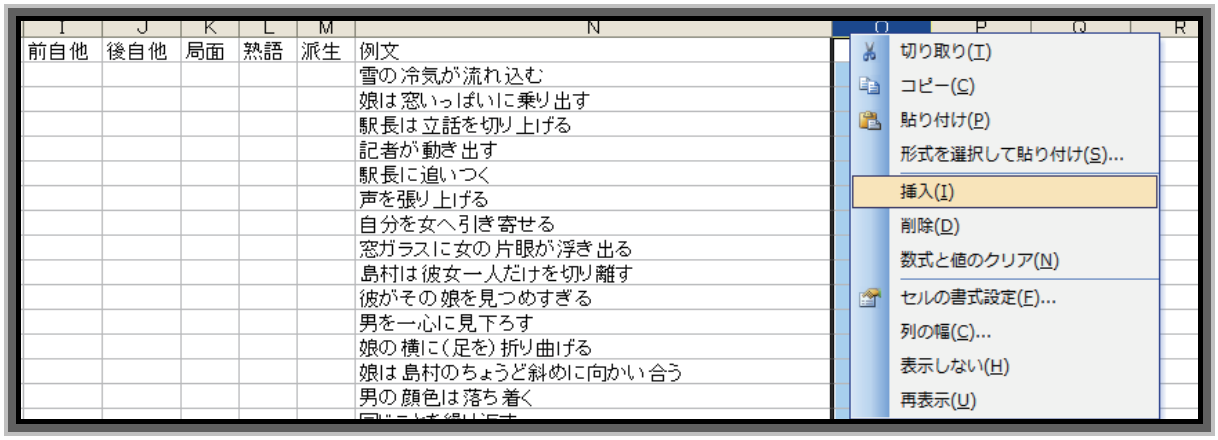
画像(9-5)

I	J	K	L	M	N
前自他	後自他	局面	熟語	派生	例文
					雪の冷気が流れ込む
					娘は窓いっぱいに乗り出す
					記者が動き出す
					駅長に追いつく
					声を張り上げる
					自分を女へ引き寄せる
					窓ガラスに女の片眼が浮き出る
					島村は彼女一人だけを切り離す
					彼がその娘を見つめすぎる
					男を一心に見下ろす

画像(9-6)

【行、列の挿入】

ここまできて、新たに追加したい項目がある場合や、用例を追加したい場合は新たに列や行を追加する必要があります。たとえば上の例で列 N と列 O の間に「出典」という分類項目を作りたい場合は**「列 O」を選択→右クリック→「挿入」**で列を 1 列分追加できます。(画像（9-7))



画像(9-7)

※2 行（2 列）以上挿入したい場合

挿入したい行および列の数だけ選択した上で「挿入」を行ないます。たとえば 3 行目と 4 行目の間に「駅長は明かりを振り向ける」「駅長は立ち話を切り上げる」の 2 文を入れたい場合は**「行 4」から「行 5」までを選択→右クリック→挿入**で新しい行を 2 行分追加することができます。(画像（9-8）→画像（9-9))

画像(9-8)

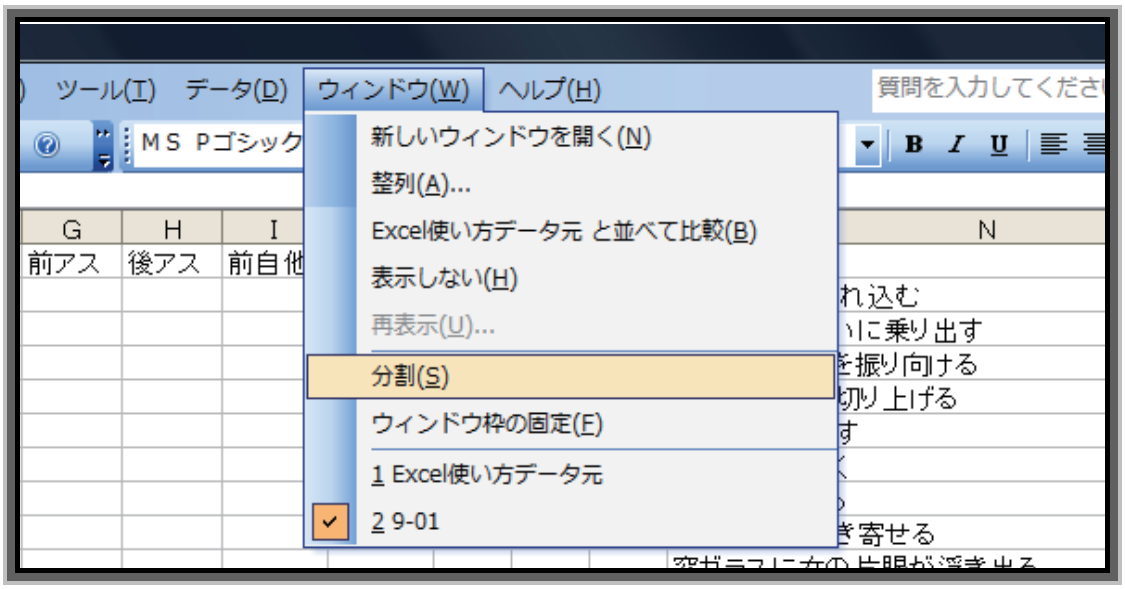
画像(9-9)

【分類項目行の固定（ウィンドウの分割)】

画面上で一度に表示できるのは、せいぜい 30～40 行です。多くの用例を扱う場合、当然、縦方向、下のほうに長く続きます。下のほうの用例を画面に表示させると、一番上にある項目名の行は、見えなくなってしまいます。これでは不便ですので、下のほうを画面に表示させても、常に項目名の行が見えるようにしておきます。

まず、**「A2」を選択→ツールバー「ウィンドウ」を選択→「分割」を選択**します。(画像（9-10))

そうすると、1 行目、分類項目名の行とその下の行が分割して表示され、2 行目以降のどんなに下を表示させても、常に 1 行目は表示されるようになります。(画像（9-11))



画像(9-10)

G	H	I	J	K	L	M	N
前アス	後アス	前自他	後自他	局面	熟語	派生	例文
							雪の冷気が流れ込む
							娘は窓いっぱいに乗り出す
							駅長は明かりを振り向ける
							駅長は立話を切り上げる
							記者が動き出す
							駅長に追いつく
							声を張り上げる
							自分を女へ引き寄せる
							窓ガラスに女の片眼が浮き出る
							島村は彼女一人だけを切り離す
							彼がその娘を見つめすぎる
							男を一心に見下ろす
							娘の横に(足を)折り曲げる
							娘は島村のちょうど斜めに向かい合
							男の顔色は落ち着く

画像(9-11)

《3》分類項目に従い、各用例の情報を入力する

以上の作業で、表の形は整いました。あとは、ひたすらそれぞれの用例の情報を入力していきます。ただしここでもすべてをキーボード入力しなくてもすむような、入力を補助する機能がいくつかあるので紹介しておきます。

【オートフィル機能】

たとえば「番号」の項目で 1 から順番に番号を振る場合や、「出典」の項目で同じ出典名を続けて入力したい場合に自動で入力できる機能がオートフィル機能です。数字や日付、曜日など順番に入力する場合ではまず起点となるセルに数字を入力します。例の場合には

①A2 に「1」と入力

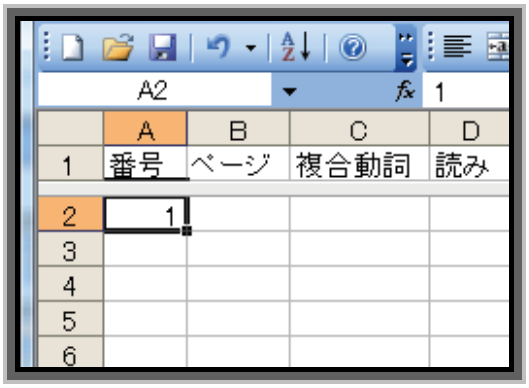
②A2 の枠右下隅でカーソルが「✚」になる箇所で左クリック（画像（9-12））

③クリックしたままデータを続けて入力したい行までカーソルを下げてクリックを離す

④すべてのセルに「1」が入力される（画像（9-13））

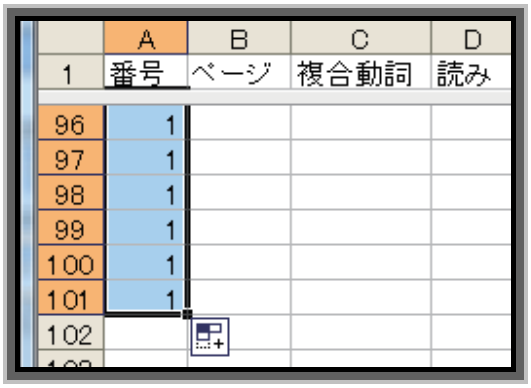
⑤マークをクリック→「連続データ」を選択（画像（9-14））

⑥数字が 1,2,3,4…というふうに連続したデータとして入力される（画像（9-15））



画像(9-12)

A2 右下隅✚になる場所をクリック

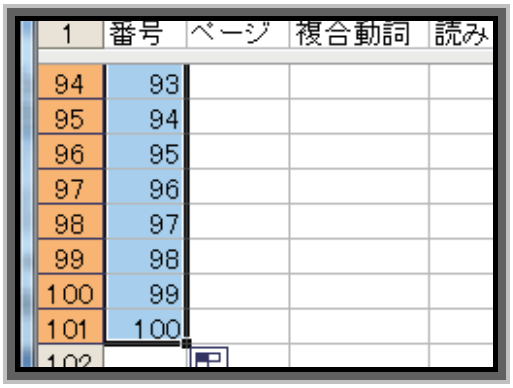


画像(9-13)

画像(9-13)全データ分のセルにオートフィル

画像(9-14)

をクリック→連続データ



画像(9-15)

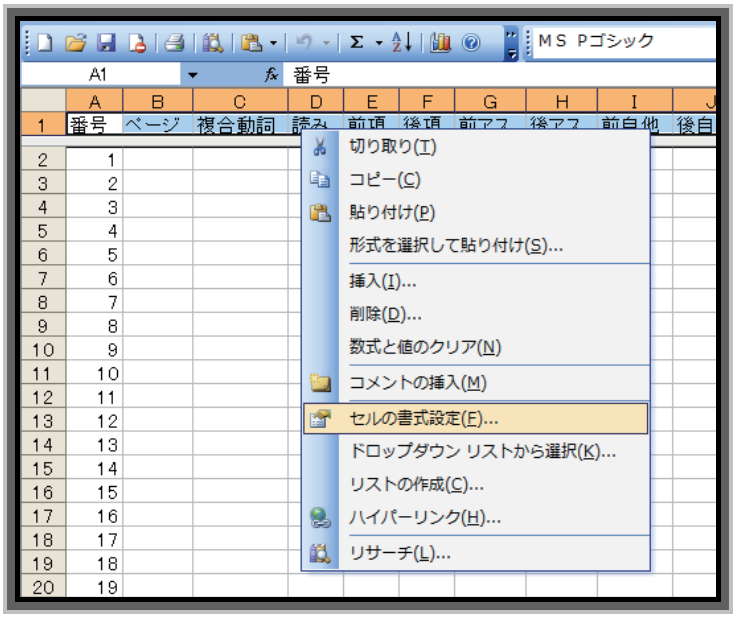
画像(9-15)連続データの入力完了

ちなみに、この作業が面倒な人は始めに A2 に「1」、A3 に「2」と入力してから、A2 から A3 までを選択して同様にオートフィルをするとコンピュータが自動的に「これは 1,2,3,4 と続いていくのだな」と予測して入力してくれます。

【セルの書式設定（フォントと表示形式)】

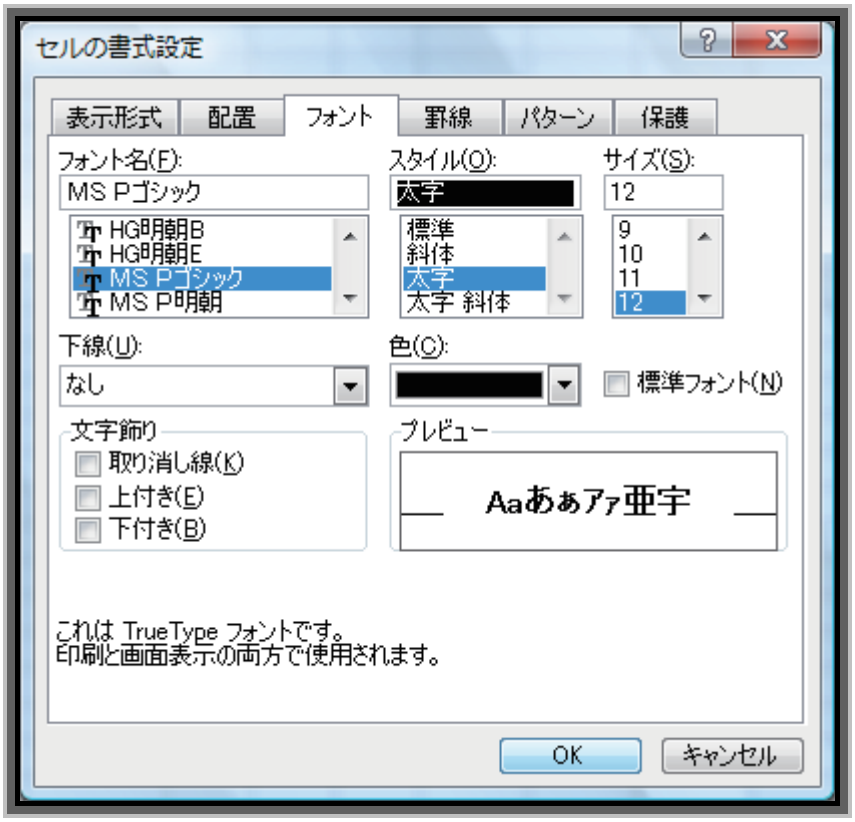
フォントの設定

Excel ではセル単位で書式を変更することができます。ひとつのセルだけでなく、複数のセルや、列、行を選択することもできます。手順は**セル（または行、列）を選択→右クリック→セルの書式設定**でフォントの変更や、太字などの文字装飾といった設定ができます。（画像（9-16）～画像（9-17)）



画像(9-16)

一番上の分類項目が書いてある行を選択して右クリック→セルの書式設定



画像(9-17)

「フォント」ではフォント、スタイル、サイズなどを変更できるほか

「配置」「罫線」「パターン(色)」を設定することができます

【表示形式（番号に識別記号をつ付ける)】

「表示形式」という項目を設定することで、たとえば「番号」に入力した 1～100 までの数字の先頭に「yu-1」のようにより詳しい識別記号をつけることができます。これはたとえば複数の出典から集めたデータに対してどの出典からのデータかをすぐにわかるようにするために便利な機能です。

表示形式の設定（識別記号の追加）の手順

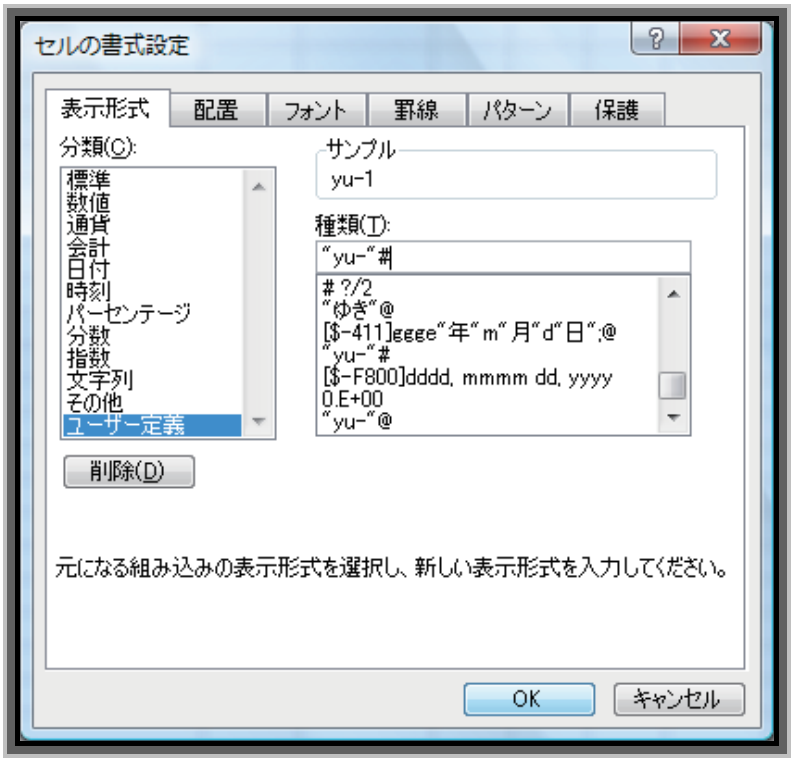
①表示形式を変更したいセル（行、列）を選択する

②右クリック→セルの書式設定

③「表示形式」の「分類」から「ユーザー定義」を選択

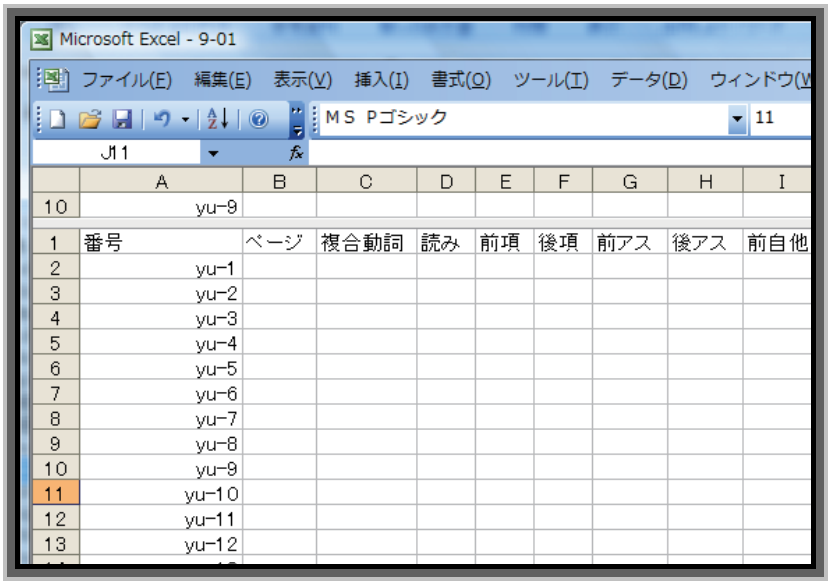
④「種類」に形式を入力（下の例は「yu-」という文字を先頭につける場合）（画像（9-18））

⑤「OK」を選択



画像(9-18)

④の形式の入力方法ですが、簡単にいうと「"○○"」のように「"」で挟まれた部分が追加され、「#」は数字を表示するということになります。もし「#」のかわりに「@」を入力すると「@」は文字を表示する記号なので数字にはこの表示形式が適用されないことになります。「@」を使う例では、「新宿区、渋谷区、世田谷区、…」のようなデータの先頭に「東京都」とつけたい場合、表示形式は「"東京都"@」となります。



画像(9-19)

【セルの分割】

GREP 検索などを使って集めたデータにははじめから数字や記号がふられているものがあります。(「(12345) 今日は雨だった。」など) これでは 1 つのセルの中に「記号」と「用例」という 2 つの情報が入ってしまっているので、これを別々のセルに分割しておきます。

セルの分割の手順

①分割したいセルを選択する

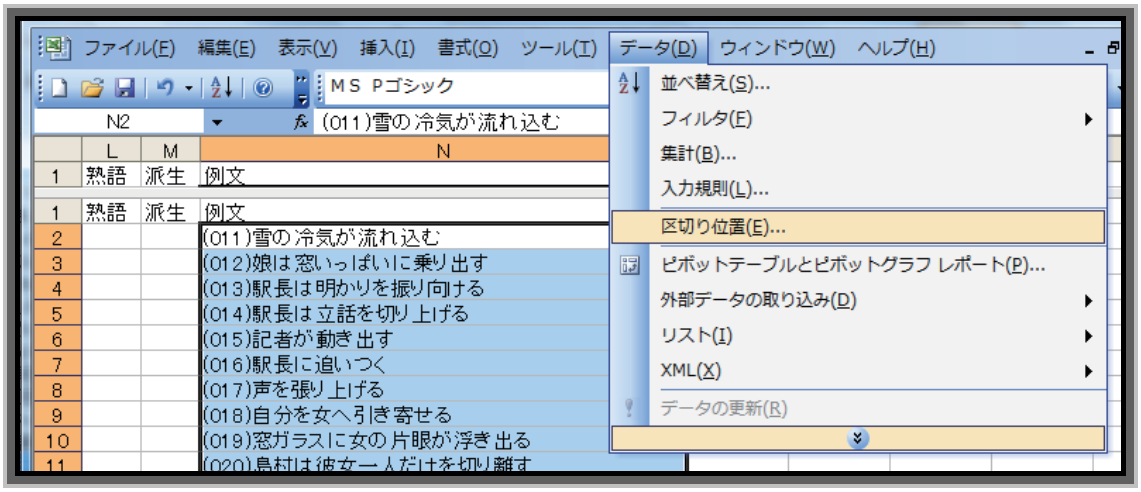
②ツールバー「データ」から「区切り位置」を選択（画像（9-20））

③「カンマやタブなどの区切り文字によってフィールドごとに区切られたデータ」を選択して「次へ」

④「区切り文字」として区切りになる記号を選択、候補にない場合は「その他」を選択して記号を入力する（「連続した区切り文字は 1 文字として扱う」にチェックをいれておく）（画像（9-21））

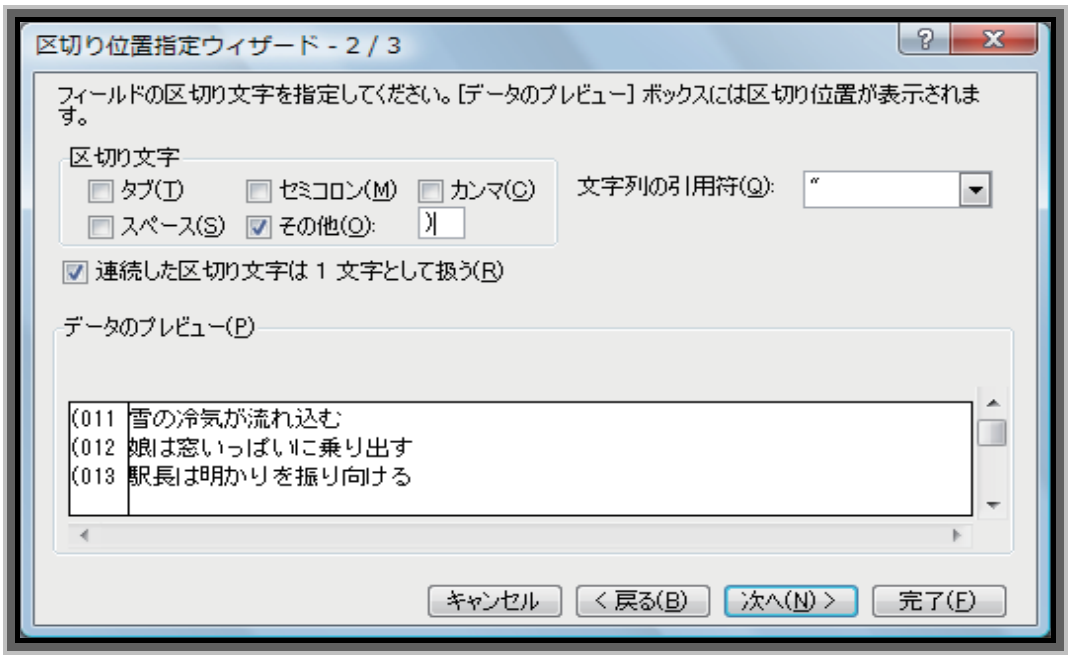
⑤データのプレビューで正しく区切られていることを確認して「完了」

以上でセルが分割されます。分割されると新しいセルが作られるので、不必要なセルが生じた場合は削除するなどして必要なものだけを残しましょう。（画像（9-22））



画像(9-20)

分割したいセルを選択して「区切り位置」を選択



画像(9-21)

データのプレビューで正しく区切られているか確認して「完了」

画像(9-22)

分割後　「(011」などの記号が不要なら削除してしまいましょう

＜注意！忘れないで！！データの保存＞
　Excel に限らずですが、コンピュータを使って作業をする場合は必ずこまめに保存するようにしましょう。突然パソコンがフリーズしたり、勝手に再起動が始まったりといつ作業が中断してしまうかわかりません。これがコンピュータの難点とも言えるでしょう。さらにある程度きりのいいところまで進めばフロッピーやメモリースティックなどの別記憶媒体にも保存しておくことで万一パソコン自体が壊れた！という時も対処できます。「念には念を」で作業を進めていきましょう。

【読み仮名自動入力（関数 PHONETIC）】
　データに漢字が含まれる場合、その読み仮名を別に示しておくほうが語の活用を考えたりする場合に役に立ちます。ここでは用例の中の動詞の読み仮名を自動で入力したい場合を例にとって紹介します。

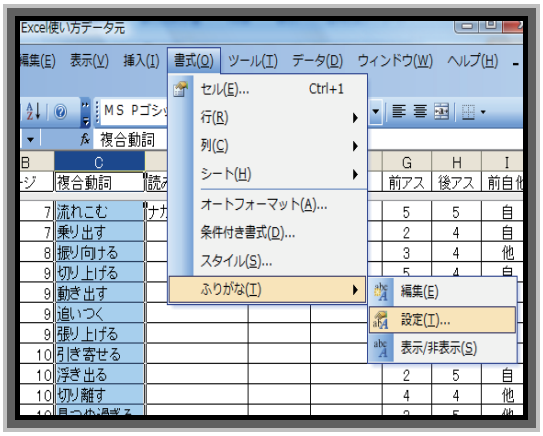
読み仮名自動入力の手順
①「動詞」のセルに用例データに使われている動詞の原形を入力
②「読み」のセル D2 に「=phonetic(C2)」と入力する（画像（9-23））
③D2 に C2 の読み仮名が自動で入力される　※初期設定では全角カタカナで入力される
④D2 の右下隅をクリックして一番下までオートフィル（画像（9-24））

画像(9-23)
「読み」に「phonetic(c2)」と入力

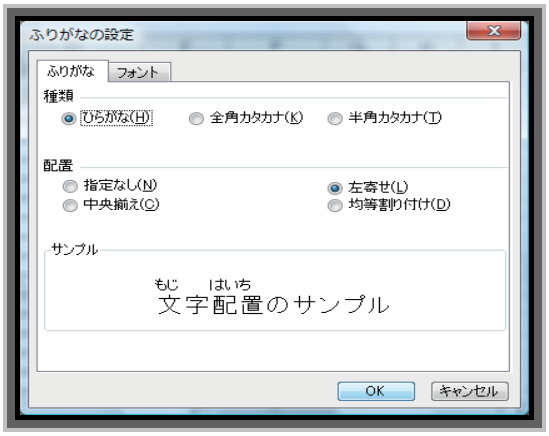
画像(9-24)
正しく入力されたらオートフィル

　ちなみに読み仮名をひらがなで表示させたい場合には **C 列を選択→ツールバーから「書式」を選択→「ふりがな」の中の「設定」を選択**（画像（9-25））**→「ふりがな」の種類**

で「ひらがな」を選択（画像（9-26））→「OK」を選択としたあとで②以降の作業をするとひらがなで読み仮名が入力されます。



画像(9-25)
C 列を選択「書式→ふりがな→設定」



画像(9-26)
種類を「ひらがな」にして「OK」

ここで使った「=phonetic(c2)」とは**関数**と呼ばれるものの仲間です。この関数が Excel 最大の特徴ともいえます。関数を使うことでおそらく我々が思いつく「こんな計算がしたい」というものはすべて自動で計算してくれます。ただしあまりに種類が多いのでまずは基本的なものを教則本などで学習することをお勧めします。「利息が定期的に支払われる有価証券に対する未収利息を計算」といった財務に関する複雑なものもありますが、本章では言語研究において有効であろう関数についてのみ紹介することとします。ただし基本的にはどの関数も**「=関数名（関数の分析対象とするセル番地）」**というふうに入力します。関数の分析対象とするセル番地（上の例では c2）はキーボード入力をしなくても「=phonetic()」まで入力してカーソルを c2 までもっていきクリックすることでも入力することができます。

【ドロップダウンリストの作成】

次は入力する語がある程度決まっている項目に対して、あらかじめ入力する語のリスト（ドロップダウンリスト）を作っておいて選択できるようにしておく、という機能を紹介します。

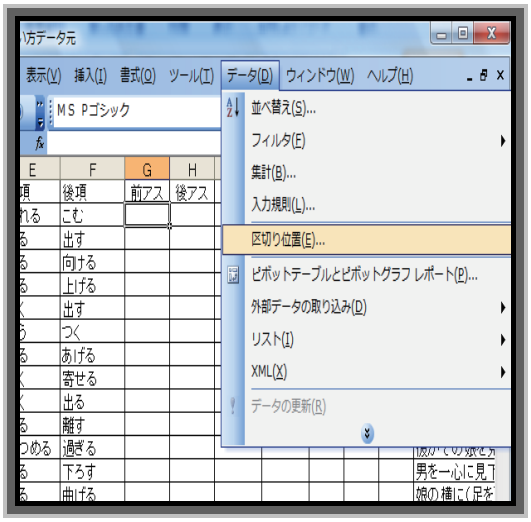
それでは例の「前アス」の入力をドロップダウンリストを使って行なってみましょう。

ドロップダウンリスト作成の手順

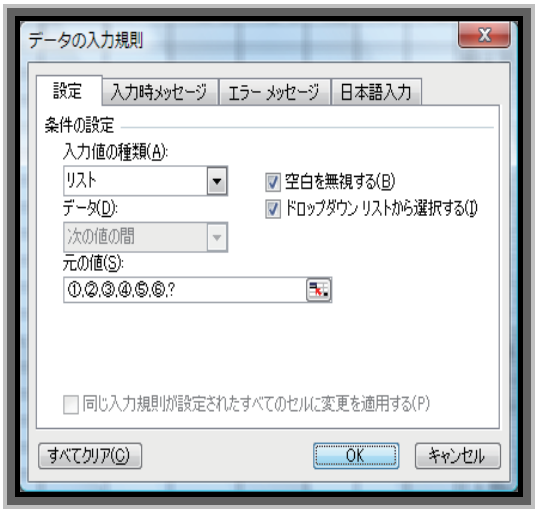
①G2 を選択しツールバーの「データ」から「入力規則」を選択（画像（9-27））
②設定の入力値の種類に「リスト」を選択
③「ドロップダウンリストから選択する」にチェックマークを入れる

④元の値に「①,②,③,④,⑤,⑥,?」と入力する（文字と文字の間はカンマ「 , 」）（画像（9-28））
⑤「OK」を選択
⑥G2 から一番下の行までオートフィル（画像（9-29））

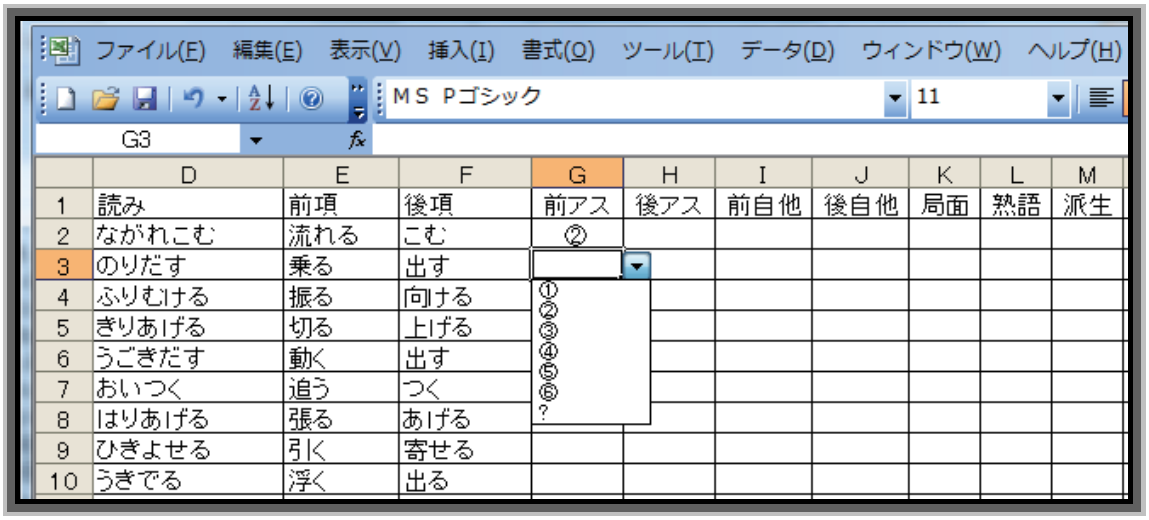
この作業をすることでキーボード入力する手間が省けると同時に、「①～⑥」「?」以外の文字は「前アス」の列に入力できなくなり、文字の打ち間違いや漢字の誤変換などを防ぐことができるのでデータの信頼性も上がります。「?」を設定するのは自他の認定に困った場合に選択するものとして用意しておくためです。同様に、もし「テンス」の項目にドロップダウンリストを作りたいのであれば、「過去,現在,未来,?」、活用系では「未然,連用,終止,連体,仮定,命令,?」のようにしておくとよいでしょう。



画像（9-27）
G2 を選択し「データ入力規則」



画像（9-28）
上のように入力して「OK」



画像(9-29)

オートフィルをすれば列全体にドロップダウンリストを反映できる

あとはリストから選択するだけ

以上の作業によって完成したのが（画像（9-30））です。オートフィル、関数、ドロップダウンリストを使うことにより手入力を極力減らし、効率性を高めるとともにデータとしての信頼性も高いものになります。

画像(9-30)完成画像

Microsoft Excel - Excel使い方データ元

番号	ページ	複合動詞	読み	前項	後項	前ア	後ア	前自	後自	局	熟	派	例文
yu-1	7	流れこむ	ながれこむ	流れる	こむ	5	5	自	自			○	雪の冷気が流れ込む
yu-2	7	乗り出す	のりだす	乗る	出す	2	4	自	他				娘は窓いっぱいに乗り出す
yu-3	8	振り向ける	ふりむける	振る	向ける	3	4	他	他				駅長は明かりを振り向ける
yu-4	9	切り上げる	きりあげる	切る	上げる	5	4	自	他	○			駅長は立話を切り上げる
yu-5	9	動き出す	うごきだす	動く	出す	2	4	自	他	○			記者が動き出す
yu-6	9	追いつく	おいつく	追う	つく	3	5	他	自				駅長に追いつく
yu-7	9	張り上げる	はりあげる	張る	あげる	3	4	他	他				声を張り上げる
yu-8	10	引き寄せる	ひきよせる	引く	寄せる	3	4	他	他				自分を女へ引き寄せる
yu-9	10	浮き出る	うきでる	浮く	出る	2	5	自	自				窓ガラスに女の片眼が浮き出る
yu-10	10	切り離す	きりはなす	切る	離す	4	4	他	他				島村は彼女一人だけを切り離す
yu-11	10	見つめ過ぎる	みつめすぎる	見つめる	過ぎる	3	5	他	自	○			彼がその娘を見つめすぎる
yu-12	11	見下ろす	みおろす	見る	下ろす	3	4	他	他			○	男を一心に見下ろす
yu-13	11	折り曲げる	おりまげる	折る	曲げる	4	4	他	他				娘の横に(足を)折り曲げる
yu-14	11	向かい合う	むかいあう	向う	合う	2	1	自	自	○			娘は島村のちょうど斜めに向かい合う
yu-15	12	落ち着く	おちつく	落ちる	つく	5	5	自	自		○		男の顔色は落ち着く
yu-16	12	繰り返す	くりかえす	繰る	返す	?	4	?	他			○	同じことを繰り返す
yu-17	12	垂れ下る	たれさがる	垂れる	下がる	5	5	自	自				男の外套の裾が垂れ下る
yu-18	12	融け合う	とけあう	融ける	合う	5	1	自	自	○			(人物と風景が)融け合う
yu-19	13	見入る	みいる	見る	入る	3	5	他	自			○	島村は(風景に)見入る
yu-20	13	光り輝く	ひかりかがやく	光る	輝く	2	2	自	自				彼女の顔が光り輝く
yu-21	14	振り向く	ふりむく	振る	向く	3	2	他	自			○	島村のほうへ振り向く
yu-22	14	盗み見る	ぬすみみる	盗む	見る	3	3	他	他			○	島村が葉子を長い間盗見る
yu-23	14	振り返る	ふりかえる	振る	返る	3	5	他	自		○		彼は(葉子)を振り返る
yu-24	17	通り過ぎる	とおりすぎる	通る	過ぎる	5	5	自	自				胸の中をなにかが通り過ぎる
yu-25	17	醒め切る	さめきる	醒める	切る	5	4	自	他	○			(心のどこかで)まだ夕景色の鏡が醒め切る
yu-26	18	受け取る	うけとる	受ける	取る	4	4	他	他				(じっと動かぬ立ち姿に)真面目なものを受け
yu-27	19	押し当てる	おしあてる	押す	当てる	3	4	他	他				掌に顔を押しあてる
yu-28	20	呼び戻す	よびもどす	呼ぶ	戻す	3	4	他	他				真面目さを呼び戻す
yu-29	20	聞き返す	ききかえす	聞く	返す	3	4	他	他				島村が(娘について)聞き返す
yu-30	21	立ち上がる	たちあがる	立つ	上がる	2	5	自	自			○	女が直ぐ立ち上がる
yu-31	21	受け出す	うけだされる	受ける	出す	4	4	他	他			○	女はお酌をしているうちに受け出される
yu-32	21	死に別れる	しにわかれる	死ぬ	別れる	5	5	自	自				その人に死に別れる
yu-33	21	打ち明ける	うちあける	打つ	明ける	3	5	他	自			○	身の上話を打ち明ける
yu-34	26	訪ね歩く	たずねあるく	訪ねる	歩く	3	2	他	自				家元を訪ね歩く
yu-35	26	知り合う	しりあう	知る	合う	4	1	他	自	○			日本踊の新人と知り合う

9.2.4. データ分析

続いて作成したデータをもとに分析していく手順について説明します。

《4》「並べ替え」「オートフィルタ」機能を使って用例を取り出す

【並べ替え】

作成したデータを並べ替えてデータ全体を見やすくするとともに、各分類項目の相関関係など見やすくします。

並べ替えの手順

①ツールバー「データ」から「並べ替え」を選択

②「最優先されるキー」に並べ替えたい項目を選択

③「昇順」及び「降順」を選択

※昇順とは「アイウエオ、12345、データ有→無」のような並びで降順はその逆

④「2 番目に優先されるキー」「3 番目に優先されるキー」を必要に応じて選択

⑤「OK」を選択

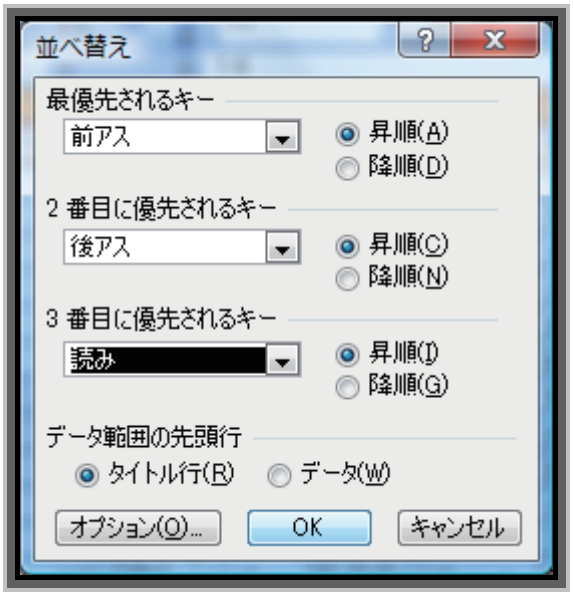
④の手順については必要のない場合もあります。2 つ以上の項目に対して同時に並び替えたい場合にのみこの手順を使います。たとえば画像（9-31）のように前項動詞、後項動詞それぞれにアスペクト的性質タイプが 1～6 まである場合、手順④を用いずに並び替えると「前アス（前項アスペクト的性質）」は小さい数字から順番になっていますが、「後アス」の数字は順不同のままです。そこで 2 番目、もしくは 3 番目に優先されるキーまで入力しておくと見やすいリストになります。

	E	F	G	H	I	J	K	L	M	
1			アスペクト							
2	前項	後項	前アス	後アス	前自他	後自他	局面	熟語	派生	例文
3	言う	出す	2	4	自	他	○			今はか
4	動く	出す	2	4	自	他	○			記者が
5	勤める	上げる	2	4	自	他	○			港町で
6	泣く	止む	2	5	自	自	○			直ぐに泣
7	向う	合う	2	1	自	自	○			娘は島
8	歩く	廻る	2	5	自	自				窓の方
9	浮く	出る	2	5	自	自				窓ガラス
10	駆ける	下りる	2	4	自	他				（裏山を
11	立つ	上がる	2	5	自	自			○	女が直ぐ
12	立つ	去る	2	5	自	自				女は（島

画像(9-31)

これでは前項動詞と後項動詞の組み合わせを考えるときに見にくい

そこで…



画像(9-32)

この設定をすることで前項と後項のアスペクト的性質タイプの並びは「1-1, 1-2, 1-3, 1-4, 1-5, 1-6, 2-1, 2-2, 2-3, ・・・6-5, 6-6」のようになる

さらに「3 番目に優先されるキー」で「読み」を設定しておくと同じアスペクト的性質構造を持つ複合動詞をあいうえお順に並び替えることができる

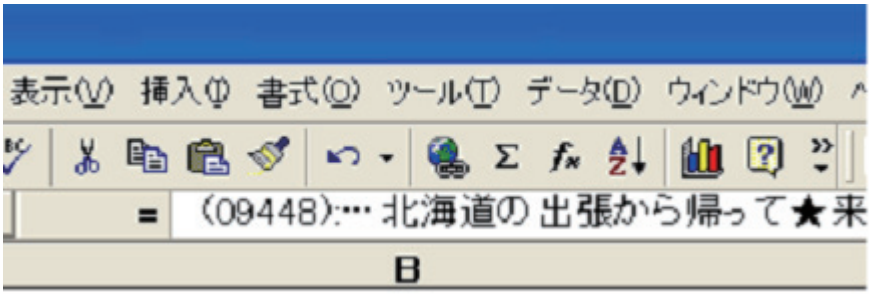
	D	E	F	G	H	I	J	K	L
2	読み	前項	後項	前アス	後アス	前自他	後自他	局面	熟語
3	むかいあう	向う	合う	2	1	自	自	○	
4	とびたつ	飛ぶ	立つ	2	2	自	自		
5	ひかりかがやく	光る	輝く	2	2	自	自		
6	いいだす	言う	出す	2	4	自	他	○	
7	うごきだす	動く	出す	2	4	自	他	○	
8	かけおりる	駆ける	下りる	2	4	自	他		
9	つとめあげる	勤める	上げる	2	4	自	他	○	
10	のりだす	乗る	出す	2	4	自	他		
11	はねかえす	撥ねる	返す	2	4	自	他		
12	あるきまわる	歩く	廻る	2	5	自	自		
13	うきでる	浮く	出る	2	5	自	自		

画像(9-33)

完成、このようにアスペクト的性質タイプの順序が整理されただけでなく読みも整う

＜注意！上部にある「並べ替え」ボタン＞

「並べ替え」は、画面の上部にある、操作用のボタン（マーク）の中にある「並べ替え」ボタン（ ）を使ってもできます。しかし、上記の説明で行なったように、ある行を基準にして、複数の行を同時に並べ替えることはできません。1 つの行だけを、他と連動させることなく並べ替えるときに使ってください。



【オートフィルタ】

オートフィルタは項目内のデータから必要なものだけを表示して、不必要なものは非表示にする機能です。非表示になるだけで削除されるわけではありません。並べ替えと同時に使用すると、必要なものだけを見やすく表示させることができます。

オートフィルタの手順

①ツールバー「データ」から「フィルタ」→「オートフィルタ」を選択

②各分類項目に「▼」印が現れる

③「▼」を押して取り出したいデータを選択

以上の作業で簡単に大量のデータから必要なものだけを取り出すことができます。以下の例では局面動詞だけを抽出するように K 列の分類項目「局面」についてオートフィルタをかけています。

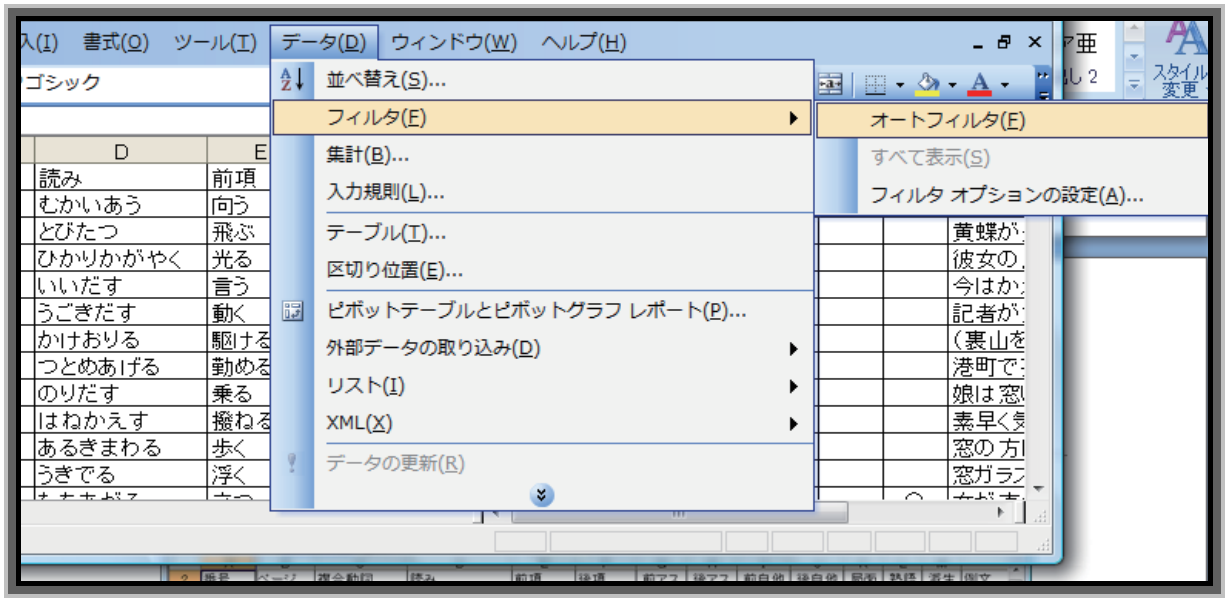
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
2	番号	ページ	複合動詞	読み	前項	後項	前アス	後アス	前自他	後自他	局面	熟語	派生
3	yu-14	11	向かい合う	むかいあう	向う	合う	2	1	自	自	○		
4	yu-39	31	飛び立つ	とびたつ	飛ぶ	立つ	2	2	自	自			
5	yu-20	13	光り輝く	ひかりかがやく	光る	輝く	2	2	自	自			
6	yu-71	45	言い出す	いいだす	言う	出す	2	4	自	他	○		
7	yu-5	9	動き出す	うごきだす	動く	出す	2	4	自	他	○		
8	yu-38	31	駆け下りる	かけおりる	駆ける	下りる	2	4	自	他			
9	yu-94	57	勤め上げる	つとめあげる	勤める	上げる	2	4	自	他	○		
10	yu-2	7	乗り出す	のりだす	乗る	出す	2	4	自	他			
11	yu-72	46	撥ね返す	はねかえす	撥ねる	返す	2	4	自	他			
12	yu-81	50	歩き廻る	あるきまわる	歩く	廻る	2	5	自	自			
13	yu-9	10	浮き出る	うきでる	浮く	出る	2	5	自	自			

全リスト

コマンド

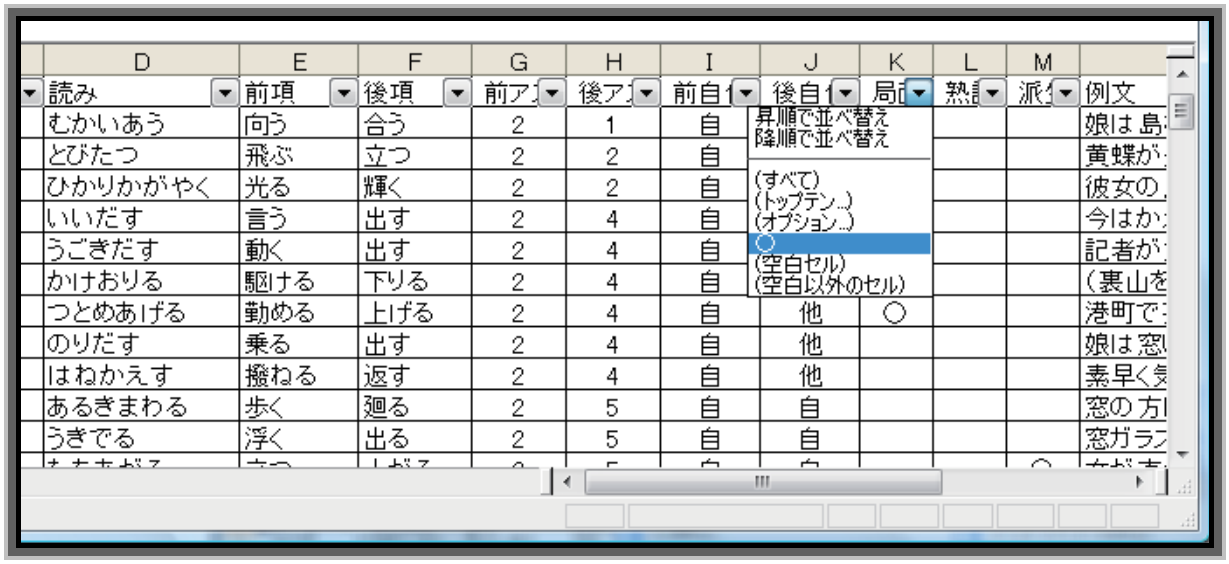
画像(9-34)

この状態から「局面」に「○」がついているものだけを取り出すには…



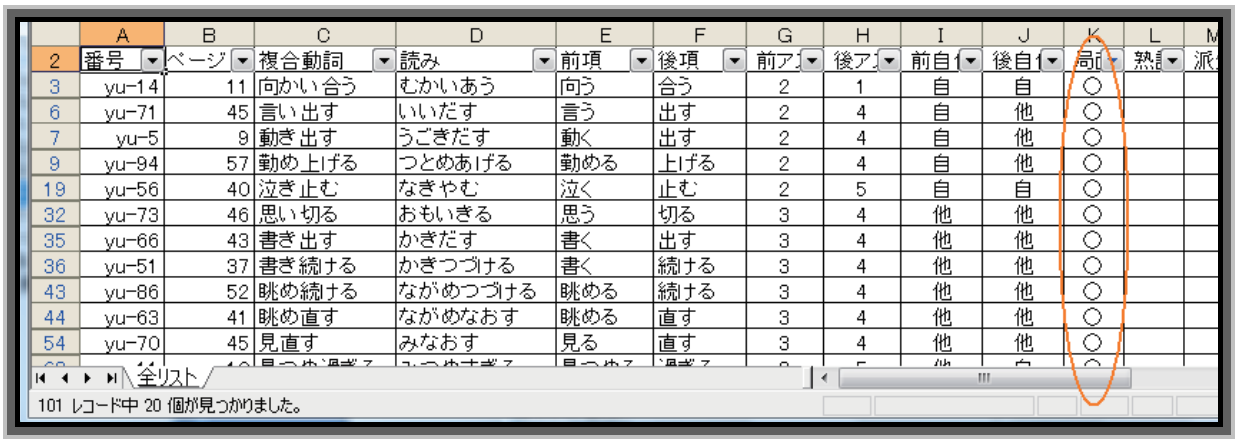
画像(9-35)

ツールバー「データ」からフィルタの中のオートフィルタを選択



画像(9-36)

すべての分類項目に「▼」が現れる　取り出したいデータを選択する



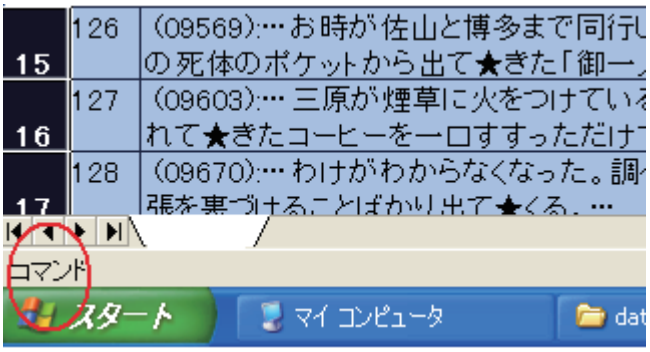
画像(9-37)

局面に「○」がついているデータだけが取り出せる

＜注意！必ず「オートフィルタ」解除を！＞

　いくつかの「オートフィルタ」の組み合わせを試したあとに、一度条件を解除して、再び「オートフィルタ」をかけなおすときは、必ず、全ての項目について、「▼」を「左クリック」し「すべて」を選択して、「オートフィルタ」のかかった状態を解除してください。これを忘れると、次に「オートフィルタ」をかけなおすときにうまく行きません。「オートフィルタ」のかかった状態、つまり、ある条件で抽出されている状態のときは、「オー

トフィルタ」をかけている列の「▼」と一番左の行番号が青色になります（通常は黒です）。しかし、これがけっこう見にくいのです。よりわかりやすいものとして、どこの列にも「オートフィルタ」がかかっていないときには、表の左下に、「コマンド」と表示されますので、これを目印にするのが一番確実です。



《5》データを集計する

ここではデータの個数を数える方法について「集計」「ピボットテーブル」を紹介します。

【集計】

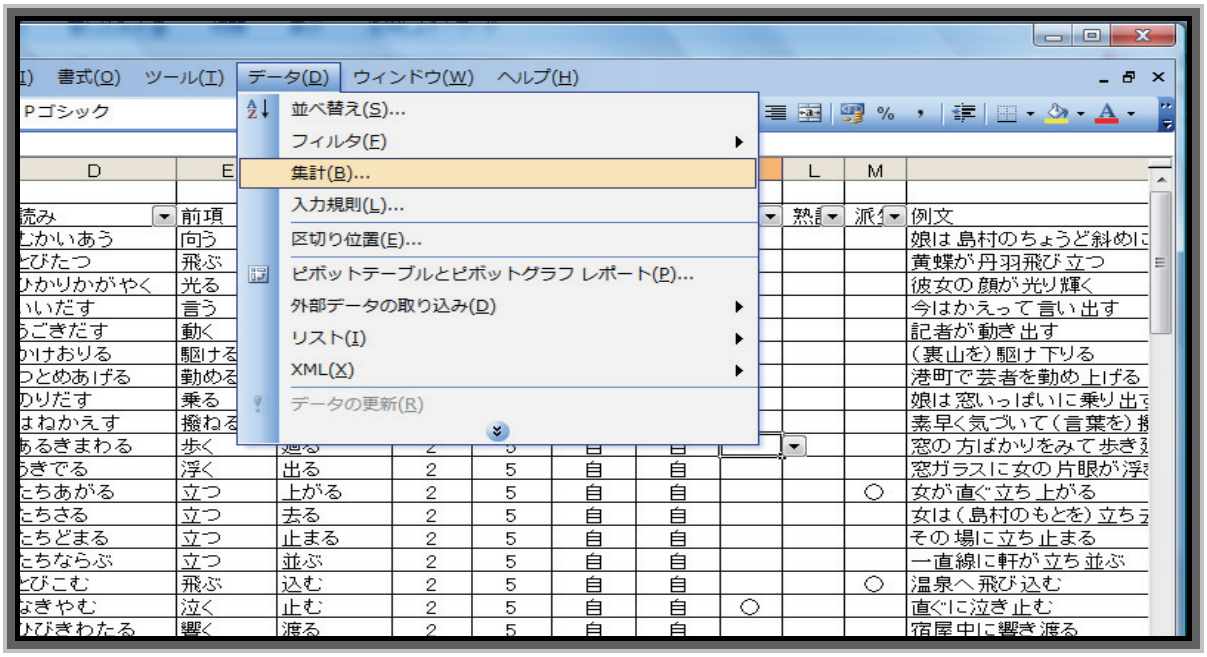
ある特定の基準を満たすデータの中に指定した条件を持つデータがいくつあるか、自動的にカウントしてくれます。たとえば集めたデータの中から「自動詞・他動詞別に各活用系（未然形、連用形など）がいくつ現れているか数えたい」という時に使えます。言語研究ではあまり使う機会がないかもしれませんが、商品別の売上合計や月ごとの支出なども計算することができます。いずれにせよ「分類項目 A を基準に分類項目 B のデータを集計する」ということになります。

集計の手順

①事前に「並び替え」を行なっておく（分類項目Aを基準に）
②ツールバー「データ」から「集計」を選択
③「グループの基準」に分類項目 A を選択
④「集計の方法」に「データの個数」を選択
⑤「集計するフィールド」に集計したい分類項目 B（複数ある場合も可能）
⑥「現在の集計表と置き換える」にチェックを入れる
⑦「集計行をデータの下に挿入する」にチェックを入れる（任意）
⑧「OK」を選択

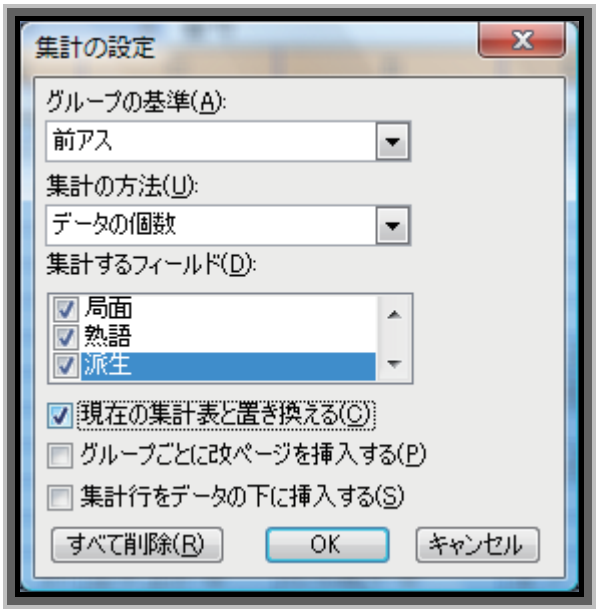
一見複雑そうですが、やってみると仕組みも理解しやすいかと思います。下では例とし

て「前項動詞のアスペクト的性質別に局面動詞、派生動詞、熟語動詞が何個ずつ現れるか」を集計してみます。事前に前項動詞のアスペクト的性質を昇順に並べ替えてあります。



画像(9-38)

「並べ替え」をした上で「データ」から「集計」を選択



画像(9-39)

「グループの基準」に「前アス」、「集計するフィールド」に「局面・熟語・派生」を選択

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	
1							アスペクト							
2	番号	ページ	複合動詞	読み	前項	後項	前ア	後ア	前自	後自	局	熟	派	例文
3							総合計				20	6	20	
4						2 データの 個数					5	0	2	
5	yu-14	11	向かい合う	むかいあう	向う	合う	2	1	自	自	○			娘は島村のちょう
6	yu-39	31	飛び立つ	とびたつ	飛ぶ	立つ	2	2	自	自				黄蝶が丹羽飛び立
7	yu-20	13	光り輝く	ひかりかがやく	光る	輝く	2	2	自	自				彼女の顔が光り輝
8	yu-71	45	言い出す	いいだす	言う	出す	2	4	自	他	○			今はかえって言い
9	yu-5	9	動き出す	うごきだす	動く	出す	2	4	自	他	○			記者が動き出す
10	yu-38	31	駆け下りる	かけおりる	駆ける	下りる	2	4	自	他				(裏山を)駆け下り
11	yu-94	57	動め上げる	つとめあげる	動める	上げる	2	4	自	他	○			港町で芸者を動め
12	yu-2	7	乗り出す	のりだす	乗る	出す	2	4	自	他				娘は窓いっぱいに
13	yu-72	46	撥ね返す	はねかえす	撥ねる	返す	2	4	自	他				素早く気づいて(言
14	yu-81	50	歩き廻る	あるきまわる	歩く	廻る	2	5	自	自				窓の方ばかりをみ
15	yu-9	10	浮き出る	うきでる	浮く	出る	2	5	自	自				窓ガラスに女の片
16	yu-30	21	立ち上がる	たちあがる	立つ	上がる	2	5	自	自			○	女が直ぐ立ち上が
17	yu-59	40	立ち去る	たちさる	立つ	去る	2	5	自	自				女は(島村のもとを
18	yu-88	53	立ち止まる	たちどまる	立つ	止まる	2	5	自	自				その場に立ち止ま
19	yu-41	32	立ち並ぶ	たちならぶ	立つ	並ぶ	2	5	自	自				一直線に軒が立ち
20	yu-77	48	飛び込む	とびこむ	飛ぶ	込む	2	5	自	自			○	温泉へ飛び込む
21	yu-56	40	泣き止む	なきやむ	泣く	止む	2	5	自	自	○			直ぐに泣き止む
22	yu-49	36	響き渡る	ひびきわたる	響く	渡る	2	5	自	自				宿屋中に響き渡る
23	yu-47	35	よろけ出る	よろけでる	よろける	出る	2	5	自	自				(男は宿屋から)よ
24						3 データの 個数					7	3	14	
25	yu-34	26	訪ね歩く	たずねあるく	訪ねる	歩く	3	2	他	自				家元を訪ね歩く
26	yu-96	58	引き立つ	ひきたつ	引く	立つ	3	2	他	自		○		(模様が)引き立つ

画像(9-40)

このように前項動詞のアスペクト的性質タイプごとに「局面」「熟語」
「派生」の個数が上に表示されます
一番上の行には全データの集計結果が表示されています

【ピボットテーブル】

ピボットテーブルは上で述べた集計とよく似ていますが、データとは別に表として集計結果を表示することができます。全体の集計結果が一目でわかるためデータの傾向をつかみやすい一方で、集計よりも使い方が少しややこしいです。

ピボットテーブルの手順

①ツールバー「データ」から「ピボットテーブルとピボットグラフ　レポート」を選択

②「分析するデータのある場所を選択してください。」では「Excel のリスト/データベース」、「作成するレポートの種類を指定してください」では「ピボットテーブル」を選択して「次へ」

③使用するデータの範囲が正しく表示されているか確認して「次へ」

④ピボットテーブルの作成先として「新規ワークシート」を選択

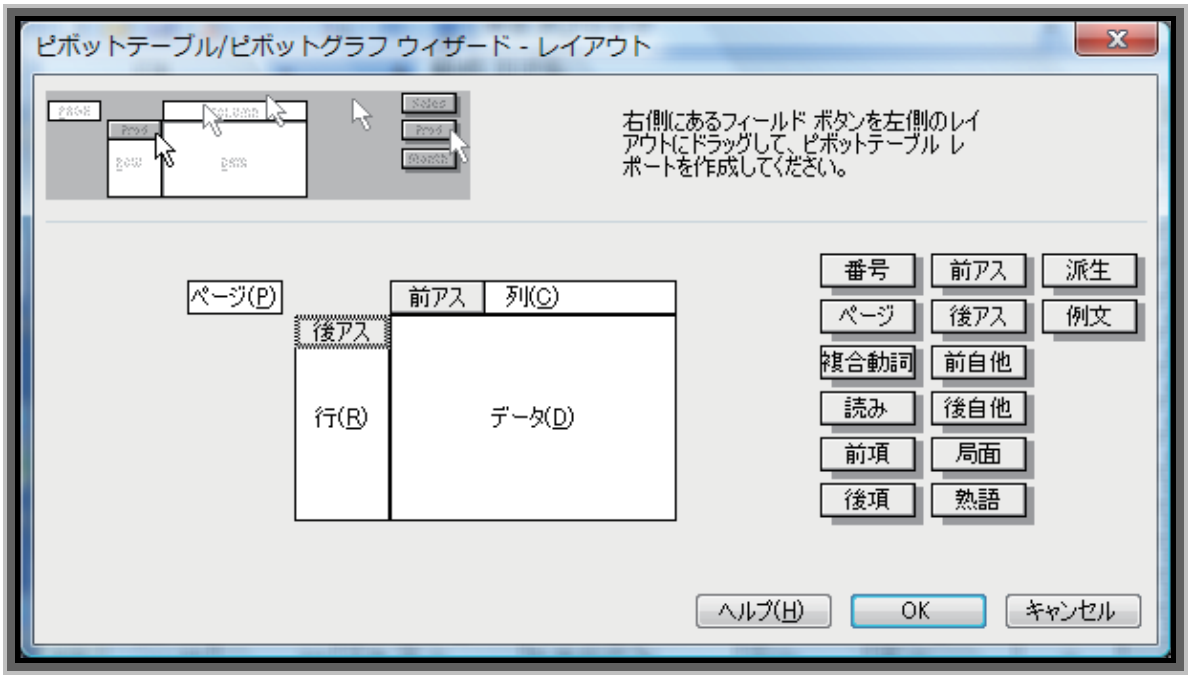
⑤「レイアウト」を選択し表のレイアウトを作成する

⑥「完了」(新しいシートに表が現れます。シートの切り替えはデータの一番下にある小さなしおりのようなもので行なうことができます。)

⑤のレイアウトの手順が面倒です。下で例を用いて説明します。

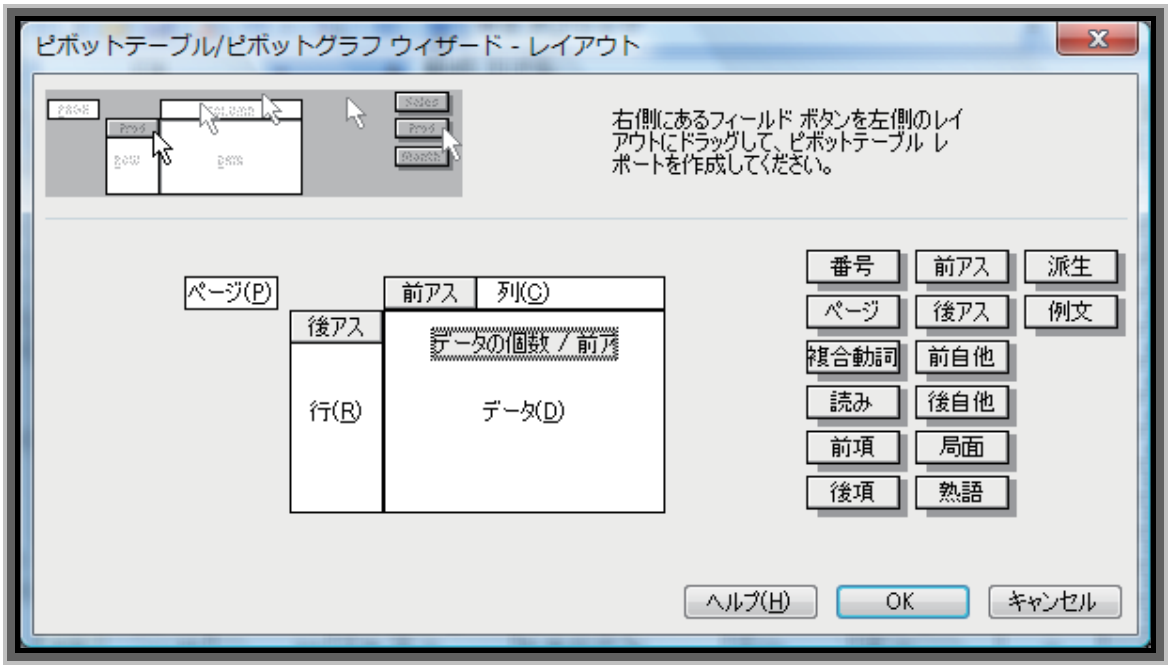
画像(9-41)

初期レイアウト画面



画像(9-42)

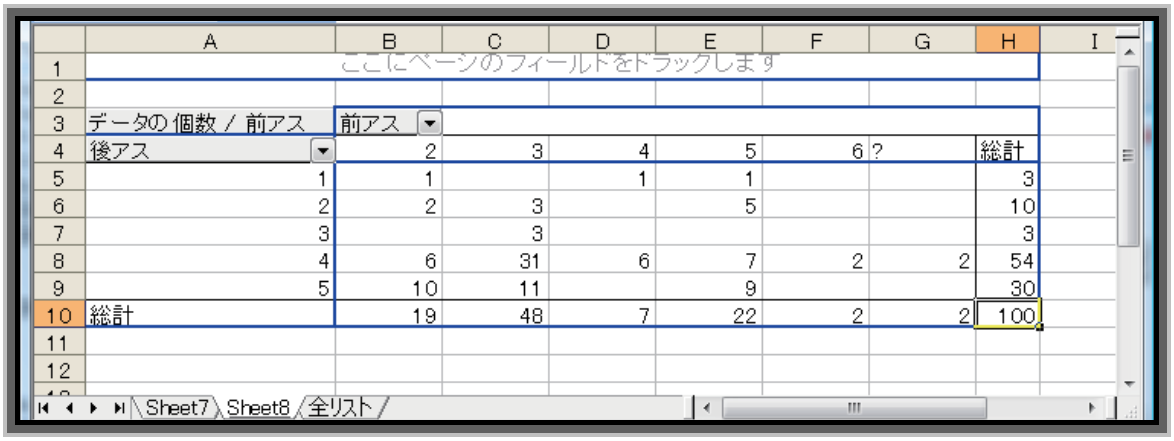
右に並んだ分類項目から集計したい項目を「列」「行」に１つずつ移す



画像(9-43)

実際に集計するデータを右の項目から選び「データ」の欄に移す

このとき「データの個数/〇〇」となっていなければ、ダブルクリックで変更する



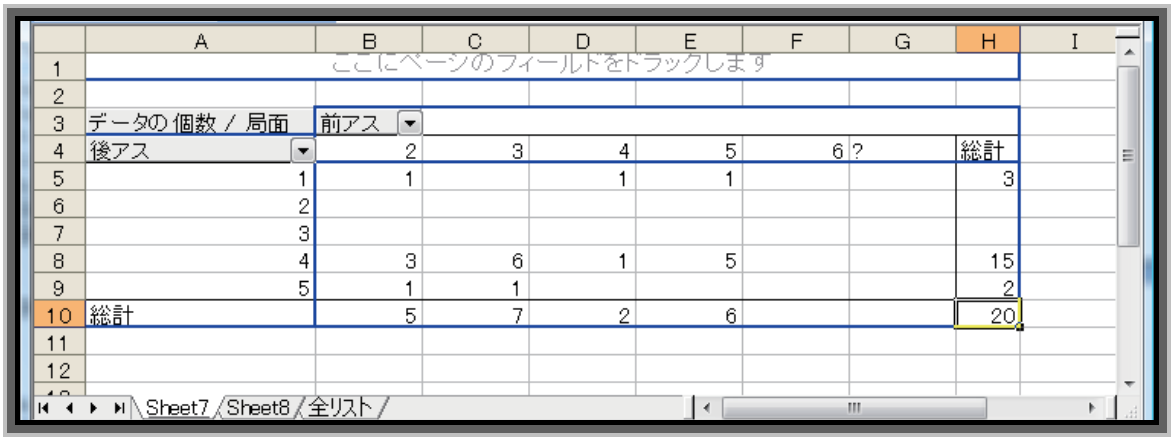
	A	B	C	D	E	F	G	H
1	ここにページのフィールドをドラッグします							
2								
3	データの個数 / 前アス	前アス						
4	後アス	2	3	4	5	6	?	総計
5	1	1		1	1			3
6	2	2	3		5			10
7	3		3					3
8	4	6	31	6	7	2	2	54
9	5	10	11		9			30
10	総計	19	48	7	22	2	2	100
11								
12								

Sheet7 Sheet8 全リスト

画像(9-44)作成例①：

集計するデータに「データの個数/前アス（前項動詞アスペクト的性質)」を選択

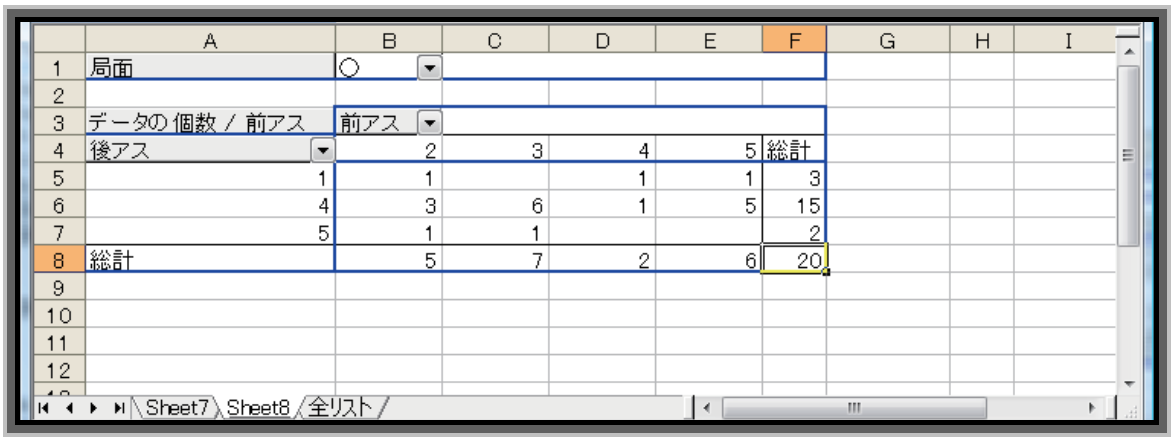
アスペクト的性質タイプからみた前項後項の構造が一目瞭然



	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1	ここにページのフィールドをドラッグします								
2									
3	データの 個数 / 局面	前アス							
4	後アス	2	3	4	5	6	?	総計	
5	1	1		1	1			3	
6	2								
7	3								
8	4	3	6	1	5			15	
9	5	1	1					2	
10	総計	5	7	2	6			20	
11									
12									

Sheet7 Sheet8 全リスト

画像(9-45)作成例②：
集計するデータに「局面（局面動詞）」を選択
局面動詞がアスペクト的性質タイプのどの組み合わせに多く現れているかがわかる



	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1	局面	○							
2									
3	データの 個数 / 前アス	前アス							
4	後アス	2	3	4	5	総計			
5	1	1		1	1	3			
6	4	3	6	1	5	15			
7	5	1	1			2			
8	総計	5	7	2	6	20			
9									
10									
11									
12									

Sheet7 Sheet8 全リスト

画像(9-46)作成例③：応用編
「レイアウト」の「ページ」に「局面」を入れておくと
作成例②から局面動詞を含むデータだけを取り出すことも可能

これらの例はピボットテーブルの使い方のほんの一部です。より多くのデータをまとめて処理することもできますが、まずはいろいろとやってみることをお勧めします。「習うより慣れろ」です。

《6》分析過程を残しておく

【シートの利用】

分析を進めていくと、ある項目を残しておきたいけれどそのままでは他の分析ができない、という事態になることがあります。たとえばオートフィルタを使って取り出したデータや、集計を使って分析した状態のデータはそのままでは次の新しい分析に進めません。かといっていちいちすべてを新しいファイルを作って保存すると面倒です。解決策として、

「シート」を使うことで関連するデータを 1 つの Excel ファイルに残すことができます。「ピボットテーブル」の使い方でも少しふれましたが、シートはノートの 1 ページだと考えてください。

シートの作り方

①ツールバー「挿入」から「ワークシート」を選択

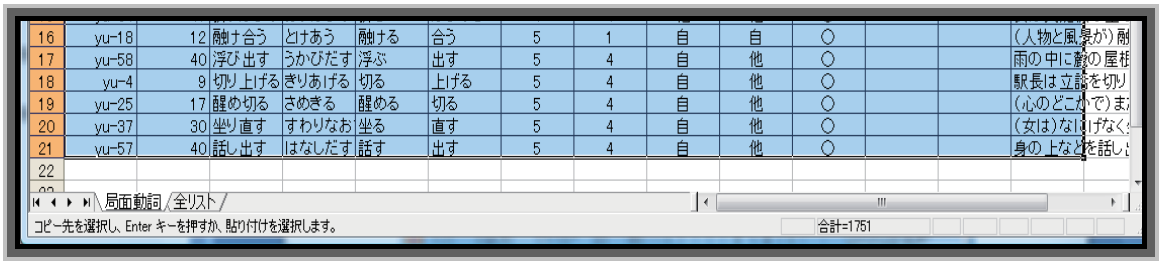
②シートの名前はシートのしおり（データ下部）をダブルクリックで編集可

③シートの順番はしおりをドラッグして移動させることができます

シートはパソコンのデメリットでもある「ディスプレイの中でしか作業できない」という点を解決してくれます。最初はいちいち面倒だと感じるかもしれませんが、こまめにシートを作っておくとあとで自分の作業過程を振り返ることができるのでとても便利です。

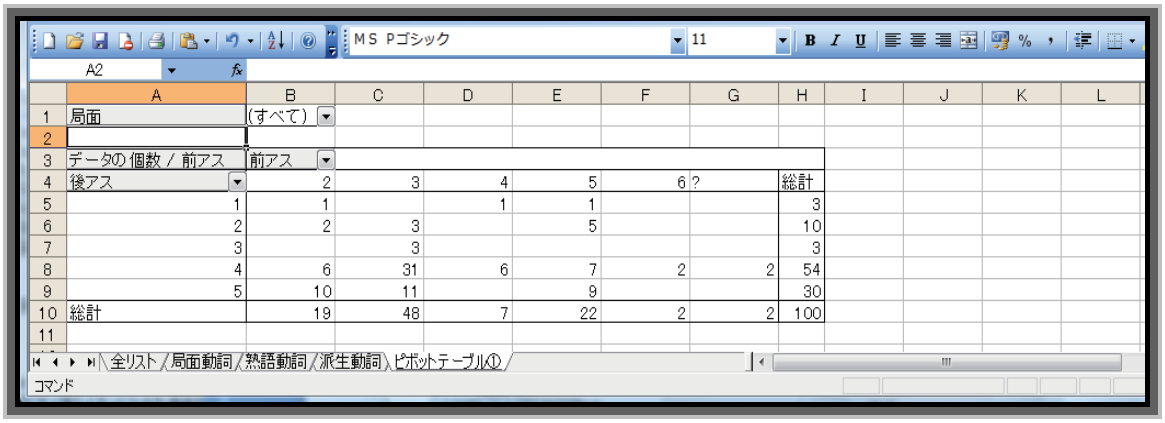
画像(9-47)

オートフィルタで「局面」だけを取り出したデータをすべてコピーする



画像(9-48)

新しいワークシートに「局面動詞」と名前をつけコピーしたデータを貼り付ける



	A	B	C	D	E	F	G	H
1	局面	(すべて)						
2								
3	データの個数 / 前アス	前アス						
4	後アス	2	3	4	5	6	?	総計
5	1	1		1	1			3
6	2	2	3		5			10
7	3		3					3
8	4	6	31	6	7	2	2	54
9	5	10	11		9			30
10	総計	19	48	7	22	2	2	100
11								

画像(9-49)

同様にシートを多く作成しておき、分析結果をコピーしておくことで
いつでも好きなデータの分析結果を見ることができる

9.3. まとめ

Excel の使い方を説明してきましたが、ほんの一例でありまだまだ役に立つ機能はあると思います。扱うデータの種類によっては今回紹介できなかった機能が必要になるかもしれません。また論文作成時に表やグラフを使う場合には今回紹介できていませんが Excel は非常に役に立つでしょう。

ただし、最初にも述べたように、便利さに甘えてなんでも Excel を使えばなんとかなると考えてはいけません。自分が集めたデータにしっかり向き合って仮説を立ててから取り組んでください。

第 10 章　論文作成の一例（Excel の活用）

10.0. はじめに

本章では、本書でこれまで述べられてきたこと（の一部）を参考に、実際に論文を書いた例をご紹介します。

10.1. 論文の概要

10.1.1. 背景の説明

本章執筆者は卒業論文（2007 年度）で『丁寧体の否定表現「マセン」、「ナイデス」の 2 形式に関する一考察』というテーマを設定し、執筆しました[64]。論文の作成にあたっては、手作業で用例を集め、それを入力した Excel 文書を作成してデータ分析を行ないました。本書でこれまで述べられてきたことの一つの実践例・参考として、「論文作成にあたって Excel で行なったデータ分析の実際」を、その過程をなぞる形で記したいと思います（例示の画像などは、本書の展開に合わせて当時のものを一部改変してあります）。

卒業論文本体は本書の巻末に「資料」として付してあります。本章での説明と、適宜照らし合わせながら読み進めてください。

ただし、これはあくまでデータ分析作業の一例ですので、改善・効率化できる点があるかもしれません。本章執筆者は Excel に特段明るいわけではなく、第 9 章で紹介されている機能のうち一部しか利用していません。さらに論文そのものについての学問的指摘も多々あるかと思います。ひとつの叩き台として、ご覧ください。

執筆時の使用ソフトは Microsoft Word X for Mac および Microsoft Excel X for Mac（Windows の Word 2000／Excel 2000 に相当）です。ただし本章の執筆にあたり、Microsoft Word 2008 for Mac および Microsoft Excel 2008 for Mac（Windows の Word 2007／Excel 2007 に相当）を用いています。

第 7 章で言及されている言語データベースの使用や、第 8 章に掲載のテキストエディタの使用はしていません（したがって、GREP に関する記述もありません）。

10.1.2. 論文要旨

この章の目的は「論文作成にあたって Excel で行なったデータ分析の手順を紹介すること」であり、「論文の内容について説明すること」ではないので、先行研究についての記述はここでは省略します。

---

[64] なお、本文中の「マセン」「ナイデス」は存在表現の否定「ありません／ないです」、コピュラ表現の「～ありません／～ないです」、一般動詞の否定「動詞＋マセン／ナイデス」を代表させた表記で、特に注記しない場合「…ませんでした」「…なかったです」という過去の否定も含めています。また、表中の百分率には小数点以下第二位を四捨五入した値を用いています。

論文タイトルは**「丁寧体の否定表現「マセン」、「ナイデス」の 2 形式に関する一考察―小説の用例分析を中心に―」**（2008 年 1 月提出）で、現代日本語の丁寧体の否定における 2 つの形式「マセン」と「ナイデス」について、小説資料から採取した用例の調査をもとに使用傾向を探り、その用いられ方の特徴を考察しました（調査の結果、現代小説の複数の作品から同一の基準で「マセン」「ナイデス」の用例を採った上での言及は行なわれていないと思われたため、今回のテーマ設定に至っています）。

表(10-1)「マセン」「ナイデス」の比率

	マセン	ナイデス
全体	77.3%	22.7%
動詞「ある」	51.3%	48.7%
（うち存在表現）	79.6%	20.4%
（うちコピュラ表現）	27.3%	72.7%
一般動詞	96.1%	3.9%

考察の結果、表（10-1）のように、「マセン」「ナイデス」の用例全体の比率と、それらが「存在表現」・「コピュラ表現」・「一般動詞」それぞれの否定形で現れる際の比率は異なることがわかり、さらに、「マセン」「ナイデス」の使用傾向について、

○出現する「ナイデス」は、ほとんどの場合一般動詞の否定には用いられず、モダリティ表現の「～じゃないですか」の形をとる割合が非常に高いこと

○否定の意味をもつコピュラ表現については「～ありません」と「～ないです」に顕著な傾向差は見られないが、存在表現では「ありません」のほうが選択されやすく、「ないです」は文（会話）の末尾で使用されやすいと思われること

○全体に通じる傾向として「ナイデス」は終助詞と共起しやすい（特に一般動詞の否定では顕著で、これが「動詞＋ナイデス」単独の使用の違和感を和らげる役割を果たしていると思われる、またその際に用いられる終助詞は「よ」や「ね」である）ことが特徴として指摘できる、という一応の結論をみています。

10.1.3. 作業の流れ

作業は、

用例の収集（10.2.）

データの作成（10.3.）

分析（10.4.）

という手順で行ないました。以下、順に解説していきます。

10.2. 用例の収集

用例の収集にあたっては、次の点に留意しました。

○用例資料

論文の主眼が「現代日本語の」丁寧体の否定における 2 つの形式について考察することにあるため、用例収集には現代小説を用いました。具体的には、現代を舞台とした作品で、かつ発表時期が論文執筆時点より 10 年以内（1999 年以降）のものを用いることとし、作品中に登場する「マセン」「ナイデス」について全例採集しました。

用例は、12 冊の現代小説から収集しました。これが採取対象として不十分な少なさであることは痛感しています。その中でではありますが、本書第 5 章の 5.2.に記載の注意点に関しては以下の点に留意しました。

○書かれた資料の属性

「偏りなく」に関しては、小説から用例を採ることとしたので、（当然ですが）小説以外からの用例を持ち込まないようにしました。ただし、パイロット調査の段階では随筆や新聞記事にもあたっています。「だけから」に関しては、執筆時点より 10 年以内（1999 年以降）初版のものを用いることとしました。翻訳作品でないこと、現代が舞台となっていることにも気をつけています。

○書いた人の属性

「偏りなく」に関して、著者の性別が半々に近い割合を保つように注意しました。結果的に男女比は 5：7 となっています。「だけから」に関して、著者のうち一人、歴史的仮名遣いで文章を書く特徴の人がいましたが、これは表記上の問題で、話される言葉や作品の舞台は現代だったので、問題ないものと判断しています。

○表記、言語的な文脈・環境

「偏りなく」・「だけから」ともに留意して収集しています。後述しますが、デジタルデータからの採取ではなかったので、GREP 実行時の注意点とは無縁でした。ただし、手作業で用例を探すにあたり、見落としのないように作業にあたったのは言うまでもありません。

○用例数、バランスなど

前述の通り、方針は「全例採集」です。作品中、丁寧体の否定 2 形式を得るにあたり、その対象はすべての文としました。実際の用例として得られたものの多くは会話文、語りの部分に現れたものですが、一部、手紙の文面や同意書の書面として登場した用例も含み、分析対象としています。採集した資料には、否定辞の形態、発言者の性別、テンス、前接／後接する品詞などの項目を加えたデータを作成し、分析に用いました。

○実際の方法

具体的な方法として行なったのは、

・作品を読む

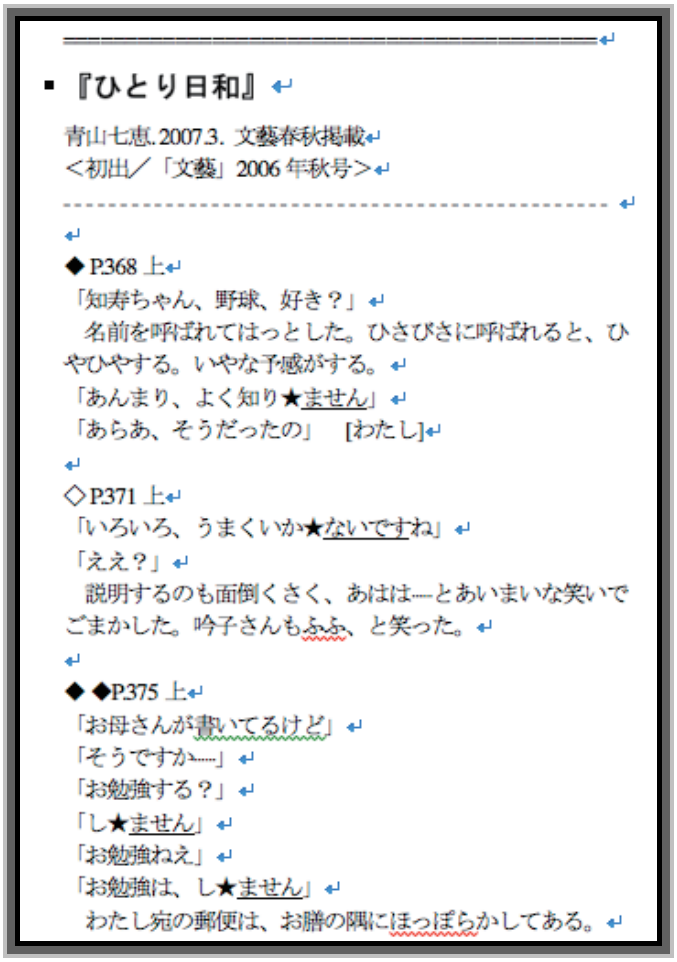
・該当箇所に付箋をつける

・Word に打ちこむ（データベース作成の前段階として）
この作業の繰り返しです。手作業による採集だったので、見落としのないよう各作品に複数回目を通しています。原始的な方法ですが、採取対象がアナログデータの場合、基本的にこのような流れをたどることになると思われます。

10.3. データの作成

10.3.1. Word 文書の作成

まずは作品を読んで収集した用例をデータ化する段階です。見つけた用例（作品を読みながら付箋をつけた箇所）を、のちの分析作業に影響を及ぼさないと予想される範囲で区切り、Word に打ち込みます。あまりカットしすぎると「分析の際、文脈がわからなくなり判断に迷う」→「該当箇所を読み直す」ことになり、結果的に時間を要してしまうので、文脈を損なわない程度に行ないます。改行箇所・空白字数などは、原典に忠実に入力しました。ただし、あとで Excel にデータを移す際には、改行箇所をなくさなければなりません（後述、注参照）。その際には、改行箇所に「／」や「[改行]」と入力するなど、そこに改行があったことがわかるようにする必要があります。


■『ひとり日和』
青山七恵.2007.3. 文藝春秋掲載
＜初出／「文藝」2006 年秋号＞
◆P368 上
「知寿ちゃん、野球、好き？」
名前を呼ばれてはっとした。ひさびさに呼ばれると、ひやひやする。いやな予感がする。
「あんまり、よく知り★ません」
「あらあ、そうだったの」　[わたし]
◇P371 上
「いろいろ、うまくいか★ないですね」
「ええ？」
説明するのも面倒くさく、あはは…とあいまいな笑いでごまかした。吟子さんもふふ、と笑った。
◆ ◆P375 上
「お母さんが書いてるけど」
「そうですか……」
「お勉強する？」
「し★ません」
「お勉強ねえ」
「お勉強は、し★ません」
わたし宛の郵便は、お膳の隅にほっぽらかしてある。

画像(10-1)用例の Word データ化

書類の初めには書誌情報も忘れずに記しておきます（これは論文巻末に用例出典として記すことにもなります）。また論文中に例として示す時や、分析過程で原典にあたる必要が生じた時のためにも、ページ数も入力しておきます。

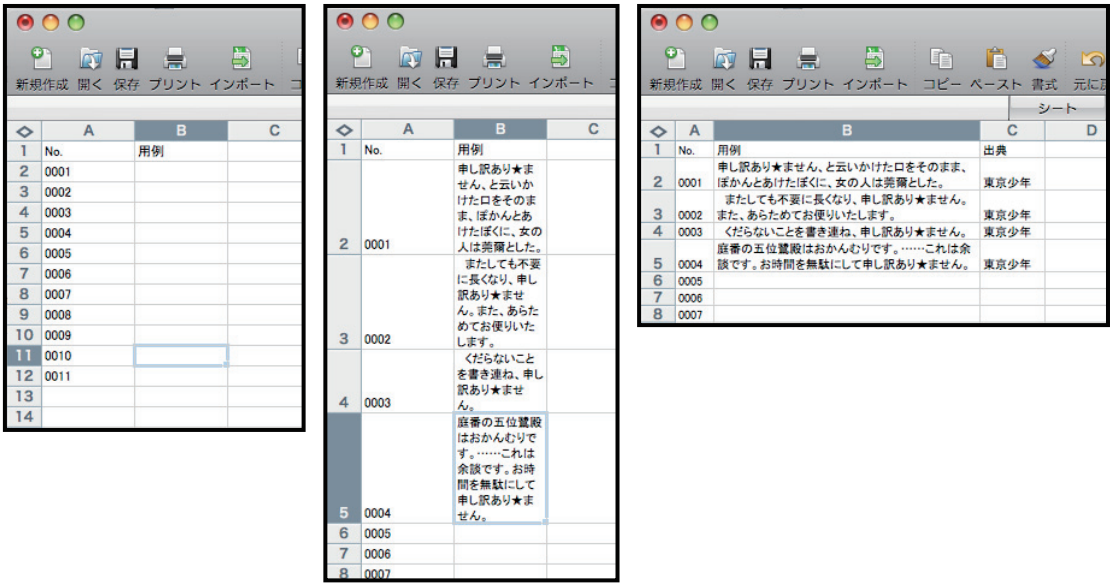
用例本文以外では、のちに行なう分析で必要になりそうな情報も、本文ではないことがわかるように区別して記しておきます（例：文中には明示されていないが文脈から明らかな発言者や性別など（不明ならばその旨を）。発話者と聞き手の関係なども、必要があれば記します。ここは各自の論文の目的によるでしょう）。画像（10-1）では、作業の過程で視認性をよくするために「マセン」に「◆」を、「ナイデス」に「◇」をつけてありますが、このあたりも各自が作業を進めやすいようにすればよいと思います。

文中、「マセン」「ナイデス」の部分には「★」および下線で強調してありますが、あとで Excel に移すことを考えると、下線よりも「★」のような目立つ記号をつけておいたほうが便利でした（Word から Excel にコピー＆ペーストする際、下線は消えてしまいます）。

この作業は、各自の文章を読む早さ、タイピングの能力にも左右されると思いますが、思いのほか時間がかかります。分析の基礎となる段階ですから疎かにするわけにはいきませんが、肝心なのは分析や検証のほうですから、なるべく手際よく終わらせたいものです。そのためにも早めに着手することをお薦めします。

10.3.2. Excel 文書の作成

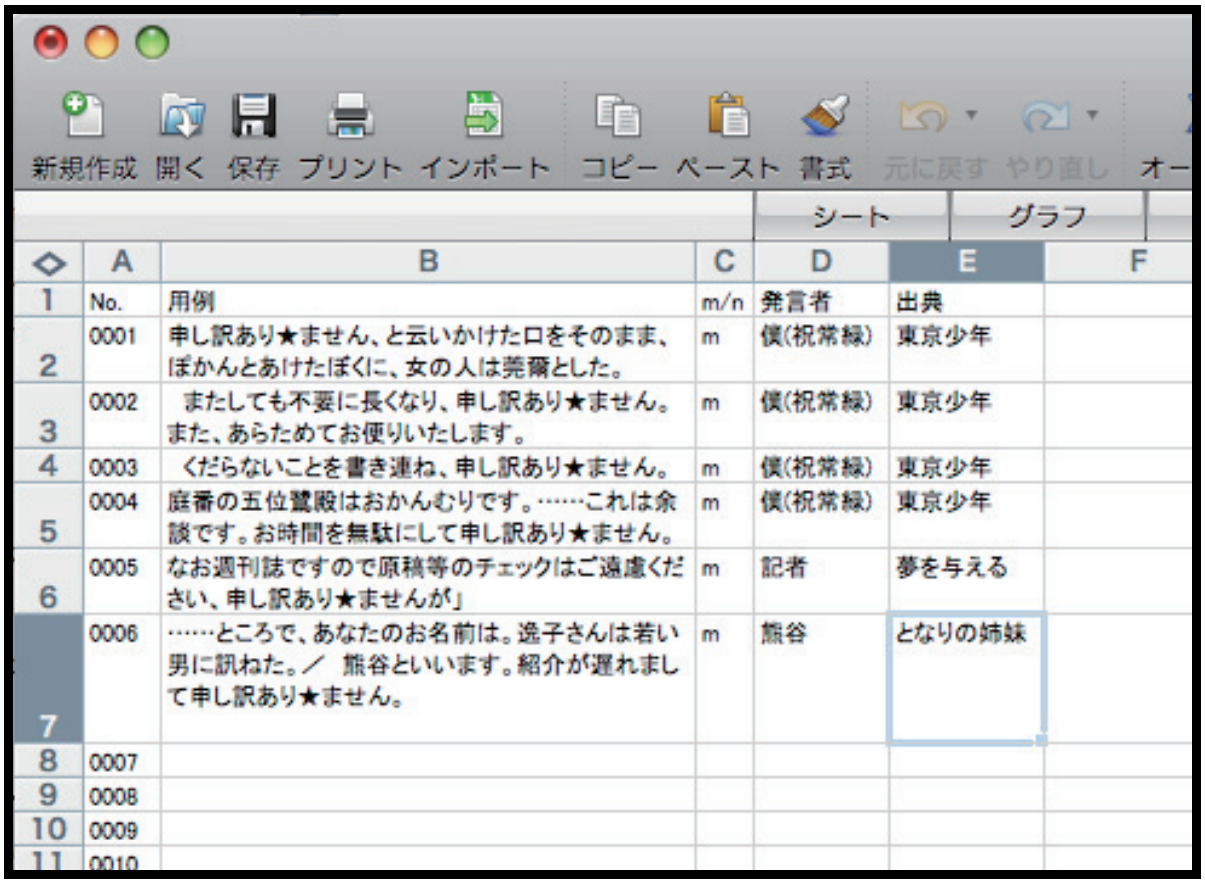
Word に打ち込んだデータを Excel に貼り付けます。第 9 章でもさまざまな操作が紹介されていますが、データを Excel 書類の形に整理することで、さまざまな観点から分析する下地を作ることができます。今回の作業では、画像（10-1）の状態のデータを、コピー＆ペーストで Excel に移していきました（画像（10-2））。



画像（10-2）Excel シート作成（項目の入力）

作業の流れについては 8.2.3.でも触れられていますが、今回は以下のような手順で行ないました。まず、Excel の一番上の行に、分類項目を入力します。次に、Word に入力しておいた用例をコピー&ペーストしていきます[65]。文脈は最低限わかる範囲に前後を切り捨てました。出典情報を入力し、平行してセルのサイズ調整もします。

今回の論文では「マセン」「ナイデス」の考察を行なったので、この 2 形式を分類項目として設けました（列 C を挿入）。「m」が「マセン」、「n」が「ナイデス」を表します。列 D を挿入し「発言者」も入力しておきます（画像（10-3）。「出典」の列は E までずれます）。



	A	B	C	D	E	F
1	No.	用例	m/n	発言者	出典	
2	0001	申し訳あり★ません、と云いかけた口をそのまま、ぽかんとあけたぼくに、女の人は莞爾とした。	m	僕(祝常緑)	東京少年	
3	0002	またしても不要に長くなり、申し訳あり★ません。また、あらためてお便りいたします。	m	僕(祝常緑)	東京少年	
4	0003	くだらないことを書き連ね、申し訳あり★ません。	m	僕(祝常緑)	東京少年	
5	0004	庭番の五位鷺殿はおかんむりです。……これは余談です。お時間を無駄にして申し訳あり★ません。	m	僕(祝常緑)	東京少年	
6	0005	なお週刊誌ですので原稿等のチェックはご遠慮ください、申し訳あり★ませんが」	m	記者	夢を与える	
7	0006	……ところで、あなたのお名前は。逸子さんは若い男に訊ねた。／　熊谷といいます。紹介が遅れまして申し訳あり★ません。	m	熊谷	となりの姉妹	
8	0007					
9	0008					
10	0009					
11	0010					

画像(10-3)Excel シート作成（項目の追加）

他にも、あとで分析の際に有効だと思われる観点から「発言者の性別」「テンス」「品詞（否定の対象）」「前接表現」「後接表現」「文体」といった分類項目を設け、これらの情報も順次入力していきます。一通りの入力が完了して、以下のような状態になりました（画像（10-4））。

[65] 作品で改行されている箇所は改行を消し、そこに「／」を挿入しました（たとえば、「画像（10-3）」の Excel 画面、「B7」のセル）。

★資料A のコピー.xls

新規作成 開く 保存 プリント インポート コピー ペースト 書式 元に戻す やり直し オート SUM 昇順 降順 ギャラリー ツール 100% ズーム ヘルプ

シート グラフ SmartArt グラフィック ワードアート

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	R	T
1	No.	用例	m/n	発言者	性別	テンス	品詞1	前接表現	品詞2	テイル,テアル,授受表現など	動詞の文法的特徴	慣用的な表現など	すみませ	後接表現	文体	否定の対象	出典2	
161	0001	申し訳あり★ません、と云いかけた口をそのまま、ぽかんとあけたぼくに、女の人は莞爾とした。	m	僕(祝常緑)	男	ル	動	申し訳	ある	／	／	／	申	／	地)	存在▲	東京少年	
162	0002	またしても不要に長くなり、申し訳あり★ません。また、あらためてお便りいたします。	m	僕(祝常緑)	男	ル	動	申し訳	ある	／	／	／	申	／	手紙	存在▲	東京少年	
164	0003	くだらないことを書き連ね、申し訳あり★ません。	m	僕(祝常緑)	男	ル	動	申し訳	ある	／	／	／	申	／	手紙	存在▲	東京少年	
165	0004	庭番の五位蔓殿はおかんむりです。……これは余談です。お時間を無駄にして申し訳あり★ません。	m	僕(祝常緑)	男	ル	動	申し訳	ある	／	／	／	申	／	手紙	存在▲	東京少年	
166	0005	なお週刊誌ですので原稿等のチェックはご遠慮ください、申し訳あり★ませんが」	m	記者	男	ル	動	申し訳	ある	／	／	／	申	が	会話	存在▲	夢を与える	
167	0006	……ところで、あなたのお名前は。逸子さんは若い男に訊ねた。／熊谷といいます。紹介が遅れまして申し訳あり★ません。	m	熊谷	男	ル	動	申し訳	ある	／	／	／	申	／	地)	存在▲	となりの姉妹	
168	0007	おれは例の紙袋をガラステーブルに置いた。／「小塚さんからのお届けものです。遅くなって申しわけあり★ませんでした」	m	おれ	男	タ	動	申し訳	ある	／	／	／	申	／	会話	存在▲	波のうえの魔術師	
169	0008	おれがいい気分で帰り支度をしているとインターホンが鳴った。／「あの、突然で申しわけあり★ませんが、お邪魔してよろしいでしょう	m	関根	男	ル	動	申し訳	ある	／	／	／	申	が	会話	存在▲	波のうえの魔術師	
170	0009	「たいへん長らくお待たせして申しわけあり★ません。必ず払い戻しはいたしますから、もうしばらくご辛抱ください。	m	銀行員	男	ル	動	申し訳	ある	／	／	／	申	／	会話	存在▲	波のうえの魔術師	
171	0010	「ですから、申しわけあり★ませんが、末次さんの口座は当行で差し押さえになっておりまして、自由に預金をお引き出しにはなれないん	m	銀行員	男	ル	動	申し訳	ある	／	／	／	申	が	会話	存在▲	波のうえの魔術師	
172	0011	「ありがとうございます。うるさくして、本当に申し訳あり★ませんでした」靖子は頭を下げ、ドアを閉めた。	m	花岡靖子	女	タ	動	申し訳	ある	／	／	／	申	／	会話	存在▲	容疑者xの献身	
173	0012	以前結婚しておられた花岡さんのところにお話を伺いにきたというわけです。夜分、申し訳あり★ません」草薙は頭を下げた。	m	草薙	男	ル	動	申し訳	ある	／	／	／	申	／	会話	存在▲	容疑者xの献身	
174	0013	「夜分に申し訳あり★ません。ちょっと御協力願えますか」愛想笑いを浮かべながら草薙は警察手帳を見せた。	m	草薙	男	ル	動	申し訳	ある	／	／	／	申	／	会話	存在▲	容疑者xの献身	
175	0014	「そうでしたか。それはお疲れのところ申し訳あり★ませんでした」草薙は頭を下げた。	m	草薙	男	タ	動	申し訳	ある	／	／	／	申	／	会話	存在▲	容疑者xの献身	
176	0015	はい、と彼女はドアに向かって答えた。／「夜分申し訳あり★ません。ちょっとよろしいですか」男の声だった。聞き慣れない声だ。	m	岸谷	男	ル	動	申し訳	ある	／	／	／	申	／	会話	存在▲	容疑者xの献身	
177	0016	草薙は上着の下から、ほんの少しだけ警察手帳を覗かせた。／「突然申し訳あり★ません。警察の者なんです。少し御協力いただけ	m	草薙	男	ル	動	申し訳	ある	／	／	／	申	／	会話	存在▲	容疑者xの献身	
178	0017	「そうですか。わかりました。お疲れのところ、申し訳あり★ませんでした」／ 草薙は頭を下げ、歩いてきた道を戻っていった。	m	草薙	男	タ	動	申し訳	ある	／	／	／	申	／	会話	存在▲	容疑者xの献身	
179	0018	「わかりました。お時間をとらせて申し訳あり★ませんでした」湯川は自転車のハンドルを差し出してきた。「石神によろしく」	m	湯川学	男	タ	動	申し訳	ある	／	／	／	申	／	会話	存在▲	容疑者xの献身	

Sheet1 Sheet2 Sheet3

標準表示 フィルタ モード 合計=0 SCRL CAPS NUM

画像(10-4)Excel シート完成例

実際にここまでのシートになるにはそれなりの時間を要しています。9.2.4.記載の「オートフィルタ」機能を用いるための準備もしていますし、本書はモノクロ印刷のためわかりにくいですが、視認性をよくするためセルの着色なども行なっています。

今回は編集の都合上、論文執筆に用いた「完成版」ともいうべき画像を示しましたが、実際には執筆中に新しい分類項目を立てたり、用例を追加したりと、幾度も修正を加えることになると思います。用例収集の段階と同様、早めに開始し、かつ作業は慎重に行なう必要があるでしょう。

項目の説明を以下に記しておきます。セルを空欄のままにしておくと、入力作業をしていないものと混同する恐れがあったため、該当がないものについては「／」を入力しておきました。(打ち込みの段階では、分類が難しいもの・判断に迷うものなどを空欄や「？」にしておきました)

表(10-2)今回の Excel データで立てた項目

セル項目	セル内容例と概説
No.	用例の通し番号
用例	実際の用例
m/n	「マセン」「ナイデス」の別
発言者	用例の発言者
性別	「男」「女」「？(不明その他)」　発言者の性別
テンス	「ル」「タ」　否定形式のテンス
品詞 1	「動」「イ形」　否定される品詞
前接表現	「／」「？」「V て」「が」「く」「くは」「しか」「じゃ」「では」など、否定形式の直前に来る表現。動詞に直接ついたものは空欄ではなく、「／」を用いました。
品詞 2	「ある」「歩く」「行く」「売る」など、実際に否定される語。「～ではない」などのコピュラ表現にあたるものは「(ある)」とし区別。また、謝罪や断りの際に用いられた「すみません」は「(済む)」とし、作業が終了する意味での「済む」と混同しないようにしました。
テイル,テアル,授受表現など	「／」「テアル」「ていただく」「テイル」「テオル」「てくださる」など、特定の表現にマセン／ナイデスがつく場合、どちらか一方に偏った出現があるのではないかという仮説から項目を立てましたが、結果的には有意な傾向は見られませんでした。
動詞の文法的特徴	「／」「可能」「禁止的」「補助」　可能表現・禁止的表現（そもそもこの分類が曖昧ですが）・補助動詞の否定の際に何か特徴が現れるのではないかという観点から。
慣用的な表現など	「／」「かもしれない」「しかたない」「～てならない」「どうしようもない」「～に過ぎない」「はずがない」など、特定の表現にマセン／ナイデスがつく場合、どちらか一方に偏った出現があるのではないかという仮説から。結果的には有意な傾向は見られませんでした。
すみません	「／」「み」「い」「申」　「すみ(い)ません」「申し訳ありません」は特殊なケースとの観点から、これらに該当しない用例（「／」）のみをフィルタで取り出して分析するのに用いました。

後接表現	「／」「？(疑問符)」「か」「よ」「よね」「ね」「が」「から」「けど」「のに」など、否定形式の直後に来る表現。終助詞や接続助詞が該当。後接する語がなかったものを「／」としました。「けど」と「けどね」は別々のデータになりますが、フィルタをかける際に「『けど』『で始まる』」という条件を指定すればあわせて抽出・表示することができます。
文体	「地の文」「会話文」「手紙」「誓約書文面」　結果的に分析には影響していませんが、著者がかぎ括弧を用いない場面や、会話文中でない用例もあったため念のために設けておきました。
否定の対象	「存在表現」「コピュラ表現」「一般動詞」　マセン／ナイデスを「存在表現の否定」「コピュラ表現の否定」「一般動詞の否定」に大別して分析する方向で論文を進めていたため、フィルタをかけて該当する表現のみを分析する際に便利なように設けました。
出典 2	用例が載っていた作品名。ちなみに「出典 1」がないのは、はじめ音声資料や新聞などからも用例をとって同様に項目を分類していたのを、のちに分析対象から外したためです。

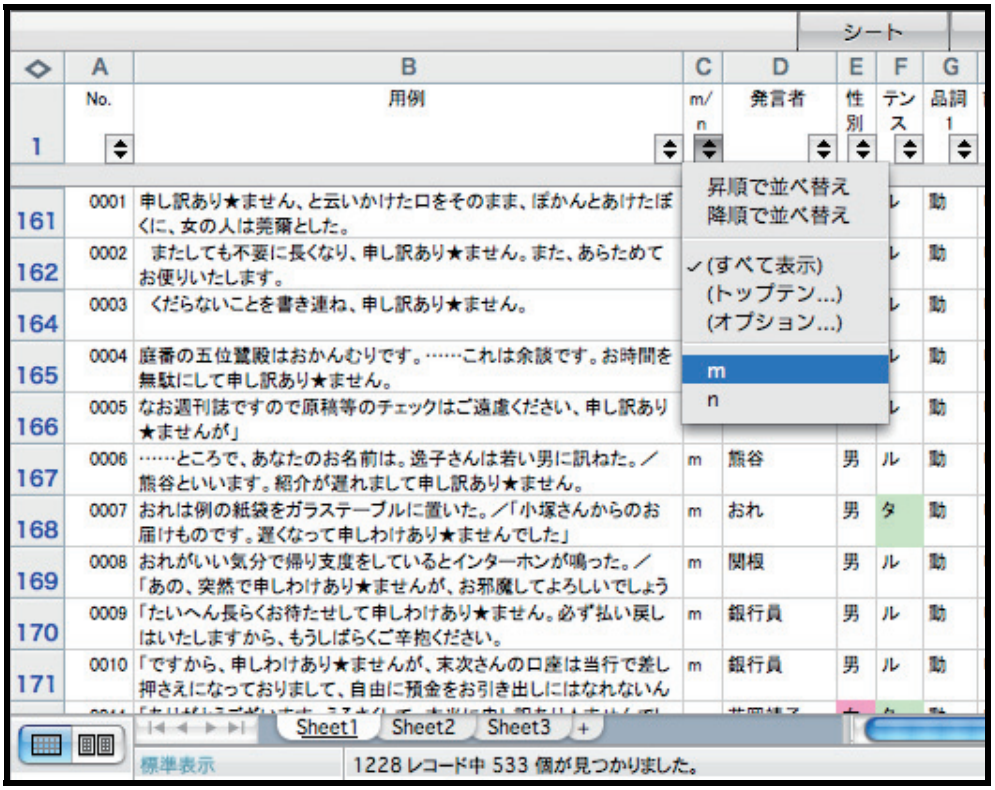
これで、準備段階は終了です。このようにして作成した Excel データを用いて、分析を行ないました。もちろん、立てた分類項目の中には、実際の分析には有効でなかったものも多数あります。しかし、標本数の増加によって何か傾向が出てくるようなこともあるかもしれませんので、初めから排除しないほうがよいと考えます。

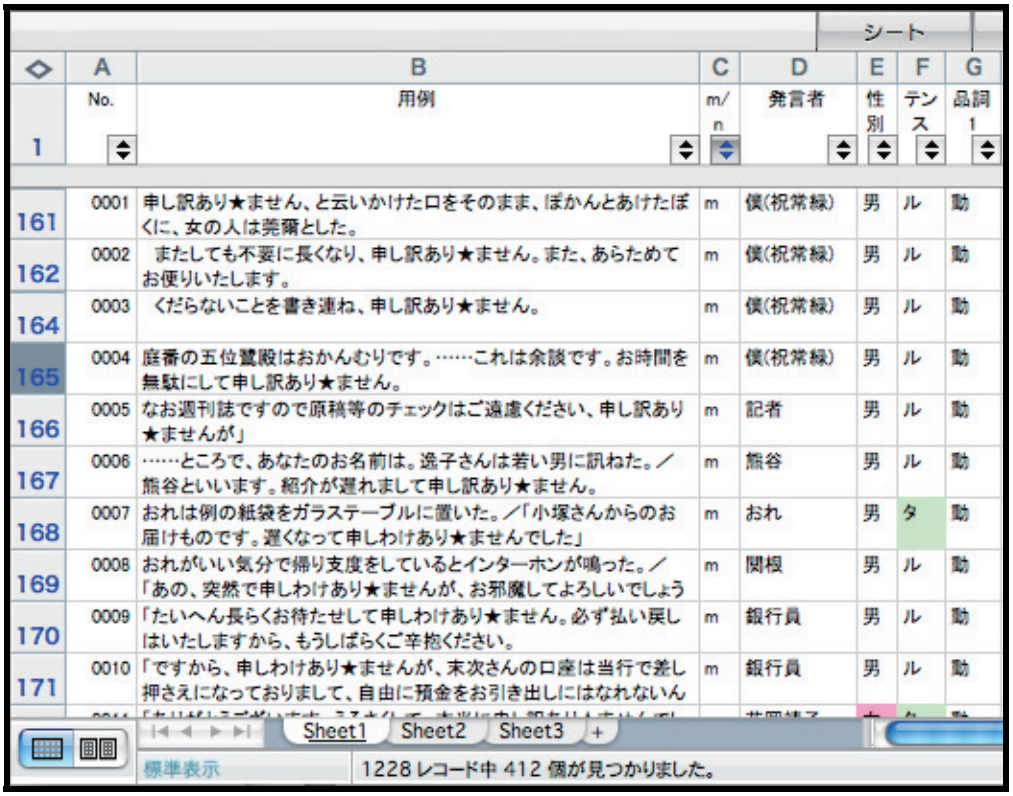
10.4. 分析

いよいよ分析作業に入っていきます。ここでの方法は、9.2.4.と重複する部分があります。なお、実際に分析作業をした際の進行順と、完成した論文の構成は必ずしも一致しません（むしろ、完全に計画どおりに進行するケースのほうが少ないでしょう。これから述べる論文に関して言えば、行なった分析の大半は、仮説を裏付けなかったり、論を進める助けにはならなかったりするものでした）。ただし本章では、紙幅の都合上、完成した論文の構成にある程度沿って、話を進めます。具体的には、全体の分析について述べたあと、表現形式（存在表現／コピュラ表現／一般動詞）別の分析について述べます。

10.4.1. 全体数からみた分析

まずは、あつめた用例のうち、「マセン」「ナイデス」それぞれの数とその出現状況がどうなっているのかを調べました。Excel の「m/n」（列 C）のフィルタを用い、「マセン」の用例数／「ナイデス」の用例数をそれぞれ求めます。もちろん、手作業でひとつひとつ数えても同じ数が得られるはずなのですが、第 9 章で述べられているように、それを効率化できるのが Excel の利点です。

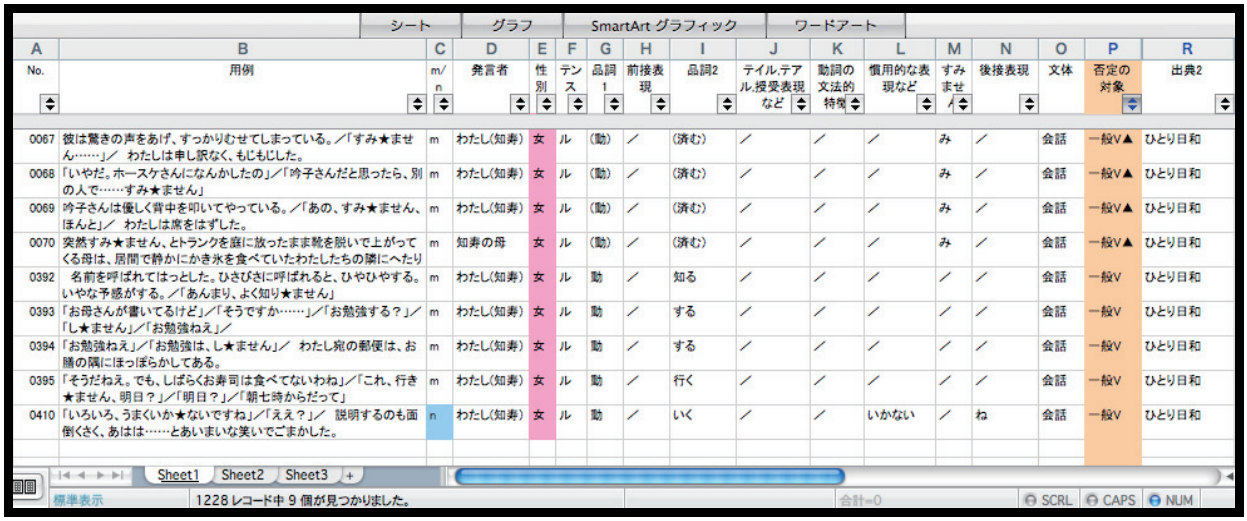




画像(10-5)例：「マセン」の用例数を調べる

画像（10-5）では、フィルタを用いた結果、最下段に「412 個が見つかりました」と用例数が現れます。これで今回の標本から「マセン」の数を得ることができました。同様に「ナイデス」の用例数についても調べます。

また、それぞれの作品ごとで出現数と比率がどう異なるか、についても調べます。「出典2」（列 R）のオートフィルタを用いることで、作品ごとの用例数を得ることができます。



No.	用例	m/n	発言者	性別	テンス	品詞1	前接表現	品詞2	テイル,テアル,授受表現など	動詞の文法的特徴	慣用的な表現など	すみません	後接表現	文体	否定の対象	出典2
0067	彼は驚きの声をあげ、すっかりむせてしまっている。／「すみ★ません……」／ わたしは申し訳なく、もじもじした。	m	わたし(知寿)	女	ル	(動)	／	(済む)	／	／	／	み	／	会話	一般V▲	ひとり日和
0068	「いやだ。ホースケさんになんかしたの」／「吟子さんだと思ったら、別の人で……すみ★ません」	m	わたし(知寿)	女	ル	(動)	／	(済む)	／	／	／	み	／	会話	一般V▲	ひとり日和
0069	吟子さんは優しく背中を叩いてやっている。／「あの、すみ★ません、ほんと」／ わたしは席をはずした。	m	わたし(知寿)	女	ル	(動)	／	(済む)	／	／	／	み	／	会話	一般V▲	ひとり日和
0070	突然すみ★ません、とトランクを庭に放ったまま靴を脱いで上がってくる母は、居間で静かにかき氷を食べていたわたしたちの隣にへたり	m	知寿の母	女	ル	(動)	／	(済む)	／	／	／	み	／	会話	一般V▲	ひとり日和
0392	名前を呼ばれてはっとした。ひさびさに呼ばれると、ひやひやする。いやな予感がする。／「あんまり、よく知り★ません」	m	わたし(知寿)	女	ル	動	／	知る	／	／	／	／	／	会話	一般V	ひとり日和
0393	「お母さんが書いてるけど」／「そうですか……」／「お勉強する？」／「し★ません」／「お勉強ねえ」／	m	わたし(知寿)	女	ル	動	／	する	／	／	／	／	／	会話	一般V	ひとり日和
0394	「お勉強ねえ」／「お勉強は、し★ません」／ わたし宛の郵便は、お膳の隅にほっぽらかしてある。	m	わたし(知寿)	女	ル	動	／	する	／	／	／	／	／	会話	一般V	ひとり日和
0395	「そうだねえ。でも、しばらくお寿司は食べてないわね」／「これ、行き★ません、明日？」／「明日？」／「朝七時からだって」	m	わたし(知寿)	女	ル	動	／	行く	／	／	／	／	／	会話	一般V	ひとり日和
0410	「いろいろ、うまくいか★ないですね」／「ええ？」／ 説明するのも面倒くさく、あはは……とあいまいな笑いでごまかした。	n	わたし(知寿)	女	ル	動	／	いく	／	／	いかない	／	ね	会話	一般V	ひとり日和

画像(10-6)例：作品「ひとり日和」に現れる用例を調べる

この作業で得られた値をもとに、以下のような、作品別に「マセン」「ナイデス」の用例数を示した表を作成することができます[66]。

66 「出現率」の計算には計算機を用いましたが、Excel の関数「PERCENTILE」を使って計算することもできます（本章の説明の流れから外れるので、詳細は割愛します）。

表(10-3)各作品に出現した「マセン」「ナイデス」とその出現率

	マセン	ナイデス	総計
12 作品計	412 [77.3%]	121 [22.7%]	533 [100%]
ひとり	8 [88.9%]	1 [11.1%]	9 [100%]
Friends	7 [46.7%]	8 [53.3%]	15 [100%]
I LOVE	16 [57.1%]	12 [42.9%]	28 [100%]
子ども	38 [95%]	2 [5%]	40 [100%]
魔術師	40 [90.9%]	4 [9.1%]	44 [100%]
図書室	9 [100%]	0 [0%]	9 [100%]
蛇	4 [57.1%]	3 [42.9%]	7 [100%]
姉妹	35 [79.5%]	9 [20.5%]	44 [100%]
東京少年	26 [96.3%]	1 [3.7%]	27 [100%]
容疑者	138 [84.1%]	26 [15.9%]	164 [100%]
事件簿	58 [55.2%]	47 [44.8%]	105 [100%]
夢	33 [80.5%]	8 [19.5%]	41 [100%]

この表は、実際の論文でも序盤に配されることとなります。

10.4.2. 表現形式別にみた分析

全体の用例数が判明し、「マセン」が多数であるという事実がわかりました。しかし、両形式の詳細については、まだまだ追究する必要がありそうです。

たとえば、「マセン／ナイデス」が動詞「ある」を否定する場合と、「ある」以外の動詞（以下、「一般動詞」と呼びます）を否定する場合とでは事情が異なることを、先行研究は指摘しています。前者では「ありません」と「ないです」が対応関係となりますが、後者では「動詞の連用形＋マセン」と「動詞の未然形＋ナイデス」が対応する関係となります。以後、この 2 種を区別して考察していきます。これは先行研究の指摘を確認する作業でもあります。

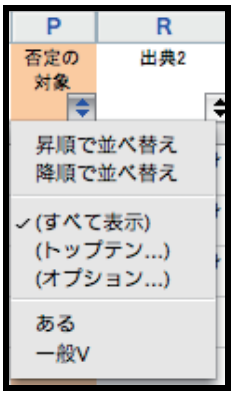
「ある」と「一般動詞」の場合を分けての調査を Excel 上で容易に行なうためには、この 2 種について分類項目があればよいことになります。つまり「否定される語」にあたる分類項目があればよいのです。実際の作業過程では、列 P「否定の対象」に「ある」「一般 V」のどちらかを入力することでその後の分析を進めやすいようにしていました[67]。

[67] ただし、この大雑把な区分では不十分だったので、執筆途中で改めることとなります。

No.	用例	m/n	発言者	性別	テンス	品詞1	前接表現	品詞2	テイル,テアル,授受表現など	動詞の文法的特徴	慣用的な表現など	すみません	後接表現	文体	否定の対象	出典2
0150	「さあ」杉村園子は首を捻った。「彼女とは今でも時々電話で話をしますけど、そんな話を聞いたことは★ないです」	n	杉村園子	女	ル	動	が)	ある	／	／	／	／	／	会話	ある	容疑者xの献身
0151	「花岡さんの様子はどうでしたか」／「特に変わったところは★なかったですよ。もうすでに警察の人が来たっていってました」	n	杉村園子	女	タ	動	が)	ある	／	／	／	／	よ	会話	ある	容疑者xの献身
0152	石神は苦笑を浮かべた。／「そんな必要★ないですよ。どこの部屋ですか」	n	石神哲哉	男	ル	動	が)	ある	／	／	／	／	よ	会話	ある	容疑者xの献身
0153	「大丈夫ですよ。大口開ける事★ないですから」／ にっこりして近づくと、マネージャーは顔の筋肉を緩め仕方ないな、と小声で言った。	n	私(ルイ)	女	ル	動	が)	ある	／	／	／	／	から	会話	ある	蛇にピアス
0154	「そんなこと★ないですよ。私、いじけていて嫌われ者でしたから。でもその人だけは優しくて親切だったんです。	n	栗原はるな	女	ル	動	／	ある	／	／	／	／	よ	会話	ある	Friends—KISS
0455	「なんとなくです」／「瞬君がいたからじゃないの？」／「そうかもしれ★ませんね」	m	僕	男	ル	(動)	／	(知る)	／	／	かもしれない	／	ね	会話	一般V	I LOVE YOU — 百瀬、
0156	しかし僕は彼女を引き止めた。／「もう少しだけ、話をし★ませんか？」	m	僕	男	ル	動	／	する	／	／	／	／	か	会話	一般V	I LOVE YOU — 百瀬、
0157	「さっき、あいつと電話したんだ。今日は危なかったな」／百瀬が助けてくれなかったら、しくじってたかもしれ★ません。	m	僕	男	ル	(動)	／	(知る)	／	／	かもしれない	／	／	会話	一般V	I LOVE YOU — 百瀬、
0158	「僕は大人になっても瞬兄ちゃんのことを忘れ★ませんから」／水辺に沿って歩く。土手には街灯も民家もない。	m	僕	男	ル	動	／	忘れる	／	／	／	／	から	会話	一般V	I LOVE YOU — 百瀬、

Sheet1 Sheet2 Sheet3 +

標準表示　1228 レコード中 533 個が見つかりました。　合計=0　SCRL　CAPS　NUM



画像(10-7)例：列 P「否定の対象」を設け、「ある」と「一般動詞」を区別する

○「ありません」と「ないです」

動詞「ある」を否定する用例を抽出するには、列 P「否定の対象」にフィルタ「ある」をかければよいのですが、この作業の結果得られるのは、『動詞「ある」を否定する「マセン／ナイデス」』、つまり「ありません」と「ないです」の合計数になってしまいます。

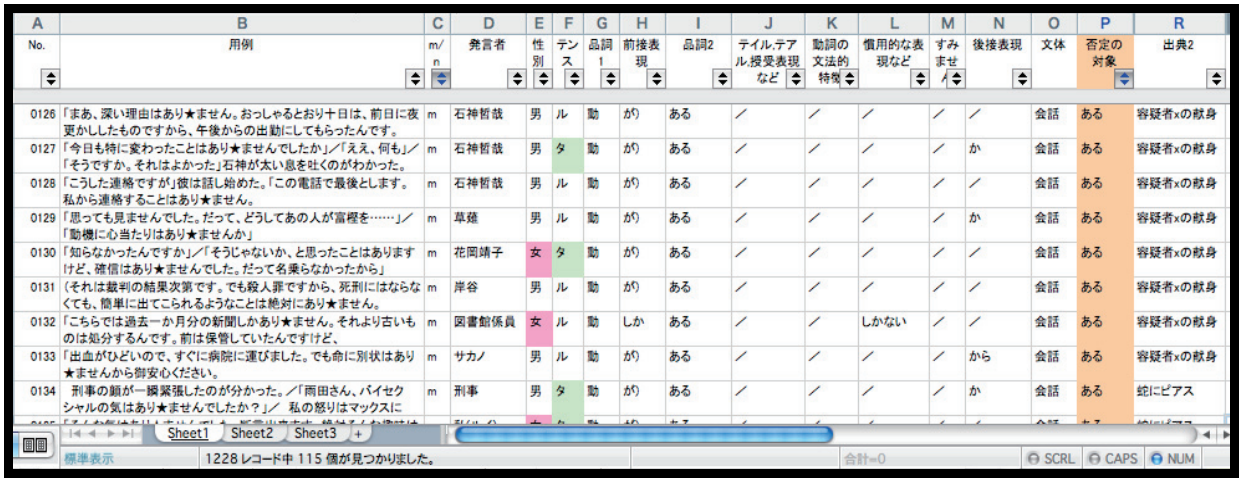
No.	用例	m/n	発言者	性別	テンス	品詞1	前接表現	品詞2	テイル,テアル,授受表現など	動詞の文法的特徴	慣用的な表現など	すみません	後接表現	文体	否定の対象	出典2
0132	「こちらでは過去一か月分の新聞しかあり★ません。それより古いものは処分するんです。前は保管していたんですけど、	m	図書館係員	女	ル	動	しか	ある	／	／	しかない	／	／	会話	ある	容疑者xの献身
0133	「出血がひどいので、すぐに病院に運びました。でも命に別状はあり★ませんから御安心ください。	m	サカノ	男	ル	動	が)	ある	／	／	／	／	から	会話	ある	容疑者xの献身
0134	刑事の顔が一瞬緊張したのが分かった。／「両田さん、バイセクシャルの気はあり★ませんでしたか？」／ 私の怒りはマックスに	m	刑事	男	タ	動	が)	ある	／	／	／	／	か	会話	ある	蛇にピアス
0135	「そんな気はあり★ませんでした。断言出来ます。絶対そんな趣味はないはずです」／ 私は、肩を落として署を出た。	m	私(ルイ)	女	タ	動	が)	ある	／	／	／	／	／	会話	ある	蛇にピアス
0136	「遠距離だ」／「ええ」／「どうするんだい」／「どうしようも★ないです」	n	僕	男	ル	動	が)	ある	／	／	どうしようもな	／	／	会話	ある	I LOVE YOU — 透明ボーラー
0137	全ての費用にちゃんと領収書がありましたよ。カラ出張も★なかったですし。どれひとつ不審なものなんてありません」	n	僕(カッキー)	男	タ	動	が)	ある	／	／	／	／	し	会話	ある	女子大生会計士1
0138	「＜相談費用＞ねぇ、……やっぱり恋愛相談かしら」／「そんなわけ絶対★ないですよ」	n	僕(カッキー)	男	ル	動	が)	ある	／	／	／	／	よ	会話	ある	女子大生会計士1
0139	「萌さん。調べるって言ったって、方法が★ないですよ」／「カッキーは黙っていて。調べる方法ならほかにもあるわ。	n	僕(カッキー)	男	ル	動	が	ある	／	／	／	／	よ	会話	ある	女子大生会計士1
0140	「萌さん、何を聞き出そうとしているんですか。関係★ないですよ、その話は」／ 僕は萌さんに注意した。	n	僕(カッキー)	男	ル	動	が)	ある	／	／	／	／	よ	会話	ある	女子大生会計士1

Sheet1 Sheet2 Sheet3 +

標準表示　1228 レコード中 224 個が見つかりました。　合計=0　SCRL　CAPS　NUM

画像(10-8)例：「ある」を否定する「マセン／ナイデス」の抽出

これでは不便なので、ここからさらに、「ありません」と「ないです」それぞれの抽出にとりかかります。このためには、画像（10-8）の状態から列 C「m／n」にフィルタを用います。こうすることで、列 P のフィルタを有効にしたままで、列 C にもフィルタを用いた結果が得られるのです。



画像(10-9)例：「ある」を否定する「マセン」（「ありません」）のみを抽出

同様にして、「ある」を否定する「ナイデス」の数もわかります。このように、フィルタは重ねてかけることができるので、「○○の条件下で△△なもの、うち、さらに□□なもの…」というふうに、どんどん条件を絞りこんでいくことができます[68]。

論文ではこのあと、時制によって出現割合が異なるかもしれないという観点から、「テンス」（列 F）にフィルタを用いて「ありません」「ありませんでした」「ないです」「なかったです」の用例数をそれぞれ求め、得られた値から以下の表を作成して掲載しました。

68 気になる分析過程は、p.143 で述べられているように別のシートに保存しておくとよいでしょう。また、次の分析にかかる際には、一旦かけたフィルタを解除する（すべて表示、を選べば解除できます）ことも忘れてはいけません。

表(10-4)ありません」と「ないです」の用例総数とその出現率

	ありません	ないです	合計
用例数	115 [51.3%]	109 [48.7%]	224 [100%]
うちル形	95 [47.5%]	105 [52.5%]	200 [100%]
うちタ形	20 [83.3%]	4 [16.7%]	24 [100%]

たとえばこの数値を先の表(10-3)に示した「マセン」「ナイデス」全体の出現率(77.3% : 22.7%)と比べると、「ないです」の出現率の高さが際立ちます。そして出現数を比較すると、「ナイデス」の多くが、動詞「ある」の否定「ないです」の形で現れているということも見てとれます。「ナイデス」の用例総数121例のうち、「ないです」が109例(90.1%)を占めていることは一つの特徴といえるでしょう。

こういった数値を、先行研究のそれと比較することも分析の観点の一つだと思われます。有意な差があるか、また、標本のタイプに依存する問題なのか、など、考察の観点となるでしょう。

画像(10-8)の段階でフィルタの対象を「一般動詞」にすれば、「動詞の連用形+マセン」と「動詞の未然形+ナイデス」、すなわち「ある」以外の一般動詞を否定する用例の数と比率も求めることができます。表(10-4)と同様に調べた表を示します。

表(10-5)「動詞+マセン」と「動詞+ナイデス」の用例総数とその出現率

	動詞 +マセン	動詞 +ナイデス	合計
用例数	297 [96.1%]	12 [3.9%]	309 [100%]
うちル形	269 [96.4%]	10 [3.7%]	279 [100%]
うちタ形	28 [93.3%]	2 [6.7%]	30 [100%]

これで、「マセン」と「ナイデス」を大まかな2つのタイプに分けて考察することが可能になりました。

ところで、形式上は「ありません」という同じ外見であっても、以下に挙げる(1),(2)ではタイプが異なります[69]。

69 用例末の[ ]内は発言者を示します(以下同)。出典は附録の論文巻末を参照。なお、本文に用例を引用する際には、初めに作成したWord書類からコピー&ペーストするのが二度手間やタイプミスを防ぐのに有効だと思います。この点からも、初めに用例を入力する際は慎重に作業することが望ましいでしょう。

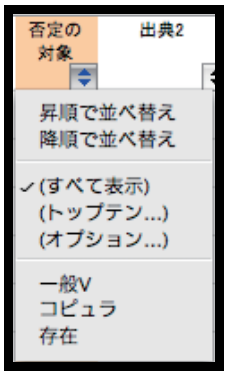
(1)　だけど、ウチには神棚がないんだ。佐保ちゃんちはどう。ウチも正式なのはありません。兄が修学旅行先で買ってきたのはあるんですけど、兄のほかは手もあわせないので、もう神様に見限られてると思います。［わたし］（となりの姉妹 P.37）

(2)　「父は研究者ではありません。自分でも我流だと云っています。大学を中退してるから、」［ぼく］（東京少年 P.143）

(1)は「神棚」の有無を述べた、動詞「ある」による存在表現の文ですが、(2)は「父は研究者だ」といったコピュラ文の否定にあたる表現です。「ないです」にも同様に、存在表現／コピュラ文それぞれの否定の用例が見られます。

先ほどまでは「ありません／ないです」を、動詞「ある」の否定として一括りにしていました。しかし、「存在表現」と「コピュラ表現[70]」の 2 つの場合に分けて分析する必要がありそうです（以後、存在表現の否定には「ありません」「ないです」を、コピュラ表現の否定は「～ありません」と「～ないです」の表記を用いることとします）。

画像（10-7）で設けた「ある」「一般 V」の区分では不適だと判明したので、列 P の「ある」を「存在」「コピュラ」に入力し直し、それぞれの用例数を調査します。



A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	R
No.	用例	m/n	発言者	性別	テンス	品詞1	前接表現	品詞2	テイル,テアル,授受表現など	動詞の文法的特徴	慣用的な表現など	すみません	後接表現	文体	否定の対象	出典2
0134	刑事の顔が一瞬緊張したのが分かった。／「雨田さん、バイセクシャルの気はあり★ませんでしたか？」／ 私の怒りはマックスに	m	刑事	男	タ	動	が)	ある	／	／	／	／	か	会話	存在	蛇にピアス
0135	「そんな気はあり★ませんでした。断言出来ます。絶対そんな趣味はないはずです」／ 私は、肩を落として署を出た。	m	私(ルイ)	女	タ	動	が)	ある	／	／	／	／	／	会話	存在	蛇にピアス
0153	「大丈夫ですよ。大口開ける事★ないですから」／ にっこりして近づくと、マネージャーは顔の筋肉を緩め仕方ないな、と小声で言った。	n	私(ルイ)	女	ル	動	が)	ある	／	／	／	／	から	会話	存在	蛇にピアス
0396	闇の中で、私は懇願した。アマが捕まり★ませんように。誰に懇願したのかは分からない。	m	私(ルイ)	女	ル	動	／	捕まる	／	／	／	／	ように	会話	一般V	蛇にピアス
0397	は―い、と何故かアマも私と声を合わせて返事をした。飯行き★ません？ というアマの誘いをシバさんは	m	アマ	男	ル	動	／	行く	／	／	／	／	？	会話	一般V	蛇にピアス
0527	「ふうん。ギャルも舌ピとかするんだ」／ シバさんはもの珍しそうに私を見た。／「ギャルじゃ★ないです」	n	私(ルイ)	女	ル	動	じゃ	(ある)	／	／	／	／	／	会話	コピュラ	蛇にピアス
0528	「お前の方が目立つだろ。そんなギャングみて―なカッコして」／「何言ってんすか、シバさんなんかパンクじゃ★ないっすか」	n	アマ	男	ル	動	じゃ	(ある)	／	／	／	／	か	会話	コピュラ	蛇にピアス

画像(10-10)例：「ある」を「存在表現」と「コピュラ表現」に細分化

70　先行研究の定義「典型的な名詞・形容詞・形容動詞文のほかに、『～では｛ありませんか／ないですか｝！』という複合助辞的な表現も含まれる」（田野村 1994 P.54）に倣ったものです。

得られた数値は以下のようになりました。

表(10-6)「存在表現／コピュラ表現の否定」それぞれの用例総数と出現率

	マセン	ナイデス	合計
用例数	115 [51.3%]	109 [48.7%]	224 [100%]
存在表現	82 [79.6%]	21 [20.4%]	103 [100%]
コピュラ表現	33 [27.3%]	88 [72.7%]	121 [100%]

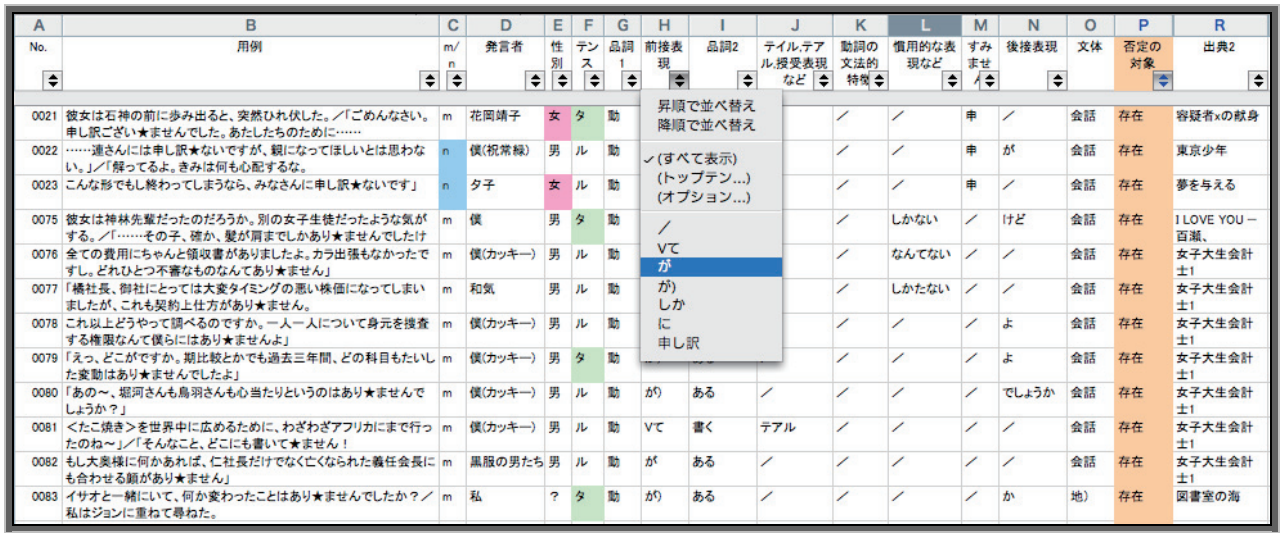
2 つの形式には、「マセン」は存在表現で多く、「ナイデス」はコピュラ表現で多く出現するという特徴があることがうかがえます。この結果から、存在表現・コピュラ表現のそれぞれについて、もう少し細かく分析を試みてみます。

○「ありません」と「ないです」(存在表現)

列 P にフィルタ「存在」をかけることで、存在表現の否定として現れた用例のみを抽出できました。この用例について、分析を試みます。

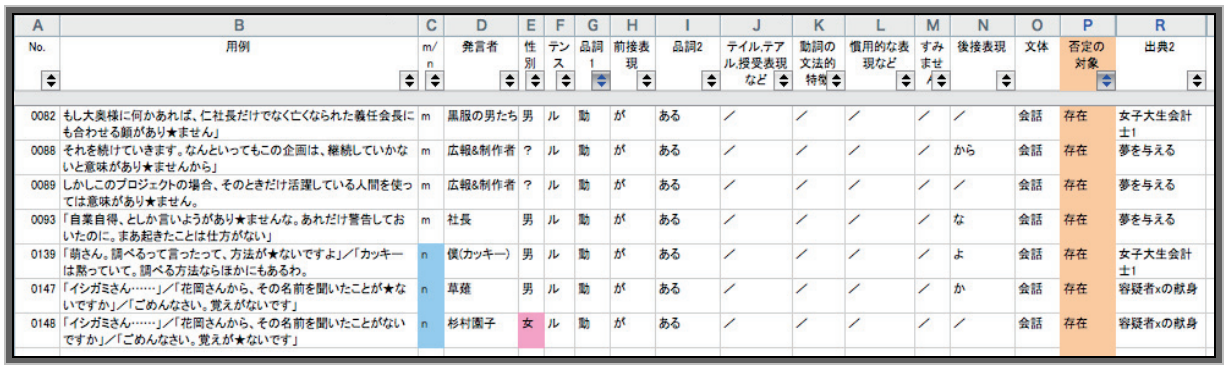
分析の観点にはさまざまなものがあると思いますが、まず、「ありません」と「ないです」がどのような前接形式とともに出現しているかを調査しました。

表（10-2）でも紹介したように、Excel データにはあらかじめ「前接表現」という分類項目を設けて、「ありません」「ないです」の直前に来る語を入力してあります。これにフィルタ「前接表現」を用いて前接形式ごとの用例数を調査します。



A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	R
No.	用例	m/n	発言者	性別	テンス	品詞1	前接表現	品詞2	テイル,テアル,授受表現など	動詞の文法的特徴	慣用的な表現など	すみませ	後接表現	文体	否定の対象	出典2
0021	彼女は石神の前に歩み出ると、突然ひれ伏した。／「ごめんなさい。申し訳ございま★ませんでした。あたしたちのために……」	m	花岡靖子	女	タ	動				／	／	申	／	会話	存在	容疑者xの献身
0022	……連さんには申し訳★ないですが、親になってほしいとは思わない。」／「酔ってるよ。きみは何も心配するな。	n	僕(祝常緑)	男	ル	動				／	／	申	が	会話	存在	東京少年
0023	こんな形でもし終わってしまうなら、みなさんに申し訳★ないです」	n	夕子	女	ル	動				／	／	申	／	会話	存在	夢を与える
0075	彼女は神林先輩だったのだろうか。別の女子生徒だったような気がする。／「……その子、確か、髪が肩までしかあり★ませんでしたけ	m	僕	男	タ	動				／	しかない	／	けど	会話	存在	I LOVE YOU－百瀬、
0076	全ての費用にちゃんと領収書がありましたよ。カラ出張もなかったですし。どれひとつ不審なものなんてあり★ません」	m	僕(カッキー)	男	ル	動				／	なんてない	／	／	会話	存在	女子大生会計士1
0077	「橘社長、御社にとっては大変タイミングの悪い株価になってしまいましたが、これも契約上仕方があり★ません。	m	和気	男	ル	動				／	しかたない	／	／	会話	存在	女子大生会計士1
0078	これ以上どうやって調べるのですか。一人一人について身元を捜査する権限なんて僕らにはあり★ませんよ」	m	僕(カッキー)	男	ル	動				／	／	／	よ	会話	存在	女子大生会計士1
0079	「えっ、どこがですか。期比較とかでも過去三年間、どの科目もたいした変動はあり★ませんでしたよ」	m	僕(カッキー)	男	タ	動				／	／	／	よ	会話	存在	女子大生会計士1
0080	「あの～、堀河さんも鳥羽さんも心当たりというのはあり★ませんでしょうか？」	m	僕(カッキー)	男	ル	動	が)	ある	／	／	／	／	でしょうか	会話	存在	女子大生会計士1
0081	くたこ焼き>を世界中に広めるために、わざわざアフリカにまで行ったのね～」／「そんなこと、どこにも書いて★ません！	m	僕(カッキー)	男	ル	動	Vて	書く	テアル	／	／	／	／	会話	存在	女子大生会計士1
0082	もし大奥様に何かあれば、仁社長だけでなく亡くなられた義任会長にも合わせる顔があり★ません」	m	黒服の男たち	男	ル	動	が	ある	／	／	／	／	／	会話	存在	女子大生会計士1
0083	イサオと一緒にいて、何か変わったことはあり★ませんでしたか？／私はジョンに重ねて尋ねた。	m	私	?	タ	動	が)	ある	／	／	／	／	か	地)	存在	図書室の海

昇順で並べ替え
降順で並べ替え
✓(すべて表示)
(トップテン...)
(オプション...)
／
Vて
が
が)
しか
に
申し訳



A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	R
No.	用例	m/n	発言者	性別	テンス	品詞1	前接表現	品詞2	テイル,テアル,授受表現など	動詞の文法的特徴	慣用的な表現など	すみませ	後接表現	文体	否定の対象	出典2
0082	もし大奥様に何かあれば、仁社長だけでなく亡くなられた義任会長にも合わせる顔があり★ません」	m	黒服の男たち	男	ル	動	が	ある	／	／	／	／	／	会話	存在	女子大生会計士1
0088	それを続けていきます。なんといってもこの企画は、継続していかないと意味があり★ませんから」	m	広報&制作者	?	ル	動	が	ある	／	／	／	／	から	会話	存在	夢を与える
0089	しかしこのプロジェクトの場合、そのときだけ活躍している人間を使っては意味があり★ません。	m	広報&制作者	?	ル	動	が	ある	／	／	／	／	／	会話	存在	夢を与える
0093	「自業自得、としか言いようがあり★ませんな。あれだけ警告しておいたのに。まあ起きたことは仕方がない」	m	社長	男	ル	動	が	ある	／	／	／	／	な	会話	存在	夢を与える
0139	「萌さん。調べるって言ったって、方法が★ないですよ」／「カッキーは黙っていて。調べる方法ならほかにもあるわ。	n	僕(カッキー)	男	ル	動	が	ある	／	／	／	／	よ	会話	存在	女子大生会計士1
0147	「イシガミさん……」／「花岡さんから、その名前を聞いたことが★ないですか」／「ごめんなさい。覚えがないです」	n	草薙	男	ル	動	が	ある	／	／	／	／	か	会話	存在	容疑者xの献身
0148	「イシガミさん……」／「花岡さんから、その名前を聞いたことがないですか」／「ごめんなさい。覚えが★ないです」	n	杉村園子	女	ル	動	が	ある	／	／	／	／	／	会話	存在	容疑者xの献身

画像(10-11)例：前接表現形式ごとにフィルタを用いて用例数を調べる

前接形式を調べた結果、以下の数値が得られました。

表(10-7)「ありません」と「ないです」(存在表現)の出現状況（前接形式）[71]

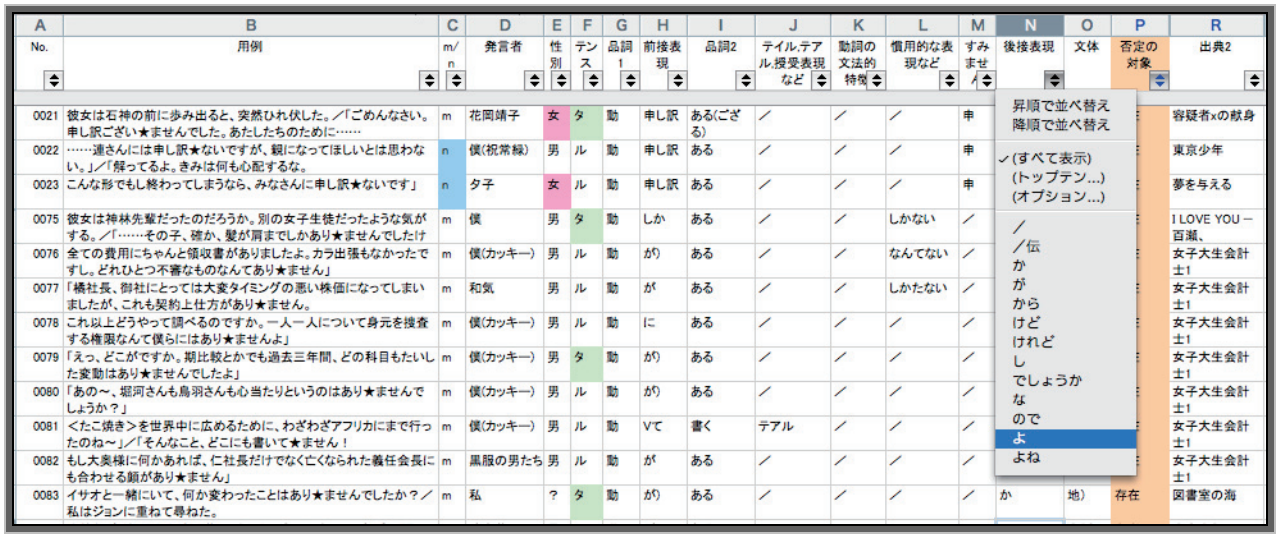
	ありません	ないです	合計
が＿	5 [6.1%]	3 [14.3%]	8
（が）＿	51 (12) [62.2%]	16 (2) [76.2%]	67 (14)
しか＿	3 (1) [3.7%]	0	3 (1)
～して＿	2 [2.4%]	0	2
申し訳＿	21 (7) [25.6%]	2 [9.5%]	23 (7)
存在表現計	82 (20) [100%]	21 (2) [100%]	103 (22)
	[79.6%]	[20.4%]	[100%]

[71] 丸括弧内はタ形の用例数（以下同）。「が＿」は格助詞「が」が明示されていた用例数。「（が）＿」は係助詞「は」が用いられた用例や「そんなこと｛ありません／ないです｝」のように助詞が伴わない用例を含む。また、直前に副詞などが入る場合はそれらをないものとして考えている。詳細は割愛。

「ありません」の中に、「申し訳ありません」の形が多いことが判明します。これは用例を収集している段階でも感じることではあるのですが、実際に数値でそれを確認します。一方「申し訳ないです」の例は 2 例でした。標本数が少ないことはもちろん考慮しなければいけませんが、「申し訳＋ないです」が極端に少ないことの背景には、「申し訳～」の表現は一般に謝罪の場面、いわば丁寧度の高い場面で用いられるため、「ありません」が丁寧度の高いものとして積極的に選択されているという事実が想定されます。

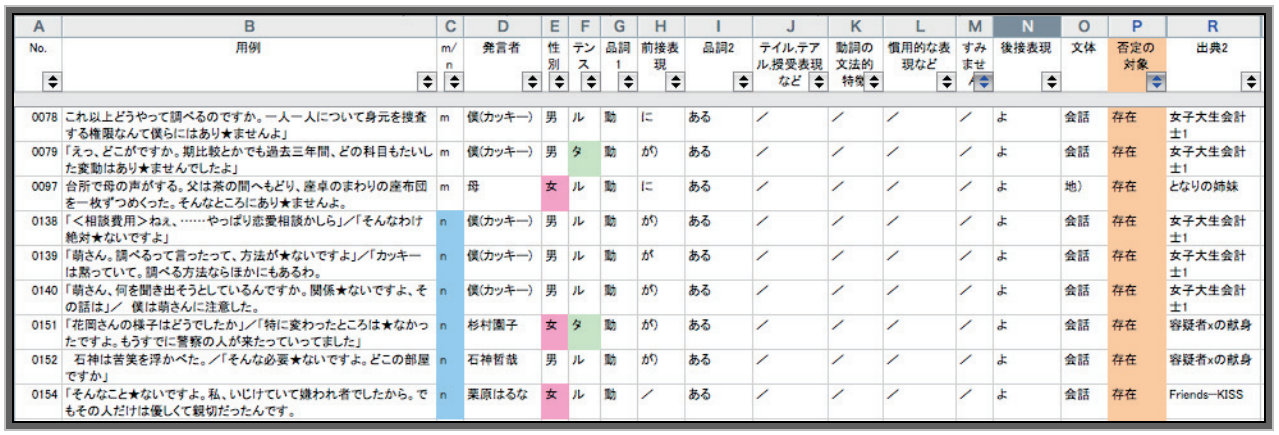
「申し訳～」の形を慣用的で特殊なものとして一旦置き、これを含めずに比較しても、「ありません：ないです」は 61：19 と「ありません」が存在表現の 4 分の 3 以上を占める結果となりました。「ないです」は「(が) __」の形で出現しているケースが大半であり、「ありません」のほうがよりさまざまな形式と共起していると考えることができそうです。

前接形式以外で何か特徴的なことはないか、ということで、次に「申し訳～」の形を除いた「ありません」と「ないです」を後続文脈と照らし合わせてみました。これも、Excel データにあらかじめ立てた「後接表現」の分類項目にフィルタを用いて、後接形式ごとの用例数を調べます。



A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	R
No.	用例	m/n	発言者	性別	テンス	品詞1	前接表現	品詞2	テイル,テアル,授受表現など	動詞の文法的特徴	慣用的な表現など	すみませ	後接表現	文体	否定の対象	出典2
0021	彼女は石神の前に歩み出ると、突然ひれ伏した。／「ごめんなさい。申し訳ございます★ませんでした。あたしたちのために……	m	花岡靖子	女	タ	動	申し訳	ある(ござる)	／	／	／	申				容疑者xの献身
0022	……連さんには申し訳★ないですが、親になってほしいとは思わない。」／「解ってるよ。きみは何も心配するな。	n	僕(祝常緑)	男	ル	動	申し訳	ある	／	／	／	申				東京少年
0023	こんな形でもし終わってしまうなら、みなさんに申し訳★ないです」	n	夕子	女	ル	動	申し訳	ある	／	／	／	申				夢を与える
0075	彼女は神林先輩だったのだろうか。別の女子生徒だったような気がする。／「……その子、確か、髪が肩までしかあり★ませんでしたけ	m	僕	男	タ	動	しか	ある	／	／	しかない	／				I LOVE YOU－百瀬、
0076	全ての費用にちゃんと領収書がありましたよ。カラ出張もなかったですし。どれひとつ不審なものなんてあり★ません」	m	僕(カッキー)	男	ル	動	が)	ある	／	／	なんてない	／				女子大生会計士1
0077	「橘社長、御社にとっては大変タイミングの悪い株価になってしまいましたが、これも契約上仕方があり★ません。	m	和気	男	ル	動	が	ある	／	／	しかたない	／				女子大生会計士1
0078	これ以上どうやって調べるのですか。一人一人について身元を捜査する権限なんて僕らにはあり★ませんよ」	m	僕(カッキー)	男	ル	動	に	ある	／	／	／	／				女子大生会計士1
0079	「えっ、どこがですか。期比較とかでも過去三年間、どの科目もたいした変動はあり★ませんでしたよ」	m	僕(カッキー)	男	タ	動	が)	ある	／	／	／	／				女子大生会計士1
0080	「あの～、堀河さんも鳥羽さんも心当たりというのはあり★ませんでしょうか？」	m	僕(カッキー)	男	ル	動	が)	ある	／	／	／	／				女子大生会計士1
0081	<たこ焼き>を世界中に広めるために、わざわざアフリカにまで行ったのね～」／「そんなこと、どこにも書いて★ません！	m	僕(カッキー)	男	ル	動	V'て	書く	テアル	／	／	／				女子大生会計士1
0082	もし大奥様に何かあれば、仁社長だけでなく亡くなられた義任会長にも合わせる顔があり★ません」	m	黒服の男たち	男	ル	動	が	ある	／	／	／	／				女子大生会計士1
0083	イサオと一緒にいて、何か変わったことはあり★ませんでしたか？／私はジョンに重ねて尋ねた。	m	私	?	タ	動	が)	ある	／	／	／	／	か	地)	存在	図書室の海

昇順で並べ替え
降順で並べ替え
✓(すべて表示)
(トップテン...)
(オプション...)
／
／伝
か
が
から
けど
けれど
し
でしょうか
な
ので
よ
よね



A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	R
No.	用例	m/n	発言者	性別	テンス	品詞1	前接表現	品詞2	テイル,テアル,授受表現など	動詞の文法的特徴	慣用的な表現など	すみませ	後接表現	文体	否定の対象	出典2
0078	これ以上どうやって調べるのですか。一人一人について身元を捜査する権限なんて僕らにはあり★ませんよ」	m	僕(カッキー)	男	ル	動	に	ある	／	／	／	／	よ	会話	存在	女子大生会計士1
0079	「えっ、どこがですか。期比較とかでも過去三年間、どの科目もたいした変動はあり★ませんでしたよ」	m	僕(カッキー)	男	タ	動	が)	ある	／	／	／	／	よ	会話	存在	女子大生会計士1
0097	台所で母の声がする。父は茶の間へもどり、座卓のまわりの座布団を一枚ずつめくった。そんなところにあり★ませんよ。	m	母	女	ル	動	に	ある	／	／	／	／	よ	地)	存在	となりの姉妹
0138	「<相談費用>ねぇ、……やっぱり恋愛相談かしら」／「そんなわけ絶対★ないですよ」	n	僕(カッキー)	男	ル	動	が)	ある	／	／	／	／	よ	会話	存在	女子大生会計士1
0139	「萌さん。調べるって言ったって、方法が★ないですよ」／「カッキーは黙っていて。調べる方法ならほかにもあるわ。	n	僕(カッキー)	男	ル	動	が	ある	／	／	／	／	よ	会話	存在	女子大生会計士1
0140	「萌さん、何を聞き出そうとしているんですか。関係★ないですよ、その話は」／ 僕は萌さんに注意した。	n	僕(カッキー)	男	ル	動	が)	ある	／	／	／	／	よ	会話	存在	女子大生会計士1
0151	「花岡さんの様子はどうでしたか」／「特に変わったところは★なかったですよ。もうすでに警察の人が来たっていってました」	n	杉村園子	女	タ	動	が)	ある	／	／	／	／	よ	会話	存在	容疑者xの献身
0152	石神は苦笑を浮かべた。／「そんな必要★ないですよ。どこの部屋ですか」	n	石神哲哉	男	ル	動	が)	ある	／	／	／	／	よ	会話	存在	容疑者xの献身
0154	「そんなこと★ないですよ。私、いじけていて嫌われ者でしたから。でもその人だけは優しくて親切だったんです。	n	栗原はるな	女	ル	動	／	ある	／	／	／	／	よ	会話	存在	Friends―KISS

画像(10-12)例：後接表現形式ごとにフィルタを用いて用例数を調べる

後接形式を調べた結果、表（10-8）の数値が得られました。

表(10-8)「ありません」と「ないです」（存在表現）の出現状況（後続形式）[72]

	ありません	ないです
「申し訳～」を除いた数	61 [100%]	19 [100%]
言い切りの形	34 [55.7%]	8 [42.1%]
接続助詞	9 [14.8%] け(れ)ど 4 が 2 から 2 ので 1	2 [10.5%] から 1 し 1
終助詞	18 [29.5%] か 14 よ 3 な 1	9 [47.4%] か 2 よ 6 よね 1

用例数が少ないため適切さを欠いているかもしれませんが、「ありません」が言い切りの形で用いられやすい一方、「ないです」は終助詞を伴うケースが多いというデータが得られました。「ないです」が接続助詞に続くケースは 2 例でしたが、(3)のように文が終わる箇所での出現で、ほぼすべての用例が、文の終わりに使用されていることが伺えました。

(3) そう答えるとマネージャーは更に首を捻り「でも……」とか「うーん」とか言葉を濁した。
「大丈夫ですよ。大口開ける事ないですから」 [私] （蛇にピアス P.350 下）

これらの結果から、存在表現では「ありません」のほうが選択されやすいこと、また「ないです」は「ありません」と比べると文（会話）の末部で使用されやすいのではないか、と結論づけました。

次に、コピュラ表現の検討に移ります。

○「～ありません」と「～ないです」（コピュラ表現）

列 P にフィルタ「コピュラ」をかければ、今度はコピュラ表現の否定として現れた用例のみを抽出できます。この用例についても分析します。

[72] 接続助詞と終助詞については実際に現れた表現とその数の内訳。

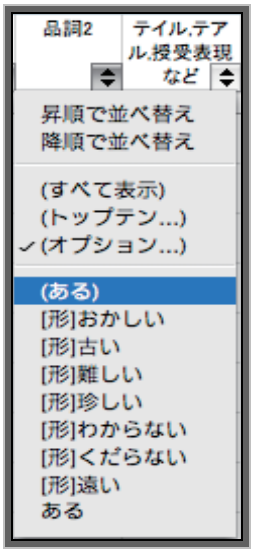
ところで、コピュラ表現の中には(4)のように否定の意味をもつものと、(5)のように否定の意味をもたないモダリティ表現があります。

(4)　「法律以前に、坂本を悲しませるようなことは、やるべきではないです」
　　僕はまたターキーを飲んだ。　[僕]　(I LOVE YOU −突き抜けろ P.234)

(5)　「でも沖島さん、今まで一度もそんなこと言わなかったじゃないですか」
　　「僕も初めは驚いてたんだよ。……(略)　[夕子]　(夢を与える P.154)

そこで、コピュラ表現の中の「品詞 2」セルにある「ある」のうち、モダリティ表現の「〜では(じゃ)ないか」のものを、「(ある)」と入力して区別します。

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	R
No.	用例	m/n	発言者	性別	テンス	品詞1	前接表現	品詞2	テイル,テアル,授受表現など	動詞の文法的特徴	慣用的な表現など	すみません	後接表現	文体	否定の対象	出典2
0414	毎月一〇万円以上も購入するのでしたら、もう少しここに多く残っていてもいいのではあり★ませんか？」	m	藤原萌実	女	ル	動	では	ある	／	／	／	／	か	会話	コピュラ	女子大生会計士1
0416	「悪いのはすべてこの俺です。姫は何も知らなかったじゃあり★ませんか」	m	深草	男	ル	動	じゃ	(ある)	／	／	／	／	か	会話	コピュラ	女子大生会計士1
0417	「なに？　カッキーは、私と彼のことが気になるの？」／「そういうわけじゃ、あり★ませんけど……」	m	僕(カッキー)	男	ル	動	じゃ	(ある)	／	／	／	／	けど	会話	コピュラ	女子大生会計士1
0418	「父は研究者ではあり★ません。自分でも我流だと云っています。大学を中退してるから、」	m	僕(祝常緑)	男	ル	動	では	ある	／	／	／	／	／	会話	コピュラ	東京少年
0419	「幹子さん、おちついてください。私とトーマは恋人どうしではあり★ません。	m	サラ	女	ル	動	では	ある	／	／	／	／	／	会話	コピュラ	夢を与える
0420	私がお話しいたします。あの映像に映っているのは夕子本人ではあり★ません。	m	幹子	女	ル	動	では	ある	／	／	／	／	／	会話	コピュラ	夢を与える
0421	兄だって、実際にしっぽが生えているわけぢゃあり★ませんよ。そんな人、いるわけないです。	m	私(佐保)	女	ル	動	じゃ	(ある)	／	／	／	／	よ	地)	コピュラ	となりの姉妹
0422	そのまえに、ひとつだけ申しあげておきましょう。石をあすこへ埋めたのはわたしではあり★ませんよ。石について語ることはできますが	m	初島さん	男	ル	動	では	ある	／	／	／	／	よ	地)	コピュラ	となりの姉妹
0423	相変わらず、奇っ怪なことを云いますね。初にいさんは嫁さんももらってないぢゃあり★ませんか。	m	木幡久志	男	ル	動	じゃ	(ある)	／	／	／	／	か	地)	コピュラ	となりの姉妹
0424	少年は差しだされた野球帽と名刺を受け取ると慌てて首を振った。／「いえ、そんなんじゃあり★ません」	m	三村幹生	男	ル	動	じゃ	(ある)	／	／	／	／	／	会話	コピュラ	うつくしい子ども
0425	「まんざらでもあり★ません。今度、おかみがわれわれのためにいろいろと法整備をしてくれたので、新しく商売を始めようと思っていま	m	辰美	男	ル	動	でも	ある	／	／	／	／	／	会話	コピュラ	波のうえの魔術師



画像(10-13)「品詞 2」セルの「ある」を「ある」と「(ある)」に細分化

以下、存在表現の際に調べたのと同様に用例数を調べてみると、「～ないです」は、例(5)に見られるような、形式上は否定であるものの否定の意味をもつとは言いがたい、モダリティ表現であるものがほとんどでした。これを(A)、否定の意味をもつものを(B)として、表（10-9）を作成します。

表(10-9)「～ありません」と「～ないです」の出現状況（前接形式）

	～ありません		～ないです		合計	
(A) ～では／じゃ＿か	8	[24.2%]	66	[75%]	74	
(B) ～では／じゃ＿ [否定][73]	22	[66.7%]	17 (2)	[19.3%]	39	(2)
(C) イ形容詞の否定	3	[9.1%]	5	[5.7%	8	
コピュラ表現計	33	[100%]	88 (2)	[100%]	121	(2)
	[27.3%]		[72.7%]		[100%]	

(A)の用例数は 8：66 と、「～ないです」の形式が 90%近い割合で用いられており、優勢であることがうかがえました。これは先行研究[74]に見られる数値よりも高い割合であったため、「～ないです」形式の使用ケースが増えてきていると考察します。一方、否定の機能をもつ(B),(C)では、どちらかが優先的に用いられるという傾向は伺えません。

ところで表（10-9）では、(A),(B)の前接形式の「～では」と「～じゃ」を一括りに扱いましたが、「～では」「～じゃ」それぞれについて見てみるとどうでしょうか。「～ありません」「～ないです」とどのように接続しているか調査してみた（画像（10-14））ところ、表（10-10）に示す結果が得られました。

(　or　) かつ (　or　)

画像(10-14)複数の条件を組み合わせて欲しいデータを得る

73 「～では」のほかに「～でも」の形も含む（「A ではありません／B でもありません」のように、断定の助動詞＋係助詞の形として、同一範疇に含めました）。

74 福島・上原(2003)の調査である、1956 年～1968 年の 2 作品からとったデータ（この先行研究では 3 つの年代における「マセン」「ナイデス」の出現状況を調査しており、論文中で比較の対象として引用しました）。

表(10-10)「～では」「～じゃ」と「～ありません」「～ないです」の接続内訳

	～ありません			～ないです			合計		
	(A)	(B)	(A)+(B)	(A)	(B)	(A)+(B)	(A)	(B)	(A)+(B)
～では＿	1	12	13 [43.3%]	1	5	6 [7.2%]	2	17	19 [16.8%]
～じゃ＿	7	10	17 [56.7%]	65	12	77 [92.8%]	72	22	94 [83.2%]
では/じゃ計	8	22	30 [100%]	66	17	83 [100%]	74	39	113 [100%]

(A),(B)全体でみると、「～じゃ」に続く用例が 8 割を超えています。特に「～じゃ」では 94 用例中 77 例が「～ないです」に続いており、「～ないです」が「～じゃ」に接続しやすいという傾向がはっきり見てとれます。「では」と「じゃ」では、音変化を経た「じゃ」のほうがくだけた言い方であり、丁寧度がやや下がる表現だということができます。存在表現のところでは「申し訳ないです」より「申し訳ありません」のほうが多く見られた理由を丁寧さの度合いに求めましたが、「マセン」と「ナイデス」の使用にこの条件が関わっているということが、この「～では」と「～じゃ」との接続から見ても言えそうです。

前接形式を調べてみましたので、存在表現の時と同様、後続する形式についても見てみます。表（10-9）に(A)で示したモダリティ表現についてはすべて終助詞「か」を伴うものであったため、ここでは(B),(C)の「～ありません」「～ないです」と後続文脈との関係を改めて調査しました。得られた結果を表（10-11）に示します。

表(10-11)「～ありません」と「～ないです」（表 10-9(B),(C)）の出現状況（後続形式）

	～ありません	～ないです
表 9 中の(B),(C)用例数	25 [100%]	22 [100%]
言い切りの形	14 [56%]	9 [40.9%]
接続助詞	4 [16%]	3 [13.6%]
	けど 1 が 1 から 1 し 1	が 2 けど 1
終助詞	7 [28%]	10 [45.5%]
	よ 6 の 1	よ 8 ね 1 か 1

これも用例数が少なく、この結果だけをもとに一定の傾向を述べるのは性急であると思われますが、「〜ありません」が言い切りの形または接続助詞に続くケースがやや多い点、「ないです」のほうが終助詞を伴う割合が高い点は、存在表現の「ありません」「ないです」に通じる事実として挙げることはできそうです。

これらの分析から、主にコピュラ表現の「〜ないです」はモダリティ表現の「〜じゃないですか」の形で現れる割合が非常に高いことが数値から確認でき、存在表現と同様「〜ないです」は終助詞と共起しやすい、ということを考察結果として挙げました。

○「動詞＋マセン」と「動詞＋ナイデス」（一般動詞の否定）

ここまでは動詞「ある」を否定するケースについて見てきました。最後に、表（10-5）で一旦示したまま棚上げになっている「一般動詞」を否定するケースについて分析します。

表(10-5)再掲「動詞＋マセン」と「動詞＋ナイデス」の用例総数とその出現率

	動詞 ＋マセン	動詞 ＋ナイデス	合計
用例数	297　[96.1%]	12　[3.9%]	309　[100%]
うちル形	269　[96.4%]	10　[3.7%]	279　[100%]
うちタ形	28　[93.3%]	2　[6.7%]	30　[100%]

ここには「動詞＋マセン」の形をとるものとして「すみません（でした）」および「すいません」（以下「スミマセン」に代表させて記す）という慣用的な表現が 51 例含まれています。やや特殊な用例と思われるので、考察対象から一旦はずします。

しかし、この「スミマセン」を除いても「動詞＋マセン」:「動詞＋ナイデス」の用例数およびその比は 246 [95.3%]：12 [4.7%]であり、「ナイデス」の数は「マセン」の 20 分の 1 にも及びませんでした。今回の用例調査で得た全体の「マセン」:「ナイデス」の比率は 77.3%：22.7%でしたから、一般動詞の丁寧体否定形式としては「マセン」が圧倒的に多く、「ナイデス」の使用は極端に少ないことが見てとれます。

用例数が多ければ、否定する動詞の種類によっても何か傾向が現れたかもしれませんが、今回程度のサンプル数では不十分でした。反省を残しつつ、後続文脈との関係を調べます。

表(10-12)「動詞＋マセン」と「動詞＋ナイデス」の出現状況（後続形式）

	動詞＋マセン (除「スミマセン」)	動詞＋ナイデス
用例数	246 [100%]	12 [100%]
言い切りの形	117 [47.6%]	2 [16.7%]
接続助詞	45 [18.3%]	1 [8.3%]
	が(ね) 21 けど(ね) 12 から(ね) 8 し(ね) 3 のでね 1	から 1
終助詞	79 [32.1%]	9 [75%]
	か(な) 40 よ(ね) 25 ね(え) 10 わ(ね) 2 な 1 のよ 1	よ(ね) 8 ね 1
その他	5 [2.0%]	

「マセン」は 246 例中 117 例と、その半数近くが言い切りの形で現れていました。「ナイデス」は 4 分の 3 が終助詞を伴う例で、「マセン」との差と見ることができるかもしれません。これまで存在表現の否定、コピュラ表現の否定で見てきたのと同様に、「ナイデス」は終助詞と共起しやすいという事実の裏付けになりそうです。

今回の用例調査で得られた「動詞＋ナイデス」の例には以下のようなものがありました。

(6) ……たしかに。父とちがって、下着でうろうろすることもないです。ほらね。……だからって、兄にしっぽがあることにはならないですよ。［私］（となりの姉妹 P.157）

(7) おれは切り口を変えてみた。
「あの保険はもう十年近くまえの契約だから、保坂さんは直接老人たちに売っていないですよね」 ［おれ］ （波の上の魔術師 P.174）

これらの「ナイデス」は、「マセン」と置き換えても問題なく読みとれます。一方、

(8) 「だから、あたしたちのやりとりです。それで、電話をかけてこられたんでしょう？」すると石神は無表情な顔を靖子に向けてきた。
「いや、話し声は何も聞こえませんでしたよ。このアパート、案外防音だけはしっかりしてるんです。それが気に入って、ここに決めたぐらいですから」［石神］（容疑者 x の献身 P.35）

(9) 「…（略）…。しかしこのプロジェクトの場合、そのときだけ活躍している人間を使っては意味がありません。有名人人気はチーズと違って移り変わりますし、この先何が起こるか分かりませんからね。その点無名の半素人の女の子を使えば、… ［食品会社広報担当者］（夢を与える　P.26）

などの用例では、「マセン」を「ナイデス」に置き換えても違和感はないでしょう。つまり、どちらを使っても文脈に大差はないと考えられます。しかし、実際の用例数を見ると、「動詞＋ナイデス」の例はごく少数でした。

一般動詞の否定において、「マセン」「ナイデス」の選択に関わっている要因があるのでしょうか。論文では、先に見た「動詞＋マセン」と「動詞＋ナイデス」で「ナイデス」の用例が圧倒的に少ないという結果と、表（10-5）の「動詞＋ナイデス」で言い切りの形が 12 例中 2 例しかなく、9 例が終助詞を伴っていたという事実とから「『動詞＋ナイデス』単独の使用がそもそも不自然だと感じられており、使用される場面では不自然さをやわらげるために終助詞を伴って出現する割合が他より高くなっている」と結論づけました。

10.4.3. まとめ

論文ではこのように、丁寧体の 2 つの否定形式「マセン」「ナイデス」の出現比率や使用傾向について、小説を用例資料として考察を試みてきました。最後にまとめとして「マセン」「ナイデス」がそれぞれの状況下でどのような比率で出現したかを表に示します。

表(10-13)「マセン」「ナイデス」各状況下での出現比率（まとめ）

	マセン	ナイデス
全体	77.3%	22.7%
動詞「ある」	51.3%	48.7%
存在表現	79.6%	20.4%
コピュラ表現	27.3%	72.7%
一般動詞	96.1%	3.9%

表からもわかるように、「マセン」「ナイデス」の用例全体の比率と、存在表現・コピュラ表現・一般動詞それぞれの否定に現れる用例の比率は異なるものでした。この結果やこれまで行なってきた考察から、論文では、「マセン」「ナイデス」の使用傾向について、以

下をまとめとして挙げました。

〇出現する「ナイデス」のうち、ほとんどが一般動詞の否定ではなく「ないです」の形で現れており、さらにはモダリティ表現の「〜じゃないですか」の形をとる割合が非常に高いこと
〇否定の意味をもつコピュラ表現については「〜ありません」と「〜ないです」に顕著な傾向差は見られないが、存在表現では「ありません」のほうが選択されやすく、「ないです」は「ありません」と比べると文（会話）の末部で使用されやすいと思われること
〇そして、全体に通じる傾向として「ナイデス」は終助詞と共起しやすい（特に一般動詞の否定では顕著で、これが「動詞＋ナイデス」単独の使用の違和感を和らげる役割を果たしていると思われる、またその際に用いられる終助詞は「よ」や「ね」である）こと

今回得られた結論は、これまで感覚的に抱いていた部分を、充分とはいえない用例数ながら、実際の用例調査をもとに考察し、それを裏付けての傾向の指摘となります。

10.4.4. 今後の課題

いくつかの分析を試みてはきましたが、この論文には不十分な点が多くあります。用例の収集対象がたった 12 作品の小説でしかないことや、細かい分析を尽くせていない部分が少なくないことなど、まだまだ考察を深める余地があります。まとまった用例数が得られれば、たとえば「マセン」「ナイデス」で否定する一般動詞のタイプに何らかの傾向が見出せるかもしれませんし、異なった作品ジャンルを対象にすることで、結果に変化が現れる可能性もあります。また論文中では、先行研究の「年代を追うごとに『ナイデス』の出現率が高まる傾向にあること」を補強した形となりましたが、この傾向の進行も考えられます。これらについては今後の課題として、記すこととしました。

10.5. おわりに

以上、Excel を用いた言語データ分析の実践例でした。気づいた人もいると思いますが、分析に先立って設定した分類項目（表（10-2））の中には、実際の論文には反映されなかったものも多くあります。もちろん項目の立て方が悪かった可能性が大いにありますし、筆者の問題設定の悪さや追求姿勢の甘さがこの結果を招いてしまったわけでもあるのですが、その点は悪例・反面教師として参照していただければと思います。

本章で述べたような分析作業をするにあたっては注意点もあります。

まず、初めから必要最低限の項目のみを用意して分析に取り組み、最小限の労力だけで思い通りの結果を得ようとする姿勢は、かえってよい結果には結びつかないと思います。調査項目が少なかったために考察を尽くせなかったり、あとになってから追加すべき項目に気づき、それまで入力した用例すべてについて新しく情報を追加入力したりという事態

に陥ることが考えられます。これでは時間も余計に掛かってしまい、結果的に非効率になってしまいます。

そして、安易に Excel 上の処理に頼ることへの警戒です。たしかに、Excel で分析を行なうと作業時間が短縮できるなどメリットも多くあります。しかし、第 8,9 章でも繰り返し述べられているように、実際の用例の背景にあるさまざまな文脈を無視して、安易な気持ちでデータを扱う姿勢は慎みましょう。用例一つ一つの丁寧な検討を忘れないようにしてください。

とはいえ、Excel をうまく活用することで、さまざまな観点からの分析を効率よく行なうことができるのも事実です。注意点を踏まえた上で、効果的に作業を展開していってください。

さらに詳しく知りたい人へ

＜1. 資料をさがす　（第 1 章・第 2 章）＞

資料検索の方法については、まず、各サービス提供機関のホームページを読んでください。必ず、サービスの概要や使い方説明（「ヘルプ」と呼ばれる）が掲載されています。また、本書の発行後にサービスが変更されたり、新規サービスが開始されたりした場合も、ホームページで最新の情報がわかります。

本文中にも示しましたが、以下、各機関のトップページのアドレスを再掲します。

・東京外国語大学附属図書館　http://www.tufs.ac.jp/library/index-j.html
・国立情報学研究所　http://www.nii.ac.jp/
・国立国語研究所　http://www.ninjal.ac.jp
　[参考] 旧サイト http://www.kokken.go.jp
・国立国会図書館　http://www.ndl.go.jp/

本書の発行後に、各サービスのホームページアドレスが変更になる可能性があります。本書に書かれたアドレスを入力してもそのページにたどり着けない場合は、機関トップページから探す、あるいは、検索サイト（google など）を使って検索する、などの方法で探してください。

＜2. 引用方法など　（第 3 章）＞

第 3 章で説明した、論文の引用の方法については、たいていの論文作成法の参考書に載っています。本学図書館にあるものとして、以下のような図書があります。

・ 早稲田大学出版部 編『卒論・ゼミ論の書き方』早稲田大学出版部（2000 年）
・ 櫻井雅夫『レポート・論文の書き方上級』慶応義塾大学出版会（初版 1998 年、改訂版 2003 年）
・ 吉田健正 『大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方』ナカニシヤ出版（1997 年）

本学図書館 OPAC で探す場合は、「詳細検索」画面で「件名」に「論文作法」と入力します。

＜3. 用例分析の必要性、考え方など　（第 4 章）＞

結局のところは、いろいろな先生の授業や専門書などを通して学び、各自で考えるしかありません。ただし、このあたりのことは、卒業論文程度であれば深入りする必要はないでしょう。しかし、大学院に進学し、研究の道に進もうとするなら、必ずどこかの時点でとことん考えぬいて、自分の答えを出さなければならない問題です。

＜4. コンピュータを用いた実例採集・分析　（第８章・第９章）＞

コンピュータを用いた言語分析や、「コーパス言語学」全般についての入門書としては、以下のようなものがあります。

・ 伊藤雅光『計量言語学入門』大修館書店（2002 年）
・ 雑誌『日本語学』22 巻 5 号 :「特集 コーパス言語学」明治書院（2003 年）

本書では紹介しませんでしたが、コンピュータを使った実例採集のための、独自のコンピュータ・ツールを備えた入門書として、以下があります。（ともに、コンピュータ・ツールは付属 CD-ROM の形で添付されています）興味のある方は、使ってみてください。

・ 佐野洋(2003)『Windows PC による日本語研究法―Perl, CLTOOL によるテキストデータ処理―』，共立出版
・ 田野村忠温・服部匡・杉本武・石井正彦(2007)『コーパス日本語学ガイドブック』（特定領域研究「日本語コーパス」研究成果報告書）

また、この分野の専門家である、小木曽智信先生（国立国語研究所 准教授）のホームページには、コンピュータを使った実例採集に役立つソフトウェアが公開されています。

http://www.ogiso.net

「正規表現」についてさらに詳しく知りたい人は、以下のホームページ（いずれも個人のページ）などを参照してください。

・「Zaco's Page」内 「国語の先生の為の正規表現」（作成「Zaco」氏）
http://homepage2.nifty.com/zaco/rexp/
・「スクリプティング言語資料室(仮)」内 「正規表現メモ」（作成「木村浩一」氏）
http://www.kt.rim.or.jp/~kbk/regex/regex.html

Excel の操作方法についてさらに詳しく知りたい人は、一般向けの教則本などが多数出版されているので、それらを参照するのが最も確実かと思います。

参考文献

第 1 章

早津恵美子・中山健一(2010)「語彙化(lexicalization)について―事典類の記述の調査と日本語での言語現象―」『コーパスに基づく言語学教育研究報告 5』, pp.67-85, 東京外国語大学大学院 コーパスに基づく言語学教育研究拠点

早津恵美子・福原聡美(2010)「日本語語彙教育についての研究の動向－文献調査から見えてくるもの－」『コーパスに基づく言語学教育研究報告 5』, pp. 87-117, 東京外国語大学大学院 コーパスに基づく言語学教育研究拠点

第 4 章

稲田俊明(1998)「第 1 章 生成文法―目標と理念―」田窪行則［他］『岩波講座 言語の科学 6 生成文法』, pp.1-47, 岩波書店

糟谷啓介(1993)「言語学に「言語」は必要か―ことばの学問をだいなしにする張本人はことばです：ソシュール「ジュネーヴ大学就任講演」」『一橋論叢』109 巻 4 号, pp. 539-556, 一橋大学一橋学会

亀井孝・河野六郎・千野栄一(1988)「刊行の辞」『言語学大辞典 第 1 巻 世界言語編 上』, pp.i-iv, 三省堂

亀井孝・河野六郎・千野栄一 編著 [項目執筆者不明](1996)「ラング」『言語学大辞典 第 6 巻 述語編』, pp.1382-1383, 三省堂

金水敏(2000)「時の表現」金水敏・工藤真由美・沼田善子 共著『日本語の文法 2 時・否定と取り立て』, pp. 1-92, 岩波書店

金水敏(2003)『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』岩波書店

後藤斉(2003)「言語理論と言語資料―コーパスとコーパス以外のデータ―」『日本語学』22 巻 5 号（臨時増刊「コーパス言語学」）, pp. 6-15, 明治書院

ソシュール, フェルディナン・ド(1972 [1916])『一般言語学講義（改版）』小林英夫 訳 岩波書店

[※小林による初の邦訳は、1928 年『言語学原論』の書名で岡書院より刊行。1940 年『言語学原論（改訳新版）』が岩波書店より出版。1972 年、現在の『一般言語学講義（改版）』に書名変更。オリジナル仏語版 *Cours de linguistique générale* は、1916 年刊行。]

高橋太郎(1983)「文法研究のために」『国文学解釈と鑑賞』48 巻 6 号（特集「日本語研究への視点」）, pp. 6-15, 至文堂

高橋太郎(1989)「言語の記述にとって用例とはなにか」『国文学解釈と鑑賞』54 巻 1 号（特集「「ことば」をあつめる」），pp.10-15，至文堂
田窪行則(1997)「第 2 章 言語学のめざすもの」松本裕治[他]『岩波講座 言語の科学 1 言語の科学入門』，pp.45-78，岩波書店
ネウストプニー, J.V.(2002)「第 1 部 総論 1.2. データをどう集めるか」ネウストプニー, J.V.・宮崎里司 共編著『言語研究の方法』，pp.15-33，くろしお出版
早津恵美子(1999)「いわゆる「ヲ使役」「ニ使役」についての諸論考をめぐって」『語学研究所論集』4 号，pp.17-50，東京外国語大学語学研究所
丸山圭三郎(1985)「ソシュール理論の基本概念」丸山 編『ソシュール小事典』，pp.61-90，大修館書店

第 5 章

伊藤雅光(2002)「第 3 章 統計的調査法」『計量言語学入門』，pp.31-52，大修館書店
伊藤雅光(2003)「コーパスと統計」『日本語学』22 巻 5 号（臨時増刊「コーパス言語学」），pp. 26-35，明治書院
田中ゆかり(2003)「ネット検索は言語研究の役に立つか」『日本語学』22 巻 5 号（臨時増刊「コーパス言語学」），pp. 111-123，明治書院
田野村忠温(2000)「電子メディアで用例を探す―インターネットの場合―」『日本語学』19 巻 6 号（特集 「「用例」を探す」），pp. 25-34，明治書院

第 8 章

奥村三雄(1977)「6. 音韻の変遷(2)」大野晋・柴田武 編『岩波講座日本語 5 音韻』，pp.247-248，岩波書店

用語索引

※ 機関名・書名・商品名など、固有名詞を含む。

●アルファベット

AA 研蔵書　23, 28
AND 検索　25
BCCWJ　→現代日本語書き言葉均衡コーパス(84)
CD-ROM　80
　～版 新潮文庫の 100 冊　80
CiNii　9, 13
csv ファイル　109
“et al”　44
Excel　113
GeNii　11
GREP　74, 91
ILL　18
ISBN　18
ISSN　18
NII　→国立情報学研究所（9）
NOT 検索　25
OCR　89
OPAC　22
OR 検索　25
PDF ファイル　17
URL　51
Webcat　9, 32
Word（コンピュータソフト名）　92, 149
WWW　87

●あ

青空文庫　83
アジア・アフリカ言語文化研究所蔵書　→AA 研蔵書（23, 28）

アスタリスク　25
アンド検索　→AND 検索（25）
言い換え可能テストフレーム　63
芋づる式　18
ウェブキャット　→Webcat（9, 32）
エキスパンドブック　80
エクセル　→Excel（113）
オア検索　→OR 検索（25）
オートフィル　122
オートフィルタ　135
オーパック　→OPAC（22）
奥付　44
音声資料　77
オンラインジャーナル　13
オンラインデータベース　13

●か

改訂版　45
会話文　65, 66
科学研究費補助金　10
書き言葉　65, 101
学術成果コレクション（東外大の）　12
拡張子　17
　　～一覧　93
科研費　→科学研究費補助金（10）
画像データ　77
学会　19
活字文書　77
簡易検索　13, 23
関数（Excel での）　129
完全一致（検索）　25
機関リポジトリ　11
規範（言語の～）　66
客観性　59
旧仮名遣い　101
旧字（漢字の字体の）　26, 101

旧分類（図書）　23
紀要　2
行（Excel での）　114
教育準備室　→日本課程教育準備室（31）
グレップ　→GREP（74, 91）
グロス　51
言及（使用と～）　88
現代仮名遣い　101
現代日本語書き言葉均衡コーパス　84
言文一致　70, 101
口語文　101
コーパス　84
国語年鑑　3
国際交流基金日本語国際センター　37
国際標準番号　18
国立国語研究所　3, 11, 37, 84
　～の日本語コーパス　84
国立国会図書館　12, 38
国立情報学研究所　9
コピー＆ペースト　78, 118

●さ

サイニイ　→CiNii（9, 13）
再録　45, 46
サクラエディタ　91, 92
雑誌論文　2
参考図書　3
シート（Excel の）　114, 143
ジーニー　→GeNii（11）
「時代物」の小説　70
辞典／事典　5
地の文　66
出版社　20
出版者　43
使用（～と言及）　88
紹介状　36

詳細検索　13, 23, 26
ショートカットコマンド　92, 106
書誌情報　2
所蔵情報　27
新字（漢字の字体の）　26, 101
新潮文庫の 100 冊　→CD-ROM 版新潮文庫の冊（80）
新聞記事データベース　82
新分類（図書）　23
信頼性　1, 59
正規表現　74, 95
請求記号　28
セル（Excel での）　114
先行研究　2
　～の引用　40
全例採集　73
相互貸借　36
挿入（Excel での）　119
遡及入力　22
ソシュール　55

●た

太陽コーパス　87
タグジャンプ　108
妥当性　1, 59
著作権法　30, 31, 40, 84
手書き文書　77
テキストエディタ　91
テキストデータ　77
テキストファイル　81
　～化　81
手作業（～での用例採集）　74
図書　2
ドロップダウンリスト　129

●な

内省　60

並べ替え（Excel での）　133
日本課程教育準備室　31
日本語学論説資料　31
日本語教育年鑑　3
日本語国際センター　→国際交流基金日本語国際センター（37）
日本語話し言葉コーパス　86
任意採集　73
年鑑　3
　国語～　3
　日本語教育～　3
ノット検索　→NOT 検索(25)

●は

パイロット調査　89
話し言葉　65
パロール（ソシュールの）　56
ピボットテーブル　140
表記のゆれ　8, 71, 99
表計算ソフト　113
剽窃　40
ファイルパス　108
復刻版　45, 46
部分一致（検索）　25
分割（Excel での）　120
文献　40
文献複写　36
文語文　101
ヘボン式　29
ポータルサイト　11
翻訳　47

●ま

ムック　30
目録カード　29
文字資料　77

●ら

ランガージュ（ソシュールの）　56
ラング（ソシュールの）　56
リポジトリ　10
リンク　15
列（Excel での）　114

●わ

ワード（コンピュータソフト名）　→Word（92, 149）

資　　料

丁寧体の否定表現「マセン」、「ナイデス」の 2 形式に関する一考察

――小説の用例分析を中心に――

（2007 年度　東京外国語大学外国語学部　卒業論文）

岡　直樹

目次

1. 研究動機・本稿の目的 2

2. 先行研究 4

3. 用例資料 5

4. 分析 6
4.1. 全体数からみた分析 6
4.2. 表現形式別にみた分析 7
4.2.0. 「ありません」と「ないです」 7
4.2.1. 「ありません」と「ないです」（存在表現） 9
4.2.2. 「～ありません」と「～ないです」（コピュラ表現） 13
4.2.3. 「動詞＋マセン」と「動詞＋ナイデス」（一般動詞の否定） 17
4.3. まとめ 22

5. 今後の課題 23

参考文献
用例出典

1. 研究動機・本稿の目的

現代日本語には、述語が否定のときの丁寧体に「…ません」「…ないです」という 2 つの形式がある。たとえば具体的には、以下の表 1,2 から分かるように、丁寧さは肯定述語では 1 つの形式でしか表されないが、否定述語では 2 つの否定形式が用いられるのである。

表 1　肯定述語における丁寧さのモダリティの形式[1]

	普通体	丁寧体	
動詞述語	食べる		食べます
	食べた		食べました
イ形容詞述語	忙しい	忙しいです	
	忙しかった	忙しかったです	
ナ形容詞述語	元気だ	元気です	
	元気だった	元気でした	
名詞述語	学生だ	学生です	
	学生だった	学生でした	

表 2　否定述語における丁寧さのモダリティの形式[2]

	普通体	丁寧体	
動詞述語	食べない	食べないです	食べません
	食べなかった	食べなかったです	食べませんでした
イ形容詞述語	忙しくない	忙しくないです	忙しくありません
	忙しくなかった	忙しくなかったです	忙しくありませんでした
ナ形容詞述語	元気ではない	元気ではないです	元気ではありません
	元気ではなかった	元気ではなかったです	元気ではありませんでした
名詞述語	学生ではない	学生ではないです	学生ではありません
	学生ではなかった	学生ではなかったです	学生ではありませんでした

この「…ません」「…ないです」の 2 形式については、筆者の内省では、両形式ともが日常的に使われているように思われる。また、動詞述語の否定に限っていえば金谷武洋は「『ま

[1] 日本語記述文法研究会編『現代日本語文法 4 第 8 部 モダリティ』2003.くろしお出版 P.232 より、一部を改変
[2]同 P.233 より、一部を改変

す』で終わる動詞文が今後すべて『だ／です』によって駆逐され、日本語からなくなる可能性さえある」[3]とまで述べているが、これは極端な意見だとしても、近年「…ないです」の形式が選択・使用されることは多くなっているのではないだろうか。

「…ません」と「…ないです」という 2 つの形式は、現在、表面的な形態の違いのほかにどのような特徴を持ち、選択されているのか。本稿では、現代日本語の丁寧体の否定における 2 つの形式「…ません」と「…ないです」について、小説資料から採取した用例の調査をもとに使用傾向を探り、その用いられ方の特徴を考察することで、感覚的にではなく理解を深めたい。以下表 3 に、本稿で考察の対象とする「…ません」と「…ないです」の形式を示す。

表 3　本稿で考察する丁寧体の否定形式 2 種

	普通体	丁寧体	
動詞述語（「ある」以外）	食べない	食べないです	食べません
	食べなかった	食べなかったです	食べませんでした
動詞「ある」	ない	ないです	ありません
	なかった	なかったです	ありませんでした
イ形容詞述語	忙しくない	忙しくないです	忙しくありません
	忙しくなかった	忙しくなかったです	忙しくありませんでした
ナ形容詞述語	元気ではない	元気ではないです	元気ではありません
	元気ではなかった	元気ではなかったです	元気ではありませんでした
名詞述語	学生ではない	学生ではないです	学生ではありません
	学生ではなかった	学生ではなかったです	学生ではありませんでした

ここで、動詞「ある」の否定形を「ない」だとするのは、語形変化ではなく、いわゆる「補充法(suppletion)によって形容詞「ない」を動詞「ある」の否定形に相当するものとみなしているためである。

なお、本稿ではそれぞれの「…ません」「…ないです」の形について「マセン」「ナイデス」と代表させて記し、特に注記しない場合、「…ませんでした」「…なかったです」という過去の否定も含めるものとする。また、表中の百分率には小数点以下第二位を四捨五入した値を用いる。

[3] 『英語にも主語はなかった』2004.講談社選書メチエ P.181

2. 先行研究

丁寧体の否定形式に関しては、寺村(1984)で、「動詞、たとえば『読ム』の否定形は「『読マナイ』であるが、その丁寧な形は『読ミマセン』のほうがふつうで、『読マナイデス』はあまり使われない。しかし、過去の形としては、『読ミマセンデシタ』も『読マナカッタデス』も共に使われているようである。後者は不自然とする人もいる」(P.53)と述べられているほか、これまでにいくつかの言及がある。

「打消・過去」の丁寧形に限った通時的な研究では、田中(1996)がその推移について、「～マセンデシタ」は江戸末期から存在し、「ナカッタデス」は明治後半期以降に成立、高度経済成長期に東京周辺に広まったことを述べている。

また、実際の言語資料を分析したものとしては、話し言葉をデータとしたものに福島・上原(2001)、野田(2003)などが挙げられる。このうち福島・上原(2001)では、会話では「ナイデス」の使用が優勢であること、否定形式に前接する品詞や語彙などによって用いられる形式に偏りがあること[4]、使用文脈状況からは「ナイデス」は「マセン」と比べて改まり度が低い状況で使用されていることが指摘されている。

書き言葉（非音声データ）を用いたものには田野村(1994)、牧原(2003)、福島・上原(2003)、尾崎(2004)などがあげられるが、田野村(1994)では『朝日新聞』4 年分の記事を資料とし、(A)「ありません」対「ないです」、(B)「動詞＋ません」対「動詞＋ないです」について調査を行い、(A)では「ありません」の比率が 8 割程度と高く、存在表現で「ないです」の出現が少ないこと、(B)では終助詞の後接の有無に関わらず、「動詞＋ないです」の用例が極めて少ないことが指摘されている。福島・上原(2003)は約 30 年間隔で 3 つの年代を選び、各時代の小説 2 作ずつから「マセン」「ナイデス」を調査した結果、「マセン」の出現率が減少している（99%→89%）こと、「ないです形」の 70%が否定の意味を持たないモダリティ表現としての用法（～じゃないですか）であること、一番新しい作品[5]では、「マセン」は動詞の否定、「ナイデス」は存在・形容詞の否定という使い分けがあり、「ないです形」の使用は男性のみだったと述べられている。また、最近の研究である尾崎(2004)では、否定判断を軸に「ナイデス」の使用実際を探ることを目的とし、シナリオ・対談集・小説の会話文から集めた「ナイデス」の使用傾向とそこに関わる要因を、文構造上の特徴・文の叙法的側面・文の談話的な機能の 3 つの観点から検討し、「ナイデス」は (1)後接形式（終助詞）があると使われやすく、(2)＜意志＞＜命令＞の意を帯びた文、誘いかけの文では使われにくく、(3)“事実＝［～スル］か事実＝［シナイ］か”について検証・判断するというプロセスを経た上での確信や主張を述べる場合に使われやすいことを結論づけている。

---

[4] 会話資料における「マセン」33 例、「ナイデス」92 例の出現は、動詞 23:26、存在表現 2:21、形容詞 0:1、名詞・形容動詞 0:5、などとなっている(P.13,表 3:品詞別使用状況)。

[5] 吉田修一『パーク・ライフ』2002.8 文藝春秋(初出 2002.6『文学界』)

ただし各先行研究の用例は、田野村(1994)では新聞記事というやや特殊[6]なデータを用いていること、福島・上原(2003)では、論文の主眼が「マセン」「ナイデス」の使われかたの通時的な変化を調査することに置かれており、各年代から 2 人の作者の作品しか用いていないこと、尾崎(2004)では、論文の主眼が「ナイデス」の使用傾向・要因を明らかにすることに置かれており、「マセン」の用例は 1 人の作者の作品（シナリオ集）[7]からしかとっていないこと、が特徴として指摘でき、複数の作品から同一の基準で「マセン」「ナイデス」の用例を、採った上での言及は行なわれていないと言ってよい。

このため、本稿では複数の小説作品から「マセン」「ナイデス」を全例採集し、その使用・出現の特徴について考察していきたい。

3. 用例資料

資料は、以下の 12 冊の小説から採った（出典の詳細は論文末部に付す）。

青山七恵『ひとり日和』、安達千夏/江國香織/倉本由布/島村洋子/下川香苗/谷村志穂/前川麻子/唯川恵/横森理香『Friends』、伊坂幸太郎/石田衣良/市川拓司/中田永一/中村航/本田孝好『I LOVE YOU』、石田衣良『うつくしい子ども』『波の上の魔術師』、恩田陸『図書室の海』、金原ひとみ『蛇にピアス』、長野まゆみ『となりの姉妹』『東京少年』、東野圭吾『容疑者 x の献身』、山田真哉『女子大生会計士の事件簿 DX.1』、綿矢りさ『夢を与える』

本稿の主眼が「現代日本語の」丁寧体の否定における 2 つの形式について考察することにあるため、現代を舞台とした作品で、かつ発表時期が本稿執筆時点より 10 年以内（1999 年以降）のものを用いることとし、作品中に登場する「マセン」「ナイデス」について全例採集した。

作品中、丁寧体の否定 2 形式を得るにあたり、その対象は全ての文とした。実際の用例として得られたものの多くは会話文、語りの部分の中に現れたものであるが、一部、手紙の文面や同意書の書面として登場した用例も含み、分析対象とした。採集した資料には、否定辞の形態、発言者の性別、テンス、前接／後接する品詞などの項目を加えたデータを作成し、分析に用いた。

---

[6] 一文の平均の長さが他の日本語の文章よりも長い、また、文の骨格となる名詞と動詞が多い一方、形容詞や副詞のような修飾成分が少ないなどの指摘がある（伊藤雅光『計量言語学入門』2002.大修館書店）。また、発言内容が要約されている可能性もある。

[7] 伴一彦シナリオ集(伴一彦オフィシャルサイトより)

4. 分析

4.1. 全体数からみた分析

まず、12 作品に出現した「マセン」「ナイデス」の数を表 4 に示す。カッコ内の%表示は、両否定形式の総計を 100%とした際に「マセン」「ナイデス」がそれぞれ占めるパーセンテージである。

表 4　各作品に出現した「マセン」「ナイデス」とその出現率

	マセン		ナイデス		総計	
12 作品計	412	[77.3%]	121	[22.7%]	533	[100%]
ひとり	8	[88.9%]	1	[11.1%]	9	[100%]
Friends	7	[46.7%]	8	[53.3%]	15	[100%]
I LOVE	16	[57.1%]	12	[42.9%]	28	[100%]
子ども	38	[95%]	2	[5%]	40	[100%]
魔術師	40	[90.9%]	4	[9.1%]	44	[100%]
図書室	9	[100%]	0	[0%]	9	[100%]
蛇	4	[57.1%]	3	[42.9%]	7	[100%]
姉妹	35	[79.5%]	9	[20.5%]	44	[100%]
東京少年	26	[96.3%]	1	[3.7%]	27	[100%]
容疑者	138	[84.1%]	26	[15.9%]	164	[100%]
事件簿	58	[55.2%]	47	[44.8%]	105	[100%]
夢	33	[80.5%]	8	[19.5%]	41	[100%]

作品によりばらつき、また、用例数の少なさもあるため一概には言えないものの、平均して「マセン」が 77.3%、「ナイデス」が 22.7%という出現率になった。今回の調査では 1999 年以降に発表された作品を用例採集の対象としたが、ここでこれを、約 30 年間隔で 1〜3 期（大正 9 年〜昭和 4 年、昭和 31 年〜43 年、平成 8〜14 年）に区切って調査した福島・上原(2003)のデータと照らし合わせてみると、以下のようになる。

表 5　福島・上原(2003)の「マセン」「ナイデス」出現数調査結果[8]と今回調査結果の比較

	マセン	ナイデス	総計		平均 マセン	平均 ナイデス
真珠	308　[99.4%]	2　[0.6%]	310　[100%]	第 1 期	408　[99.3%]	3　[0.7%]
江戸川	100　[99.0%]	1　[1.0%]	101　[100%]			
金田一	97　[93.3%]	7　[6.7%]	104　[100%]	第 2 期	206　[94.1%]	13　[5.9%]
塩狩	109　[94.8%]	6　[5.2%]	115　[100%]			
越前	101　[98.1%]	2　[1.9%]	103　[100%]	第 3 期	108　[88.5%]	14　[11.5%]
パーク	7　[36.8%]	12　[61.2%]	19　[100%]			
				今回 12 作	412　[77.3%]	121　[22.7%]

福島・上原(2003)では期ごとに「ナイデス」の出現率が高くなっている（1%→6%→11%）ことが述べられている(P.82)が、表 5 右下部のとおり、今回の資料からは、この傾向がより進んでいることを示す結果が得られた。言及されている過去のデータと比較すると、この傾向は今後も進行していく（「ナイデス」の出現率がより高くなる）ことも考えられる。

4.2. 表現形式別にみた分析

全ての「マセン」「ナイデス」を等価に扱うと 4.1 節のような結果が得られたわけではあるが、もちろんこれだけでは充分とはいえない。「マセン」「ナイデス」のそれぞれについて、詳しく分類し、検討してみる必要がある。

丁寧体の 2 つの否定形式「マセン」「ナイデス」の関係を考えるとき、動詞「ある」を否定する場合と、「ある」以外の動詞（以下、「一般動詞」と呼称する）を否定する場合とでは、後者では「動詞の連用形＋マセン」と「動詞の未然形＋ナイデス」が対応する関係となるが、前者については「ありません」と「ないです」が対応関係となり、この 2 種は区別して考察するものとする。これは田野村(1994)でも行なわれている区別であるが、本稿でもまず、この基準に従って用例を区分し、「ありません」と「ないです」についてはさらに細分化し、検討していく。

4.2.0. 「ありません」と「ないです」

前述のとおり、動詞「ある」の丁寧体の否定は、「マセン」がつく「ありません」と、補

[8] 福島・上原(2003)分については表 1、表 2(ともに P.82)より該当データ部を融合(%表示のみ、小数点以下第一位が四捨五入されていたものを第二位を四捨五入した数値に改変)。当該論文での用例出典は『真珠夫人（上・下）』、『江戸川乱歩短編集』、『金田一耕助の新冒険』、『塩狩峠』、『越前海岸殺人事件』、『パーク・ライフ』の 6 作品。

充法により「ある」の否定形とみなされる形容詞「ない」に丁寧の意がこもった助動詞「です」がついた「ないです」の 2 形式があるが、この 2 形式の用例数を示すと表 6 のようになる。

表 6　「ありません」と「ないです」の用例総数とその出現率

	ありません	ないです	合計
用例数	115　[51.3%]	109　[48.7%]	224　[100%]
うちル形	95　[47.5%]	105　[52.5%]	200　[100%]
うちタ形	20　[83.3%]	4　[16.7%]	24　[100%]

この数値を 4.1 節の表 4 に示した「マセン」「ナイデス」の用例総数における出現率（「マセン」77.3% :「ナイデス」22.7%）と比べると、「ないです」の出現率の高さが際立つ。そして、出現する「ナイデス」のうち多くは、一般動詞を否定する形ではなく「ないです」の形で現れていることが見てとれる。ここで、今回の調査で得られた「ナイデス」の用例総数 121 例のうち、「ないです」が 109 例(90.1%)を占めていることは注意すべきだと思われる。「ナイデス」の多くは、動詞「ある」の丁寧体の否定として出現する傾向にあると言えよう。

なお、この表 6 に相当する数値は田野村(1994)の調査では「ありません：ないです＝7818(82.7%)：1640(17.3%)」[9]という結果で現れており、これと比べても今回の用例資料における「ないです」の割合は高いものといえる。田野村の用いた資料は新聞記事であり、小説と新聞という媒体の違いも結果に影響を与えていると考えられる[10]。

ところで、形式上は「ありません」と「ないです」と同じ外見であっても、以下に挙げる(1)〜(4)の用例では、(1),(2)と(3),(4)でタイプが異なる（用例末の[　]内は発言者を示す。以下同じ）。

(1)　「夕子はいままで私がマネージャー代わりを務めてここまでやってきました。私はこれからも夕子の仕事の相談相手として、夕子の芸能活動を支えていくつもりです。ただの夕子の母親として甘んじるつもりはありません」　[幹子]

（夢を与える　P.47）

(2)　「さあ」杉村園子は首を捻った。「彼女とは今でも時々電話で話をしますけど、そんな話を聞いたことはないです」　[杉村園子]

[9] P.55 表 1(ル形)と P.56 表 2(タ形)の数値を合計したもの。
[10] 註 6 参照。また、後に 4.2.2.で言及する文体（新聞のほうが丁寧度が高いと思われる）の事情も関係していると言えよう。

（容疑者 x の献身　P.225）

(3)　「父は研究者ではありません。自分でも我流だと云っています。大学を中退してるから、」[ぼく]

（東京少年　P.143）

(4)　「ふうん。ギャルも舌ピとかするんだ」
　　シバさんはもの珍しそうに私を見た。
　　「ギャルじゃないです」　[私]

（蛇にピアス　P.332 下）

(1),(2)は「（甘んじる）つもり」や「（聞いた）こと」の有無を述べた、動詞「ある」による存在表現の文であるが、(3),(4)は「父は研究者だ」、「（私は）ギャルだ」といったコピュラ文の否定にあたる表現である。田野村(1994)は、「典型的な名詞・形容詞・形容動詞文のほかに、『～では｛ありませんか／ないですか｝！』という複合助辞的な表現も含まれる」(P.54)ものとして「コピュラ表現」の語を用いているが、本稿でも分析に際しこの定義を用いることとし、コピュラ表現のものを示すのに「～ありません」と「～ないです」を用いることとする。

このように、「ありません」と「ないです」の用例は、存在表現といわゆるコピュラ表現とに大別できる。したがって本稿でも、現れた用例が存在表現かコピュラ表現か、以下 4.2.1 と 4.2.2 でより詳しく見ていくこととする。

4.2.1. 「ありません」と「ないです」（存在表現）

存在表現については、「鉛筆が～」のような具体物に加え、「心当たりが～」のような抽象的なものについての非存在を扱う表現も含む。また、（「記憶があるか」という問いかけに対しての「いえ、ありません」という返答のように）発話内で非存在の事物が省略されていると考えられるものも同様に扱う。また、「～するしか｛ありません／ないです｝」、「～して｛ありません／ないです｝」という表現についても、存在表現の範疇に含めて考察する（ただしこれらの用例は今回の調査対象中では少数である）。

まず、「ありません」と「ないです」がどのような前接形式とともに出現しているかを表 7 に示す。

表 7　「ありません」と「ないです」（存在表現）の出現状況（前接形式）

	ありません	ないです	合計
が__	5　[6.1%]	3　[14.3%]	8
（が）__	51　(12)　[62.2%]	16　(2)　[76.2%]	67　(14)
しか__	3　(1)　[3.7%]	0	3　(1)
～して__	2　[2.4%]	0	2
申し訳__	21　(7)　[25.6%]	2　[9.5%]	23　(7)
存在表現計	82　(20)　[100%]	21　(2)　[100%]	103　(22)
	[79.6%]	[20.4%]	[100%]

《備考》表 7 の数値はル形・タ形の用例数の合計で、タ形の用例があったものについてはその内数を丸カッコ内に示した。用例数右の[%]は「ありません」「ないです」のそれぞれの合計数を 100 としたときの前接形式ごとの割合、最下段の[%]は存在表現の全用例数を 100 としたときの「ありません」と「ないです」の割合である。「が__」には格助詞「が」が明示されていた用例を、「(が)__」には係助詞「は」が用いられた用例や「そんなこと｛ありません／ないです｝」のように助詞が伴わない用例を計上している。また、「～は絶対に｛ありません／ないです｝」のように「ありません」「ないです」の直前に副詞などが入る用例は、それらをないものとして考えている。「申し訳__」については、慣用的な表現として単独で枠を設けたが、これらを仮に他の用例と同様に処理すると、すべて「(が) __」に含まれるものであった。

表 7 の最下段に示されるように、「ありません」と「ないです」ではその割合がおよそ 8：2 と「ありません」が大きく優勢である。中でも「ありません」の方に多く見られる表現形式として、まず「申し訳ありません」の形に触れておく。「申し訳ありません」には(5)のような例をあげることができる。

(5)　「たいへん長らくお待たせして申しわけありません。必ず払い戻しはいたしますから、もうしばらくご辛抱ください。ご心配をおかけしますが、まつば銀行は絶対にだいじょうぶです。[銀行員]

（波の上の魔術師　P.260）

これに対応する「申し訳ないです」の例としては、

(6)　「(略) ……でも残念だよね、ゆーちゃんあんな小さい頃から成長を追って撮り続けられてきたのに、こんなことで打ち切りなんて」
「はい。十二年間続けてきて、二十回以上のバージョンを撮っていただいて、私も制作のみな

さんも他の出演者さんも誇りに思っていた仕事ですから、こんな形でもし終わってしまうなら、みなさんに申し訳ないです」　[夕子]

（夢を与える　P.299）

(7) …（略）…でも、何があろうと、ぼくの父はひとりだ。何人も要らない。べつに実の父でなくてもいい。そんなこと関係ないんです。……連さんには申し訳ないですが、親になってほしいとは思わない。」　[ぼく]

（東京少年　P.130）

があるものの、この 2 例が見られたにとどまり、「申し訳なかったです」の形は今回見られなかった。「申し訳ありません」に対して「申し訳ないです」が極端に少ないのはなぜかについては、「申し訳～」の表現は一般に謝罪の場面で用いられるがその場面はいわば丁寧度の高い場面であり、「ないです」より「ありません」のほうが丁寧度が高いとして積極的に選択されているという事実が想定される（これについては次節でも少し触れる）。

そして、この「申し訳｛ありません／ないです｝」を含めずに比較しても、「ありません：ないです」は 61 : 19 と「ありません」の形式が存在表現の 4 分の 3 以上を占める結果となった。「ないです」は「(が) __」の形で出現しているケースが大半であり、総数が多いという事実も影響しているのであろうが、「ありません」のほうがより様々な形式と共起している。

前接形式以外で何か特徴的なことはないだろうか。「申し訳～」の形を除いた「ありません」と「ないです」を後続文脈と照らし合わせて見てみると、表 8 の結果が得られた。

表 8　「ありません」と「ないです」（存在表現）の出現状況（後続形式）

	ありません	ないです
「申し訳～」を除いた数	61　[100%]	19　[100%]
言い切りの形	34　[55.7%]	8　[42.1%]
接続助詞	9　[14.8%]	2　[10.5%]
	け(れ)ど　4 が　2 から　2 ので　1	から　1 し　1
終助詞	18　[29.5%]	9　[47.4%]
	か　14 よ　3 な　1	か　2 よ　6 よね　1

《備考》接続助詞と終助詞については実際に現れた表現とその数の内訳を示した。[%]は、「申し訳～」を除いた「ありません」、「ないです」それぞれを 100 とし、それに占める後続形式の割合を表したものである。

「ありません」は「ないです」に比べ言い切りの形または接続助詞に続くケースがやや多いが、用例数が少ないため細かい数字の大小に拘泥することは意味のないことだと思われる。ここではそれ以上に強い傾向として、「ないです」が終助詞を伴うケースが多いことを指摘できる。さらに、「ないです」が接続助詞に続く 2 つのケースも以下(8),(9)のようにそこで文が終わっており、「ないです」が現れたのは(10)を除く全ての例がそこで文が終わる場面であった（ちなみに「ありません」が接続助詞に続くケースでは 9 例中 4 例―「けど」2 例、「から」1 例、「ので」1 例―が文末での使用であった）。

(8) そう答えるとマネージャーは更に首を捻り「でも……」とか「うーん」とか言葉を濁した。「大丈夫ですよ。大口開ける事ないですから」　[私]

（蛇にピアス　P.350 下）

(9) 「ふーっ、萌さん。全部調べましたけど、全ての費用にちゃんと領収書がありましたよ。カラ出張もなかったですし。どれひとつ不審なものなんてありません」　[僕]

（女子大生会計士の事件簿　P.24）

(10) 「萌さん、何を聞き出そうとしているんですか。関係ないですよ、その話は」
僕は萌さんに注意した。　[僕]

（女子大生会計士の事件簿　P.138）

本節で得られた結果から、存在表現では「ありません」のほうが選択されやすいこと、また「ないです」は「ありません」と比べると文（会話）の末部で使用されやすいのではないか、と提起して次のコピュラ表現の検討に移る。

4.2.2. 「～ありません」と「～ないです」（コピュラ表現）

先にも述べたように、コピュラ表現には、名詞・イ形容詞・ナ形容詞文のほか、関連する複合助辞的な表現も含む。これらコピュラ表現についても、まず「～ありません」と「～ないです」がどのような前接形式とともに出現しているかを表 9 に示すこととする。

表 9　「～ありません」と「～ないです」の出現状況（前接形式）

	～ありません	～ないです	合計
(A) ～では／じゃ__か	8　[24.2%]	66　[75%]	74
(B) ～では／じゃ__ [否定][11]	22　[66.7%]	17　(2)　[19.3%]	39　(2)
(C) イ形容詞の否定	3　[9.1%]	5　[5.7%	8
コピュラ表現計	33　[100%]	88　(2)　[100%]	121　(2)
	[27.3%]	[72.7%]	[100%]

《備考》表 7 同様、数値はル形・タ形の用例数の合計で、タ形の用例があったものについてはその内数を丸カッコ内に示した。用例数右の[%]は「～ありません」「～ないです」のそれぞれの合計数を 100 としたときの前接形式ごとの割合、最下段の[%]はコピュラ表現の全用例数を 100 としたときの「～ありません」と「～ないです」の割合である。

「～ないです」に多く見られる表現形式は、(A)の「～｛では／じゃ｝__か」という、形式上は否定であるが否定の意味をもつと言いがたい(11)や(12)のようなモダリティ表現である。

(11) 「でも沖島さん、今まで一度もそんなこと言わなかったじゃないですか」
「僕も初めは驚いてたんだよ。……（略）　[夕子]

（夢を与える　P.154）

[11] 「～では」のほかに「～でも」の形も含む。

(12) おれは不思議に思い尋ねた。
「それにしてもクリーヴランドで二週間もなにをしているんですか。最初は十日くらいで済むといっていたじゃないですか」　[おれ]

（波の上の魔術師　P.138）

これと対応する「～ありません」の用例には、たとえば(12)と同一作品内のものに

(13) 「だけど問題があるんじゃありませんか。全店ならともかく、たったひとつの支店だけで取りつけを起こしたってたかがしれている。……（略）　[おれ]

（波の上の魔術師　P.167）

をはじめ 8 例が確認できたが、(A)の「～ありません」と「～ないです」を比較したとき、数の比にして 8：66 と「～ないです」の形式が 90%近い割合で用いられており、このタイプのモダリティ表現において「～ないです」がずっと優勢であることがうかがえる。福島・上原(2003)の調査である昭和 31 年～43 年の 2 作品からとったデータでは同タイプの例が「～ありません：～ないです」＝29：9 であった(P.83 表 3 より[12])ことから、「～ないです」形式の使用ケースは増えてきているといえる。

(B)のコピュラ表現「～｛では／じゃ｝__」の否定としての用例数は、「～ありません」22 例に対し「～ないです」が 17 例であった。「～ありません」の例を(14)、「～ないです」の例を(15)にそれぞれ示す。

(14) 「すみません、芸がなくて。もちろん、花岡さんだけを疑っているわけではありません。ただ、今の時点では、彼女を容疑の対象から外すわけにはいかないんです。彼女本人でなくても、彼女の周囲に鍵を握る人物がいる可能性もありますし」　[草薙]

（容疑者 x の献身　P.172）

(15) 「何を勝手に察してやがる」
木戸さんはまたウィスキーを、くいっとやった。
「法律以前に、坂本を悲しませるようなことは、やるべきではないです」
僕はまたターキーを飲んだ。　[僕]

（I LOVE YOU －突き抜けろ　P.234）

また、(C)のイ形容詞の否定としての「～ありません」と「～ないです」はそれぞれ 3 例と 5 例が得られた（(16),(17)に例示）。

[12] ちなみに、同表より得られる大正 9 年～昭和 4 年の 2 作品からとった同タイプのデータは「～ありません：～ないです」＝0：4 である。

(16) 「どうしてですか」石神は刑事の顔を見据えて訊いた。
「いや、ただ、何となくそんな気がしたんです」
「難しくはありません。ただ、思い込みによる盲点をついているだけです」　[石神]
（容疑者 x の献身　P.172）

(17) そんなに古くはないですね。……あ、鍵が掛かってる。わたしは鏡台のしたの小さな抽斗を空けようとしたが、動かなかった。　[わたし]
（となりの姉妹　P.180）

このように、コピュラ表現かつ否定の機能を保っている用例（表 9 の(B),(C)）の中では、どちらかが優先的に用いられるといった傾向は見られなかった（イ形容詞の否定に限れば、「否定の機能を持つコピュラ表現」を分母にした際のイ形容詞の丁寧体の否定形式は「～ありません」の 12%に対し 22.7%と、「～ないです」のほうが若干使われる割合が多いと言えるかもしれないが、いささか強引に過ぎるだろう）。

福島・上原(2003)に

> 特筆すべきは、『パ』では、品詞や表現形式によって「ません形」と「ないです形」が使い分けられていることである。「じゃない（か）」「わけじゃない」などのモダリティ表現、存在表現、形容詞の否定形では「ないです形」が、（「ないです形」の出現がないため表には現れないが）動詞の否定形では全てにおいて「ません形」が用いられている　(P.84)

とあり、品詞や表現形式による「マセン」と「ナイデス」の使い分けが示唆されているが、これはあくまで 1 作品 12 例の「ナイデス」の分析結果であり、今回の資料でコピュラ表現「～｛では／じゃ｝__」の否定としての用例数に有意な差が見られなかったこと、イ形容詞の否定で「～ありません」が用いられているケースもあることから、「マセン」と「ナイデス」の使い分けがそこまで厳格に行なわれているとはまだ言いがたい。

さて、この他にコピュラ表現における「～ありません」「～ないです」の使用に特徴的なことはないだろうか。表 9 の(A),(B)の文について、「～では」「～じゃ」は「～ありません」「～ないです」とどのように接続しているか、それぞれの接続パターンの用例数を調査してみたところ、以下のような結果が得られた。

表 10　「～では」「～じゃ」と「～ありません」「～ないです」の接続内訳

	～ありません			～ないです			合計		
	(A)	(B)	(A)+(B)	(A)	(B)	(A)+(B)	(A)	(B)	(A)+(B)
～では＿	1	12	13　[43.3%]	1	5	6　[7.2%]	2	17	19　[16.8%]
～じゃ＿	7	10	17　[56.7%]	65	12	77　[92.8%]	72	22	94　[83.2%]
では/じゃ計	8	22	30　[100%]	66	17	83　[100%]	74	39	113　[100%]

《備考》 [%]は「～ありません」「～ないです」「(2 形式の)合計」それぞれの数値を 100 としたときの前接形式「～では」「～じゃ」との接続割合。

(A),(B)全体で、「～では」に続くものが 19 例、「～じゃ」に続くものが 94 例と「～じゃ」に続く用例が 8 割を超えたわけであるが、それぞれ「～ありません」「～ないです」とどう接続しているかを見てみると、「～では」との接続で 13 : 6 と「～ありません」が続きやすいのに比べ、「～じゃ」では 94 用例中 77 例が「～ないです」に続いており、「～じゃ」と「～ないです」が接続しやすいという傾向がはっきり見てとれる。「では」と「じゃ」では、音変化を経た「じゃ」のほうがくだけた言い方であり、すなわち「じゃ」は、「では」に比べて丁寧度がやや下がる表現だと言うことができる。前節で「申し訳ないです」より「申し訳ありません」のほうが多く（23 例中 21 例）見られたと記したが、「ありません」と「ないです」についても、「申し訳～」の表現を用いる場面で要求される丁寧度の高さから「ないです」の使用が敬遠され、「ありません」が選択されていると考えてよいのではないだろうか。

4.2.1.節同様に、後続文脈と照らし合わせての考察も試みてみる。表 9 の(A)で示したモダリティ表現についてはすべて終助詞「か」を伴うものであるため、ここでは(B),(C)の「～ありません」「～ないです」と後続文脈との関係を改めて調査した。得られた結果を表 11 に示す。

表 11　「～ありません」と「～ないです」（表 9(B),(C)）の出現状況（後続形式）

	～ありません	～ないです
表 9 中の (B),(C)用例数	25　[100%]	22　[100%]
言い切りの形	14　[56%]	9　[40.9%]
接続助詞	4　[16%]	3　[13.6%]
	けど　1 が　1 から　1 し　1	が　2 けど　1
終助詞	7　[28%]	10　[45.5%]
	よ　6 の　1	よ　8 ね　1 か　1

《備考》表 8 同様、接続助詞と終助詞については実際に現れた表現とその数の内訳を示した。[%]は、(B),(C)の「～ありません」、「～ないです」合計数をそれぞれ 100 とし、それに占める後続形式の割合を表したものである。

これについても用例数が少なく、上の結果だけをもとに一定の傾向を述べるのは性急であると思われるが、「～ありません」は言い切りの形または接続助詞に続くケースがやや多いという事実は存在表現の「ありません」「ないです」に通じるものであり、「ないです」のほうが終助詞を伴う割合が高いことも同様に、事実として挙げることはできる。

本節では、コピュラ表現では、否定の意味を持つ表現の「～ありません」と「～ないです」には顕著な傾向差が見られないこと、「～ないです」はモダリティ表現の「～じゃないですか」の形で現れる割合が非常に高いことが数値から確認でき、存在表現と同様「～ないです」は終助詞と共起しやすいことを考察結果として挙げることができる。

4.2.3. 「動詞＋マセン」と「動詞＋ナイデス」（一般動詞の否定）

「ある」以外の一般動詞を否定する場合、丁寧体の否定形式は「動詞の連用形＋マセン」と「動詞の未然形＋ナイデス」が対応する関係となる。この 2 形式の用例数を比較すると表 12 のような結果が得られる。

表 12「動詞＋マセン」と「動詞＋ナイデス」の用例総数とその出現率

	動詞 ＋マセン	動詞 ＋ナイデス	合計
用例数	297　[96.1%]	12　[3.9%]	309　[100%]
うちル形	269　[96.4%]	10　[3.7%]	279　[100%]
うちタ形	28　[93.3%]	2　[6.7%]	30　[100%]

《備考》「～して（い）ません」「～して（い）ないです」の用例も含む。なお、「～してないです」という形式は、「～してあります」「～しています」2 種類いずれともの否定である可能性をもち（例：「地図には目印を付けて｛ありません／ないです｝」「先週は会社に行って｛ません／ないです｝」）、前者であれば本稿では 4.2.1 の考察対象となるが、以下にも示すとおり今回の用例の「～してないです」は全て本節での考察対象となるものであった。

ここで、「動詞＋マセン」の形をとるものとして「すみません（でした）」および「すいません」（以下「スミマセン」に代表させて記す）という慣用的な表現が 51 例（ル形 47 例、タ形 4 例）があることに注意したい。先に「ありません」と「ないです」の比較を行なった際に「申し訳～」が 21 : 2 と高い割合で「マセン」の方に出現したが、「スミマセン」に関してはその 51 例に対し、対応する「スマナイデス」の形は今回の調査では 1 例も見られなかった。「スマナイデス」は、（筆者の内省では）日常生活での使用が皆無だとまでは言い切れないと思うが、「申し訳～」と同様、用いる場面で要求される丁寧度の高さから、「スマナイデス」が敬遠され、「スミマセン」が選択されているのだと思われる。

しかし、この「スミマセン」を除いても「動詞＋マセン」:「動詞＋ナイデス」の用例数およびその比は 246 [95.3%] : 12 [4.7%]であり、「ナイデス」の数は「マセン」の 20 分の 1 にも満たない。今回の用例調査で得た全体の「マセン」:「ナイデス」比率である 77.3% : 22.7%と比べても、一般動詞の丁寧体否定形式としては「ナイデス」の使用は極端に少なく、「マセン」が圧倒的に多いことが見てとれる。

続いて表 13 に、「スミマセン」を除いた「動詞＋マセン」「動詞＋ナイデス」と後続文脈との関係を調べた結果を示す。

表 13「動詞＋マセン」と「動詞＋ナイデス」の出現状況（後続形式）

	動詞＋マセン (除「スミマセン」)	動詞＋ナイデス
用例数	246　[100%]	12　[100%]
言い切りの形	117　[47.6%]	2　[16.7%]
接続助詞	45　[18.3%]	1　[8.3%]
	が(ね)　21 けど(ね)　12 から(ね)　8 し(ね)　3 のでね　1	から　1
終助詞	79　[32.1%]	9　[75%]
	か(な)　40 よ(ね)　25 ね(え)　10 わ(ね)　2 な　1 のよ　1	よ(ね)　8 ね　1
その他	5　[2.0%]	

《備考》表 8,11 同様、接続助詞と終助詞については実際に現れた表現とその数の内訳を示した。[%]は、「スミマセン」を除く「動詞＋マセン」と「動詞＋ナイデス」の合計数をそれぞれ 100 とし、それに占める後続形式の割合を表したものである。「動詞＋マセン」の言い切りの形に、「来てませんと答えました」のようないわゆる引用の形で現れた用例を 2 例、「飯行きませんでしょうか？」と疑問符で終わる用例を 1 例含めた（今回の分析に影響を与えないと思われるため）。また、「動詞＋マセン」列の「その他」には「調べていただけませんでしょうか」に見られるような「でしょうか」4 例と「捕まりませんように」の「ように」1 例が該当する。この 2 つの後続形式については、「でしょう」は「だろう」の丁寧体であり「です」と「だ」で「ダ」が重なること、「ように」は「よう」が名詞であり、「です」が一般には連体修飾節には現れないと考えられることから、いずれも「ナイデス」からは繋がり得ない形式だと言える。

「マセン」は 246 例中 117 例と、その半数近くが言い切りの形で現れている。「ナイデス」のほうは用例総数が少ないものの、4 分の 3 が終助詞を伴う例であった。この結果を表 8、表 11 と比べると、一般動詞の否定では終助詞との共起の割合が「マセン」「ナイデス」のいずれも高くなっているが、特に「ナイデス」が終助詞を伴っている割合は高く、これま

で存在表現の否定、コピュラ表現の否定で見てきたのと同様に、「ナイデス」は終助詞と共起しやすいという傾向があると見てよさそうである。

今回の用例調査で得られた「動詞＋ナイデス」の全 12 用例を一旦示す。この 12 例のうち、(27),(28)が「～なかったです」の、(28),(29)が言い切りの形の、それぞれ用例である。

(18) 「僕が富樫さんでも、あんな人とは一緒にいられないですよ。別れたのは当然です」
僕はふと、五年前、富樫さんと別れ話をした日の、姉のことを思い出した。
（I LOVE YOU ―透明ポーラーベア　P.29）

(19) 「＜郵便切手＞については、購入時には領収書をもらえますが、使うときは手紙に貼ってしまうので、使ったという証拠が残らないですよね。だから、私たちが調べても切手の行方はわかりませんでした。　[藤原萌実]
（女子大生会計士の事件簿　P.29）

(20) …（略）…、誰かに脅迫されたのかも」
「もしそうなら、立派な事件じゃないですか。こうしてはいられないですよ、どうしましょう！」　[僕]
（女子大生会計士の事件簿　P.166）

(21) 初島さんに云われたの。おじょうさん、蛇について知りたいことがあったら、しっぽのある男に訊くといいですよ。詳しいですからって。でもそれ、兄とはかぎらないですよ。　[私]
（となりの姉妹　P.157）

(22) ……たしかに。父とちがって、下着でうろうろすることもないです。ほらね。……だからって、兄にしっぽがあることにはならないですよ。　[私]
（となりの姉妹　P.157）

(23) 初島さんは、しりとりの切りをご存じなんですよね。
逸子さんが訊いた。
あれはたんなる偶然でことばがならんだにすぎないですよ。　[初島]
（となりの姉妹　P.191）

(24) おれは切り口を変えてみた。
「あの保険はもう十年近くまえの契約だから、保坂さんは直接老人たちに売っていないですよね」　[おれ]
（波の上の魔術師　P.174）

(25)「わからないなあ」男はいった。「道ですれ違った程度の人の顔は覚えてないですから」
「そうですか」この男に聞き込みをしたのは間違いだったなと草薙は後悔した。　[石神]
（容疑者 x の献身　P.67）

(26)「いろいろ、うまくいかないですね」
「ええ？」
説明するのも面倒くさく、あはは……とあいまいな笑いでごまかした。吟子さんもふふ、と笑った。　[私]
（ひとり日和　P.371 上）

(27)「なるほど、実際に出金して買った切手をまた現金に戻すことで、架空出金にするんですね。領収書は切手を買った時にもらえるから、切手を使ったかどうかなんて全然気にしなかったですよ。でも、萌さん、いつそのカラクリに気が付いたのですか」　[僕]
（女子大生会計士の事件簿　P.31）

(28)「えっ、ほんでほんではるなちゃん、久しぶりに初恋の彼に会ってどうやった？　彼は変わってた？」
「全然、変わってなかったです。相変わらず優しそうでした」　[栗原はるな]
（Friends −KISS　P.76）

(29) 途切れとぎれになる声で山崎は言った。ステータスとか、そんな話はどうでもいいです。でも俺、本気で彼女に惚れてたんです。だから、どうしていいかわかんないです。　[山崎]
（Friends −鳥籠の戸は　P.169）

もちろんこれらの「ナイデス」は、「マセン」と置き換えても問題なく読みとれるものである。(28)など「全然、変わってませんでした。相変わらず優しそうでした」と変換しても全く違和感ない発話だと思われる。そして同様に、

(30)「だから、あたしたちのやりとりです。それで、電話をかけてこられたんでしょう？」
　すると石神は無表情な顔を靖子に向けてきた。
「いや、話し声は何も聞こえませんでしたよ。このアパート、案外防音だけはしっかりしてるんです。それが気に入って、ここに決めたぐらいですから」　[石神]
（容疑者 x の献身　P.35）

(31) 「…（略）…。しかしこのプロジェクトの場合、そのときだけ活躍している人間を使っては意味がありません。有名人人気はチーズと違って移り変わりますし、この先何が起こるか分かりませんからね。その点無名の半素人の女の子を使えば、　[食品会社広報担当者]

（夢を与える　P.26）

などの用例では、「マセン」を「ナイデス」に置き換えても違和感のないものだと思われる。しかし、実際問題として、表 12 で見たように「動詞＋ナイデス」の例はごく少数なのである。一般動詞の否定における「マセン」「ナイデス」の選択に関わっている要因はどのようなものなのか。

一般論じみた指摘にはなるが、本節では、先に見た「動詞＋マセン」と「動詞＋ナイデス」で「ナイデス」の用例が圧倒的に少ないという結果と、表 13 の「動詞＋ナイデス」で言い切りの形が 12 例中 2 例しかなく、9 例が終助詞を伴っていたという事実とから「『動詞＋ナイデス』単独の使用はそもそも不自然だと感じられており、使用される場面では不自然さをやわらげるために終助詞を伴って出現する割合が他より高くなっている」と言及したい。

4.3. まとめ

本稿では、丁寧体の 2 つの否定形式「マセン」「ナイデス」の出現比率や使用傾向について、小説を用例資料として考察を試みてきた。「マセン」「ナイデス」がそれぞれの状況下でどのような比率で出現したか、結果を改めて以下の表 14 に示す。

表 14　「マセン」「ナイデス」各状況下での出現比率（まとめ）

	マセン	ナイデス
全体	77.3%	22.7%
動詞「ある」	51.3%	48.7%
存在表現	79.6%	20.4%
コピュラ表現	27.3%	72.7%
一般動詞	96.1%	3.9%

表からも分かるように、「マセン」「ナイデス」の用例全体の比率と、存在表現・コピュラ表現・一般動詞それぞれの否定に現れる用例の比率は事情の異なるものであった。この結果、また各節で行なってきた考察から本稿では、「マセン」「ナイデス」の使用傾向について

〇出現する「ナイデス」のうち、ほとんどが一般動詞の否定ではなく「ないです」の形で現れており、さらにはモダリティ表現の「〜じゃないですか」の形をとる割合が非常に高いこと
〇否定の意味をもつコピュラ表現については「〜ありません」と「〜ないです」に顕著な傾向差は見られないが、存在表現では「ありません」のほうが選択されやすく、「ないです」は「ありません」と比べると文（会話）の末部で使用されやすいと思われること
〇そして、全体に通じる傾向として「ナイデス」は終助詞と共起しやすい（特に一般動詞の否定では顕著で、これが「動詞＋ナイデス」単独の使用の違和感を和らげる役割を果たしていると思われる、またその際に用いられる終助詞は「よ」や「ね」である）こと

をまとめとして挙げたい。今回得られた結論は、これまで感覚的に抱いていた部分もありはしたが、充分とはいえない用例数ながら実際の用例調査をもとに考察し、それを裏付けた上での傾向の指摘である。

5. 今後の課題

本稿では、小説から収集した用例をもとに「マセン」「ナイデス」を見てきた。結果、一定の傾向を述べるには至ったが、用例収集に用いた小説が 12 作品にとどまったため用例数が少ないことや、細かい分析を尽くせていない箇所があることなど、まだまだ考察を深める余地がある。まとまった用例数が得られれば、たとえば「マセン」「ナイデス」で否定する一般動詞のタイプに何らかの傾向が見出せるかもしれない。また、本稿では用例収集の対象として小説を選択したわけであるが、異なった作品ジャンルを対象にすることで、得られる結果に何らかの変化が現れる可能性もある[13]。

また、4.1.で福島・上原(2003)を引いて、年代を追うごとに「ナイデス」の出現率が高まる傾向にあることを補強した形となったが、この傾向が続くと仮定すると、現在は「マセン」が優勢を占める状況においても「ナイデス」の使用が増えるなど、その使用範囲が拡大していく可能性もないとは言えない。本稿で取り扱ったテーマは現代日本語の言葉遣い・表現の選択に関わる問題であって、対象が進行形で変化しつつあるという繊細な部分も持ち合わせているが、今後も客観的な視点を保ちながら検証していきたい。

[13] あくまで参考ではあるが、今回予備的に行なった漫画 4 作品（『エースをねらえ！』『タッチ』『のだめカンタービレ』『ハチミツとクローバー』――いずれも高校・大学生が中心的な登場人物の作品――それぞれ 1-4 巻）を用いた調査では、「マセン」:「ナイデス」の値は 198[73.6%]：71[26.4%]と表 14 の割合とほぼ同値ながら、「動詞＋マセン」:「動詞＋ナイデス」は 92[88.5%]：12[11.5%]と「ナイデス」が表 14 の数値の 3 倍近いパーセンテージを示すなどの特徴が見られた。

【参考文献】

尾崎奈津(2004)「否定の丁寧形「ナイデス」と「マセン」について」『岡山大学言語学論叢　第 11 号』岡山大学文学部　2004.1.

田中章夫(1996)「「(行き) マセンデシタ」から「(行か) ナカッタデス」へ―打消・過去の丁寧形の推移―」『言語学林　1995-1996』三省堂. 1996.

田野村忠温(1994)「丁寧体の述語否定形の選択に関する計量的調査―「～ません」と「～ないです」―」『大阪外国語大学論集 vol.11』1994.8.

寺村秀夫(1984)『日本語のシンタクスと意味 II』くろしお出版

日本語記述文法研究会編(2003)『現代日本語文法 4 第 8 部 モダリティ』くろしお出版

福島悦子・上原聡(2003)「日本語の丁寧体否定辞二形式に関する通時的研究―テキスト分析によるケーススタディ―」『東北大学国際文化研究科論集 vol.11』2003.

福島悦子・上原聡(2001)「現代日本語に置ける丁寧体否定形式」『東北大学留学生センター紀要　第 5 号』2001.

牧原功(2003)「形容詞・助動詞の丁寧形の許容度に関する一考察」『群馬大学留学生センター論集 vol.3』2003.3.

益岡隆志(1991)『モダリティの文法』くろしお出版

【用例出典】[14]

青山七恵『ひとり日和』文藝春秋.2007 (初出 2006)

安達千夏/江國香織/倉本由布/島村洋子/下川香苗/谷村志穂/前川麻子/唯川恵/横森理香『Friends』祥伝社.2003

—青い空のダイブ(谷村志穂)　—KISS(島村洋子)　—迷い蝶(下川香苗)

—恋する、ふたり(前川麻子)　—鳥籠の戸は開いています(安達千夏)

伊坂幸太郎/石田衣良/市川拓司/中田永一/中村航/本田孝好『I LOVE YOU』祥伝社.2005

—透明ポーラーベア(伊坂幸太郎)　—卒業写真(市川拓司)　—突き抜けろ(中村航)

—百瀬、こっちを向いて(中田永一)

石田衣良『うつくしい子ども』文春文庫.2001 (初出:1999)

石田衣良『波の上の魔術師』文春文庫.2003 (初出:2001)

恩田陸『図書室の海』新潮文庫.2005 (初出:2002)

金原ひとみ『蛇にピアス』文藝春秋.2004 (初出:2003)

長野まゆみ『となりの姉妹』講談社.2007 (初出:2005)

長野まゆみ『東京少年』光文社.2005 (初出:2002)

東野圭吾『容疑者 x の献身』文藝春秋.2005

山田真哉『女子大生会計士の事件簿 DX.1』角川文庫.2004(初出:2002)

綿矢りさ『夢を与える』河出書房新社.2007 (初出:2006)

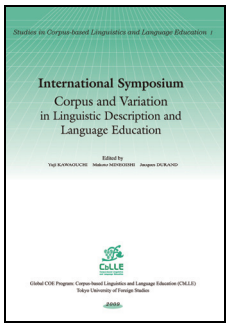
---

[14] 『Friends』『I LOVE YOU』はアンソロジー作品で、うち「マセン」「ナイデス」を得られたもののみタイトルを挙げてある。また、初出年を明示していない作品の初出年は出版年と同じである。

東京外国語大学

グローバル COE「コーパスに基づく言語学教育研究拠点」出版物

研究論文集

コーパスに基づく言語学教育研究論集　Ⅰ International Symposium: Corpus and Variation in Linguistic Description and Language Education Edited by Yuji KAWAGUCHI, Makoto MINEGISHI and Jacques DURAND 2009 年 3 月発行	
コーパスに基づく言語学教育研究論集　Ⅱ Proceedings of the Chulalongkorn- Japan Linguistics Symposium Edited by Makoto MINEGISHI, Kingkarn THEPKANJANA, Wirote AROONMANAKUN and Mitsuaki ENDO 2009 年 3 月発行	

研究報告集

コーパスに基づく言語学教育研究報告　1 コーパスを用いた言語研究の可能性 富盛 伸夫，峰岸 真琴，川口 裕司（編） 2009 年 3 月発行	

コーパスに基づく言語学教育研究報告　2

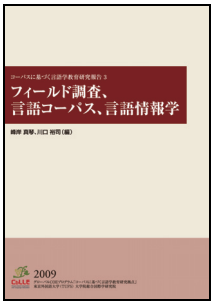
言語記述から言語分析の応用へ

稗田 乃，峰岸 真琴，川口 裕司（編）
2009 年 3 月発行

コーパスに基づく言語学教育研究報告　3

フィールド調査，言語コーパス，言語情報学

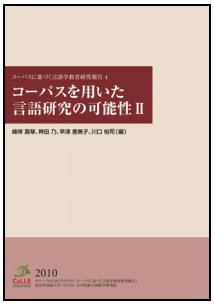
峰岸 真琴，川口 裕司（編）
2009 年 5 月発行



コーパスに基づく言語学教育研究報告　4

コーパスを用いた言語研究の可能性Ⅱ

峰岸 真琴，稗田 乃，早津 恵美子，川口 裕司（編）
2010 年 3 月発行



コーパスに基づく言語学教育研究報告　5

フィールド調査，言語コーパス，言語情報学Ⅱ

峰岸 真琴，稗田 乃，早津 恵美子，川口 裕司（編）
2010 年 6 月発行

論文執筆支援集

論文執筆支援シリーズ　Ⅱ

外大生のための日本語研究ガイドブック

早津 恵美子（監修）
中山 健一（編）
2009 年 3 月発行

論文執筆支援シリーズ　Ⅲ

ドイツ語コーパスハンドブック 2009

成田 節（監修）
カン・ミンギョン，時田 伊津子，
高橋 美穂，信國 萌（編）
2009 年 5 月発行

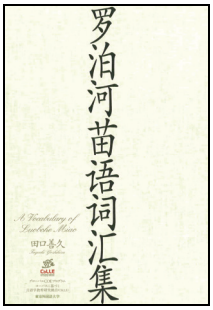
研究資料集

コーパスに基づく言語学教育研究資料　1

罗泊河苗语词汇集

A Vocabulary of Luobohe Miao

著者　田口　善久
2008 年 3 月発行



コーパスに基づく言語学教育研究資料　2

初級教科書の語彙分析－動詞編（1）語彙的な性質－

早津 恵美子（監修）
アクマタリエワ　ジャクシルク，金　俸呈，辺　純影（編著）
2010 年 2 月発行

論文執筆支援シリーズ　Ⅳ　2010 年 10 月 1 日発行
外大生のための日本語研究ガイドブック
―増補改訂版 2010―
発　　行：東京外国語大学大学院総合国際学研究院
グローバル COE プログラム
「コーパスに基づく言語学教育研究拠点」
〒183-8534　東京都府中市朝日町 3-11-1
監　　修：早津　恵美子
編　　集：中山　健一
印　　刷：有限会社　ノースアイランド

論文執筆支援シリーズⅣ

外大生のための日本語研究ガイドブック

—増補改訂版 2010—

グローバルCOEプログラム「コーパスに基づく言語学教育研究拠点」
東京外国語大学大学院総合国際学研究院